



# AJCE

## 創立40周年記念誌

公益社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会

# 目次

AJCE創立40周年記念誌発刊のことば	AJCE会長 内村 好……………	1
---------------------	------------------	---

## 祝辞

Meeting the World's Demand for Infrastructure	FIDIC President Pablo Bueno……………	4
AJCE創立40年に当たって	文部科学大臣 下村 博文……………	8
AJCE設立40周年にあたってのご挨拶	国土交通大臣 太田 昭宏……………	9
AJCE創立40周年に寄せて～国際協力60周年の節目の年に	独立行政法人国際協力機構（JICA）理事長 田中 明彦……………	10
祝辞	公益社団法人日本技術士会 会長 吉田 克己……………	11
創立40周年に寄せて	一般社団法人海外コンサルティング企業協会 会長 廣瀬 典昭……………	12
AJCE創立40周年を祝う	一般社団法人建設コンサルタンツ協会 会長 大島 一哉……………	13

## 第1章 AJCE創立40周年に寄せて

水先案内人としてのAJCEの40年	石井 弓夫……………	16
アジア地域におけるディスピュート・ボード普及の努力 －産官学の協働作業－	大本 俊彦……………	18
AJCE創立40周年を機に思う	佐久間 襄……………	19
Youngとの関わり	秋永 薫児……………	20
これまでのAJCEでの活動を通して思うこと	原 崇……………	21
AJCEとの出会い～分科会活動を通じて	横川 真理子……………	22
コンサルティング・エンジニア業務の一考察	藤江 五郎……………	23

## 第2章 特別企画 座談会

コンサルティング・エンジニアの国際展開とこれから	編集：広報委員会	26
--------------------------	----------	----

## 第3章 AJCE創立40周年記念事業

AJCE創立40周年記念事業	宮本 正史	36
AJCE創立40周年記念セミナー コンサルティングエンジニアの使命	技術研修委員会	37
AJCE40周年祝賀パーティ	40周年記念事業実行委員会	40
AJCE創立40周年記念賞	倫理委員会	42
若手技術者国際会議派遣支援 FIDIC2014リオ大会 派遣	技術研修委員会	43
FIDIC大会初参加の印象	中島 祐一	44
FIDIC2014リオデジャネイロ大会に参加して感じたこと	青木 徹	45

## 第4章 コンサルティングエンジニアのこれから

コンサルティングエンジニアの未来ために他協会との連携	小宮 雅嗣	48
コンサルティングエンジニアのこれから	矢神 卓也	49
日本のコンサルティング業界のこれからとYP分科会の役割	澤部 純浩	50
コンサルティングエンジニアを自分なりに考えてみる	井村 修二	51
これからの日本とコンサルティングエンジニア業界	高木 沙織	52

## 第5章 AJCEの活動 30周年から40周年へ

AJCEの活動 30周年から40周年へ	編集：広報委員会	54
FIDIC理事会活動	廣谷 彰彦	56
ASPAC活動～FIDICの地域戦略～	内村 好	58
COLUMN 世界への入口 ASPAC分科会での日々	渡津 永子	60
COLUMN ASPAC地域の連携 各国との覚書締結	.....	61
FIDIC Risk and Liability Committee (RLC) リスク管理委員会	藏重 俊夫	62
FIDIC Business Practice Committee (BPC) 業務委員会	狩谷 薫	63
FIDIC Disaster Management Task Force (DMTF) 防災管理作業部会	遠山 正人	64
FIDIC Capacity Building Committee (CBC) 能力開発委員会	武内 正博	65

FIDIC Young Professionals Forum (YPF)	松尾 隆	67
ASPAC Young Professionals Forum (YPF)		
FIDIC大会 最近の10年	竹村 陽一	68
COLUMN FIDIC100周年記念賞 大賞受賞 日本から3件		70
COLUMN まるでゲームスポンド?	桜井 一	71
COLUMN 初めての海外出張 FIDICパリ大会に参加して	橘 裕人	71
日豪交換研修の20年	金井 恵一	72
～FIDICも注目するユニークなプログラムのあゆみ～		
日豪交換研修	福澄 浩恒	74
AJCEの海外調査活動	林 幸伸	75
COLUMN 海外調査 英国のパブにて	大山 満弘	77
倫理委員会のこの10年の活動について	澁谷 實	78
政策委員会 公益法人化とFIDIC100周年記念賞	宮本 正史	80
総務財政委員会	永治 泰司	82
会員委員会	長谷川 伸一	84
国際活動委員会の10年—海を渡る本邦CEの応援団として	藏重 俊夫	86
国際活動委員会 契約分科会	藤原 亮太	87
COLUMN AJCE、FIDIC約款、そして日本人	山田 耕三	88
COLUMN MDB版翻訳 白熱する議論	鏑木 孝治	89
国際活動委員会 FP分科会	狩谷 薫	90
国際活動委員会 CB分科会	深谷 茂広	91
国際活動委員会 契約管理者育成分科会	白谷 章	92
国際活動委員会 QBS分科会	河上 英二	93
技術研修委員会	森村 潔	95
—コンサルティングエンジニアの能力開発と人材育成—		
技術研修委員会 YP分科会	赤坂 和俊	97
誕生と飛躍 そして 未来へ		
COLUMN ボールでつながる・広がるネットワーク	安達 理央太	100
～AJCEフットサル大会～		
技術交流委員会—異種技術者の交流—	田中 宏	101
広報委員会	瀬古 一郎	103
COLUMN 協会誌に彩りを添えて	大和 美穂	105
COLUMN 広報委員として	小林 正樹	105
アジュディケーター委員会	野崎 秀則・林 幸伸	106

## 第6章 資料集

AJCEのあゆみ	110
歴代会長	116



歴代役員 事務局長	118
名誉会員	122
会長賞 会長表彰	123
会長褒賞	124
総 会	125
組織図	133
委員会変遷	134
委員会名簿	136
AJCE覚書	152
FIDIC加盟とAJCEの創立	153
FIDIC大会一覧	160
幻のFIDIC京都大会 概要	164
FIDIC東京大会 概要	166
FIDIC委員会 AJCE委員	172
ASPAC会議一覧	176
AJCE会報目次	180
AJCEニューズレター目次	222
AJCEセミナー 一覧	230
FIDIC・AJCE出版物一覧	241
公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会 定款	257
倫理要綱	264
用語集	265

## 第7章 写真集

FIDIC大会	268
日豪交換研修のあゆみ	299
会報 表紙	306
ニューズレター 表紙	310

## AJCE会員

AJCE会員	314
あとがき	332

付録CD AJCE40年のあゆみ

# AJCE創立40周年記念誌 発刊のことば

AJCE 会長  
内村 好



公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）は、2014年4月に創立40周年を迎えました。これもひとえにAJCEの歴史を積み上げられてこられた会員各位のご努力と関係官庁、団体の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。7月9日にはFIDIC会長のPablo Bueno氏（スペイン）を迎えて、創立40周年記念のセミナーと祝賀会が盛大に開催されました。また、ここにAJCE40年の活動の歴史を振り返る記念誌を発刊する運びとなりました。

当協会（AJCE）は日本技術士会のコンサルティング・エンジニア（CE）の有志によって国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）の加盟条件を満たすために1974年4月に創立されました。同年10月にはAJCEのFIDIC加盟が承認され、我が国のCEが晴れて正式に国際舞台に登場することとなり、その後の国際展開や国内の地位向上に大きく貢献しました。創立当時の有志の皆様の慧眼と熱意に改めて深甚な敬意を表するものです。その後、森村武雄氏、石井弓夫氏、廣谷彰彦氏がFIDIC理事に就任され、FIDICの各委員会における会員各位の活躍もあって、AJCEのプレゼンスは一層高まり現在に至っています。2012年には公益社団法人としての新しいスタートも切りました。

FIDICは2013年に100周年を迎え、その加盟国は欧米中心から97の国・地域（2013年9月現在）へと全世界的に拡大しました。ビジネスの国際化が急激に進展するとともに、CEの役割は多様化し、社会や地球環境に与えるインパクトは飛躍的に大きくなりました。FIDICの基本理念は“Quality（品質）”、“Integrity（公正）”、“Sustainability（持続性）”の3つのキーワードに位置づけられています。官民を挙げて国際展開を国の施策としている我が国にとって、FIDIC約款に基づく公正な競争や、高い品質で持続性のあるインフラ輸出を目指すことが重要と考えます。国内においても、品質・技術に基づく公正な競争や社会構造の変化に対応したインフラの整備、CM方式やPPP等の事業執行における新しいCEの役割、などが求められています。人や技術、制度における国内と海外の共通化が、今、一層重要となっています。FIDICおよびAJCEの存在価値もまさにその点にあります。

我が国のCE産業はその発展の経緯から、海外展開を主体とするCE関連協会も分野別にいくつかの協会が設立されています。AJCEは法人会員37社、個人正会員177名（2014年3月末）で傘下の職員数は1万人余であり、10万人を超えると推定される我が国CE産業の規模に対しては十分な組織となっていません。このため、我が国CEを代表して国際的な活動を一層強化するためには、関連する協会との連携が必須となってきました。近い将来、我が国CEを真に代表する新しい協会が誕生し、AJCEが40周年の歴史を超えて、さらに発展することを期待しています。



# 祝 辞



# Meeting the World's Demand for Infrastructure

International Federation of Consulting Engineers  
(FIDIC) President

Pablo Bueno



As FIDIC joins with AJCE in celebrating its 40th Anniversary, the world economy slowly emerges from the Global Financial Crisis. The demand for infrastructure remains strong however – a key ingredient for economic growth.

The role of the consulting engineer therefore takes on even greater significance, as governments, clients, and society demand more sustainable and innovative solutions. Higher quality and integrity are of greater importance in today's market. It is therefore clearly necessary to invest more time in thinking before doing; identifying optimum solutions, before detailed design and construction commences. Only this will ensure a reduction in overall costs and minimised risks, to achieve successful outcomes.

It is also clear that the professional advice invested up front can have the greatest impact on life-cycle costs for a project. Yet such advice represents only a fraction of the overall investment cost. The best decision a client can make, is selecting the right consultant to provide the highest quality advice. Such a prudent investment will pay for itself many times over. Selection based on quality is therefore paramount.

## **Quality, Integrity, Sustainability**

These were the core principles adopted by FIDIC in 1913. These are the same core principles reinforced at the Centenary event of FIDIC in 2013.

Over 40 years of honourable service to the Japanese market, AJCE rightly celebrates its anniversary. But, perhaps it is time to review the business model in order to capture more broadly, the international standards and practices developed by FIDIC, to enhance the voice of the industry, and provide more integrated and higher quality services to clients and to society.

FIDIC has developed sophisticated tools and guidelines, designed to assist consultants and clients to make informed decisions on identifying the most appropriate project in which to invest, with quality, integrity, and sustainability. Such tools include Project Sustainability Management, published in 2013; the FIDIC Integrity Management system, launched in 2011; and QBS (Quality Based Selection of consultants), also released in 2013.

### **The Global Market**

The consulting engineering industry has become truly global, with many consulting firms now operating internationally, working across multiple borders, sharing valuable resources in order to provide the best services to clients. The need for standardisation takes on greater significance in the pursuit of excellence and cost efficiencies, with more companies now operating in international markets. Often, the availability of projects through development agencies such as JICA can assist in gaining experience. But other opportunities also exist. Collaboration between national firms and international firms also offer valuable experience. Consulting Engineering Firms are not always treated fairly. In this sense, FIDIC guidelines and standard Conditions of Contract offer useful tools for balanced and reasonable treatment in the market place.

### **A Strong Voice for the Industry**

FIDIC speaks for the global industry. AJCE speaks for the industry in Japan. Together, they explore opportunities to strengthen that voice in order to support the objectives of Governments and society, and share with them international best practice. Together they pursue an improved Quality of Life for everyone.

I congratulate AJCE on its significant achievements and, on behalf of FIDIC, offer full support in identifying ways to integrate services for greater efficiency and higher quality. A priority therefore is the assessment of tools available to help make informed decisions and find better solutions to the challenges facing Japan and its member firms. I am confident that, together, the industry will continue to flourish, and value added to the services made available to clients, and to society. The future does indeed look bright, and the consulting industry can be proud of its role in enhancing Quality of Life.

Once again, my warmest congratulations to AJCE on this special occasion.

# 世界のインフラニーズに応えるために

国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）会長

パブロ ブエノ

世界が経済危機から緩やかな回復基調にあり、経済成長の要となるインフラニーズが増加傾向を続けている中で、AJCEは記念すべき創立40周年を迎えられました。

社会や政府等からの持続的で創造性に富むインフラニーズに応えるため、コンサルティングエンジニア（CE）は、大変重要な役割を担っています。また、今日の世界インフラ市場では、より高い品質と公正性の確保が最重要になっています。CEは詳細設計や施工を実施する前に、熟慮のうえ最良の解決策を特定しなければなりません。このプロセスが、リスクを最小化し、総事業費を削減し、最良の成果物を担保します。ライフサイクルコスト最小化の視点から、事業開始段階での専門的な提案は大変重要ですが、この提案に関わるコストは、総事業費に比べ僅かなものです。発注者にとって最良の決定は、品質の高い成果物を提供できるCEを選定することにあります。（事業開始段階でCEに投資するという）賢明な判断は、投資額以上の便益をもたらします。従って、品質・技術によるCEの選定は、最重要事項といえます。

## 品質、公正、持続性

FIDICは1913年の創立以来、品質（Quality）、公正（Integrity）、持続性（Sustainability）を活動の基本三原則としており、2013年のFIDIC創立100周年記念大会では、この三原則を更に強化すべきことが確認されました。

めでたく創立40周年を迎えられましたAJCEは、会員と共に、永年にわたり国内外のインフラ市場においてサービスを提供してきました。40周年は、AJCEが、FIDIC契約約款等の国際的な基準や各種の成功事例などを活用し、日本CE業界の声を高めると共に、社会や発注者に総合的で高品質のサービスを広汎に提供できるよう、ビジネスモデルを見直す良い機会と思われれます。

FIDICは、コンサルタントと発注者が品質、公正、持続性の視点から最適な事業を特定できるよう、各種の指針や洗練された業務支援ツールを開発してきました。ツールには、2013年出版『Project Sustainability Management』、2011年出版『FIDIC Integrity Management system』、2013年出版『Quality Based Selection of consultants』等があります。

## 世界市場

CE産業は発注者に最良のサービスを提供するため真に国際化し、多くのコンサルタントは何ヶ国もの国境を超え、貴重な人的資源を共有しながら、事業を展開し

ています。国際市場で事業を展開するコンサルタントが増加している中で、事業の優良性と高い費用対効果を確保するため、標準化のニーズが高くなっています。国際協力機構（JICA）等の開発金融機関による事業の発注は、CEの実績積上げを支援していますが、政府開発援助（ODA）以外の事業機会もあります。日本国内のCE企業が国際CE企業と連携することで貴重な経験を積むことができます。CE企業が常に公平に取り扱われるとは限りません。この点から、FIDICの各種指針や契約約款は、CEが国際市場において、公平で合理的な取り扱いを受ける上で有用なツールといえます。

### **CE業界のための強力な代弁者**

FIDIC は世界のCE業界を、AJCEは日本のCE業界を代弁しています。両者は政府や社会が要請する目的を支援し、成功事例を具現化する機会の促進と、人々の生活の質の向上を図るため尽力しています。

FIDICを代表し、AJCEが積み上げてきた実績を賞賛いたします。FIDICは、今後も高い品質と効率を基本とした総合的なサービス促進のため、最大限の支援を惜しみません。日本CE業界やAJCE会員が直面している課題に対する解決策と、適切な判断を下す上で有用なFIDICツールを評価・活用することが優先事項と考えます。私は日本のCE産業が、発注者と社会に対し付加価値の高いサービスを提供し、益々繁栄していくものと確信しています。CE産業の将来見通しは明るく、私たちCE産業に携わるものは、人々の生活の質の向上に資する役割を担っていることに対し、誇りを持つべきでしょう。

最後に、AJCEの40周年記念を心からお祝い申し上げます。

（翻訳：AJCE事務局）



# AJCE創立40年に当たって

文部科学大臣  
下村 博文



公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）におかれましては、創立40周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和49年にコンサルタントである技術士を中心として設立されて以来、我が国のコンサルティング・エンジニアを代表する唯一の機関として、国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）に加盟し、我が国のコンサルティング・エンジニアの国際的な水準を高めるなど、コンサルティング・エンジニアの発展に多大なる貢献をされてこられました。ここに、改めて敬意と感謝の意を表します。

グローバル化の進展等に伴う産業構造の変化や世界経済における競争の激化、また、少子高齢化により生産年齢人口の割合が低下するなど、我が国を取り巻く環境が厳しさを増す中、かつて経済成長をけん引し、オイルショック等の危機を克服するなど、ピンチをチャンスに転換させた科学技術やイノベーションに対する期待やその役割は高まってきていると感じます。

経済社会の発展と繁栄等、明るい未来への夢や展望を次世代に引き継ぐために、我が国の科学技術イノベーションの潜在力を存分に発揮し、経済社会を取り巻く時局を打開する必要があります。

また、世界に目を向けると、各国はイノベーションを国家戦略に位置付けて取り組んでおり、我が国としても諸外国の動向や社会のニーズを十分認識した上で、より一層、科学技術の発展に取り組む必要があります。

このような状況においては、優秀な人材が国境や組織にとらわれず多様な場で連携し、活躍することによる新たな価値の創造が求められています。その中でも、正に現場におられるコンサルティング・エンジニアをはじめとする技術者の皆様の役割は極めて重要であります。

文部科学省といたしましては、より幅広い分野で技術士をはじめとするエンジニアの方々が御活躍いただけるよう、技術士制度の見直しや技術者の継続的な能力研さんの機会の提供など、我が国の科学技術を支える高い資質を備えた人材の養成・確保のための諸施策の推進に努めてまいります。今後とも、日本コンサルティング・エンジニア協会の皆様方の一層の御理解と御協力をお願いいたします。

最後になりますが、日本コンサルティング・エンジニア協会におかれましては、これまでの40年間で培われた実績と豊富な知見を生かし、今後ますます御発展、御活躍されますことを期待申し上げます。

# AJCE設立40周年にあたっての ご挨拶

国土交通大臣

太田 昭宏



日本コンサルティング・エンジニア協会は、1974年に創立され、今年で40周年の節目を迎えられました。心からお慶び申し上げます。

貴協会は、技術に立脚した公正なコンサルティング・サービスを提供する専門家の組織として、その品位の確立、技術の向上、国際連携の促進のために、力を尽くしてこられました。

とりわけ、国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）の、我が国唯一の加盟団体として、海外のインフラ整備に携わる日本の企業を、技術・契約の両面から支えてこられたことは、特筆に値します。

我が国企業による海外インフラ整備は、もともと日本のODAを通じて拡大し、発展途上国の国づくりに貢献してまいりました。近年、アジアを中心とする新興国は、めざましい発展をとげており、さらなる発展のために、いっそうのインフラ整備を必要としております。他方、我が国は少子・高齢化が進んでおり、インフラを海外に展開することによって、新興国等の成長を取り込むことが重要な課題となっております。

相手国が真に求めるインフラの整備に協力し、現地の経済社会の安定と発展に貢献し、雇用創出や技術者育成、さらには環境の保全にも資するような「良い仕事」をすることによって、日本は、将来にわたって繁栄を享受し、世界で尊敬される国であり続けることができるものと考えております。

このような考えに基づき、政府はインフラの海外展開施策を強力に進めております。その内容は多彩であり、私自身が主要国を訪問してトップセールスを行っているほか、平成26年10月には、海外のインフラ市場に飛び込もうとする我が国事業者を支援するための組織である海外交通・都市開発事業支援機構（略称：JOIN）を設立しました。また、産学官が一体となって、相手国との間で、日頃から防災・減災のための技術やノウハウの共有を図る「防災協働対話」を展開してきているところです。

このように、インフラの海外展開を進めるにあたって、我が国の技術を知り、海外の事情に通じた専門家集団である貴協会に期待される役割は、ますます大きくなるものと考えます。

貴協会の、今後の一層の御発展を期待いたします。

# AJCE創立40周年に寄せて ～国際協力60周年の節目の年に

独立行政法人国際協力機構（JICA） 理事長

田中 明彦



AJCE創立40周年を心よりお祝い申し上げます。2014年は日本が国際協力を開始してから60年の節目にも当たり、またAJCEが創立された1974年はJICAが国際協力事業団として発足した年でもあります。

この60年を振り返ってみますと凡そ3つの時代に分けられると思います。最初の20年は戦後復興の時代。第二次世界大戦後、世界から孤立していた日本が、国際社会にどう復帰を果たしていくか。そのプロセスの一つとして取り入れられたのが国際協力でした。54年の「コロンボ・プラン」への加盟を経て技術協力を開始した日本は、同時に行っていた戦後賠償と合わせて、国際社会の中で責任ある行動を示していくという決意をそこに込めていました。次の20年の始まりは74年、まさにAJCEとJICAが創設された年です。この時、日本は高度経済成長の真ただ中。わずかの期間で"新興経済大国"となった日本では、78年に政府開発援助（ODA）を3年で倍増させる計画も出され、国際協力を実施する意義が認められるようになってきました。そして94年から現在までの20年は、新興国としての立場は卒業し、成熟した一国家として、国際社会の安定と繁栄のために貢献するという役割を担ってきました。戦後復興から経済大国といわれるまでに成長した経験や、先進国としてのノウハウを開発途上国に伝えていくことは、先進国の中でも日本特有の使命です。こうした日本の国際協力の特徴に目を向ければ、主に次の3点が挙げられます。第一に、日本は一貫して、相手国の自発性、自助努力を重視してきたということです。いわゆる"オーナーシップ"の尊重です。第二が人と人とのつながりです。相手との信頼関係なしには、国際協力はもちろん、何事も成り立ちません。日本人ならではのきめ細やかさで根気強く人づくりに取り組んできた実績は、日本にとっても貴重な財産となっています。そして第三に、目の前に立ちはだかる課題が何であれ、最終的に目指すのはその国の質の高い成長であるべきという姿勢です。これらを達成するためには、国際協力を行う上で重要なパートナーである専門家やコンサルティングエンジニアの方々による協力が不可欠です。日本のエンジニアの皆さん一人一人の専門的技術や助言に対する信頼が日本に対する信頼につながっていると思います。

激動する国際環境の中で、途上国も日本も日々変化しています。途上国の新しい課題に適切に対応していくために、JICAは新しいメニューを拡充し、より一層ダイナミックな事業展開にも努めて参ります。AJCEの皆様方におかれましては、これまでに培った途上国を始めとする世界各国のエンジニアとの40年に渡る信頼をもとに、日本の国際協力による開発効果をより着実に実現するため、今後とも革新的な提案、助言をどうぞよろしく願いいたします。AJCEのこれからの益々の発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝辞

公益社団法人日本技術士会 会長

吉田 克己



公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）が創立40周年を迎えられたことに対しまして、公益社団法人日本技術士会として心よりお祝い申し上げます。

AJCEは1974年に設立されましたが、近年断行されました公益法人改革に伴い2012年に公益社団法人の認可を得て新たなスタートを切っておられます。また、それに至るまでは、中立の立場を保持するコンサルティング・エンジニア（CE）の職業倫理を確立するとともに、CE業務の発展を図る公益法人として、日本の科学技術の発展に取り組んでこられました。

これらの取組みのなかでもとりわけ象徴的なのはAJCEが日本で唯一の国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）に加盟する機関であるということです。FIDICの“Quality（品質）”、“Integrity（公正）”、“Sustainability（持続性）”という基本理念の実現を目指しAJCEの役割は我が国において非常に大きい影響があったものと考えます。

一方、日本技術士会は、AJCEと多くの共通分野の会員を有しております。いずれも公益社団法人であり、社会の要請に応え産業界・企業等におけるキャリア形成、CPD機会の拡充等などについて相互連携することができ、それにより、相互のレベルアップを図っていくことが重要であると考えております。

我が国は3年前の東日本大震災での大地震と津波、そして原子力発電所事故と重なった災害により、今なお避難を余儀なくされている方がいます。その反面、日本経済にも永年にわたったデフレからの脱却の様相が指摘される等、明るい兆候も見えはじめております。今後はアジア太平洋経済協力（APEC）や環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）等、我が国の国際化政策が課題となっており、サービス業もその渦中に入らざるを得ないと考えております。そこに求められるのはグローバルスタンダードであり、人や技術、制度における国内と海外の差別化の解消・共通化、そして企業・技術者に求められる資質・能力がますます高度化、多様化していくものと考えられます。我が国が今後も世界に伍して継続的な成長を遂げていくためには、AJCEと日本技術士会そして技術士とCEが密接に連携し地位向上・国際連携の推進を図ることがその一助たりうると考えます。その立場から、このような業務を永年にわたり担ってきた貴協会と日本技術士会の連携の重要さはますます高まっていると認識しております。

今後もこれまでのAJCEと日本技術士会の協力関係をより確固たるものとする共に、AJCEの益々のご活躍とご発展を心から祈念し、貴協会の創立40周年のお祝いのご挨拶とさせていただきます。



# 創立40周年に寄せて

一般社団法人海外コンサルティング企業協会 会長

廣瀬 典昭



創立40周年を迎えられ心よりお祝い申し上げます。

公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会は、これまでわが国のコンサルティング業界の代表として国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）に唯一加盟し、同連盟の運営や活動において、日本のコンサルタントの発言力を高めるとともに、併せて国内においてもわが国コンサルタントの社会的地位の向上に大きな貢献をされました。これは、ひとえに貴協会の役員ならびに会員各位のご努力の賜物と、心から敬意を表する次第です。

近年、わが国コンサルタントを巡る国際環境は厳しさを増し、FIDICに期待される役割がますます重要となっています。国内では、価格競争中心の入札システムが、技術力を評価するプロポーザル方式や総合評価方式に改善されつつありますが、これはFIDICの推奨するQuality Based Selection（QBS）方式を発信した結果と言えます。一方海外部門では、日本の援助機関は、残念ながら国際機関に倣い、QBS方式から価格要素も加味するQuality and Cost Based Selection（QCBS）方式に変更され、最近では円借款事業だけでなく技術協力分野でもQCBSの採用が進んでいます。当協会は、FIDIC/AJCEと協力し、本来の方式を堅持するよう働き掛けを行っていきたく考えています。

また、日本企業の海外進出に伴い、プロジェクトに伴う契約トラブルが増え、時には大きな損出を蒙る事例が発生しています。日本企業は、国内の方式に慣れてきたため、海外での国際的契約に不慣れなところがあり、政治リスク・インフレリスク・不可抗力等実際のリスクが発生した際の対応や紛争処理についての知識経験が十分あるとはいえません。こうした点、FIDICの標準約款集はプロジェクトの性格に応じて各種用意されており、貴協会による同標準約款の研修事業は、海外プロジェクトの契約管理、紛争予防の点できわめて重要であり、コンサルタントだけでなく建設会社、メーカー等一般の日本企業にとってもこれまで高く評価されています。

コンサルティング業界はグローバル化を迎え、海外のコンサルティング企業と協力し世界の課題（グローバルイシュー）に取り組む時代になっています。また、将来のコンサルタント人材の確保のため、若手人材の育成も喫緊の課題となっています。貴協会は、世界のコンサルタントを代表するFIDICと国際的なネットワークを有し、各国のコンサルティング協会と緊密な国際交流を続けて来られました。そうした知見を踏まえ、引き続き当協会を含め関連協会と団結し、わが国コンサルティング産業の振興、質の高いコンサルティング業務の推進、そしてコンサルタントの人材育成に向け、ご尽力いただきますよう願う次第です。

終わりに、貴協会のますますのご発展と会員各位のご繁栄を祈念致します。

# AJCE創立40周年を祝う

一般社団法人建設コンサルタンツ協会 会長

大島 一哉



公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）が、創立40周年を迎えられたことを、一般社団法人建設コンサルタンツ協会（JCCA）から心よりお祝い申し上げます。貴協会が創立以来、日本のコンサルティング・エンジニアを代表して国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）に加盟し、FIDICの活動を力強く支えてこられるとともに、日本のコンサルティング・エンジニアの技術力と社会的地位の向上、さらにはコンサルティング市場の拡大、発展に尽力されてきたことに心より敬意を表するものであります。

私たちJCCAは、昨年設立50周年を迎えましたが、当協会のこれまでの活動においてはAJCEならびにFIDICの活動と成果に多くのことを学ばせて頂きました。

1991（平成3）年9月のFIDIC東京大会開催は、コンサルタントという職業の果たす役割と成果、そして、その高い社会的評価を日本の発注者のみならず多くの国民に示し、発展途上であった私たち建設コンサルタントにとって多大な勇気と自信を与えました。1989（平成元）年4月にJCCAが策定した建設コンサルタント中長期ビジョンはATI構想すなわち、魅力に満ち（Attractive）、技術を競う（Technologically spirited）、独立した（Independent）知的産業を目指すこと、を基本理念とする画期的なものであったのですが、ここでのIndependentは、当時のFIDICの基本原則に学んだものであることは言うまでもありません。さらに、ATI構想に基づき、技術力に基づく建設コンサルタントの選定を推進していくにあたってはFIDICのQuality Based Selection（QBS）を勉強し、これを発注者への要望、提案に活用させて頂きました。1995（平成7）年には発注者、受注者双方の参加のもとで新しい契約約款を制定することとなりましたが、ここでもFIDIC発注者・コンサルタント間の標準役務契約条件書（White Book）が大きな参考となりました。コンサルタントの著作権、瑕疵担保責任など、重要な契約条件が整備され、「公共土木設計業務等標準委託契約約款」として結実しました。

以上のように我が国の建設コンサルタント業務に関わる選定、契約、業務執行などの制度設計が着実に整備される中で、AJCEならびにFIDICの理念、活動、そして成果が大きな力となったことは間違いありません。

さて、これからの我が国の建設コンサルタントにとっては海外市場への全面的な展開が重要な課題となっています。そのためには国際競争力の強化が絶対であり、その点からも、これまで以上に貴協会の活動と成果に期待するところです。貴協会の今後のますますの発展を心よりお祈りして、創立40周年のお祝いとしたいと思います。



# 第1章

AJCE創立40周年に寄せて



## 水先案内人としてのAJCEの40年



元 AJCE 会長 元 FIDIC 理事  
石井弓夫

AJCEが設立された1974（昭和49）年という第1次オイルショックにより日本の高度経済成長が大きな打撃を受けた翌年である。またそれより前の1972年には国際的有識者組織であるローマクラブが「成長の限界」という報告書を公表し、経済成長一本槍の日本に大きな反省の機会を与えてもいる。

当時私は建設コンサルタントとして経験15年目を迎え、仕事に油の乗ってきたころである。今振り返ってみると自分でも「良い仕事をしたな」というのが実感である。そして財団法人から株式会社へ大転換して11年の建設技術研究所の中堅幹部として会社経営の末端を担ってもいた。その関心事は良い仕事と個人と会社の収入の改善ということであった。

そこで1968年発足の建設コンサルタンツ協会の委員として報酬改善運動にも力を入れていた。この運動は幸い1985年に大成功をおさめ、これにより建設コンサルタントの基盤が確立されたと自負している。ところが運動の一環として欧米のコンサルタントを訪問すると、日本と違って、コンサルタントの経済的、社会的地位がきわめて高いことに気が付いた。それがFIDICの存在を知り、AJCEの存在を知るきっかけであった。

1985年ころ、AJCEは、一度は京都と決定されながら中止となったFIDIC大会を1991年に東京へ持ってくることを計画していた。中止の原因はプラザ合意による急激な円高であったが、2013年のジュネース大会が政治情勢の悪化のためにスイス・ダボスに変更されたようなものである。大会誘致の第1段階として私を含め多数の日本のコンサルタントがAJCEに加盟し、1989年のFIDICワシントン大会に参加したのであった。そこで分かったのは欧米のコンサルタントの高い地位を築いてきたのがFIDICだということである。まさにAJCEが水先案内人の機能を発揮した大会であった。

以来、AJCEの一員としてコンサルタントの地位

向上に努力をしてきたが、それはもちろん自分自身のためであるとともに、コンサルタントとして「世のため人のため」に尽くすには高い倫理と技術を支える経済的地位が無ければならないと確信したからである。それまで日本ではコンサルタントの高い地位に伴う「独立性」の倫理が必ずしも明確でなかった。それは1950年代の発足時にコントラクターやメーカーからの大きな支援を受けていたためである。「独立性」の確保は日本のコンサルタントに一時的に大きな衝撃を与えたが、かえってその後の社会的地位の確立をもたらしたのであった。

さらにAJCEとFIDICが日本に大きな影響を与えたのが1997年のQBS（Quality Based Selection 品質・技術による選定）セミナーであった。FIDICのBill Lewis会長がわざわざ来日されFIDICのQuality Based Selection for the Consulting Servicesについて講演された。そのセミナーを通じて日本のコンサルタント、そして発注者は品質・技術によるコンサルタントの選定＝プロポーザル方式こそが正しい道だと確信したのである。



FIDIC QBS テキスト 1997年

日本の公共調達法は1889年（明治22）制定の会計法により価格競争が原則であったが、2005年には会計法に風穴を開ける品確法が制定されるなど品質・技術による選定が大きく前進している。これにはAJCE-FIDICセミナーの大きな影響があったことを特記したい。日本のコンサルタントは、選定はQBSによるべしというアメリカのBrooks法の日本版を目指して活動しているが、この面でもAJCEの先導的役割が期待されて

いる。

現在、安倍政権はインフラの輸出の旗を振っているが、いまひとつ迫力に欠ける。それは日本が、発注者、コンサルタント、コントラクタという独立の3者が協力して事業を進めるというFIDIC型の国際的事業執行システムに不慣れなためである。主役になるべきコンサルタントも及び腰である。この点にも水先案内人としてのAJCEの大きな貢献が期待されるのである。

こうしてAJCEの40年を振り返ってみると、コン

サルティングエンジニアの水先案内人としての活動とその貢献はきわめて大きなものであったことに気が付く。

終わりに40周年以降のAJCEへの期待を述べたい。それは、日本では専門分野ごとにコンサルタントの組織が分立しているため、団結して大きな力を発揮することができない、という問題の解決である。AJCEにはその解決の中心となって活動することを期待して結びとする。

## アジア地域におけるディスペイト・ボード普及 の努力 —産官学の協働作業—



FIDIC President List of Adjudicator  
大本俊彦

自分の名前を付けたコンサルタントがAJCEの正会員に認められたのは、2001年3月である。AJCEの活動に積極的に関わろうとしたのではなく、FIDIC公認のディスペイト・ボード（Dispute Board:DB）・アジュディケーター（FIDIC President's List of Approved Dispute Adjudicators）になるための試験を受けるには、FIDICに加盟しているコンサルティング・エンジニア協会のメンバーであることが必要であったためである。当時のAJCE会員資格には個人会員というカテゴリーはなく、法人会員として申請する他はなかったのである。同年（2001年）の4月に幸運にもアジュディケーターの合格通知を受け取った。このときにはAJCEと後に協力してDB普及に励むことなど想像もしなかった。

私がまだ独立大学法人京都大学経営管理大学院で教鞭を執っていた2008年に、独立行政法人国際協力機構（JICA）の調査業務「アジア地域におけるDAB・アジュディケーター育成計画の企画検討調査」が始まり、京都大学とAJCE、日本工営㈱の共同企業体でこの調査業務を受注した。これはJICAが融資プロジェクトの標準契約条件書として採用を検討していたFIDIC国際開発金融機関版（FIDIC MDB（Multi-lateral Development Banks） Harmonised edition）の中にDispute Adjudication Board（DAB）の設置が義務付けられていたからである。DB（或いはDAB）は建設紛争の予防と解決の新しい手法であり、JICAの最大・最重要融資地域であるアジアにおいて、このDBのコンセプトを普及させ、それに携わるアジュディケーターを育成することは急務であった。この調査業務はその後DBの普及とアジュディケーターの育成を柱として2013年まで継続され、一応の成果を達成した。この6年間はまだ産官学の三者の協働によってプログラムが遂行された。プログラムの主要項目と特筆すべき成果を上げてみると次のようになる。

1. アジア各国においてセミナーを実施すること、特に各国の財務省・公共事業省・その他の実施機関など発注者を対象としたセミナーや意見交換を実施
2. FIDIC幹部との意見交換を通じて、アジュディケーター育成に対する支援を受けた
3. DRBF\*との協議により、セミナーへの講師派遣、トレーニング・マニュアル作成の協力等の支援を受けた
4. アジュディケーター育成のためのトレーニング教材作成
5. アジュディケーター資格審査の規定作成
6. アジュディケーター・トレーニング・ワークショップ及びアセスメント・ワークショップの実施（上記4.のトレーニング教材を用いた。）
  - 6.1. 東京：日本人の参加
  - 6.2. マニラ：フィリピン、インドネシア、ベトナム、スリランカからの参加アセスメントの結果に基づいて各国でNational List of Adjudicatorsを作成
7. Dispute Board Manualの作成  
主として実施機関の為のマニュアルであり、例えばプロジェクトのコスト算定時にDBコストを予算化しておく必要性を説明している。

\* Dispute Resolution Board Foundation—米国シアトルに本部のあるDB普及、アジュディケーター教育等を目的とする非営利団体、日本にも支部がある

DBの有効性、対費用効果の良さがまだよく理解されていないために、契約条件書に設置が義務付けられたDBを設置しないプロジェクトが圧倒的に多く、この産官学プログラムを今後とも続けていく必要性を痛感している。

現在AJCEの保持するNational List of Adjudicatorsには10名の日本人アジュディケーターが登録されているが、彼らが実際に国際工事で活躍する日を非常に楽しみにしている。

## AJCE創立40周年を機に思う



元 AJCE 理事 元広報委員会副委員長  
佐久間 襄

AJCE創立40周年を心よりお慶び申し上げます。

この機会に、私がかつてAJCE広報委員会委員であった体験を踏まえて、今後のAJCEの活動へ一言期待を述べさせていただきます。

AJCEの定款（2012年施行）には「この法人は、コンサルティング・エンジニアの品位の確立・技術の向上・国際連携の促進を図り・・・（中略）・・・広く社会に貢献することを目的とする」と謳われています。すなわち社会貢献という組織目的の前提として「品位の確立」に言及しているのです。この「品位」とは「見る人が自然に尊敬したくなるような気高さ、おごそかさ。」（大辞林）を意味しています。「品位の確立」は言い換えれば「社会的地位の向上」ともいえます。コンサルティング・エンジニア（CE）の社会的重要性・貢献度は「関係者（会員・関係機関）」の間では理解されていますが、社会一般には今日でも正当に評価されているとは思えません。

「品位の確立」という言葉は、あまりにも当然に思え、日常深く考えず、分かっているつもりになりがちですが、今日創立40周年を迎えたAJCEという組織にとっては、基本的理念であると同時に今日の社会を生き抜くための喫緊の課題でもあると言えます。

AJCEには種々の委員会が設置されています。それぞれの委員会は常に、組織目的を意識して活動し、同時に委員会活動の成果・効果は組織目的に照らして評価され、その結果がより充実した次の活動の方向・内容に生かされることが期待されています。この10年間に各委員会の熱心な活動により、コンサルティング・エンジニアに対する社会的な理解は確実に向上してきたことは実感できます。しか

し、まだまだ十分とは言い難いレベルであることは我々自身が一番よく知っています。

私は約8年間広報委員会に携わっていました。その間、委員の皆様と共にAJCEの広報活動は如何にあるべきかを議論しました。議論の過程で常に念頭にあったのは、コンサルティング・エンジニアの品位の確立・社会的地位の向上に資するには広報委員会活動は如何なる役割を果たすべきか・果たすことが出来るか、だったと思います。広報活動は、一つは内向き（関係者）への広報で、他の一つは外向き（一般社会）への広報です。内向き広報は、これまでかなり多様な活動ができたと思います。これに対して外向き広報に関しては、今一つ徹底しないものを感じてきました。

適切な例ではないかもしれませんが、製造企業が如何に優秀な製品（自動車・テレビ等）を造ってもそれだけでは売れません。社会にその優秀性を知らしめる活動（営業活動）が必要になります。すなわち製品と営業とが一体となって、製品が社会に行き渡る（社会貢献）と思われれます。知的産業も同様に、組織の活動の充実（技術力の向上等）とその外部への周知活動が一体となり社会一般への理解が深まると考えられます。

今後、社会が増々複雑化するなかで、コンサルティング・エンジニアの重要性が正しく認識され、その職能への敬意が深まることが期待されます。

創立40周年を迎えた今日を出発点として、今後コンサルティング・エンジニアの「品位の確立」・「社会的地位の向上」が、如何に達成されていくかを常にイメージしつつ活動され、10年後の創立50周年を迎えられんことを祈念しています。

## Youngとの関わり



国際活動委員会 CB 分科会分科会長  
秋永薫児

AJCEには1995年より参加させて頂き、最初は広報委員でした。その後、技術研修委員会、国際活動委員会へ参加し、現在に至っております。AJCE活動を通じて、最もインパクトがあったのはFIDICという組織の存在とその影響力でした。当時、右も左もわからない状況で、FIDIC大会に参加させてもらい、様々な国から参加されたシニアの方々に交じって、新世界を感じておりました。私は当時30代半ばで、同世代のFIDIC大会参加者は極わずかでした。その中で感じたのが、若手の参加の必要性でした。幸い、ハワイ大会の準備会議（1998年）に参加した折、FIDICが若手の参加を促すための検討をしていたことを知り、若手専用のRound Table Discussionを提案したのが「Young」への関わりの最初であったと思います。

その後、2000年開催のハワイ大会でYoung Professional Forum（YPF）が産声を上げ、2004年コペンハーゲン大会で、若手によるSteering Committeeが誕生することになりました。コペンハーゲン大会では当初、YPFのイベントは何も予定されず、会議の時間と場所をプログラムに取り入れてもらうよう、当時のAJCE事務局長藤江五郎氏を通じてFIDIC本部と何度も交渉したことを覚えております。また、若手が運営するYPF用の部屋は、なかなか表だった場所に確保してもらえず、会場の奥まったところだったので、段ボールを加工した案内板などをスーツケースに忍ばせ、現地で切り貼りや組み立てをしました。若手の女性参加者達の注目を集めるため、彼女らを若手のテーブルまでエスコートすることもありました。

3年間YPFのChairを務めさせてもらい、その間に、YPF向けの現場見学会を実施することができたのは喜びでした。そして、開催国の若手との交流が生まれたことは良き思い出となっております。

時を同じくして、2004年にFIDIC Young Professionals Management Training Programme

（YPMTP）が開始され、2005年から2年間Mentorとして参加しました。Mentorとしてはわずかな貢献しかできませんでしたが、YPFとYPMTPとのつながりができ、役目は果たせたかなという実感はあります。私がMentorの時には、研修生のための音声入りテキストを作ることになっており、プロジェクトで滞在中の海外のホテルで夜な夜な資料を作成したことを思い出します。

また、AJCEでの日豪交換研修（YPEP）の立ち上げにも微力ながら貢献できたことは、幸いであったと思います。1995年にオーストラリア協会のAlan McConnel氏が弊社に来られて、当時、AJCE会長であった弊社社長の松永一成に日豪間の友好関係を築くことの有効性を説いて行かれました。同席していた私が、McConnel氏を新宿の駅までお送りする際に、私に若手の日豪交換研修の話を持ちかけられました。彼の強いアプローチにより、翌年の1996年に開始することになりました。

20年近い間、AJCEの活動に参加させていただきましたので、そのほかにもたくさん思い出がありますが、「Young」に関することに深く関わってこられたこと、後任の方々がより一層の活動を行い盛り立ててきてくれたことは、ありがたく、自分にとって幸せなことだと感じました。そして、支援をして頂いた方々へこの場を借りて感謝申し上げます。



2004年コペンハーゲン大会にて



## これまでのAJCEでの活動を通して思うこと



国際活動委員会契約分科会  
原 崇

創立40周年おめでとうございます。

私がAJCEの活動に初めて参加したのは2003年の日豪交換研修です。入社8年目でした。

研修先は、オーストラリアの同業種のコンサルタント会社で、多くの現場調査にも同行させていただきました。印象的だったのは、ある建設現場の基礎工事の調査に同行した時です。一緒に行ったエンジニアが現地で施主に問題点などを聞き、現場を見て回った後、その場でレポート用紙にレポートをさらさらと書いて、施主にその場で説明しながら最後にレポートにサインをして提出していました。業務の内容にもよるとは思いますが、その場で問題解決のためのレポートを作成し、その場で説明し、提出。カッコいいと思いました。



日豪交換研修  
New Castleのある現場にて

この研修参加を機に、AJCEの若手専門職会議

(YPF) 分科会のメンバーとして活動に参加するようになりました。参加し始めた頃はFIDIC特有の専門用語や略語が飛び交う分科会の会議についていけず、いきなり疎外感を味わい、1~2年参加すればいいかなと思っていましたが、会議内容が意外に面白く思わず熱く議論することが多々ありました。

そして、気がついたらAJCE活動に11年も関わっています。現在は国際活動委員会契約分科会のメンバーとしてFIDIC契約約款の翻訳作業などを手伝わせていただいています。

AJCEの活動に参加した当初は、日豪研修に参加した義務感が強かったのですが、徐々にAJCEの活動に気持ちが慣れていったというのが正直なところです。契約分科会のメンバーに任命された当時も、これまでの業務では建設工事契約などとあまり関わったことがなかったので、経験も知識もない私が

契約約款の翻訳作業なんて大丈夫だろうかと不安でした。しかし、分からないながらも委員の方々との議論をしているうちに、最近は少しずつ面白いなど感じるようになっていきます。去年はたまたま工事契約に関する仕事に関わることがあり、分科会でやってきた知識を少し活用することができました。どこでAJCEから得られた知識が活躍するか分からないものだと思います。他にも、能力開発(CB)分科会によるFIDICニュースの翻訳作業を手伝わせてもらっていますが、業務の合間にやるとよい息抜き(実際には現実逃避の場合が多いのですが)になって、この活動はかなり気に入っています。自分の翻訳したものをCB分科会の委員の方が校閲してその校閲結果も教えてくれるので英語の勉強にもなります。

AJCEの委員の方々の、従来業務でお忙しい中でAJCEでの熱いご活動には、本当に頭が下がります。私はまだ、日本のコンサルティングエンジニア業界の発展のためというような殊勝な気持ちを持つに至っておりませんが、AJCE活動に対する義務的な気持ちは薄れてきました。将来的にこの業界に携わっていく中で、少なくとも自分のステップアップにはなるなど、最近ではAJCE活動に参加する自分勝手な意義を感じています。業界発展への直接的な寄与はできなくてもAJCE活動に参加するメンバーのステップアップは、最終的にはこの業界の発展につながるのかもしれませんが、自分の業務範囲内での仕事をやっているだけでは関わることのない知識や情報、人脈がAJCE活動を通して確かに得られます。それを実際に活用できる機会があるかどうかは別にしてですが、コンサルタントの仕事をやっていくうえで引き出しが増えていくことは良いことだと思います。

私は海外出張などでなかなか分科会や委員会に参加できないのですが、細々とできる限り活動に参加させていただきたいと今では思っています。AJCEの益々の発展をお祈りしております。

## AJCEとの出会い～分科会活動を通じて



元国際活動委員会 QBS 分科会  
横川真理子

公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）におかれましては、創立40周年を迎えられました事を心からお祝い申し上げます。

私は2004年から2013年まで国際活動委員会の品質による選定（Quality Based Selection QBS）分科会の委員としてAJCEにお世話になりました。当時は世界銀行に続きアジア開発銀行がコンサルタント調達に品質と価格による選定（Quality and Cost Based Selection QCBS）を導入して間もない時期で、私は当時営業部で国際機関案件を担当していたことからQBS分科会に委員として参加することになりました。分科会委員の任期中には、数々の貴重な経験を積むことが出来ました。その中でも特に印象に残っている2004年のセミナーでのプレゼンテーションと2012年FIDIC理事会で来日した理事及びご夫人方の奈良・京都旅行への同行について振り返りたいと思います。

### ◆AJCEセミナーでのプレゼン

分科会活動時代に2回プレゼンの機会をいただきました。特に初めてのプレゼンは、委員を始めて間もない頃でもあり非常にプレッシャーを感じたことを覚えています。当初は私よりはるかに経験豊富な技術者が講演を行う事になっていましたが、講師の都合が悪くなり急遽私が代打として参加することになりました。講演のテーマも「米国におけるQBSの事例」という馴染みの無い内容で、委員になって間もない私には天から降って来たような「一大事」でした。「どげんかせんといかん!!」という状況の中、必死で先輩方から資料や情報を集め何とか当日に間に合わせる事が出来ました。ご指導いただいた皆様には大変感謝しております。今にして思えばセミナー前の10日間は人生で一番勉強したような気がします。

プレゼンの準備の過程で収集した資料・情報を読み込んでいくにつれ、コンサルタントとしての品質を継続的に確保していくにはコンサルタント業務の

正当な評価と妥当な報酬が必要であり、それを担保するためにもQBSによるコンサルタント調達は非常に重要な制度であることを改めて認識しました。QCBSが主流になりつつある時代にQBSの重要性を訴え続ける努力は今後も継続して行っていく必要があります。その為に果たすAJCEの役割は非常に重要であると思っています。

### ◆FIDIC理事ご夫人方ご一行との奈良・京都の旅

2012年に東京で開催されたFIDIC理事会終了後、理事のご夫人方の奈良・京都旅行に同行する機会をいただきました。普段の業務から離れ、リラックスした雰囲気の中で交流することが出来たのは私にとって楽しい思い出です。今回の旅は、ホストである廣谷彰彦FIDIC理事（当時）ご夫妻が事前に入念な準備をされており、また旅行中も細部にまで行き届いた心遣いで、「おもてなし」について改めて考える良い機会になりました。

普段は世界的に権威のある組織の理事という重要ポジションにいる方々ですが、オフの時間には普通のおじさんとおばさん（失礼!）に戻り、FIDICファミリーの親しみ易さに溢れた笑顔の絶えない旅でした。

### ◆終わりに

上記の他にも委員時代の思い出と経験は枚挙に遑がありませんが、紙面もそろそろ尽きてきました。AJCEでは経験豊かなベテラン技術者の活動に加え、若い世代の技術者の活動も盛んに行われています。その一方で女性技術者の参加はまだ少ないのが残念でなりません。技術者の中で女性の絶対数が少ないという実態があるためですが、最近では「ドボジョ」と呼ばれる土木系女子も少しずつ増えて来ており、彼女たちが今後AJCEの様々な活動の場に参加しネットワークを広げて行くことが出来るよう期待しています。最後に、委員時代にお世話になった方々への御礼と共に、今後の皆様の益々のご発展を祈念して拙文の締め括りと致します。



## コンサルティング・エンジニア業務の一考察



前 AJCE 事務局長  
藤江五郎

「Globalization」という言葉が俎上に昇って久しくなります。昨今のマスコミのプラス思考も、この言葉をベースに議論を展開させています。この言葉の意味するところは、各自の置かれた立場により解釈が少しずつ異なるかと思いますが、私は「地球全体をひとつの市場として捉え」業務遂行することであると理解しています。「Consulting Engineer」は勿論、全ての分野のProfessionにおいて、その地域、国の人間になり、「国の成長」の青写真を描くことが成功への第一歩であると考えています。

私はAJCE事務局長の前職で、南米3カ国に合計25年間駐在しました。そのとき、国営製鉄所の拡張整備で3,500キロのガスパイプを設置するなど、様々なProjectsを担当しました。これらのProjectsは日本との友好シンボルとして現地の人に愛され、その国の発展に寄与しています。これらのProjectsには日本や欧米から多くの技術者が参加しましたが、技術者の中には現地を心より愛し、Project終了後も現地にとどまり、家族を母国から呼んで、今日も活躍している方が大勢います。彼らを基盤に、さらに多くのProjectが生まれ、南米と母国の両国の経済発展に寄与しています。

南米からの帰国の途次、英国に立ち寄った時、そこには旧植民地のアフリカ大陸向けのProjectsが集まっていました。私が興味を抱いたProjectに北アフリカ リビアの「サハラ砂漠の緑化」Projectがあります。当時のカダフィ首相はローマ帝国時代の資料から、紀元前の北アフリカでは、サハラ砂漠の地底湖の豊富な地下水をくみ上げて大農園を作り、ローマ帝国を中心としたヨーロッパへ、穀物、野菜を輸出し、ローマ帝国の成長を支えていたことを突き止めました。そこで、カダフィ首相はリビアの石油資源で蓄えた潤沢な資金を利用して、政治的に対立のない日本に、サハラ砂漠の地下に眠る地底湖の調査と開発を依頼しました。日本はこの要請に応じ

て調査を実施、遂に地底湖を発見し、サハラ砂漠緑化Projectに取り掛かったところでリビア革命が起こり、このProjectは頓挫してしまいました。サハラ砂漠が農地に生まれ変われば、アフリカの食糧事情は大きく変化を遂げることになったでしょう。

その後、私は改革解放政策に切替えた中国でProjectsを推進するために、香港駐在を命じられました。当時、中国政府の幹部はProjects実現のために香港に長期滞在し、外国企業と盛んに接触していました。私は香港に10年駐在しましたが、多くの中国人と友好関係を樹立しました。振り返れば、中国の近代化への熱意とまともに向かい合った、生涯忘れられない充実した時期でした。何処にでもある課題ですが、常に商習慣、法制、経験等の相違を乗り越える日々でした。香港、中国の駐在最後のProjectは三峡ダム建設への協力でした。この建設には、南米駐在時、パラグアイ・アルゼンチン・ブラジル3カ国共有で建設した時のダム建設の経験が活かされました。ラプラタ河の水位落差が低く、このため、ロシアの低水位技術の協力を得たことが、三峡ダム建設に活かされました。

現在、私はFIDICの会員委員会最古参のメンバーとして、FIDIC発展へ微力を投じていますが、FIDICの会員になることの申請書には、自国がGlobalizationに乗遅れないことを目標に掲げることとなっています。そこには国の発展に必要な各種のProjects実現が求められており、先進各国の協力が求められています。AJCEとFIDICの将来は、Globalizationの進展と共にありますが、市場は益々拡大し、多様化しています。また、今後はProjectの融資に踏み込むことになり、資金の調達交渉が必須条件になり、他業種企業との協力関係の確立が求められることになると思われます。ご健闘、ご発展をお祈り申し上げます。



## 第2章

### 特別企画 座談会

# コンサルティング・エンジニアの国際展開とこれから

編集：広報委員会

創立40周年記念誌の特別企画として、座談会「コンサルティング・エンジニアの国際展開とこれから」を開催いたしました。

60年の節目を向かえた日本のODA<sup>1</sup>は世界から大きな信頼を得てきました。一方でODAを取り巻く世界環境のダイナミックな変化に伴い、援助は多様化し、調達方式等は変化しています。

このような変化に伴い、JICA理事、AJCE新旧会長、そして、若手コンサルティング・エンジニアを招き、日本の強み、若手人材の海外業務に対する意向、国際展開へのAJCEが果たす役割等の課題・期待等について、それぞれの立場から語り合っていました。

開催日：平成26年6月20日（金）

場 所：AJCE会議室

出席者：（五十音順）

内村 好 氏

AJCE会長、FIDIC<sup>2</sup> ASPAC<sup>3</sup>理事、(株)建設技術研究

所代表取締役副社長

黒柳 俊之 氏

独立行政法人国際協力機構（JICA）理事

廣瀬 典昭 氏

前AJCE会長、日本工営(株)代表取締役社長

松尾 隆 氏

AJCE技術研修委員会YP<sup>4</sup>分科会委員、FIDIC YPF<sup>5</sup>

委員、ASPAC YPF委員、(株)長大海外事業本部主任

吉川 泰代 氏

AJCE広報委員、パシフィックコンサルタンツ(株)

事業開発本部PFI<sup>6</sup>・PPP<sup>7</sup>マネジメント部

司会者：瀬古 一郎

AJCE副会長、広報委員長、中央開発(株)代表取締役社長

なお、所属・役職は座談会当日のものとし、本文中の敬称は略しました。



座談会風景（手前：出席者、後方：関係者）

1 ODA：Official Development Assistance 政府開発援助  
2 FIDIC：Fédération Internationale des Ingénieurs-Conseils 国際コンサルティング・エンジニア連盟  
3 ASPAC：FIDIC Asia-Pacific Member Associations FIDIC アジア太平洋地域会員協会連合

4 YP：Young Professionals 若手専門家  
5 YPF：Young Professionals Forum 若手専門家委員会  
6 PFI：Private Finance Initiative プライベート・ファイナンス・イニシアチブ  
7 PPP：Public Private Partnership 官民連携

**司会**：本日はご多忙中にも係わらず、お集まり頂き、ありがとうございます。

AJCE新旧会長の他、JICAの黒柳俊之理事といった経験豊富な方から、30代、20代の若手と女性まで出席頂きました。今年AJCEが創立40周年を迎え、また、AJCEが加盟しているFIDICは昨年100周年を迎えました。AJCE、FIDICともに節目の時期にあります。日本のODAは近年増加傾向にあるなか、日本の技術者がどのように海外に出て行くか、世界で日本が勝っていくために何をすべきか、未来志向で議論していきたいと思えます。

## ■国際展開の課題

### <海外志向とODAの多様化>

**司会**：早速ですが、国際展開の課題や海外コンサルタントとの違いなどについてお聞きしたいと思います。

**内村**：私は海外業務の経験が全く無い立場でAJCEの会長を引き受けました。海外業務の経験はありませんが、AJCEの会員として、過去10回以上FIDIC大会に参加し、海外のCE<sup>8</sup>と直接お話しすることで、海外の様子を感じてきました。

日本の国際展開の課題には、お金、つまり予算と、人材、制度の3つがあると思えます。人材に関しては、海外で仕事をしたいというマインドが大切だと思っています。弊社で国内業務に従事している職員に対して「海外で仕事をしたいか」というアンケートを実施すると、20代と30代の約60%が「参加したい」または「参加しても良い」と回答しましたが、これが40代になると50%弱、50代になる



内村 好氏

と、30%になりました。若手は海外業務への意欲が強いと感じており、それに対して会社が対応しきれていないと思っています。

また、日本国内では、CEの社会的な地位という問題があります。FIDIC大会に参加するとCEのステータスが非常に高いと感じます。ある入国審査の厳しい国に行ったときパスポートコントロールで「職業は何か」と聞かれて「CE」と答えたらすぐに通してくれました。海外ではそれだけCEの社会的地位が高いのだと思います。

**廣瀬**：私は入社後3年間、国内業務を経験し、その後は約20年間海外業務を担当しました。その後約10年間研究開発に従事しましたが、また国内部門に移って管理や会社経営に携わり、現在入社46年です。20代、30代の若いときに海外業務で得た経験が私の技術者としての基礎になっていると思います。

日本の制度では、事業が細分化されているので、事業全体を一貫して担当できないところが、海外業務と大きく違います。例えばJICAの開発調査とそれに続く円借款業務を担当すると、マスタープランから設計・施工管理まで一通りの経験を積めます。国内業務で技術を勉強して、海外に出てプロジェクト全体のマネジメントを経験するのが理想ですが、国内と海外の発注システムが異なるので、一度国内業務を担当すると、なかなか海外業務ができない。また、海外で活躍できる技術者を育成するには時間がかかります。10年、20年の単位で育成する仕組みが必要ですが、中小規模の企業では大変です。だからAJCEが各社の人材育成を支えなければならないと思っています。

会社も戦略的に育成する、海外でやりたい人も意思をもって勉強していく、という両方がマッチしないと育っていかない、みんなが戦略的に育てないといけない、と思います。

**黒柳**：私は1978年にJICAに入構しました。現在のJICAは旧JICAと旧JBIC<sup>9</sup>の一部が合併していますが、私は旧JICAに入構しました。入構後は社会開発調査を長く経験しました。20代から40代まではひたすら現場で、専門家からプロジェクト調整員、リーダーなどを経験しました。無償資金業務や経済基盤開発など、コンサルタントの方々と縁の深い

8 CE：Consulting Engineer コンサルティング・エンジニア

9 JBIC：Japan Bank for International Cooperation (株)国際協力銀行



黒柳 俊之氏

仕事をしてきました。実は、学生時代に2年間休学して、フィリピンのミンダナオ島でOISCA<sup>10</sup>の活動に参加していましたので、NGO<sup>11</sup>を経験して、JICAで現場の専門家を経験して、JICAの事務所業務も経験して、いろいろなことをやらせてもらいました。50代からは人事担当になり現場から遠ざかってしまいました。残念ながら現場に戻れず一昨年から理事です。

援助をする上で変わらないことがあります。一つは自助努力、もう一つは人間の安全保障です。あらゆる脅威や不幸に対して日本がリーダー的な役割を果たさなければいけないと考えています。自助努力と人間の安全保障は援助の世界で脈々と続いています。

一方、援助の現場でここ最近大きく変わってきたのは、対象国の多様化と援助分野の多様化です。アフガニスタンや東ティモールなどのように、かつては考えられなかった戦後の復興支援や平和構築が一つの主流になってきました。当初は技術移転や無償資金協力によるインフラ整備に主眼がりましたが、ODAの役割も変わってきています。また、日本単独では不十分で、いろいろな国や援助機関と協調しなければならなくなってきました。

このようなODAの多様化に対してどのように対応していくかが最大の課題だと考えています。

**松尾**：私は入社後31歳まで国内の橋梁設計業務に従事しました。その後、異動の希望がとおる海外事

業部に移り6年弱経ちました。海外業務は発注者の技術レベルが日本とは大きく違うことから、より噛み砕いて説明することを心掛けています。さらに私も相手国の方も母国語以外での会話となることが常ですので、相手の要望を正確に理解するため根気よく丁寧な会話が必要となります。このような場面を通じて、自分はエンジニアではありますが、同時にコンサルタントであることを強く意識するようになりました。

廣瀬前会長のおっしゃるとおり、国内業務である程度専門技術を身につけてから海外に出ることが良いのではないかと思います。私自身、国内での経験が核となり、それを判断材料として活かすことが出来たので海外案件を乗り切れているのだと感じています。

**内村**：30歳まで国内業務に従事して、それから海外を希望されましたが、海外を希望した動機はなんですか？

**松尾**：もともと海外の仕事に興味を持っていましたが、大学在学中に研究室に来ていた留学生との交流を通して海外への興味が深まりました。

#### <PPPとチームODA>

**吉川**：私は現在入社5年目です。PFI・PPPマネジメント部に所属しており、国内では地域観光交流センターや都市公園などのPPP-PFIプロジェクトのアドバイザー業務やPPP-FS<sup>12</sup>業務に、海外では主にJICAの工業団地・レンタル工場のPPP-FS業務に従事しています。国内業務でPPP制度や財務、契約、官民リスク分担などを学びながら海外業務にどのように適応していくか、試行錯誤の日々です。

PPPという分野について、今後コンサルタントがどういう立場で海外プロジェクトに参入していくか、例えばサービスを提供するプロバイダー側として参入するのか、あるいはより専門的なコンサルタントとして入るのかなど、色々と考えながら仕事をしています。

**内村**：PPPについて、国内と海外では制度や業務のやり方に違いはありますか？

**吉川**：はい。私は、国内業務では地域観光交流センターの公共側での事業化調査を、海外業務では工業団地関係の民間側での事業化調査を担当をしておりますが、海外特有のリスク・制度などもあり、まっ

10 OISCA : The Organization for Industrial, Spiritual and Cultural Advancement-International 公益財団法人オイスカ

11 NGO : Non-Governmental Organizations 非政府組織

12 FS : Feasibility Study 実現可能性調査



たく異なります。

**司会**：PPPについて松尾さんはいかがですか？

**松尾**：弊社では、PPP-PFIのマーケット拡大機運に合わせて、得意とする道路橋梁分野を足掛かりにインフラマネジメントという事業領域での展開拡大を目指してきました。その成果として国内では2010年から滋賀県伊吹山有料道路の運営事業にコンセッション方式で参入しました。そして、そこで得た実績と経験を活かし、海外ではフィリピン国ミンダナオ島で2015年の事業開始を目標に小水力発電事業を展開しています。本事業はフィリピン政府が再生可能エネルギーの普及に力を入れていることやリスク要素である買電価格の法整備が進んでいること、さらに日本が推し進めるパッケージ型インフラ輸出の政策に一致することなど成長が期待されるインフラ事業です。

**廣瀬**：インフラ事業で民間が投資する場合には、ビジネスとして成り立たなくてははいけません。上下水道やエネルギー開発、港湾、鉄道など料金収入があるコンセッション型事業が有望です。このような事業を、主として民間が実施し、一部を公共が支援するという仕組みのPPPが増えてくるでしょう。例えば海外で民間が事業を実施する際に日本政府が支援するODAなども考えられます。

そういう仕組みの原型は昔からあって、インドネシアのアサハン水力開発事業では日本のアルミ会社と電力会社が参加してすべて日本チームで実施しました。PPP-PFIがビジネスとして成り立つためには、運営が重要であり、事業を継続する人に対して支援する仕組みが必要です。コンサルタント自身が事業者になるということもあるかもしれません。その場合には、コストダウンやバランスの良いコスト配分ということも考えなければなりません。



廣瀬 典昭 氏

**黒柳**：JICAの立場では、PPP案件も利益がでるかだけでなく、開発にどれだけ資するかという視点で選びます。マスタープランを作ってFSを行って、技術支援して、制度や法律を整備して、そこから民間にも利益が出るようなPPP案件につながります。現在、様々なPPP案件のFSを実施していますが、利益を出して事業化につなげるのはなかなか難しいですね。私は少し長い目でやっていかなければいけないと思っています。

日本の強みは総合力だと思っています。技術支援を担うコンサルタントもJICAのパートナーですし、PPP案件の事業主となる民間企業もパートナーですね。オールジャパン、すなわち、チームODAで取組む時代が来ていると思っています。この点においてもODAの役割が相当変わってきていますね。

**吉川**：JICAでは現在50件ほどのPPP-FSを実施して、事業化できるか検討されています。私もJICAのPPP-FSのひとつにアサインされているのですが、JICAのPPP案件に対する融資判断は一つの事業の利益でしょうか、全体の開発効果でしょうか？

**黒柳**：両方です。お金を貸す以上事業として成立する必要がありますし、ODAで実施するという意味では開発効果がなくてはいけません。開発効果という視点はJICAにとって非常に重要です。その国の援助方針に合致しているか、その国の便益に資するかは重要な視点です。

## ■AJCEの役割とCEのこれから

### <FIDICや他協会との連携>

**司会**：少し話題をコンサルタントの方に絞り込んでいく形で話をお聞きしたいと思います。まず、内村会長からFIDICとAJCEの関係を含めてお願いします。

**内村**：40年前に日本技術士会のCEらがAJCEを創立して、FIDICに加盟し、日本のCEが国際舞台に立ちました。今振り返ると、その時の先輩CEの方々の努力や熱意がなかったら、日本のCEの世界での活躍も少し遅れていたかと思います。そういう意味で、当時の有志の方々の熱意と慧眼に大変敬意を表したいです。

FIDICには現在97の国と地域が加盟していて、途上国も含めてグローバル化しています。この中で日本が入っているASPACは、西はイランから、中央アジアはウズベキスタン、それからオーストラリアまで入った広いエリアの地域戦略を担っています。



FIDICの大きな目標は、CEの地位向上、FIDIC契約約款の普及とビジネスの円滑化、そして、若手エンジニアの育成です。

**司会**：AJCEの将来についてはいかがですか？

**廣瀬**：日本国内には多くのコンサルティング団体が存在し、個別に活動していますが、それでは世界と戦っていきません。ですからAJCEを含めた日本国内のコンサルティング団体と一緒にやりましょうという動きが出てきています。

**内村**：AJCEは日本のCEを代表してFIDICに加盟していますが、日本国内に複数の団体が存在するため、AJCEだけでは日本のすべてのCEを網羅できていません。そこで日本のCEを網羅できるような団体を創っていきたくて考えています。世界から見て日本のCEを代表する新しい協会をつくる、海外を志向しているコンサルタントの一つの大きなまとまりができる、というのはよいのではないかと思います。



座談会の風景

### <CEの調達方式>

**司会**：FIDICの契約約款は最近国土交通省でも注目しているようです。

**内村**：日本国内の入札方式や契約方式は非常に独特ですが、国内の制度もグローバルスタンダードになっていくと思っています。これまでは、組織も人も海外担当、国内担当と分かれていましたが、これからは海外も国内も両方やっていくことになるでしょう。

ちょっと話は飛びますが、コンサルタントの調達方式について、AJCEでは1997年にFIDICの会長を日本に招いて、QBS<sup>13</sup>セミナーを開催しました。こ

のセミナーを私も会員として聴講したのですが、そのとき初めてQBSという言葉を知りました。当時の日本国内は指名競争入札、つまり価格競争一辺倒で、世界には技術でコンサルタントを選定する方式があるのか、と非常に大きな感銘を受けました。現在、国土交通省の発注するコンサルタント業務は、発注額でおよそ7割はプロポーザルか総合評価落札方式、すなわちQBSかQCBS<sup>14</sup>になっていると思います。日本国内の調達方式がここまで変化したのは、今振り返ると、97年のQBSセミナーが一つの転機となり、その後のFIDICの後押しも大きかったのだと思います。FIDICやAJCEの日本国内における役割は、こんなところにもあると思っています。

**司会**：JICAの調達方式はいかがでしょう？

**黒柳**：JICAは78～79年頃からプロポーザル方式を導入しています。もともと価格競争を含まない調達をしてきましたが、調達価格が高いとの批判があった時代に一部の案件でQCBSが導入されました。しかし、開発調査で価格競争の要素を入れていいのかという議論があります。その時々々の要請によって変わっていくのではないかと、と思っています。

**内村**：日本国内でプロポーザル方式が導入された当初は、プロポーザル方式とは技術競争のみ、つまりQBSでした。その後、技術競争のみのプロポーザル方式が増えてくると、やはり価格競争もということになり、総合評価落札方式、いわゆるQCBSも導入されました。しかし、QCBSが増えてくると、またQBSに戻そうという動きが出てきています。日本国内でも試行錯誤が続いているということでしょう。

### <維持管理・防災>

**司会**：いろいろなものが多様化してくると、我々の役割も少し考えなければなりませんね。

**内村**：日本の強みとしては、防災もあるでしょう。不幸にして日本は多くの風水害の経験がありますが、そのため、日本は高い防災技術を持っています。その技術を海外で活かすことが重要ですが、その地域の社会システムや風土に合った柔軟性も必要だと思います。

ところで、国内ではインフラの維持管理が話題になっていますが、ODAの現場でもそろそろ維持管理の時期を迎えるのでしょうか？

13 QBS：Quality Based Selection 品質・技術による選定方式（プロポーザル方式）

14 QCBS：Quality and Cost Based Selection 品質・技術と価格による選定（総合評価落札方式）

**黒柳**：おっしゃるとおり、もはや造って終わりの時代ではありません。道路や橋梁は完成して初めて便益が発生し、長く使えばそれだけIRR<sup>15</sup>は上がっていきます。維持管理を含めたトータルの援助システムが求められています、それをチームODAでやっていくこと、これこそ日本の強みではないでしょうか。

ODAの現場でも中国や韓国が台頭していますが、今の中国・韓国は、安い、速い、でも不味い、です。日本は、高い、遅い、でも旨い、つまり、日本が造ったものは丈夫で寿命が非常に長い。フィリピンで大型の台風が発生し、多くの被害が出たとき、日本の無償資金協力で建てた学校はビクともしませんでした。日本が建てた学校は台風が来るとシェルターとして利用されています。また、1991年のフィリピン・オルモック台風では8,000人以上の犠牲者が出ましたが、その後、日本の無償資金協力で河川改修や堤防護岸工、落差工などの洪水対策が供与され、以来、洪水での犠牲者は一人もいません。人間の安全保障の典型ですね。

**内村**：日本は、「高い、遅い、でも旨い、そして、長持ちする」ですね。

**黒柳**：高くても時間がかかっても旨いし、丈夫で寿命が非常に長いということです。一方途上国の防災経験が日本に使えることもあります。途上国での経験を日本に返すことも重要で、ODAの成果を日本で活かせば、日本国民のODAに対する理解も深まるでしょう。

**廣瀬**：フィリピンのピナツポ火山の噴火と雲仙普賢岳の噴火は同時期だったので、日本の火山・砂防技術が両方で使われました。途上国といっても必要な技術レベルは日本と変わりません。また、このような大災害の場合には、その経験や適用した技術などの知見を実務者と研究者が共有し継承する仕組みが必要です。我々コンサルタントは現地ですらなくはないけないことを提案する必要がありますが、大学の先生方には将来を見据えて研究をしてもらう、コンサルタントと研究者での役割分担が必要だと思います。

#### <人材育成>

**内村**：人材育成やYPFについてはいかがでしょうか？



座談会の風景

**松尾**：FIDICとASPACにはそれぞれYPFと呼ばれる若手専門家の委員会があり、私はFIDIC YPFとASPAC YPF両方の委員を務めています。委員会活動で各国の若手と交流して強く感じるの、日本は技術向上のための環境がとても恵まれているということです。専門性を身に付けた先輩から教えてもらうことの他に、土木学会や各協会の発刊する技術図書が充実していて、また研修やセミナーも頻繁に開催されています。一方海外の、特にASPAC地域の国々では、学べる環境が乏しいようです。だからFIDICでは若手の教育プログラムを実施したり、YPFでもオンライン・トレーニング・プログラムを計画しています。YPFではネット上に情報交換の場を創ることを考えていて、専門知識の交換だけでなくリクルートにも活用したいとか、若手の要望を社会に届ける場にしたいとか、熱い思いが出ています。例えば技術的な情報をウェブ上に定期的に投稿して、新しい技術を伝えれば、投稿した人や会社にとっては宣伝になるし、対外的な活動の場にも使えるのではないかと、というアイデアもあります。

**司会**：AJCEのYP分科会ではフットサル大会や夜会も開催していますね。

**松尾**：業務を離れたイベントですので他社の方との繋がり易さを感じます。フットサル大会をきっかけに数社で合同練習を行うなど、良い交流の場として育っています。

また、AJCEのYP分科会では女性のキャリアパスやワークライフバランスを考える懇談会も開催しています。参加した女性技術者からは、色々悩みはあるけど社内には女性の先輩技術者が少なく、またはいなくて相談できない、という声があります。AJCEが主催するイベントで仕事とは違う繋がりができれば、相談相手も増えるだろうし、コンサルタント業界にも良い効果があるのではないかと考えています。

15 IRR：Internal Rate of Return 内部収益率



松尾 隆氏

**司会**：女性の立場からはいかがですか？

**吉川**：仕事で海外の役所や企業を訪問すると、女性が普通にバリバリ働いています。お腹が大きくて「来月から産休よ」といっていた方が、翌年には仕事に復帰しています。日本よりもガッツがあるのか制度が整っているのかわかりませんが、すごいなあと思います。日本国内でも女性が働きやすい環境整備が進められてきていますし、弊社でも女性技術者が増えていますが、女性のキャリアパスという意味では、私も同僚もみんな悩んでいます。周囲に目標となる先輩社員も数名いますが、そのような女性技術者が集まる場があったらいいなとも思います。また、女性が結婚・出産後でも働けるよう、チームでの支援も必要だと思います。

**内村**：お二人の話を聞きますと、若手の交流の場を提供するのもAJCEの役割と認識しました。業界団体でも学会でもない、やや特殊な協会であるAJCEだから、会社の垣根を越えて集まりやすいのでしょうか。だとすると、AJCEの会長としては、これをAJCEのメリットとして活かしていかななくてはと思います。

**司会**：AJCEでは今年FIDICブラジル大会へ参加する若手に参加費を支援しますね。

**廣瀬**：そのほかにもAJCEはオーストラリア協会と若手コンサルタントの交換研修を続けています。このような活動がAJCEの役割ですね。

**廣瀬**：人材育成という観点で、ECFA<sup>16</sup>では若手コン

サルタントとJICA職員の交流会があります。立場は違いますが、海外業務・ODAと同じ事をやっているのでは色々な話ができていないかと思います。日本人同士だけではなく、海外の若手とも交流できる場があるといいですね。日本を宣伝するためにも、若手の交流が一番いいと思います。学者は学会の国際会議などがありますが、現場の技術者が海外の技術者と交流をすることが望まれていると感じます。途上国と日本では技術力の差があると思われがちですが、必ずしも日本の技術がそのまま適合するわけではありません。その地域にあった技術というものもあります。現場で技術者が交流し、そのような情報交換ができればいいですね。

**黒柳**：JICAでも若手職員と若手コンサルタントとの勉強会を実施しています。女性だけの交流会もやっているんですよ。先ほどチームODAと申し上げましたが、JICAとコンサルタントは「甲と乙」とか、「発注者と受注者」ではなく、「パートナー」でなければだめだと思っています。ODAを良くするためには、JICAもコンサルタントも良くなれないといけない。そのためにはしっかり交流していくことだと思っています。

また、ECFAが開催するコンサルタントの新人研修にJICAの新人を参加させています。チームODAを創るためには、JICA職員がコンサルタントの役割を理解しなければいけないということです。

人材育成ということでは、JICAでは学生のインターンシップを始めます。学生の時からODAの世界に引っ張り込もうということで、学生にコンサルタントが実施しているODAの現場で研修をしてもらいます。これは今年の正月の懇親会でJICAの田中明彦理事長と廣瀬さんとの間で出た話ですが、現在学生募集中です。非常に速い対応でしたね。このインターンシップでJICAに就職したい人、コンサルタントに就職したい人が増えればODA業界の底上げにもなるのでは、と期待しています。

課題もあります。PM<sup>17</sup>の育成です。正確な数字はわかりませんが、60歳以上のPMが圧倒的に多いと感じます。プロポーザルで若いPMでも点数が取れるようにするなど、JICAなりに若手PMが増えるような工夫をしているつもりなのですが。若くて経験は少ないが優秀なPMがベテランのPMと組んで技術を伝承しながら若手PMを育成する。これはJICA

16 ECFA : Engineering and Consulting Firms Association, Japan 一般社団法人海外コンサルティング企業協会

17 PM : Project Manager プロジェクトマネージャー





吉川 泰代氏

だけではなく、コンサルタントも含めた業界全体で取り組まなければならない課題ではないでしょうか。

**内村**：日本国内の発注は非常に細分化されていて、国内業務をやりながら、プロジェクト全体を管理するマネージャーを育てるのは現実的に無理があります。一方で、東日本大震災の復興事業では発注者も不足していて、コンサルタントが発注者支援、まさにプロジェクトマネジメントをしています。このような仕組みが日本でも定着すると、国内で経験を積んで、その経験を海外で活かすことができるようになるでしょう。

**黒柳**：JICAとしても、プロポーザルの点数に国内経験をどう反映させるか、検討が必要だと思っています。

**松尾**：人材育成はコンサルタント業界の大きな課題と理解しています。各社どのような研修制度がありますか？

**廣瀬**：弊社では、キャリアビジョンとしてマネージャー型とスペシャル型のどちらを目指すか選択し、段階に応じた研修プログラムを作っています。例えば10年ごとに自身を振り返ったり、同年代で協議したり、自分で学習したりします。

**内村**：弊社も同様のプログラムがあり、実態も同じでしょう。さらに、3年前から、国内の若手技術者に海外経験を積ませるため、海外業務にアサインする制度を始めました。経験が無い技術者がアサインできるJICA業務で国内担当者に海外業務を経験させています。

**黒柳**：JICAでも資格や経験に応じたプログラムを用意しています。さらに、35歳前後のJICA職員を

コンサルタントに出向させるプログラムも検討中です。最低2年間は出向させることを想定しています。

### <公正管理>

**司会**：最近の問題として、Integrity Management<sup>18</sup>、つまり、公正管理についてご意見はありますか？

**内村**：今までは前向きな議論をしてきましたが、この件は、最近大きな話題にもなり、AJCE会長の立場として真摯に受け止めています。IntegrityはFIDICでも重要な課題として取り組んでいます。単にコンサルタントの問題ではなく開発援助供給機関や援助国も含めた対応が必要であると考えます。

**廣瀬**：我々コンサルタントがいわゆる不正な問題を要求された場合にどのように対応するか、これはリスク管理の一つで、事前に準備しておく必要があります。欧米のコンサルタント企業が一時期アジアから撤退したのは、そのようなリスクが大きかったからです。あまりにもリスクが大きければ撤退も含めて考える、経営判断が必要なときもあります。一方で、会社は現場の職員を教育していかなければなりません。現場でそのような事態に遭遇したときにどのような行動を取るか、コンサルタントとしての基本行動様式を教えておかななくてはけません。

**黒柳**：最近ODAの現場で立て続けに事件がありました。ODAは100%税金で行われている以上、公正でなければなりません。このような事件でODAに対して国民が不信を抱けば、ODAは成立しなくなります。だからJICAは公正管理に対し、できることは何でもやって参ります。

### <契約紛争>

**廣瀬**：リスク管理ということでは、日本の企業が海外プロジェクトの契約問題で苦勞することがあります。これは日本の企業が契約問題に不慣れだからです。契約に関する管理は法律に則り、また、契約に規定された権利は主張するということが重要です。海外でビジネスをするなら、技術だけではなく契約管理もできなければなりません。

**黒柳**：契約紛争という点で、円借款の契約ではFIDIC Red Bookを導入しており、JICAはRed Bookに規定されているアジュディケーター（紛争裁定人）の育成に取り組んでいます。アジュディケーターの普及は、契約紛争を回避する上で重要と考えて

18 Integrity Management：公正管理



司会者 瀬古 一郎

います。

**内村：**AJCEはJICAと協力して日本国内のアジュディケーター育成と普及に努めており、2011年からAJCEアジュディケーターリストの運用を開始しました。現在10名の日本人アジュディケーターがAJCEリストに掲載されています。

#### ■まとめ

**司会：**まとめに入ります。これからの国際展開に対する希望や期待などを若い方からどうぞ。

**吉川：**私たちが40代、50代になる頃には、ますますグローバル化が進んで、もっと垣根がなくなっているでしょう。このままだと、将来、日本のプレゼンスが落ちてしまうのではと心配になります。そうならないよう、これからの10年、20年、日本のCEの一人としてがんばっていこうと思っています。また、AJCEを通じて、同世代とのつながりも深めていきたいし、海外の協会の方々とも積極的にかかわっていきたくと思っています。

**松尾：**常に技術力と説明能力を向上させることで、海外で活躍できるコンサルタントになりたいです。また特にODA案件においては、プロジェクトの意義や効果を積極的に発信することで、日本のプレゼンス向上に貢献したいと思っています。

**黒柳：**私の専門は作物生理なのですが、生まれ変わるなら土木をやってみたくと思っています。外から見ていると、土木は幅広くいろいろなことができるし、非常に面白い分野です。土木の人たちは汎用性があり、羨ましいと思います。皆さんには是非、すばらしい分野で仕事をしているという思いをもっ

ていただきたい。質の高い仕事をするために必要なものはすべて人であると思います。JICAも質の高い仕事をするためには人材育成に力を入れなくてはいけないし、コンサルタントも良い人材をたくさん育成していただき、JICAとコンサルタントが一緒になってチームODAとして取り組んでいきたい、強いチームを作っていきたい、と考えています。

**廣瀬：**土木業界、コンサルタント業界では、若手が集まらない、魅力がないといわれますが、結局我々が魅力を感じさせていないということでしょう。私の立場では、どのように魅力ある会社にするかが重要だと思っています。また、世界で仕事をするなら、世界で戦える会社にしなくてはならない。日本の企業ですが、日本人の企業ではない、社員の国籍は問わない、というレベルにしなくてはなりません。その中でも日本人には輝いて頂きたい。これが私にとって「魅力ある会社にする」ということです。さしあたって、現在いる社員が、自らを高め続けていくような会社にしていきたくと思っています。

**司会：**若手へのエールはありますか？

**廣瀬：**みんな、志を持ってCEという仕事に就いたのだから、今やっていることを続けて頂きたい。こんなにやりがいのある仕事はない、やり続ければ良い人生になる、と思っています。

**内村：**本日は大変よい座談会になりました。JICAの黒柳理事はじめ、皆様にはまず御礼を申し上げます。

FIDICが抱えている基本理念は3つ、Quality品質、Integrity公正、Sustainability持続性です。今日の話につなげると、「高い品質で、公正な競争の中で、持続性のあるインフラを造る」ということで、非常に良いキーワードを掲げています。海外も国内も同じで、この理念の中でやっていけばよいし、FIDICやAJCEの存在価値もそこにある、と思っています。国内のコンサルタントが一緒になって、40年のAJCEの歴史を越えて、また新しいページを切り拓いていけると良いと思っています。そうすれば、若い人も魅力を感じてこの業界に集まってきてくれるのではないのでしょうか。

**司会：**本日はAJCE40周年の座談会に貴重なお時間を頂き、大変ありがとうございました。

# 第3章

## AJCE創立40周年記念事業

## AJCE創立40周年記念事業



40周年記念事業実行委員会委員長  
宮本正史

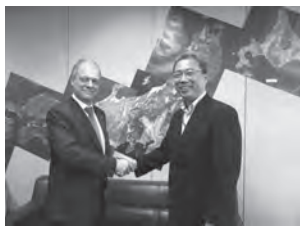
AJCE創立40周年を記念して、以下のイベントを開催いたしました。

### ■FIDIC会長 国土交通省表敬訪問

2014年7月8日（火）午後

翌日のセミナーで講演するために来日したPablo Bueno FIDIC 会長は、国土交通省大臣官房 清水亨技術参事官を表敬訪問しました。

清水技術参事官は、日本のインフラ輸出の取組みと直前の国会で成立した改正品格法について説明された上で、海外建設プロジェクトにおけるFIDIC契約約款の役割は重要と認識しており、FIDICとFIDICの日本の窓口であるAJCEとの連携を促進したい、と挨拶されました。これに対しPablo会長は、FIDIC契約約款の重要性と公平性を説明し、また、EUでは公共調達指令によりコンサルタントを価格で選定することが禁止され、品質・技術による選定（QBS）が進んでいることを紹介しました。



左：Pablo 会長 右：清水技術参事官

### ■FIDIC-AJCE懇談会

日時：2014年7月9日（水）11：30～13：00

会場：グランドアーク半蔵門 ガーネット

Pablo Bueno FIDIC 会長と、AJCEの理事及び関係者の懇談会を開催しました。懇談では内村好AJCE会長がAJCEの活動と日本のコンサルティングエンジニア業界の現状を、Pablo会長がFIDICの活動を紹介した上で、コンサルタントの調達やプロジェクト契約の片務性の解消などについて意見交換しました。



### ■AJCE創立40周年記念セミナー

『コンサルティングエンジニアの使命』

日時：2014年7月9日（水）13：30～17：30

会場：グランドアーク半蔵門 富士西の間

—講演内容は37頁に掲載—

### ■AJCE創立40周年祝賀パーティー

日時：2014年7月9日（水）18：00～20：00

会場：グランドアーク半蔵門 光の間

—パーティーの様子は40頁に掲載—

### ■AJCE創立40周年記念表彰

創立40周年を記念して、長年AJCE会員として、コンサルティングエンジニアの発展に尽力いただいた方々に、記念賞を授与しました。

—受賞式の様子は42頁に掲載—

### ■AJCE創立40周年記念事業

#### 若手技術者国際会議派遣支援

創立40周年を記念してFIDICリオ大会に参加する若手技術者を支援しました。

—内容は43頁に掲載—

### ■AJCE創立40周年記念誌

AJCEと日本のコンサルティングエンジニアの40年の記録と、これからのコンサルティングエンジニアの使命・役割についてまとめた、記念誌（本誌）を発行いたしました。



# AJCE創立40周年記念セミナー コンサルティングエンジニアの使命

技術研修委員会

日 時：2014（平成26）年7月9日（火）  
13：30～17：30

会 場：グラウンドアーク半蔵門 光の間

参加人数：約140名



以下のその講演概要を報告いたします。

## 1. 『AJCE40年のあゆみとコンサルティングエンジニアのこれから』 AJCE 会長 内村 好

「AJCE40年の歩み」、「AJCEの活動」、「コンサルティングエンジニアの今後」について講演した。

AJCEは日本技術士会が組織を作り、1974年に設立、FIDICに加盟。その後、企業会員の増加と組織の強化が進み、1991年には、「人と環境の調和—コンサルティングエンジニアの使命」をテーマとするFIDIC東京大会が開催された。なお、1987年FIDIC京都大会が準備されたが急激な円高で中止となった。この間に、森村武雄氏、石井弓夫氏、廣谷彰彦氏の3名がFIDIC理事を務めた。1997年の William Lewis FIDIC 会長を招いたQBSセミナー「能力に基づくコンサルタントの選定」は、その後2000年に国土交通省でプロポーザル方式が採用される契機となった。2004年には、30周年記念シンポジウムを開催し、2012年には公益法人改革により公益社団法人となった。現在は弁護士も会員にかかえるユニークな組織となっている。

FIDICの基本理念はQuality（品質）、Integrity（公

正）、Sustainability（持続可能性）の3つであり、FIDICの基本理念を踏まえて活動するためには、海外と国内の一体化、魅力あるコンサルタントとして海外・国内でシームレスに活動できる人材、総合的なマネジメント力を持つ人材の育成、若手、シニアあるいは女性のそれぞれの特性を生かした活躍ができるステージ造りが求められる。そのためには個人、企業、大学、発注者とともに「技術者協会（アソシエーション）」の役割が重要である。日本国内にはさまざまなコンサルタント関連団体が存在し、一つの団体では日本を代表した活動ができない課題がある。国内および海外への発信力を高めるためには、我が国のコンサルティングエンジニア（CE）の力を結集することが重要で、近い将来、日本のCEを真に代表する新しい協会が誕生することを期待し、そのために努力をしたいと考えている。

最後に、日本のCEに世界への扉を開いた初期の方々に対して感謝の意を表すとともに、40年の歴史をこえて新しいCEの途を進む

との決意を表明した。



AJCE 会長 内村 好

## ■ 『The Strategic Role of Consulting Engineers』 FIDIC会長 Pablo Bueno氏

FIDICの理念と活動概要を説明した上で、品質・技術によるコンサルタントの選定（QBS）の重要性を強調した。

FIDICの理念は持続可能な世界を構築することである。FIDICには今や全世界で約100ヶ国、6万社、150万人のプロフェッショナルエンジニアが参加している。またFIDICでは多くの出版物を発刊してお

り、FIDIC契約約款、通称FIDIC Rainbow Collectionは毎年4万冊以上発行されており、契約紛争の裁定に世界中で大いに貢献している。



FIDIC 会長 Pablo Bueno 氏

コンサルタントの選定に関してFIDICは品質・技術による選定（QBS）を推奨しているが、2014年に公布されたEU公共調達指令では、「設計業務のような知的サービスを価格だけの競争で調達することを禁止する（第35条）」、「品質だけによる選定を認める（第67条）」となっており、正しい方向に移行していると評価される。コンサルティングエンジニアはプロジェクトの計画から建設・運用に至るまでの全ライフサイクルに責任を有することとなるが、特にプロジェクトの計画段階で関与することが重要である。プロジェクトのライフサイクルコストに占める計画・設計コストの割合は小さいが、プロジェクトの成功に占める影響度合いは大きい。例えば、パリの地下鉄工事において、地質分析に十分なコストを充当するほど、建設コストが少ない結果が出ていることでも明らかである。コストとリスクを低減しプロジェクトを成功に導くためには、施工前のコンサルティング部分にもっと投資すべきである。国際市場は巨大であり、我々コンサルティングエンジニアが行うべきことはたくさんある。

■ 『JICAの開発アプローチ:コンサルティングエンジニアと共に JICA's Approach with Consulting Engineers toward Development』 独立行政法人国際協力機構（JICA）理事 黒柳 俊之氏

政府開発援助（ODA）の現状について説明し、コンサルティングエンジニアとの協働の重要性を述べた。

国際開発協力・援助において60年間変わらないものは援助対象国の自助努力を前提とすることと人間の安全保障である。一方、大きな変化としては「多様化」「ODAの役割の変化」「競争」を挙げることができる。「多様化」とは、新興国に対しても援助していること、分野についても技術協力だけでなく地球規模課題の研究協力を行っていること、また民間企業との連携を深めていることである。「ODAの役割の変化」とは、最初の20年間は戦後

復興期に世界貢献するというスタンス、1974年にJICA設立、1978年にODA 3倍計画、1994年から成熟した国家として世界貢献を行う、という変化である。「競争」とは、中国、韓国の台頭が挙げられ、オールジャパンとしてやっていくことで対抗できると考える。

JICAでは標準工事契約書にFIDIC Red Book MDB 2010年版を採用しており、プラント用約款においても、FIDIC Yellow Bookの適用を準備中である。品質・技術による選定（QBS）と品質・



JICA 理事 黒柳俊之氏

技術と価格による選定（QCBS）については、そのバランスが重要と考えており、FIDICのQBS志向については、そのとおりだと思う。

若手の人材育成については、若手コンサルタントと若手JICA職員との勉強会などを実施しているところである。一方、工学部出身の学生ですら海外開発コンサルタントのことを知らないという実態があり、裾野を拡げる努力が必要である。途上国のエンジニアリングでは、様々なことを求められることから、広くエンジニアを育てることが重要である。今後も若手のコンサルタントとの交流は勉強会などを通じて行っていきたい。コンサルタントとは、甲と乙の関係ではなく、パートナーとしてお付き合いしていきたい。

■ 『最近の国際開発潮流と新しい時代の日本の開発協力』 政策研究大学院大学（GRIPS）教授 大野 泉氏

近年の国際開発援助の現状と新しい時代での日本の関わり方を紹介しつつ、これからの日本が果たすべき役割や国際開発援助の参画、貢献手法などを述べた。

グローバル化が進む時代では国際開発をめぐる環境の変化が起こっている。これまでの先進国が途上国に行ってきた「援助」は、貧困撲滅などの国際的公益を重視してきた面があった。近年、民間投資や新興援助国の参画が加わり、「開発」の側面も重要視されている。民間セクターなどが中心となり、開発とビジネスの両立を目指している。多角化、複雑

化、広域化する開発援助によって途上国を経済的な成長センターに変えている。

日本は欧米と違い被援助国と援助国の両面の経験を持っているため、

この経験に基づき、途上国への自助を促すことを重視してきたところに日本の援助の特徴がある。これまで、投資、貿易、援助の相乗効果を期待してアジアの国々を中心に経済的なインフラ整備に援助を行ってきた。相手国と協働しながら具体的な現場の視点から同じ目的を共有し、任務を遂行することが既に日本が持っている強みである。

近年、東アジアでは援助を卒業し、中国や韓国のようにドナーになる国が登場してきた。新しい時代では、中小企業を含む民間企業を広く巻き込んだ展開ができるだろう。また、アジアの新興ドナーと協力して、人材・組織のネットワークを構築することも日本の強みになるだろう。

2000年代以降、国際開発援助に関わる援助国各国の開発政策の見直しが活発化している。大きな流れとして、国際的な成長益と国益の両立を目指し、国内の成長戦略や安全保障との関係を強化している。日本でも政府開発援助大綱の見直しがはじまり、意見交換会が開催されている。

最後に、アジアの専門家をザンビアへ動員した事例、地方自治体のインフラ整備の経験を活かした取り組みなど新たな取り組み事例を紹介し、今後は、資金、人材、知識を最大限活かし、戦略性、連携が重要なキーワードになるだろうと締めくくった。

#### ■ 『国土交通省におけるインフラシステム海外展開の取組み』 国土交通省 技術参事官 清水 亨氏

海外におけるインフラ開発の現状、政府の支援策の紹介と、防災、下水道、道路、地図の各分野の具体的な取り組み事例を紹介した。



GRIPS 教授 大野 泉氏

日本のゼネコンの海外での受注額は1983年に1兆円を超え、社会情勢の変化を受けながらも2013年は1.6兆円規模となっている。受注額の70%をアジアが占めている。

海外での政府によるインフラ開発支援策の具体として、海外展開を希望する日本企業や技術を相手国に紹介している。また、国内企業に対しては、海外展開する上での契約手続、現場の安全管理、品質管理など様々なビジネスリスク軽減のための支援を行っている。各国と政府間で技術経験を共有するため、道路、都市開発、危機管理、施行管理など、様々な分野のセミナーを、ミャンマー、インド、インドネシア、カンボジア、ベトナムなどアジアの国々で実施している。

各分野の具体として、防災分野では東日本大震災の経験を活かした支援を海外で行っている。トルコ政府との防災インフラに関する予防や復興復旧を含めたマネジメントや、ベトナムでのダム管理ソリューション、フィリピンでの台風災害の緊急支援、復旧計画策定支援、タイでの洪水時の車載型ポンプの派遣、インドネシアでの地滑り対策のための天然ダムのマネジ

メントなど、日本の技術支援によって、多くの人命・財産が救われ、大きな成果を納めている。下水道分野では、日本の自治体の維持管理のノウハウを民間と



国土交通省 大臣官房  
技術参事官 清水 亨氏

共同して海外へ輸出するべく、多くの自治体が名乗りをあげている。道路分野では、民間技術を紹介する提案型セミナーの開催、GPS技術を利用した交通マネジメントシステムの提案、舗装材リサイクル技術の提案などを行っている。地図分野では、国土地理院が主体となって行われている地殻変動情報を防災に活かす取組み、地球規模の地図化プロジェクトなどを実施している。

## AJCE40周年祝賀パーティ

### 40周年記念事業実行委員会

40周年記念セミナーに引き続き、グランドアーク半蔵門光の間に場所を移して祝賀パーティが開催された。

FIDIC Pablo Bueno会長、国土交通省 徳山日出男技監、文部科学省科学技術政策局 伊藤宗太郎次長、独立行政法人 国際協力機構(JICA) 黒柳俊之理事をはじめとする多くの来賓の方々、AJCE歴代会長をはじめとするAJCE関係者、総勢120名の参加を得て、40周年にふさわしい盛大なパーティとなった。



#### ① 開会挨拶 AJCE 内村好会長

セミナー、パーティ参加者へのお礼と、来賓への謝意を表したのち、40年を振り返り、今後についての所信を述べた。

1960年代にFIDICに参加するための努力が始まったが、さまざまな障害のため、ようやく実現したのは1975年のことであった。当時はメールのような便利なものもなく、海外渡航も不自由な時代であったから、その努力は大変なものであったと推察する。これが日本のコンサルタントの世界に対する貢献の端緒となった。AJCEはそのような努力のもとにこうやって



40周年を迎えることができた。先人の方々の尽力に対して改めて敬意を表したい。

本日のセミナーでは、われわれコンサルタントの海外展開も変化点に差し掛かっていることを痛感した。今後、AJCEもそのような背景を踏まえつつ先を目指していかないとならないし、自分もAJCE会長として皆様とともに努力をしてみたいと思っている。

#### ② 祝辞 FIDIC Pablo Bueno会長

「こんばんは」との日本語での挨拶に続き、「自分の中でスペイン語から英語に翻訳し、さらに山下AJCE事務局長が英語を日本語に通訳するわけだが、さてどうなりますことやら」と会場の笑いを誘った。

午後の熱気あるセミナーの後なのでリラックスした雰囲気の皆様にお祝いを述べさせていただきたい。40年間というのは長い年月だが、その間、AJCEは皆様が一体となって発展し

基盤を作ってくられた。FIDICとしてもできる限りの支援をしていく所存である。

聞くところによると、日本にはAJCEのほかにもコンサルタント関連協会があるとのこと。手を携えて日本のコンサルティング業界を代表していかれることを期待している。数ヶ月前の話だが、アフリカのモザンビークを訪れた際、南アフリカの空港で当地のことわざを耳にした。「早く先に進みたいなら一人で行くがよい、しかし、より遠くまで行きたいなら皆と一緒にいくべきだ」というものだ。

FIDICは創立後の100年間で遠いところまで来た。この40年間、強力な支援者であるAJCEと共に





活動してこられたことに感謝したい。皆でさらに遠くへと歩を進めて行こう。これからも共に手を携えて前に進んでいけることを楽しみにしている。

本日のセミナーで扱われた課題は世界共通である。9月に開催されるFIDICリオ大会でも、さらに議論がなされる予定なので、ぜひ参加いただきたい。

最後に「おめでとうございます」と日本語で挨拶を締めくくった。

### ③ 祝辞 国土交通省 徳山日出男技監

AJCE40周年をお喜び申し上げる。昨日技監に就任したばかりで、実はこれが初仕事である。

インフラ整備に関する環境は大きな潮目の時期が来た。とりわけこの老朽化の時代、メンテナンスの問題が最優先である。7月からは、すべての橋梁70万橋とトンネル1万箇所を対象にした点検が法律で義務付けられた。これは大変なことではあるが、大きく安定的なメンテナンス産業が新たに生まれようとしている。さらに成長戦略のひとつとしてインフラの海外進出ということが謳われている。簡単ではないだろうが、国内と海外輸出の両面でこの産業を育てていかななくてはならない。

皆さんと力を合わせて、国内そして海外展開を進めて行きたい。皆さんと同じ方向を向いて、明るい未来に向かって行きたい。



### ④ 乾杯挨拶 JICA 黒柳俊之理事

わが国のODAは60年を迎え、JICAができて40周年になる。これまでやってこられたのはAJCEに支えられてきたからである。これからも皆さんと一緒に世界を良くする為に頑張っていきたい。

「乾杯」の発声ののち、Pablo会長に向けスペイン語で「Salud!」と加え、万雷の拍手に迎えられた。



### ⑤ 創立40周年記念表彰

永年にわたりAJCEに貢献された方々総勢28名に対して記念賞が授与された。熊谷忠輝AJCE理事・倫理委員会副委員長から受賞者の名が呼ばれ、拍手を持って壇上に迎えられた。代表して黒澤豊樹氏に内村会長から賞状が贈られ、黒澤氏から挨拶があった後、記念撮影が行われた。

### ⑥ 歴代AJCE会長紹介

パーティに出席された歴代会長が紹介された。



FIDIC 会長と一緒に記念撮影  
左から内村好、廣瀬典昭、廣谷彰彦、Pablo Bueno FIDIC 会長、梅田昌郎、石井弓夫（敬称略）

### ⑦ スライドショー

AJCE40年のあゆみをまとめたスライドショーが紹介された。これは12分に及ぶ大変な労作であるが、AJCE事務局員がすべて直営で制作したものとのことである。AJCEの長い道程における貴重な写真類をまとめた映像作品で、AJCEに関ってきた方々にさまざまな感慨をもたらしたと思う。本スライドショーは本誌付録DVDに収録されている。

### ⑧ 中締め

#### AJCE 永治泰司副会長

永治AJCE副会長により中締めの挨拶がなされ、盛大なうちに祝賀パーティは閉会となった。



# AJCE創立40周年記念賞

倫理委員会

(公社)日本コンサルティング・エンジニア協会 (AJCE) 創立40周年を記念して、永年、AJCE会員として日本のコンサルティングエンジニアの発展に尽力されてきた会員の皆様に、40周年記念賞が授与されました。

## ■受賞者 (28名 入会順 敬称略)

黒澤R&D技術事務所 プラント設計(株)	黒澤 豊樹
長友機械技術士事務所 元 日本上下水道設計(株)	土屋 満徳
元 (株)建設技術研究所	長友 正治
元 (株)オリエンタルコンサルタンツ	西堀 清六
ペガサスエンジニアリング(株)	梅田 昌郎
早房技術士事務所	清野 茂次
(株)建設技研インターナショナル	澁谷 實
(株)建設技術研究所	早房 長雄
大塚エンジニアリング技術士事務所	阿部 勝久
基礎地盤コンサルタンツ(株)	石井 弓夫
(株)建設技術研究所	大塚 敬介
(株)建設技術研究所	中嶋 幸房
池田技術士事務所	内村 好
(株)東京設計事務所	伊藤 一正
(株)建設技研インターナショナル	池田 豊
(有)樋口コンサルタント	亀田 宏
オランダ人技術者業績研究会	松本 良治
元 (株)ニュージェック	樋口 弘
基礎地盤コンサルタンツ(株)	上林 好之
(株)日水コン	竹村 陽一
(株)森村設計	藤堂 博明
(株)オリエンタルコンサルタンツ	玉井 義弘
(株)建設技術研究所	石渡 勝美
(株)日水コン	廣谷 彰彦
(株)日水コン	大島 一哉
(株)日水コン	浅田 一洋
(株)日水コン	上田 育世
(株)日水コン	清水 慧

## ■表彰式

平成26年7月9日(火) 18:00～、グランドアーク半蔵門で開かれたAJCE創立40周年祝賀パーティにて表彰式が行われ、受賞者16名が参加されました。

表彰式では会場からの拍手のなか受賞者が壇上に並ばれ、内村好会長から受賞者を代表して黒澤豊樹氏へ、賞状と記念品が贈られました。黒澤氏と土屋満徳氏はAJCE設立当時の会員です。



左：お名前が呼ばれ壇上に並ぶ受賞者  
右：受賞者を代表して挨拶される黒澤氏



後列左から：阿部勝久、亀田宏、大塚敬介、竹村陽一、藤堂博明、石渡勝美、清水慧、上田育世  
前列左から：長友正治、清野茂次、石井弓夫、梅田昌郎、内村好、廣谷彰彦、上林好之、黒澤豊樹(敬称略)



記念品のUSBメモリ  
天然木製で裏には受賞者の  
お名前が刻印されています



## 若手技術者国際会議派遣支援 FIDIC2014リオ大会 派遣

技術研修委員会

国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）は年に1回、加盟国にて年次大会を開催しています。2014（平成26）年は、9月にブラジルのリオデジャネイロでFIDIC2014リオ大会が開催されました。本大会のテーマは『Innovative Infrastructure Solutions』で、世界約70カ国から700人が参加しました。AJCEは創立40周年を記念して、FIDICリオ大会へ参加する若手技術者に対し、参加費の一部を補助しました。

FIDIC大会に参加する若手技術者のAJCE支援は、1993年～1996年にも実施していましたが、その後は暫く途絶えていました。

今回、AJCEでは25名の枠を用意していましたが、開催地が遠方ということもあったためか、最終的に5名の方が支援制度を利用して大会に参加されました。

### ■支援対象者の要件

- ① コンサルティングエンジニアを職業としている者
- ② 年齢40歳以下
- ③ FIDIC大会の講演内容が理解できる英語力を有すること
- ④ 帰国後の報告会で講演内容を報告すること

大会会場にて



松尾 隆（左）



坂本 淳一



青木 徹



吉井 啓貴

### ■支援対象者 5名

松尾 隆	(株)長大	海外事業部
坂本 淳一	中央開発(株)	技術センター
中島 祐一	日本工営(株)	中央研究所
青木 徹	(株)日水コン	海外本部
吉井 啓貴	(株)日水コン	下水道事業部

### ■FIDIC2014 リオ大会 概要

開催期間：2014年9月28日(日)～10月1日(水)

開催地：ブラジル リオデジャネイロ

会場：The Royal Tulip Rio de Janeiro

テーマ：Innovative Infrastructure Solutions

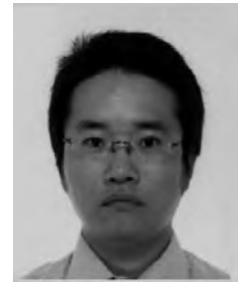
参加者：70ヶ国 約700人（日本からは36人）



今回の支援対象者は国内業務に従事されている方が多く、大会への参加は様々な意味で見聞を広める機会となり、大きな刺激になったようです。

今回の貴重な体験が、日本人コンサルティングエンジニアとしての今後の活躍に少しでも寄与できれば幸いです。

## FIDIC大会初参加の印象



日本工営株式会社  
中島祐一

### 1. はじめに

私は、これまで主に日本国内の防災、地盤工学分野の業務や研究開発に従事してきた。途上国等海外においてもインフラ構築が進むにつれ、山岳地や軟弱地盤地域などのフィールドが対象となり、この分野の高度な技術が必要とされると認識しており、今後は国内外問わず業務に従事し、広く社会に貢献したいと考えている。

今回のFIDIC大会は、海外のインフラ事業の動向や、諸課題に対する知識を得るとともに、世界で活躍するコンサルティングエンジニアと交流する絶好の機会と考え、若手技術者派遣支援を利用して参加した。以下に所感を述べる。

### 2. 会議の印象

メインのPlenary会場が1箇所、各Plenaryは少なくとも100人を超す聴講者がいた様子であり、熱心な討議もあって活況を呈していたことが、私が過去に聴講した複数会場で同時進行するシンポジウムとは大きく異なる。聴講したPlenaryでは、最新のインフラプロジェクトや3DCADなどの革新的な最新技術のみならず、人材確保や能力開発などに関する報告や討議があり、主に経営者、管理者としての視点でプログラムが生まれ、会議が進行されていたのが印象的であった。私はこれまで、専門分野の国際シンポジウムの聴講、口頭発表の経験はあるが、FIDIC大会の様な幅広い内容の国際会議は初めての参加であったため、新鮮であった。同時に、語学力の不足と、もっと視野を広げた情報収集・勉強の必要性を痛切に感じた。

### 3. 展示ブースの印象

今年の展示ブースは計8組織であった。やや少ない印象であるが、逆にこれが功を奏したのか、coffee breakやlunchtime時には、多くの参加者が各ブースを訪問し活況を呈していた。

当社もブースを出展しており、来訪者は多岐に及んだ。特にアフリカ、開催地ブラジル含む中南米諸国の参加者は気軽に当社ブースを訪れ、“I know your company.” または、“I know Japanese projects in my country.” の一言から会話が始まり、こちらの説明を熱心に聴いてくれ、最後は“Your company is good.” (リップサービスではあろうが) で握手を交わす、というパターンが幾度もあった。当社の活動のみならず、先輩日本人技術者のworldwideなプロジェクトでの取組みが功を成しているものと感じた。

### 4. 開催地リオのインフラ状況に関する印象

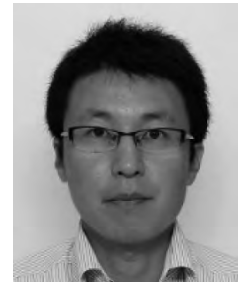
2年後にオリンピックを控えているが、私が見た範囲では、メトロの工事は実施されていたものの、想像した程建設ラッシュという状況ではなかった。基本的なインフラは整備済みだからかもしれない。実際、幹線道路はよく整備されていた。但し、舗装状態は日本と比較して悪く、ガイドによれば渋滞が最悪とのことである。

リオが抱える都市問題の1つにファベラ (スラム) がある。通常は、都市の負の部分として、観光者に対しては隠すところであろうが、何と観光スポットの1つとして、バスを降車し写真撮影タイムが設けられたのは極めて斬新である。少々過激ではあるが、まずは現実を認識するという意味で良い問題解決手法と感じた。

### 5. おわりに

今回の若手技術者派遣支援制度によるFIDIC大会参加は、貴重な経験となった。この経験を活かしてコンサルティングエンジニアとしてステップアップしていきたいと考えている。

## FIDIC2014リオデジャネイロ大会に参加して感じたこと



株式会社日水コン  
青木 徹

### 1. はじめに

FIDIC大会に初めて参加させて頂きました。大会で印象に残った話題等についてご報告させていただきます。

### 2. リオデジャネイロへ

私自身は5泊9日という日程で行ってまいりました。これでもかなりの弾丸ツアーの様相ではありますが、3泊7日という超弾丸ツアーで行った同僚もおります。成田〜ドバイ間が10時間、ドバイ〜リオ間が14時間、飛行時間だけでも24時間、自宅からホテルまでは約1日半かかりました。移動だけできるとにかく疲れました。

### 3. FIDICリオデジャネイロ大会

ホテル到着後、FIDIC主催のWelcomeパーティーに出席するために休む間もなく出掛けました。各国から多くの方が参加しておりました。アフリカから多くの参加者が来ている印象を受けました。Welcomeパーティーも終わりホテルに帰りまして、ようやく長い1日が終わりました。

これまでの疲れが取れないなか、翌日からは大会です。大会では色々な話題があったため、ここでは個人的に最も印象に残った話題をご紹介します。

初日の午後最後にPlenary3に能力開発の話題がありました。疲れもピークに達している時間帯ではありましたが、共感できる内容で聞き入っていました。具体的な内容としては、コンサルティングエンジニアが自らの能力開発に費やせる時間が全体の僅か1%で、残る99%はデスクワーク、打合せ（社内・社外）、その他雑務等に追われているというものでした。日本だけでなく各国のエンジニアも似たような状況に置かれていることを知り、何か親近感が抱きました。しかし、発表はそれだけでなく、そのような望ましくない状況の中どうするのか？とい

うことが含まれていました。私個人としては、この多忙な状態は仕方ないと割り切っているところがあり、抜本的な対応を考えることすらしていませんでした。ですが、発表者は例えば通勤時間が平均で約200時間／年あるため在宅勤務の導入など、考えられる対応を色々と検討していました。また、オフィスについても、効率や創造力を発揮しやすい空間にするというコンセプトのもと、その配置方法には改善の余地が多くあるという提案も印象に残っています。話題の中で紹介されたアイデアには当たり前にも思えることもありましたが、これまではその当たり前のことすら考えておらず、それを気付かせてもらうことができました。今後はそれを実行に移すための行動をしていきたいと思っています。日本〜ブラジル間の1日半の長旅を思い出せば、色々なことが大変ではないように思える気がします。

### 4. おわりに

ここで記述させて頂いたこと以外にも、普段の業務ではないような刺激をたくさん受けることができ、大変有意義な大会参加となりました。このような機会を与えて下さったAJCE、会社、上司、関係者の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

遠路はるばるリオに行きましたので、ワールドカップで良く見たキリスト像を見に行きました。



左：丘にあるキリスト像  
上：丘からの風景



## 第4章

コンサルティングエンジニアのこれから



### コンサルティングエンジニアの未来のために 他協会との連携



AJCE 副会長 政策委員会委員長  
小宮雅嗣

コンサルティングエンジニア（CE）は欧米で始まり、イギリスで個人の職業として活動が開始され、19世紀初頭にはコンサルティング個人協会が設立されている。その後、企業活動に移行し、イギリスCE企業協会が設立され官民のプロジェクトで活動している。FIDICは1913年に設立され、世界のCE協会の活動に寄与している。一方、我が国CEは公共事業の公的な発注者のパートナーとして、調査、計画、設計、工事管理を担う民間企業体として発展してきた。

CEの活動範囲は拡大を続けており、防災・環境・エネルギー・食糧など地球規模の諸問題に対処するため、インフラの調査、計画、設計、施工監理などのハード分野に加え、事業運営、運転維持管理、組織・法制度、契約管理などのソフト分野へも拡大している。それに対して、CEは包括的な計画、設計及びプロジェクト遂行業務を行う大規模で多国籍な会社を始め、専門分野に特化した企業、個人コンサルタント、弁護士などが幅広い活動をしている。

しかしながら、現在、欧米と我が国のCE産業とは大きな格差がある。欧米のCE企業は事業運営を含む広い事業領域で活動しており、企業の合併買収（M&A）による事業拡大が行われており、数千人規模の企業も少なくない。その相違には、欧米とのプロジェクト発注形態の違いがある。我が国も従来の設計・施工分離発注方式から、Construction Management（CM）、Private Finance Initiative（PFI）など多様な事業形態の取り組みを開始しているが、事業規模では大きな後れを取っている。

我が国の公共投資の縮小傾向が進む中で、日本の国益のために、インフラ整備など我が国が培ってきた技術を基に積極的な海外展開が求められている。我が国CEとしては、日本の産業界をリードすべく、熾烈な国際競争の場ではあるが、多様な文化・社会・民族を理解しつつ、世界を相手に事業計画

策定など上流部分からの関与が益々重要になっている。更には企画から計画、設計、施工、運営維持管理までを包含する高い技術とプロジェクト全体を俯瞰するマネジメントを併せ持つ総合力が求められている。この状況下にあるものの我が国CEの総合力は未だ弱く、また国際舞台でのプレゼンスにも懸念がある。その原因には、我が国では歴史的に官公庁の分野ごとにコンサルタント協会が設立され発展しており、全分野を統合する組織が無いことも一因と考えられる。我が国のCE産業の発展のために、設立趣旨や活動内容に共通性のある協会相互の連携強化を行い、力を結集することが必要となっている。

AJCEは、平成23年12月より、他協会との連携可能性の検討を開始した。検討の結果、設立50年の歴史がある一般社団法人海外コンサルティング企業協会（ECFA）は、我が国ODAを中心に海外で活躍する開発コンサルティング企業の振興と途上国の経済発展・国際協力の促進を目的に活動しており、AJCE活動との共通点が多いことが確認された。またFIDIC契約約款は、独立行政法人国際協力機構（JICA）を始めとした国際開発金融機関で活用されており、ECFAとのFIDIC契約セミナー等の共催活動を通じて、我が国CEの力をより発揮できるものと認識した。

その後、両協会の事務局レベルで協議を進め、平成26年6月12日に両協会会長によって連携強化に関する覚書の署名が行われた。

我が国の海外コンサルタントを代表する両協会が、緊密に連携し経験と知識を共有することによって総合力を高め一つの力となり、海外で活躍する日本のコンサルタントのプラットフォームとして機能することが期待される。そして我が国のCE産業が若い英知と共に成長し、国際感覚を磨き、日本の誇る技術や感性と理性を持って、世界を相手に魅力ある未来を築き、広く国際社会に貢献することを願っている。

## コンサルティングエンジニアのこれから



技術研修委員会 YP 分科会副分科会長  
矢神卓也

### 1. はじめに

AJCE40周年おめでとうございます。この業界に入って、かれこれ13年、入社した当初よりも、コンサルティングエンジニアの重要性をようやく？感じられるようになってきました。エンジニアとして大成するにはまだまだですが、これまで気象災害防止に携わってきた経験も踏まえ、私が目指すコンサルティングエンジニア像について少し記します。

### 2. 基本技術を大切に

コンサルティングエンジニアは、世の中の動向に合わせて、常に最新の知識、技術を身につけていかなければなりません。

業務の中でも常に新しい技術を取り込むようにしていますが、技術におぼれて結局、質の向上に役立たなかった、まったく間違った検討をしていたということが、恥ずかしながらまあります。基本を十分に理解していなかったことが原因なのですが、より複雑かつ高度な検討が求められる傾向がある昨今だからこそ、基本を忘れずに業務に携わっていくことが必要です。

### 3. 限られた財源のなかで

日本が持続的に発展していくためには、限られた財源をいかに有効に使っていくかが非常に重要ですが、そのために、事業の価値をとらえることが重要だと考えます。ビジネス書でよく見かけるように、仕事を効率よくこなすために、100点ではなく、60点や80点を目指すべきだというものがありますが、長期的視点を考慮すべき社会資本整備においても同じで、80点を100点にすることよりも0点を60点にすることに注力することが重要だと考えています。

このような視点から、必要な事業を見極める目、

そしてそれを推進する説得力を持ち合わせた技術者を目指しているところです。

### 4. 想像力を豊かに

大学受験の年、阪神大震災が発生した日に、次から次へテレビから流れる映像を見たときの衝撃は、今でも忘れることができません。おそらく当時高校生だった私よりも、コンサルティングエンジニアも含めて、すでに技術者であった人たちへの衝撃は計り知れなかったかと思います。ところがその16年後、技術者として、それ以上の大災害に遭遇してしまいました。東日本大震災です。

津波からの逃げ遅れも、原発被害も、技術者をもっと想像力を働かせていれば防げたものです。つい最近も広島で大規模土砂災害が発生してしまいました。想定外をいかに想定内にしてそれを防災につなげていくかが、まだまだ日本の技術者が弱い部分だと思っています。

### 5. みんなを巻き込んで

大きな仕事を成し遂げるには、周りの人間をどんどん巻き込んで、チームを作っていく必要がありますが、私の周りにもそのような手腕に優れた人が少なからずいます。技術力はもちろんのこと、コンサルティングエンジニアとしての使命に燃えた姿勢に惹かれていくのでしょうか。

様々な分野、様々な人たちを巻き込んで、ベストな解決策を提供していけるよう努力したいと思います。

以上、思いつくままに書いてしまいましたが、これからも、エンジニアとしての道を時に苦しく、時に楽しく進んでいきたいですね。

# 日本のコンサルティング業界の これからとYP分科会の役割



技術研修委員会 YP 分科会副分科会長  
澤部純浩

## 1. はじめに

私がコンサルティング業界に入ってまだ9年足らずながら、その間にも「公共事業費の縮小」や「若者の土木離れ」など建設業界にとって明るくない話題を耳にする機会も少なくない。また、我が国が直面する「高齢化社会」の問題は人だけではなく、土木の世界においても同様に戦後の高度経済成長期に建設された多くのインフラの一斉老朽化が進みより早急な対応が求められている。さらに2011年3月11日の東日本大震災をはじめ、昨今のゲリラ豪雨などの異常気象により多発する自然災害により、社会資本整備の重要性が再認識されている。そのような中で、建設業界には「真に必要な社会資本整備の実現」という本質が問われており、我々コンサルティングエンジニア（CE）が担う役割や責任は今後ますます大きくなると思う。

一方で、私自身が実際にこの業界で働く中で、「日本のCEの地位の低さ」や「残業時間が多く自分の時間を持ってない」など、職業としての日本のコンサルティング業界の課題を実感したのも事実である。

そこで、僭越ながらこれまでの9年間ならびにAJCEの活動の一環として参加した日豪交換研修の経験を通して感じたことや、私が所属するYP（Young Professionals）分科会の役割を以下に述べさせて頂く。

## 2. 日本のコンサルティング業界に必要なこと

私は2010年に研修生として日豪交換研修に参加し、3週間という短期間ながら豪州のコンサルタント企業で働き、現地のエンジニアとの交流や同行した研修生間での意見交換を通して、日本と豪州の違いとして以下を実感した。

・豪州では行政（発注者）とコンサルタントの立

場が基本的に平等

- ・豪州では残業時間が殆どなく、家庭や趣味など個人のライフワークバランスを尊重（会社としても残業をあまり評価しない傾向）
- ・報酬（賃金）に大きな差はないが、豪州ではCEの社会的地位が日本と比べて高い

しかし、上記のような違いはあるものの、CEの技術やCEに求められる役割、責任は両国間で異なるものではない。だからこそ、日本のコンサルティング業界を魅力的な業界とし、活気あるものとするため、業界全体としての体質改善が望まれるところである。それにより社会におけるCEの認知度の向上、さらには地位の向上につながり、新たな若手技術者の獲得によるさらなる業界の活性化に努めることが重要である。

## 3. YP分科会の役割

私は2009年の日豪交換研修の受入企業のメンターとしての参加がきっかけでAJCEとの繋がりができ、翌2010年には私自身が研修生として参加した。以来、技術研修委員会のYP分科会のメンバーとして様々な活動に参加し、他社のCEや海外のCEとの交流の機会を得ることができ、日常の業務では経験できない非常に貴重な経験をさせて頂いていると感じている。先に述べたようなコンサルティング業界全体をすぐ変えることは困難であっても、YP分科会の活動を通して、若手技術者の交流・ネットワークづくりの場を提供し、その中でより多くのCEが問題点を共有し、意見・意識を共有していけることが重要な第一歩であると思う。

そのためにもYP分科会の担う役割や位置付けは重要であり、今後もそのような場を提供していきたいと思う。

# コンサルティングエンジニアを 自分なりに考えてみる



技術研修委員会 YP 分科会  
井村修二

## 1. はじめに

私は建物の環境・設備に深く関わる仕事をしています。自分を紹介する時に「エンジニアです」とは言っても「コンサルティングエンジニアです」とはこれまで言ったことがありません。それは何故だろうか？今回の執筆依頼を受け自問することになりました。コンサルティングをつけることが、自分にとってどういうことなのか、その答えの確信を持っていないなと感じました。

## 2. コンサルting+エンジニア

エンジニアは主に工学分野の専門的な知識をベースに製品やシステム等を設計します。技術の積み上げも相当時間が必要です。

「コンサル」とは「クライアントが抱える何かしらの課題を解決する方策を提供する」とのこと。弊社のクライアントで考えると、官公庁・民間企業、建築家・組織設計事務所と契約形態により多岐に渡ります。大部分は建物を対象としているため、それに関わる使う人・管理する人・運営する人がどう評価するかにも影響を受けます。さらに、環境負荷の小さい建物であることが社会的責務となっています。これらがすべて「何かしらの課題」に相当するのではないかと考えました。

## 3. 着地点を探る

「何かしらの課題」の一例を挙げます。

- ・ イニシャルコスト
- ・ ランニングコスト
- ・ 容易なメンテナンス
- ・ ライフサイクルCO<sub>2</sub>
- ・ 印象的な空間
- ・ 快適な環境

このようにお互いに相反する課題が多く、クライアントがその優先順位を整理できていない場合があります。課題及びその優先順位を明確にし、解決す

る方策を提供できれば、コンサルティングエンジニアに成り得ると考えました。

## 4. いま、自分なりに心掛けていること

新卒で入社し11年が経ちましたが、相反する課題に対して方策をすぐに提示するのは避けたほうがよいと考えています。即座に出した方策は過去の実務経験や社内実績等に基づいたものであっても、必ずしもクライアントの思いは反映されていません。打合せ等で課題を共有し、自分の意見を持ちつつ、

クライアントの意見に真摯に耳を傾け、その本質を考えた上で提示するように心掛けています。また、あえてコストの制約をはずして技術的に設計が成り立つかを最初に検討するようにしています。そして設計案をブラッシュアップすると共に、コストを考慮した対案を含め提示します。「できない理由」を並び立てて説明することは、クライアントの信頼を得られず、良好な関係が築けないと身をもって経験したことがあるからです。

## 5. これから、特に心掛けたいこと

私たちを取り巻く社会の状況は刻々と変化しており、特に東日本大震災以降、強制的な電力供給カットを経験し一変しました。建物内の環境は必要以上のレベルだったのか？エネルギーは定量的にどの程度なのか？設計インプットと建物アウトプットをしっかりと評価する認識が一般化してきていると思います。この流れは10年後・20年後には加速され、消費エネルギー+創エネルギー=Zeroにする建物（いわゆるZEB）が当たり前の時代になっているかもしれません。まずは建物の消費エネルギーを最小限にすることであり、設計から建物の運用までトータルに中立的に関わる、まさにコンサルティングエンジニアの意義を意識し、クオリティーの高い仕事を通して、きちんとアピールしていくことを心掛けたいと思います。



## これからの日本と コンサルティングエンジニア業界



技術研修委員会 YP 分科会  
高木沙織

10年後、20年後のコンサルティングエンジニア業界はどうなっているのだろうか…改めてこの業界で働くようになったきっかけと、日本社会とコンサルティングエンジニアのこれからについて考えてみた。

学生時代に建築や都市デザインを専攻していたことをきっかけに都市計画のコンサルティングに憧れこの業界での就職を決めた。入社する直前の3月に東日本大震災が起これ、入社当初より被災現況調査、その後の計画、設計と様々な局面で復旧・復興において重要な役割を担っていることを実感させられた。民間企業でありながら仕事そのものが社会貢献に直結しているといえる。一方で、コンサルティングエンジニア業界は超高齢化社会、財政難等の日本社会の抱える課題や変化に大きく影響される。また、コンサルティングエンジニア業界においても、技術者の高齢化をはじめ日本の縮図ともいえる課題を抱えているように感じる。

コンサルティングエンジニアは顧客の要求に基づき技術的・専門的なサービス、コンサルティングを行うことで報酬を得ている職業で、業務分野は多岐に渡り豊富な経験と知識が必要である。ポスト資本主義は知識社会であるといわれて久しいが、まさにコンサルティングエンジニアの仕事は経験に基づく知識なくして成立しない、いわゆる暗黙知に支えられている業界といえる。しかし、社会の課題はより複雑で多様化する一方で、財源は減り、技術者は高齢化が進んで技術の継承がないまま世代交代していき、若手技術者が離職する等ネガティブな要素に取り巻かれているととても過言ではない。その背景にコミュニケーション不足や残業が多い等、就労環境についての課題も山積している。

今後はこれらの課題を打破するため、変化を続け

る社会に対し、コンサルティングエンジニアは専門的な知識や技術に加えて、世の中を俯瞰する能力がより求められ、その役割の重要度も増すと考えられる。そのためには、若手技術者がベテラン技術者の暗黙知というべき技術を確実に継承していくことがまず必要である。そして、情報が溢れる今日において、正確な情報を確実にキャッチし、知識として身につけ、包括的にコンサルティングを行うためには縦のつながりのみでなく、他分野の技術者との横や斜めのつながりも重要となる。言い換えれば、これからは従来の技術者を越えたスペシャリストでありゼネラリストであるための能力を養わなくてはならなくなるだろう。

また、これらの変化に対応していくためには、コンサルティングエンジニア業界の働き方や環境にも変化が必要であろう。そこで、2013年度日豪交換研修に参加した経験を紹介したい。多民族国家として知られるオーストラリアであるが、研修先の会社もまさに多様性に対応した柔軟な働き方を選択できるようであった。一人ひとりの役割が明確であり、それぞれのライフスタイルに合った環境が整っており、それが仕事のモチベーションや自信に繋がっているように感じた。今後日本においても、技術力の向上のみならず、それぞれの個性やライフスタイルが尊重される環境づくりがより一層重要視されなければならないと考える。

AJCEの活動は、特に若手技術者に対し、分科会をはじめ日豪交換研修などの技術者の交流の場や技術習得の貴重な機会を提供しており、今後更なる発展が期待される。私自身、一若手技術者分科会委員として、これから先10年、20年先のコンサルティングエンジニア業界を担っていけるよう、AJCEの活動を通じて尽力していきたいと考えている。



# 第5章

AJCEの活動 30周年から40周年へ

## AJCEの活動 30周年から40周年へ

編集：広報委員会

### ■ AJCEの変遷

AJCEは、1974年4月26日、任意団体「日本コンサルティング・エンジニア協会 Association of Japanese Consulting Engineers (AJCE)」として設立されました。AJCE設立からさかのぼること23年、1951年に社団法人日本技術士会（現公益社団法人）が発足しました。このときの技術士会メンバーは、日本のコンサルティングエンジニアが世界の仲間に加わるためには、国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）への加盟が必要と考え、1960年にスウェーデン・ストックホルムで開催されたFIDIC大会へのオブザーバー参加をきっかけに、FIDIC加盟の準備を進めました。しかし、技術士会会員にはコンサルティングエンジニア以外が含まれることから、技術士会のFIDIC加盟は1972年2月のFIDIC理事会で否決されます。そこで、コンサルティングエンジニアだけの新たな組織を設立することとなり、1974年、任意団体「日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）」が設立。同年10月、南アフリカ・ケープタウンで開催されたFIDIC大会にて、AJCEのFIDIC加盟が承認されました。

その後、1977年8月に内閣総理大臣から民法第34条に基づく「社団法人」に認可され、科学技術庁（現文部科学省）所管の協会となります。1991年にはFIDIC東京大会を開催し、2004年には創立30周年を迎え、記念シンポジウムや記念行事を開催しました。

そして、2014年、AJCEは創立40周年を迎え、各種記念行事を開催いたしました。

### ■ AJCEの活動 30周年から40周年へ

AJCEの設立経緯と30周年までの活動内容は、「AJCE30年史」で詳細にまとめられていますので、本誌では30周年（2005年）以降のAJCEの活動をまとめました。なお、巻末の資料集には、「AJCE30年史」と重複するものを含め設立当時から年表や資料をまとめて掲載します。

### (1) FIDIC活動

2009年～2013年、廣谷彰彦AJCE会長（当時）がFIDIC理事を務め、廣谷氏の理事在任中には、FIDIC理事会を東京で開催しました。FIDIC会長及び理事が来日する機会をとらえ、AJCE年次セミナーではFIDIC会長にも講演いただきました。

また、FIDICアジア太平洋地域会員協会連合（ASPAC）では、廣谷氏が2003年～2009年に理事をつとめ、内2006年からは議長も務めました。議長就任中には、AJCEとASPAC加盟協会各国が、相互協力や提携促進の覚書を締結し、意見交換会や会長会議などを開催しました。その後2009年からは内村好AJCE現会長がASPAC理事を引き継いでいます。

さらに、AJCEは、複数のFIDIC委員会に委員を派遣して、FIDIC活動を支援すると同時に、FIDICの理念や出版する書籍の日本国内への普及に努めています。

2013年、FIDIC創立100周年を記念して、過去100年を代表するプロジェクトとコンサルティングエンジニアに、FIDIC100周年記念賞が授与されました。日本からは、プロジェクトとして東海道新幹線と代々木国立競技場が、コンサルティングエンジニアとして久保田豊氏が大賞を受賞しました。

日本からのFIDIC・ASPAC理事輩出、FIDIC活動への積極的な参加は、世界のコンサルティング業界での日本のプレゼンスを高めています。

### (2) 若手の育成 日豪交換研修

1996年に開始した日豪交換研修は、時代とともに研修内容を見直しながら、まもなく20年目を迎え、FIDICも注目するユニークなプログラムとなっています。その参加者は130名を越え、両国の若手コンサルタントの育成に寄与しています。

**(3) 海外調査**

AJCEは、FIDIC及びFIDIC加盟協会とのネットワークを活用した海外調査を実施しています。2005年以降は、プロジェクト契約やコンサルタント・コントラクターの調達、ディスピュートボード普及などに関する調査を実施しました。

**(4) AJCE常設委員会**

2011年にアジュディケーター委員会が新設され、2014年現在、AJCEには下記9つの常設委員会があり、国際活動委員会と技術研修委員会には、その活動を分担する分科会があります。

倫理委員会

政策委員会

総務財政委員会

会員委員会

国際活動委員会

契約分科会

FIDIC Policy (FP) 分科会

Capacity Building (CB 能力開発) 分科会

契約管理者育成分科会

Quality Based Selection (QBS 品質による選定) 分科会 \*2014年FP分科会と統合

技術研修委員会

Young Professionals (YP) 分科会

技術交流委員会

広報委員会

アジュディケーター委員会

**(5) 公益社団法人への移行**

公益法人制度改革により、AJCEは2012年4月に社団法人から「公益社団法人」へ移行し、所管も文部科学省から内閣府へ変更されました。また、公益社団法人移行と同時に協会の日本語名称を「日本コンサルティング・エンジニア協会」に変更しました。

公益社団法人移行の際には、政策委員会・総務財政委員会・会員委員会を中心となって、新定款・新規程の整備、会員種別の見直しなどを行いました。

**(6) 会員の多様化**

公益法人移行に伴う会員種別・会員資格の変更に伴い、弁護士や経営の専門家、アジュディケーター（紛争裁定人）などがAJCEの会員に加わり、AJCE活動の多様化・活性化が進んでいます。

**(7) 会員企業の公正管理・社会的責任**

倫理委員会では、FIDIC公正管理システム（FIMS）をAJCE会員企業へ紹介するとともに、会員企業の公正管理に関する啓発普及に努めています。さらに、会員企業のCSR（社会的責任）活動の紹介を通じて、コンプライアンスやリスク管理の普及にも努めています。

**(8) FIDIC契約とFIDICポリシーの普及**

国際活動委員会では、FIDIC契約約款やFIDICポリシーを紹介する書籍の邦訳、プロジェクト契約管理者育成セミナー等の開催を通じて、FIDIC契約とFIDICポリシーの普及に努めています。

**(9) コンサルティングエンジニアの国際展開**

技術研修委員会が主催するセミナーでは、近年、日本のコンサルティングエンジニアの国際展開をテーマにしたものが増えています。日本のコンサルタントが海外へ出て行くための課題や展望について、有識者や発注機関関係者を交えて考察しています。

**(10) 広報活動の充実**

日本語版会報誌の電子版配信や英語版会報誌のカラー化、AJCEホームページの改訂などを通じて、コンサルティングエンジニアの広報活動に力を入れています。

**(11) アジュディケーターAJCEリストの公開**

FIDIC契約約款に導入されたアジュディケーターを日本国内でも普及させるため、AJCEでは、2011年にアジュディケーター委員会を新設し、アジア初となる自国版アジュディケーターリスト（National List）を公開し、アジュディケーターの普及に努めています。

# FIDIC理事会活動



元 FIDIC 理事 元 AJCE 会長  
**廣谷彰彦**

2009年9月のFIDICロンドン大会に於ける理事選挙の結果、FIDIC理事となり、任期4年が満了となる2013年9月のバルセロナ大会まで、役割を全うした。FIDICに関連する活動（大会、委員会、ASPAC理事会/同議長など）は、1994年のシドニー大会からの参加であり、丸20年間をFIDIC大会皆勤で通した。この間に観察したFIDICの変遷などを交えながら、本稿を取りまとめた。

## 1. FIDIC理事になるということ

コンサルタントが職業名称として使われだした正確な年代は不明であるが、例えば、欧州等の各国でコンサルタント関連団体の創設は1900年代であり、次に示すとおりである。

- 1904年：デンマーク、アメリカ
- 1909年：ベルギー 1910年：スウェーデン
- 1911年：ドイツ 1912年：フランス
- 1913年：イギリス、スイス 1914年：ロシア
- 1917年：オランダ 1919年：ノルウェー

コンサルタントの揺籃期に、様々な局面において、専門家集団としてのアドバイザー職務を含めた職業が必要であると認識され、その普及を促進する目的も踏まえて、1913年にベルギー・ヘントにおいて、FIDICが創設された。その当時におけるFIDIC事務局は大変に複雑な体系であった模様であるが、様々な変遷を経て、現在の理事会は、選挙で選ばれた9人と職員である専務理事で構成されている。FIDIC理事はボランティア（無給、無手当）であるが、FIDIC年次総会と理事会等の表に示すとおり会議等が多く、激職である。さらに移動は基本的にエコノミー扱いであり、帯同者は旅費を含めて無償となっている。

## 2. FIDIC経営の変遷

FIDIC創設に至る過程において、様々な取り決めが繰り返された模様である。その一部の取り決

東京大会以降の FIDIC 大会と著者が参加した会議

年	FIDIC 大会と FIDIC 大会期間中に著者が参加した会議	FIDIC 大会以外で著者が参加した会議	
1991	東京（欠席）		
1992	Madrid（欠席）		
1993	Munich（欠席）		
1994	Sydney（単身）		
1995	Istanbul（単身）		
1996	Cape Town（以降妻帯同）		
1997	Edinburgh		
1998	Edmonton		
1999	The Hague	FIDIC BPC	
2000	Hawaii	FIDIC BPC	
2001	Montreux	FIDIC BPC	
2002	Acapulco	FIDIC BPC ASPAC EC	
2003	Paris	FIDIC BPC ASPAC EC	
2004	Copenhagen	FIDIC BPC ASPAC EC	
2005	Beijing	FIDIC BPC ASPAC EC	
2006	Budapest	FIDIC BPC ASPAC EC (Chair)	
2007	Singapore	FIDIC BPC ASPAC EC (Chair)	ASPAC-April-Lahore
2008	Quebec	FIDIC BPC ASPAC EC (Chair)	
2009	London	FIDIC EC ASPAC EC (Chair)	ASPAC- April-Kathmandu ADB-May
2010	New Delhi	FIDIC EC	FIDIC EC-Wellington FIDIC EC-Mexico City ADB-Nov. ADB-July-Jogya
2011	Davos	FIDIC EC	FIDIC EC-Honolulu FIDIC EC-Vienna ASPAC-Kuala Lumpur
2012	Seoul	FIDIC EC	FIDIC EC-Amman FIDIC EC-Tokyo
2013	Barcelona	FIDIC EC	FIDIC EC-Dar Es Salaam FIDIC EC-Ottawa

BPC：業務委員会 EC：理事会 Chair：議長  
ADB：アジア開発銀行

めの相談には、ドイツ、USA、オーストリア、ハンガリー、ベルギー、デンマーク、スペイン、フランス、イタリー、ノルウェー、オランダ、ポルトガル、UK、ロシア、スウェーデン、スイスなど列強と合わせて、日本も関係国の一員とされていた。言うまでもなく、その後に発生した大戦などの影響で日本は主要関係国の立ち位置から追放され、再び日本が加わるのは、1974年まで待たなければならなかった。

当時のわが国経済は、高度経済成長期にあり、世界中から矚目されていた。当時、FIDIC会長であったBill Moore氏は1970年のFIDIC理事会で、次に示すように話したとされている。

Quote：「限られた国が世界の技術に強く影響を与えているが、日本こそその中の1国である。日本の技術者は真の意味で職業人として世界のコンサルティングエンジニアに大きく影響する。FIDICにとっても日本が参加していないことは大きな弱点である。すなわち、日本が不在であるために、国際機関、例えば世界銀行やアジア開発銀行との交渉にも、不利になるものと考えられる。」Un-Quote

言うまでもなく、日本が正式に参加する前にも、多くの優秀な先輩方がFIDIC活動に参加して熱心に対応し、大きく評価されていた模様であり、この様な背景も加わって、ここに示したとおり、日本の参加は大きく期待されていた。FIDIC会員の变遷などを観察すると、日本が参加した時期は、FIDIC加盟国がヨーロッパ域を離れて、中南米、アフリカ、アジアなどに展開を始めた頃であり、その中においても日本が1900年代当初から関係国の一員であった経緯もあり、日本の参加が大きく歓迎されたと考えられる。

### 3. FIDIC東京理事会

理事会は、その開催場所に様々な検討を経過して決定されるが、その中でも、在任理事の出身国を選定することが、決まりになっている。そのような経緯から、2012年5月に東京でFIDIC理事会が開催された。FIDIC理事は、おのおのが三々五々東京に集まり、独自の予定で帰る。参考の意味で、Geoff French FIDIC会長（当時）の来日スケジュールを次に示す。

5月7日（月）

AM 日本到着

表敬訪問：経済産業省、国土交通省、JICA

PM FIDIC/AJCE 共催セミナー

（ル・ポール麹町）

5月8日（火）

夕方 FIDIC 理事会夕食会（赤坂見附）

5月9日（水）

終日 FIDIC理事会（六本木）

夕方 AJCE 主催 歓迎夕食会

（グランドアーク半蔵門）

5月10日（木）

終日 FIDIC 理事会（六本木）

5月11日（金）～13日（日）

日本国内旅行（京都、奈良）

5月14日（月） 帰国



FIDIC 理事及び FIDIC 事務局



FIDIC 理事のご夫人

東京理事会では、特に、各地域展開とFIDIC本部との関わりが、FIDICの全体経営とのバランスを保つ上で、課題となっていた。すなわち、発展途上国にFIDIC契約約款の重要性が浸透するにつれて、関係者がより多く、約款の周知に対して熱心となり、セミナーやトレーニングに向けた、FIDIC本部への要望が増加している。その様なFIDIC経営環境において、経費が高い欧州基準で今後も進めるのか、各地域に研修センターなりを創設して、より効率的に経営を進めるのかが、課題である。



## ASPAC活動～FIDICの地域戦略～



ASPAC 理事 AJCE 会長  
内村 好

### ■FIDICの地域戦略

FIDICはコンサルティング・エンジニアの地位の向上、産業の活性化、技術移転・人材育成、汚職防止などをグローバルに普及・拡大するために、世界をいくつかのグループに分けて地域での活動を促進することを戦略としています。FIDICの正式な下部機関としての地域グループは、2014年現在、アジア太平洋地域会員協会連合ASPAC（アスパック）とアフリカ地域会員協会連合GAMA（ガマ）ですが、ヨーロッパ地域の協会連合EFCA（エフカ）、南北アメリカ地域の協会連合FEPAC（フィーパック）とは密接な協力関係にあります。

### ■ASPACとは

FIDIC Asia-Pacific Member Associations (ASPAC) は、2014年現在、アジア太平洋地域に属するFIDIC加盟21協会（図1参照）から構成されています。FIDICにおけるASPACの発足は記録<sup>1)</sup>によると、1979年であり当時の参加協会はAustralia、Hong Kong、New Zealand、Singapore、日本の5協会でした。

1988年から森村武雄AJCE副会長（当時）が、2000年から石井弓夫AJCE会長（当時）が、2006年から廣谷彰彦AJCE会長（当時）がそれぞれ3年間ASPAC議長を務め、この間にニューズレターの発刊、HPの開設、セミナーの開催、若手グループ（YP）の活動活性化などの成果を挙げました。2009年には豪州のDennis Sheehan氏が議長に就任し、定款等の整備などが進みました。2012年のFIDICソウル大会時に開催されたASPAC総会において内村がASPAC理事に就任し、韓国のKang氏が新議長に選ばれました（任期3年）。広報、研修、会員の3委員会を設置して、ASPAC Newsletterの再発刊、ASPAC Young Professionals Forum（YPPF）の再構築、未加盟国への会員拡大など活発に活動を開始しました。2014年現在理事は下記の7名です。

Ho-Ig Kang (Korea) 議長  
Liu Luobing (China) 副議長  
Amitaba Ghoshal (India) 広報委員長  
内村 好 (日本) 研修委員長  
Irawan B. Koesoemo (Indonesia) 会員委員長  
John Chei-Chung Li (China Taipei)  
Mohd Adnan Mhod. Nor (Malaysia)



ASPAC 理事（2012年就任）  
左より Liu Luobing 副議長 (China)、内村、Kang 議長 (Korea)、Koesoemo (Indonesia)、Ghoshal (India)、Mhod. Nor (Malaysia)、欠席 Li (China Taipei)

ASPACの理事会や総会は域内でFIDIC大会が開催される場合にはその際に開催され、域外で開催の場合には別途開催することを原則としています。一方、国連のESCAPの一環で発足した技術開発プログラムであるTCDPAP<sup>2)</sup>と加盟国の多くが重複していることから1999年（クアラルンプール）からASPAC/TCDPAP大会として共同開催されてきましたが、今後はASPAC独自の大会として開催される見通しとなっています。近年では2011年クアラルンプール、2012年コロombo、2013年バンコク、2014年バリで開催されたASPAC大会に内村とAJCE会員が参加して、東日本大震災の教訓や我が国コンサルタント産業の現状、AJCEの活動などを報告しました。

■ASPACの課題と今後

2012年3月にコロンボで開催されたASPAC理事会ではSheehan議長（当時）から、ASPACはFIDICの方針を踏襲して、次の6課題に取り組む方針が示されました。

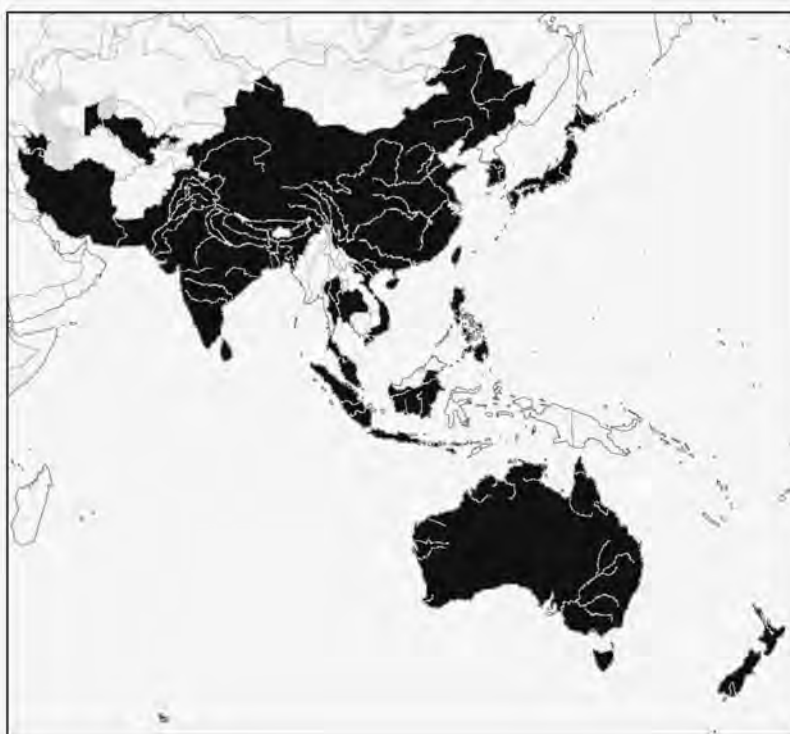
- 課題1—品質と最良事業に関し、国際的に認識された権威者として取り組む
- 課題2—ASPACの存在価値の維持・向上を図ってゆく
- 課題3—CEの地位向上を図ってゆく
- 課題4—世界市場においてCE産業の発展を促進し支援する
- 課題5—FIDIC契約約款に関しリーダーとしての地位を維持してゆく
- 課題6—若手専門職を育成してゆく

ASPACは、中東から中央アジア、極東、オセアニアに亘る広汎な地域からなり、多様な文化や言語を有し、政治経済の違いが大きいいため統一したテーマ

を共有することが困難となっています。その中でこれからのコンサルタント産業を担う若手エンジニアの育成と連携が共通テーマとして挙げられており、FIDIC若手専門家委員会（YPF）と連携した ASPAC YPFの再構築と活動の活性化が期待されています。

また活動の活性化のためにASPACの常設事務局の設置が話題となっていますが、資金面や人的資源の問題、設置場所など解決しなければならない課題が多くあります。さらにASPAC域内にはミャンマー、ラオス、カンボジアなどの東南アジア、モンゴル、タジキスタンなどの中央アジアの多くのFIDIC未加盟国を抱えており、コンサルタンティング産業の育成とFIDIC加盟促進の働きかけに取り組んでいます。

- 1) Consulting Engineers 1913-1988
- 2) Technical Consultancy Development Programme for Asia and the Pacific（事務局はインドのConsultancy Development Center）



ASPAC加盟  
 (■21国・地域)

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| Australia        | Malaysia    |
| Azerbaijan       | Nepal       |
| Bangladesh       | New Zealand |
| China            | Pakistan    |
| China, Hong Kong | Philippines |
| China, Taipei    | Singapore   |
| India            | Sri Lanka   |
| Indonesia        | Thailand    |
| Iran             | Uzbekistan  |
| Japan            | Vietnam     |
| Korea            |             |

図1 ASPAC加盟国

COLUMN

世界への入口  
ASPAC分科会での日々

前国際活動委員会 ASPAC 分科会  
技術研修委員会 YP 分科会 渡津永子



私がAJCE国際活動委員会ASPAC分科会に参加させて頂いたのは、2006年の秋でした。当時の廣谷彰彦AJCE会長が、FIDICアジア・パシフィック地域組織であるASPAC議長に就任されたのをきっかけに、その事務局機能を担う分科会がAJCE国際活動委員会内に設置され、その委員に任命して頂いたのです。

当時、私は海外業務への参加を強く志望してはいましたが、海外経験はほとんどなく、メール一つ、資料一つ作成するのに四苦八苦したことをよく覚えています。在任中はとにかく無我夢中でしたが、今振り返ってみると、冷や汗が噴き出る思いです。経験もない若輩者をよく任命したものだ、と、廣谷元会長をはじめ社内外の関係者の皆様のご英断に深く感謝するとともに、在任中に温かいご指導・ご支援を頂いた藤江五郎前事務局長、山下佳彦事務局長、当時の宮本正史国際活動委員長はじめAJCE国際活動委員会の皆様、前田剛和分科会長、赤坂和俊委員に改めて感謝申し上げます。在任中の思い出は本当にたくさんありますが、今振り返って、特に印象深いものをここに記させて頂きたいと思います。

ASPAC事務局としての活動のスタートは、2007年3月にパキスタン・ラホールにおいて行われたASPAC大会でした。3日間の会議が終盤に近付き、ようやく心に余裕ができたのか、ふと気が付くとメインの会場にいる参加者は、私を除いてほぼ全員シニアの男性でした。“Engineering and Disaster Management”をテーマとした会議でしたが、30代以下と思われる方、また女性の技術者が全くいないことに、軽く衝撃を受けたことを覚えています。これぞまさしく“Old Boys’ Club”ではないかと考えていた直後に、恐らく同じことを気が付いていらしたであろう廣谷元会長が「私のアシスタントを紹介します」と壇上から私を指名され、促されるままに席から立ち上がり、会場にご挨拶させて頂きました。コンサルティング・エンジニアの世界においては、若手技術者や女性技術者が表舞台に立つ機会は少ないことを実感するとともに、そんな業界の実態に鮮やかに一石を投じるような廣谷元会長の見事な演出(?)でした。

その後3年間の在任中、ASPAC事務局として、地域のネットワーク強化に関わらせて頂きました。欧米CEに比べてアジア地域のCEは発展途上であり、欧米CEに負けないためにも連携してやっていこうという機運の盛り上がり年々高まっていくのを感じました。またASPAC活動と並行して、FIDIC/ASPACにおける若手技術者“Young Professional (YP)”の活動にも関わらせて頂くようになり、現在の技術研修委員会YP分科会での活動に繋がっています。世界のCE企業がどのように人材育成を考えているのか、実際にYPがどうキャリアを積んでいるのかを、経営層と同世代の両方から知ることができ、大きな刺激を受けました。FIDIC大会におけるYP関連のプログラムは年々充実度を増し、若手技術者の参加も増えているようで非常にうれしく感じています。

私にとってASPAC分科会での日々は、今に続く、世界への入口でした。FIDIC/ASPAC活動を通じて、日本はもちろん各国のCE企業のトップからお話を聞くことができたこと、アジア地域におけるCE、または同世代のYPが直面している問題を共有できたことは、全て今日に繋がる大きな財産になったと感じています。

日本におけるCEの発展に貢献してきたAJCEに参加することができ、非常に光栄でした。こうした機会を与えて下さり、ご支援を頂いた皆様に改めて感謝いたします。



左から 赤坂和俊委員、廣谷彰彦ASPAC議長、著者、中島隆志FIDIC YPF 委員、前田剛和ASPAC 分科会長

## COLUMN

## ASPAC地域の連携 各国との覚書締結

廣谷彰彦AJCE会長(当時)がFIDIC Asia-Pacific Member Associations (ASPAC)の議長を務めていた2008年、2009年に、AJCEは韓国、ウズベキスタン、アゼルバイジャンと連携強化と有効に関する覚書を締結しました。

■韓国コンサルティングエンジニア協会

Korea Engineering & Consulting Association (KENCA)

2008年7月22日(火)、東京都港区の虎ノ門パストラルにて、AJCE廣谷彰彦会長(当時)とKENCA CHO Haeng Rae会長(当時)は相互協力や提携促進に関する覚書を交わしました。覚書締結式にはAJCEとKENCAの理事等20名が立ち会いました。締結式の冒頭、KENCA Haeng Rae会長は「コンサルティングエンジニアの技術向上、両協会の発展に期待する。様々な懸案に、両協会が力を合わせて対応していきたい。」と挨拶されました。また、AJCE廣谷彰彦会長は「両協会の良好な関係づくりが進むことを願っている。」と答えられました。



左 KENCA Haeng Rae 会長  
右 AJCE 廣谷彰彦会長



■ウズベキスタン コンサルティングエンジニア協会

The UZBEK ASSOCIATION OF CONSULTING ENGINEERS (UZACE)

2009年3月12日(木)、ネパールカトマンズ市内のYak & Yetiホテルにて、AJCE廣谷彰彦会長とUZACE Mirodil 会長は相互協力や提携促進に関する覚書を交わしました。締結式の冒頭、UZACE Mirodil 会長は、「アジア地域のFIDIC会員協会として、長年に亘り実績を有するAJCEと共に自国及びアジア地域のコンサルティングエンジニアの技術向上に努め、併せて両協会の発展に期待する」と挨拶された。

■アゼルバイジャン コンサルティングエンジニア協会

National Engineering Consultancy Society of Azerbaijan (NECSA)

2009年4月27日、AJCE廣谷彰彦会長(当時)とNECSA Mammadzadeh 会長(当時)は相互協力や提携促進に関する覚書を交わしました。2009年3月ネパールで開催されたASPAC会議にてMammadzadeh 会長から廣谷会長に覚書締結の打診があり、両協会でも協議を重ね今回の締結に至りました。



2009年3月ウズベキスタン協会との覚書締結  
左 UZACE Mirodil 会長  
右 AJCE 廣谷彰彦会長



2009年4月アゼルバイジャン協会との覚書締結  
左 NECSA Mammadzadeh 会長  
右 AJCE 廣谷彰彦会長

# FIDIC Risk and Liability Committee (RLC) リスク管理委員会



FIDIC RLC AJCE 理事 国際活動委員会委員長  
藏重俊夫

## 1. 委員会名の変遷

FIDICのリスク管理委員会は、現在は、「Risk and Liability Committee」として、常設委員会に位置づけられているが、委員会の名称は、私が同委員会に加わった1997年のエジンバラ大会以降、以下のような変遷をたどってきた。

1997年 エジンバラ大会時

「Risk Management Committee」

2000年 ハワイ大会～

「Risk Management Forum」

2007年 シンガポール大会～

「Risk and Liability Committee」

2000年以降、しばらくの間は常設委員会ではなくフォーラムとして活動した時期もあったが、リスク問題の深刻さが増大する中、2007年から再び常設委員会に復帰した。また、2012年には、ヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合（EFCA）とも連携を深めるため合同委員会を発足させ、今日に至っている。なお、本報告では、リスク管理委員会と呼称して話を進めることとする。

## 2. リスク管理委員会での議論

2007年より前のリスク管理委員会は弁護士と保険ブローカーが中心となって活動していた時期にあたり、紛争事例中心のエンジニアにとって難解な議論が多くみられた。これに対し、2007年以降はエンジニアが議長を務めているため、どちらかといえば実務的かつ予防保全的な視点での議論が支配的となっている。いずれにしても、活動方針はコンサルティングエンジニア業界におけるリスク事象を把握し、最善の対処方法をFIDIC会員に提言していくことを主旨としている。

## 3. 主な活動成果

リスク管理委員会のここ10年間での活動成果のうち、コンサルタントの実務面に焦点を当てると、リスク管理の新ガイドの発刊（2009年）、および、リスクキャップに関するポリシーステートメントの

改定（2011年）を挙げることができよう。

## リスク管理の新ガイド 2009年

この10年間において、リスク管理委員会では大規模プロジェクトの保険に係る現状報告書や保険に関するクライアントガイドなどを発刊してきたが、2009年には、1997年の「Risk Management Manual」以来となる、我々コンサルタントにとって大変重要なガイドが発刊された。「Five key areas of risk in consultants' appointments (A Short Guide)」と題されたガイドは、国際プロジェクトに選定されたコンサルタントが合意書を締結するまでのリスク管理について示したもので、①クライアントの評価、②報酬の設定、③スコープの精査、④人材（要員）の確認、⑤合意書の締結の5つの重要な事項に関するリスク管理ガイドである。このガイドはAJCEにて邦訳版が発行されており、現実的かつ実用的なガイドとして資料価値が高いガイドの一つと感じている。

## リスクキャップに関するポリシーステートメント 2011年

本書はコンサルタントのリスクキャップに関するポリシーステートメントであり、2011年FIDICダボス大会でEFCAと連名で発表された。リスクの配分はプロジェクトにおける役割とリスク管理能力に応じて設定すべきで、クライアントを含むプロジェクト関係者はリスクを管理、あるいは軽減しうる能力に応じて受け入れるべきとの基本的立場を示した。そして、コンサルタント契約において、サービスの価値、瑕疵発生リスク、プロジェクト監理条件を考慮した賠償金のリーズナブルな上限設定と保険の付保を推奨している。

## 4. 委員会の今後

委員会の現議長は上記の新リスクガイドの主執筆者であり、今後も実務家の観点から活動のプライオリティが設定されるものとみられる。



# FIDIC Business Practice Committee (BPC)

## 業務委員会



FIDIC BPC AJCE 理事 国際活動委員会副委員長  
狩谷 薫

FIDIC Business Practice Committee (BPC) は、FIDIC理事会、FIDIC会員協会及び会員協会所属企業の意向を反映し、会員企業を支援する各種ツールを開発・提供し、普及させることを主たる目的としたFIDICの中核をなす委員会である。

私は、BPC委員を務めていた廣谷彰彦AJCE会長（当時）がFIDIC理事に就任することから、廣谷氏の後任として2010年5月に委員となった。この際にBPCの委員長も、当時FIDIC理事であったMr. Adam Thornton（ニュージーランド、現在も委員）から、Mr. Rick Prentice（カナダ、現委員長）に変わっている。委員会活動は、FIDIC加盟協会及び会員企業の意向を反映した形での各種プロジェクトの立ち上げ、ガイドライン等作成、メールや概ね1.5ヶ月に1回の電話会議による意見交換により成り立っている。更に、毎年開かれるFIDIC大会では、年1回のface to faceでの会議及びワークショップが開催され、ツールに関する説明・討議を通じたツールの普及活動が行われている。

BPCが検討している主たるテーマとこれまでの成果、現状は以下のとおりである。

### ◆ Definition of Service (DOS) Guide

ロンドン大会で建築版が発表されたが、これに次いで土木版を出版しようと作業を進めてきた。しかし建築と違い、土木はその内容が多岐に亘るため、作業は継続中である。

### ◆ Guide to Practice (G2P)

新たにコンサルタント会社を設立し、運営するための総括的なガイドである。近年の調達方法の多様化、Integrityに関する状況の変化、改訂QBS Guideなどを反映し、G2Pのアップデートを図るため、Capacity Building Committee (CBC) を中心に作成が進められており、調達を含む第5章の改訂がBPCに委ねられた。2014年FIDICリオ大会で発表される予定である。

### ◆ Quality Based Selection (QBS)

2011年には「Quality Based Selection Guide」が発行され、それに付随して「FIDIC Guidelines for the Selection of Consultants (案)」が示された。しかし、国際開発金融機関を中心にQBSではなくQCBS（我が国で言う総合評価）が一般的になってきていることから、QBSを如何に普及させるかという観点で「QBS Strategy Guide」を作成した。2014年FIDICリオ大会で発行される予定である。

### ◆ Disaster Management Guide

日本の東日本大震災やタイの長期間の浸水等の災害を受け本書を作成することとなり、2012年より作業を進めてきた。AJCEからも、遠山正人氏がタスクフォースに参加している。基本的には、Adam氏が原稿を作成し、タスクフォース及びBPCでレビューをするというやり方で作業を進めてきた。2014年FIDICリオ大会で発表される予定である。

FIDIC BPCは、FIDICの理念を具現化し、多くのFIDIC加盟協会に役立つツールを包括的に取り扱う、極めて重要な委員会である。AJCEとして、この委員会に委員を送り込んでいるのであるから、日本から情報発信し、テーマをFIDICに投げかけ、我が国のプレゼンスを高めることを今後考えていく必要がある。



2011年ダボス大会にて BPC 委員 一番右が著者

# FIDIC Disaster Management Task Force (DMTF)

## 防災管理作業部会



FIDIC DMTF 国際活動委員会 FP 分科会  
遠山正人

人口の増加と急激な都市化は、災害に対して脆弱な地域への人口や資産の集中を加速し、災害の発生件数、被害の規模を増大させている。気候変動の影響による台風の強大化や海面上昇などは、被害の拡大をもたらすと危惧されている。

これに対し、防災の分野では、災害発生後の人道支援・復旧等の事後の対応に重点を置いた従来の活動から、災害発生前のリスク管理や事前準備に重点を置く活動に転換していく意識が高まってきている。災害リスクに対する対応能力の向上や災害に強いレジリエントな社会の構築が、持続可能な開発にとって不可欠であるとの認識である。

コンサルティング・エンジニア（CE）は、従来から防災の分野において大きな役割を果たしてきているが、このような社会の変化の中でCEへの期待や、果たすべき役割はさらに大きくなっている。

そこで、FIDICは2010年に、防災やリスク管理の分野でCE企業や会員協会が果たすべき役割やとるべき行動をまとめたDisaster Management Guideを作成することを決定した。その後も、2011年1月にはオーストラリア・ブリスベン市で大洪水、2011年2月にはニュージーランドでクライストチャーチ地震、そして2011年3月には日本の東日本大震災と、想定を超えるような規模の大災害が相次いで発生した。2011年10月のFIDICダボス大会では、災害管理に関する特別セッションも行われ、上記の3つの災害の状況報告とそこで得られた教訓が共有され、災害管理におけるCEの役割が確認された。このセッションでの東日本大震災に関する報告は、BPC委員を務める狩谷薫氏が行った。



2011年ダボス大会特別セッション  
東日本大震災の報告をする狩谷氏

2012年9月にDisaster Management Guide作成のためのタスクフォースの設置が決定され、12月にニュージーランドのAdam Thornton氏を議長とし、チリ、米国、ハイチ、パキスタン、オーストラリア、インドネシアと日本の計8ヶ国の代表をメンバーとするタスクフォースが組織された。

2013年9月に、タスクフォース議長がまとめたGuideの原案がメンバーに提示され、各メンバーからの意見を集約し、さらに議長が修正を加える形でブラッシュアップが行われた。AJCEからは、国際活動委員会FP分科会における意見照会を経た上でコメントをとりまとめ提出した。2014年になって、タスクフォースからの意見を反映した修正版がBPCで報告され、BPCメンバーからの意見も集約されている。

Disaster Management Guideは、FIDIC理事会の承認を経て2014年FIDICリオ大会で発表される予定である。

# FIDIC Capacity Building Committee (CBC)

## 能力開発委員会



FIDIC CBC 国際活動委員会 CB 分科会  
武内正博

### はじめに

FIDICは主要目標として、「コンサルティング・エンジニア産業に対して、適切な能力開発により、持続可能なベスト・プラクティス及び高品質のサービス維持を支援し、同産業の世界的発展を推進する」ことを掲げています。このように能力開発（Capacity Building）は、FIDICにとってコンサルティング・エンジニア（CE）産業を支援する大きな柱の一つです。

### 1. FIDIC能力開発委員会（CBC）の構成

FIDIC能力開発委員会（CBC）は、委員長と6名の委員から構成されています。

委員会は、FIDIC大会時に開催され、当該年度の活動の総括及び次年度の活動の展望について協議します。その他の討議については、メールを通じて行います。

### 2. CBCの役割

CBCの運営方針は以下のとおりです。

- ◆ 客観的基準と利用可能な情報に基づくFIDIC会員協会及びCE企業の能力ギャップの照査
- ◆ FIDIC会員協会とCE企業のための能力開発の推進
- ◆ 能力開発推進を支援するための情報提供
- ◆ 全ての会員協会に対する企業レベルの基準づくりの推進支援
- ◆ 開発途上国のCE企業がかかえる問題の抽出、会員協会による問題軽減のための明確で有効な対策の助言
- ◆ IFI（国際金融機関）の調達慣行のモニター及びFIDICによる慣行変更を求めるキャンペーンの展開
- ◆ 持続性及び採算性があるマネージメント訓練プログラムの開発指導
- ◆ CEに関わる能力開発に取り組む他団体との関係促進

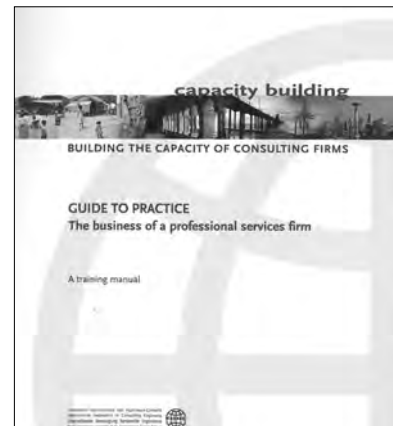
- ◆ 先進国及び開発途上国の会員協会に対するトレーニングプログラム構築への取組み支援

### 3. CBCの活動状況

CBCの活動状況は以下のとおりです。

#### (1) 能力開発（CB）パンフレットの普及

2001年版のCBパンフレットが改定され、2012年版が完成した。現在、FIDICのWeb Siteでダウンロードが可能である。



FIDIC Capacity Building 2012  
A Major Role for FIDIC in the Consulting Engineering Industry

#### (2) FIDIC協会会員指導プログラムの開発

FIDIC協会会員のうち経験が不足している会員に対する指導（Mentoring）プログラム案が2011年3月に作成され、2012年5月にFIDIC理事会で承認された。

#### (3) FIDIC実務ガイド（G2P）の修正・更新

FIDIC実務ガイド（Guide to Practice G2P）に関して、FIDIC事務局は年に一回、G2Pの修正・更新の必要性を協議しCBCに報告する。

### 4. その他の活動

#### (1) 活動内容

若手専門家（YP）の育成、種々のトレーニン



Guide to Practice G2P  
The Business of Professional Services Firm  
A Training Manual 2003

グ（契約約款、指導員の養成、指導員認定の評価、アジュディケーター及び紛争調停者の評価）の実施

#### (2) CE業務支援ツール（教材など）

種々の契約条件書、FIDIC実務ガイド、CBパンフレット、認定講師

#### 5. 能力開発に関連するビジネス実務モジュール

1990年代初期、世界銀行の支援で、FIDICによりCE企業に適用可能なトレーニング・マニュアルが作成されました。その結果、1994年に、「Professional Services Firm - A Training Manual and Guide to Practice」（G2P）が出版されました。それ以来、更新が行われ、FIDIC能力開発プログラムの有益な参考図書として役立っています。

FIDICは、能力開発に関連するビジネス実務モジュールを開発しています。同モジュールは、とりわけ、リスク管理、公正管理、持続可能なプロジェクト・マネジメントといったビジネス上の課題に対応しています。現在、利用可能なモジュールについては、CBパンフレット2012年版を参照ください。

#### 6. CBCの今後の展開

2014年8月、FIDIC理事会は上記2に掲げたCBCの運営方針を抜本的に見直し、FIDIC理事でもあるExaud Mushi新委員長のもと、新たなCBC活動をスタートさせることを決議しました。今後の活動が期待されます。

# FIDIC Young Professionals Forum (YPF) ASPAC Young Professionals Forum (YPF)



FIDIC YPF ASPAC YPF 技術研修委員会 YP 分科会  
松尾 隆

## 1. FIDIC YPFについて

Young Professionals Forum (YPF) は若手の参加や発言機会を増やすための施策として、AJCEが1998年のFIDICハワイ大会準備委員会で創設を提案し、数多くの協議ならびに試行を経て2003年1月のFIDIC理事会で発足が正式承認された若手専門家のための委員会です。

初代議長にはAJCEの佐々部圭二氏が就任し、その後、秋永薫児氏、中島隆志氏、北野知行氏が委員を努め、2013年から著者が委員を引き継いでおります。

FIDIC YPFは、FIDICコミュニティーにおける若手専門家の声を集約し、発言していくことで、FIDICならびに社会に良い働きかけを行うことをvisionとして掲げています。これを実現するための活動には、News letterやソーシャルメディアを利用した定期的な情報発信、FIDIC大会におけるYPセッションを通じた意見交換、FIDIC地域連合あるいは加盟協会におけるYPグループの立ち上げ支援などを精力的に行っています。

## 2. ASPAC YPFについて

ASPACとはFIDIC地域連合のひとつであるアジア太平洋地域連合の略称です。ここでも、若手専門家による主体的な活動を支援するため、YPF創設の必要性が廣谷彰彦ASPAC議長（2006年～2009年）よ

り提案され、2013年に正式に設立されました。

現在の活動としてはASPACバリ大会（2014）におけるYPセッションの企画運営やNews Letterの発行など実施可能なことに順次着手しています。これと同時にASPAC YPFとしての事業計画書策定を急いでいます。10年間の蓄積を有するFIDIC YPFに比べるとASPAC YPFは委員の経験が浅く、また人数も少ないことから手探りの状態ではありますが、地域連合としての特色を示しFIDIC YPFと差別化が図れるよう事業計画書の最終化を行っています。

## 3. YPFが果たす役割

現在、FIDIC YPFでは南アメリカ地域のYPF設立を支援しており、またASPAC YPFにおいては委員未選出の加盟協会に参画を呼びかけるなどし、FIDIC全体として新たな若手専門家の参加を促進する環境整備に力を入れています。

FIDIC各大会のテーマでSustainabilityという用語が使われて久しいですが、この言葉を若手専門家について考えると、次世代を担う若手の継続的な育成が社会全体の持続可能な発展に貢献するものと理解できます。著者が委員を務める上述の二つのYPFは交流や活動の場としてより多くの若手専門家に活用され、継続的な専門家育成のための土壌として貢献することが期待されています。



2008年ケベック大会  
赤坂和俊 ㈱日水コン



2009年ロンドン大会  
中島隆志 ㈱建設技研インター  
ナショナル



2010年ニューデリー大会  
北野知行 日本工営㈱



2011年ダボス大会  
今井 学 ㈱森村設計



## FIDIC大会 最近の10年



前技術研修委員会副委員長  
竹村陽一

最近のFIDIC大会は、2010年のニューデリー大会を除いて参加してきたので、これを通して一人のコンサルティングエンジニアとしての多少の所感を述べたい。

最近10年間の開催地とテーマは別表の通りであるが、総じての印象は、新しい価値の誕生、コンサルティングエンジニア産業およびその市場の多様化の兆しである。例えば2013年のFIDIC創立100周年記念のバルセロナ大会では、初日のプレナリーセッションで「F1ビジネス」が取り上げられ驚いたが、よく考えてみると世界はそのようにも動いているのだということが理解できた。勿論、地域の動きはさまざまであり、開催国の状況によって選ばれるテーマはそれを反映したものとなっている。

2004年のコペンハーゲンから2008年ケベック大会までの各年はそのような印象を受けた。この中で特に強い印象を受けたのは「A strong industry, serving society」をテーマにあげた2008年ケベック大会であった。カナダは英国、米国、オーストラリアなどと並んでコンサルタント産業の先進国である。経済や社会を引っ張って行こうとする姿勢がみなぎっている。そのために、コンサルティングエンジニアの企業経営はどうあるべきか、プロジェクトマネジメントの能力を磨く方法は、などが論じられた。Communication: A core competencyで取り上げられた建設法務や発表能力に関する議論は今でも記憶に残っている。また、「品質」がコンサルティングエンジニアに求められる至上のものであるが、それを最もよく知っているのはクライアント（事業家）であることから、彼らが参加するセッションが設けられていた。「品質」は非常に広い概念であるが、現在ではSustainability（持続性）およびInnovation（革新性）とほぼ同義となっている。

2009年のロンドン大会は、世界金融危機から発した経済危機の中での開催であったが、過去の覇権

国家だけのことはあって、世界を見渡したコンサルタント産業の姿を浮かびあがらせていた。ここでの印象は、コントラクターのプレゼンスが高いということである。インフラ投資における公的資金の後退は、建設執行方式にも影響がおよび、民間資金に合った方式の採用が増加すると、エンジニアの存在意義が変化するのも当然のことである。事業提案ができるコンサルティングエンジニアが求められている。問題は費用負担力にもあるのだが。

2011年のダボス大会は、当初予定されていたチュニジア チュニス の代替であったため、テーマはアフリカから発信するコンサルタント産業のあるべき姿である。FIDIC大会におけるアフリカンコンサルタントのプレゼンスは決して小さくないが、発展途上の国々からなっているので、コンサルタント産業も未成熟である。近年徐々に力を付けてきているという印象を持つが、課題の一つに政治がある。地域内の交易、交流もインフラ不足で大きく阻害されている。近年は南北や東西の連携を計画しているので、これが実現したならば、人口、資源の潜在力をもつ地域であるから、成長もアジアに次ぐものとなるかもしれない。日本からも各種の企業が進出を始めているので、コンサルティング産業が躍進する日がそう遠くないと思われる。

2012年ソウル大会は、隣国であるので、渡航が楽であった。韓国は2008年頃から国をあげて「グリーン化」を押し進め、国際競争力を強化する成長戦略が採られた。その効果を含めて将来のコンサルティング産業の姿を求めようとするものであった。韓国は、国際社会への発信が上手だという印象を持った。国際市場ではどうしても欧米優勢となり、アジア諸国は遅れをとっている。国力の一つの表れかとも感じる。

昨年2013年はバルセロナでFIDIC100周年の記念大会であった。今年が40周年のAJCEとは大きな差があることは認めざるをえない。しかし、FIDICの

場では、石井弓夫氏および廣谷彰彦氏がFIDIC理事を務められ、各委員会にも優秀な人材を派遣し、AJCEのプレゼンスはアジア勢の中でもインドや中国にひけをとらない。

FIDIC大会への参加者はコンサルティングエンジニアが主体ではあるが、国際金融機関、事業家、建設業界、地方政府、法律家、ジャーナリストなど多様なステークホルダーも議論に参加し、企業戦略、企業経営、プロジェクトマネジメントなど実務能力の研鑽の場となっている。わが国も2007年のシンガポール大会以降、国際協力機関がプレゼンテーションを行う機会が多くあり、日本のプレゼンスを示す大きな力となっている。

世界におけるコンサルティング産業の最大の課題

は、私見によれば、人材確保・育成である。世界の種々の課題に挑戦するには能力の高いコンサルティングエンジニアが必要であり、各国で戦略や対策が練られている。近年、わが国でも成長戦略に真剣な議論が行われているが、コンサルティング産業が忘れられてはいないか？コンサルティングエンジニアが浸透し、活躍している国の経済効率は比較して高いという元世界銀行職員の指摘もケベック大会での記憶にある。長期的には国力にも影響をあたえること必至であろう。

欧米とは歴史において60年の差があるわが国のコンサルティング産業であるが、世界の人々の生活の質向上に取り組み、政府諸機関や投資事業家、建設関連業界などと協力して、次の10年で大きな飛躍を遂げることを心から願うものである。

年	開催地 開催都市	テーマ	摘要
2004	デンマーク コペンハーゲン	Consultancy-Profession or Business コンサルタント業—知的職業かビジネスか	石井弓夫氏 FIDIC理事在任（2001～2005）
2005	中国 北京	Sustainable Engineering-Global Leadership 持続可能な技術—国際的指導力	
2006	ハンガリー ブタペスト	Where the roads meet 合流	
2007	シンガポール	Global Services-Enhanced Partnership 国際的業務—連携の促進	JBICプロジェクト開発部長 飯島聰氏 発表
2008	カナダ ケベック	A strong industry, serving society 社会に貢献する強力な産業	JBICプロジェクト開発部調達管理課長 宮尾泰助氏 参事 中川茂雄氏 発表
2009	イギリス ロンドン	Global challenges- Sustainable solutions 世界への挑戦—持続可能な解決策	廣谷彰彦氏 FIDIC理事就任（2009～2013）
2010	インド ニューデリー	Managing innovation-The Way Forward コンサルタント業界のイノベーション—将来展望	JICA上級審議役 荒川博人氏 発表
2011	スイス ダボス	Local Resources-Global Perspectives 地域の人材—世界展望	
2012	韓国 ソウル	Beyond Green-New Paradigm グリーンの手先へ—新たなパラダイム	JICA資金協力支援部長 三浦和紀氏 発表
2013	スペイン バルセロナ	Quality of Life-Our responsibility 生活の質—コンサルティングエンジニアの責任	FIDIC100周年記念大会

## COLUMN FIDIC100周年記念賞 大賞受賞 日本から3件

国際コンサルティング・エンジニア連盟 (FIDIC) は1913年に設立し、2013年、100周年を迎えました。100周年を記念して、この100年間に建設された優れたインフラ施設や100年間に活躍した技術者に『FIDIC Centenary Awards FIDIC100周年記念賞』を授与することとなり、日本からはプロジェクト部門に「国立代々木競技場」「東海道新幹線」を、個人部門に「久保田豊氏」を応募し、すべて大賞を受賞しました。

応募総数は、16カ国、113件。このうち、大賞受賞はプロジェクト部門19件、企業部門該当なし、個人部門2件の計21件。

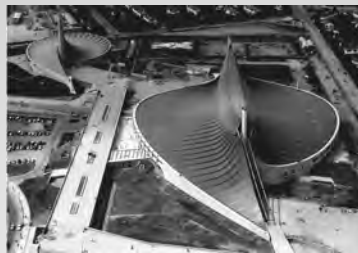
2013年9月15日～17日にスペイン バルセロナで開催されたFIDIC100周年記念大会で表彰式が行われ、廣瀬典昭 AJCE会長 (当時) ら、関係者がFIDIC会長からトロフィーを受け取りました。

### 久保田豊氏



日本最大手の建設コンサルタント日本工営(株)の創業者。アジア・南米・アフリカ諸国の電源開発・農業水利のコンサルタントとしても活躍。日本の技術輸出の新しい分野を開拓した。

### 国立代々木競技場



1964年東京オリンピックの競技用施設として建設。世界に類のない高張力による吊り屋根方式の構造で、その技術力と芸術性が高い評価を受ける。今なお、国際的なスポーツイベントが数多く開催されている。

### 東海道新幹線



世界初の高速鉄道。1964年開業以来、半世紀にわたり死亡事故ゼロという高い安全性を持つ一方で、時間に正確な運行システムを確立し、高速性と快適性を両立。海外ではBullet Trainの愛称で呼ばれる。



右から、  
廣瀬典昭AJCE会長 日本工営(株)社長、Geoff French FIDIC会長、  
Olivia Prangey氏 FIDIC初代会長  
Louis Prangey氏のひ孫娘、  
林 幸伸氏 AJCE会員 日本工営(株)

久保田豊氏が創業した日本工営(株)の現社長、廣瀬典昭氏がトロフィーを受け取りました。



川口 衛氏  
川口衛構造設計事務所主宰

代々木競技場の構造設計を担当された坪井善勝氏は故人のため、当時坪井氏の元で構造計算を担当された川口衛氏がトロフィーを受け取りました



中央: 八多義徳氏  
東海旅客鉄道(株)(JR東海)ロンドン事務所所長

※上記説明文役職は2013年9月当時

## COLUMN まるでジェームスボンド?

国際活動委員会 桜井 一

1991年のFIDIC東京大会が成功裏に終了し、大会収支残余が銀行で利子を作っていたので、AJCE会員企業の若手?にFIDIC年次大会に参加して勉強してもらおうと、1993年FIDICミュンヘン大会から補助金を出だすことになりました。若手社員といっても、当時のFIDIC大会参加者の殆どが、コンサルタント会社の会長、社長クラスの偉い方々ばかりだったので、日本で中堅以上だとしても、FIDIC大会では若手となっていました。当時私も“若手”だったので、1993年ミュンヘン大会と1999年ハーグ大会の参加時は、補助金を頂きました。ありがとうございました。



2004年コペンハーゲン大会ガラパーティにて  
上の写真：ジェームスボンド?とダンスを楽しむ紳士淑女  
下の写真：著者もジェームスボンド風に乾杯! (右が著者)

FIDIC大会に参加して最初に驚いたのは、ガラパーティでの服装です。ドレスコードが正装か各国の民族衣装となっており、男性はみなタキシード。まるで、007ジェームスボンドの1シーンに入った感じでした。最近もっとフランクな感じになってきていますが、当時は我々では考えられないほど格式の高いパーティで、豪華な晚餐コースが振舞われ、ダンスフロアにはそれこそ紳士淑女が華麗に舞い、真夜中まで楽しい宴は続きました。

1991年東京大会で、私は準備委員会のソーシャルプログラム担当なのですが、ガラパーティが終わって真夜中になってもお客様が会場を出てくれないので、ボトルを持って出口へ誘導し、結局、会場の外で飲むことになってしまいました。大会後のポストコンフェレンスツアーでは、007的な紳士淑女も外国人ツアー客に変身し、同じ船に乗り、一つの団体客として観光地を周るうちに、いつの間にか仲間意識が強くなりました。FIDIC大会の成功は、ソーシャルプログラムが成功するか否かで決まると、多くの方がおっしゃいますが、東京大会の成功は、その後何年も、FIDIC大会参加者各位から、感謝のお言葉をいただきました。やはり日本は“おもてなし”の国ですね! 皆さんも、是非、ソーシャルプログラムにもっと入り込んで、他国参加者と一緒になり、FIDIC仲間を増やしていただければと思います。

これからも、AJCEの益々の発展を祈願しています。

## COLUMN 初めての海外出張 FIDICパリ大会に参加して

広報委員会 元 AJCE 事務局 橋 裕人

私は2002年4月から2年間、AJCEの事務局員として出向させていただきました。その間、広報委員、セミナー開催、日豪交換研修受け入れなど、いろいろな事をやらせていただきましたが、1番の思い出は初めての海外出張となりましたFIDICパリ大会への参加です。

私がFIDICパリ大会に参加したのは、出向2年目の秋2003年9月のことでした。同伴可ということで事務局員でありながら結婚2年目の嫁を伴い、久しぶりにパスポートとスーツケースを携え成田から出立しました。とにかく言葉については、不安で一杯だったのを覚えています。

滞在先のホテルに到着後、翌日から始まる大会の集合場所や時間のアナウンスをホテルのフロント近くに掲示するのが最初のミッションでした。大会会場はホテルから地下鉄で数駅の国際会議場で、ガラス張りの大きな建物が印象的でした。私は藤江五郎事務局長(当時)のサポート役で、大会期間中は片言の英語を駆使して大会参加者の応援をすべく会場内を走りました。今思い出すと、写真撮影&資料の配布係という役割しかできませんでしたが、国際会議の雰囲気を知る大変よい機会でした。幸い、特に大きな失敗もなく、ガラディナーで大いに盛り上がっているAJCEメンバーの記念撮影を最後のミッションに無事大会を乗り切ることができました。最終日は一日自由時間があり、凱旋門、エッフェル塔、ルーブル美術館とパリの観光を満喫しました。夫の仕事で、ディズニーランドなどでしっかり観光していた嫁が、このパリ観光でも大いにパワーを発揮してくれました。今でも大変感謝しております。



ルーブル美術館の入り口

FIDICパリ大会参加から11年。AJCEでの2年間の体験が私の人生において大変貴重な体験であったことは間違いありません。AJCEの今後の発展を心から祈念いたします。



## 日豪交換研修の20年 ～FIDICも注目するユニークな プログラムのあゆみ～



総務財政委員会副委員長 前技術研修委員会副委員長  
**金井 恵一**

日本とオーストラリアの若手技術者が相互に相手国企業を訪問して研修、交流を行う日豪交換研修（Young Professionals Exchange Program、略称 YPEP）は、当初の覚書締結から数えて20年の歴史を持つAJCEの代表的イベントのひとつである。発足以降、研修の形態や内容は時々の状況に応じて変化してきているが、相互の理解と連携を通じてコンサルティングエンジニア（CE）サービスの質の向上とアジア・太平洋地域のコミュニティーの発展を図る、という覚書の精神は、脈々と引き継がれている。AJCE40周年の節目にあたり、YPEPのこれまでのあゆみを振り返ってみたい。

1995年にAJCEとオーストラリアコンサルティングエンジニア協会（ACEA、現在のCA）の間で交わされた覚書に基づき、若手技術者の交換研修がスタートしたのは翌1996年であった。当初は、毎年相互に研修生を派遣する仕組みとなっており、初回は8月に日本人研修生9名が豪州を訪れ、11月に豪州から7名の研修生を受け入れている。期間は今と同じ3週間、滞在中は受け入れ企業の社員宅にホームステイをするというルールであった。

プログラム3年目となった1998年、ニュージーランドの協会から同様の交換研修をしたいとの申し入



1995年10月14日 全日空ホテル（東京）にて  
左から 豪州マクマラン貿易相、ACEA ケル会長、  
AJCE 梅田会長、池田科学技術庁審議官



1996年8月 第1回派遣 Brisbaneにて



1996年11月15日 第1回受入  
歓迎レセプション 榎日水コンにて

れがあり、協議の結果、当面ニュージーランドを加えた3国間のプログラムとして運営することとなった。（この時から、派遣と受入れを交互に行う隔年方式に変更）日本から派遣された研修生はオーストラリアに2週間、ニュージーランドに1週間という忙しい日程をこなしたようである。この3国間研修は3年間続き、2002年からはまた、従来の日豪2国間での研修に戻っている。

何事も、10回も繰り返しているとどこかにゆるみが出てくるのは世の常であるが、YPEPも11年目に入ろうとしていた2006年、オーストラリア協会から突然、その年の研修生の派遣を中止したい、との申し出があった。研修の目的が見えにくくなっていくことなどから、存続の是非も含めて今後のあり



方を検討するため、とのことであった。AJCEはこれを受けて同年の日本での研修は中止とし、その年のFIDICブダペスト大会の折に、両協会で協議する場を持つこととなった。中止申し出の背景には、豪州サイドが当初目論んでいた日豪協働によるODA業務の獲得などの具体的成果が出ていないことに対するACEA会員企業の不満があったようである。協議の場では、あくまで人材育成がYPEPの最大の目的であることを強調して説得に努め、侃々諤々の議論の結果、存続させることが決まった。その際に、事前研修（Pre-visit Dialogue）を訪問前の数か月間行うことによる研修内容の充実化、ホームステイでなく一般の宿泊施設を利用することによる負担軽減、などの改善策が提案され、了承された。

翌2007年、YPEPはAJCEによる豪州研修生の受け入れによって再開された。ブダペスト合意に基づいて、研修生と受け入れ企業側メンターとのメールによる事前研修、日本を紹介する書籍の読書レポートの提出、基礎的日本語の習得とレセプションでの日本語での挨拶、などを共通の宿題として課した。これは、YPEPを相手国訪問時だけの短期研修に終わらせないための手立てとして現在も続けられている。

その後、順調に実績を積み上げてきたYPEPであるが、中止を余儀なくされた年がある。2011年、東日本大震災の年である。実施か延期かの議論の中で、コンサルティングエンジニアとして未曾有の大災害の現場を見るのはまさに生きた研修になるのではないか、といった意見もあったが、両協会での慎重な検討の結果、順延となった。

翌2012年、日本を訪れた豪州の研修生たちは、受入れ企業の社員とともに被災地の現場へ足を運び、想像を超えた被害の甚大さに驚く一方、地元の人々の自己統制と忍耐力、復旧・復興業務に取り組むエンジニアたちの仕事ぶりなどに大きな感銘を受けた様子であった。なお、この年のオーストラリアからの研修生数は11名と、YPEP史上最大の規模と

なったことも付け加えておきたい。



2012年受入  
橋梁建設予定地を眺める研修生（気仙沼湾）



2012年受入  
被災地視察（東北）

アジア・パシフィックが世界をリードする時代に入ってきている。その中であって、価値観を共有する先進国として日本とオーストラリアが果たす役割は極めて大きい。両国間では、さまざまな分野での交流と協力が進んでおり、今後もこれが拡大していくことは間違いない。YPEPは、コンサルティングエンジニア業界でその一翼を担っており、YPEP卒業生の数はすでに130名を超えている。彼らがいずれ、この地域の社会資本整備における日豪連携の牽引役となってくれることを期待しつつ、今後も研修内容の一層の充実とネットワークの拡大を図っていきたいと考えている。

## 日豪交換研修



日豪交換研修 2013 研修生 技術研修委員会 YP 分科会  
**福澄浩恒**

入社以来仙台に配属されてから、東北を中心とした国内業務に携わってきた。海外事業に興味はあったもののチャンスがなかったが、2010年にベトナムの案件で、ホーチミンに4ヵ月滞在する機会を得た。これがきっかけとなって、2012年に豪州BG&E社のGarrett Bray氏のメンターとして、翌2013年にはSouth Australia州のAdelaideを拠点とするmlei社（メンターはNicolas Merphy氏）への研修生として日豪交換研修プログラムへの参加することとなった。

留学経験はなく、入社以来英語を使うことなく過ごしてきたため、ベトナム滞在中は現地で週2回ほど語学学校に通ったが聴くことはできても口が動かなかった。翌年は東日本大震災により延期となったが、その次年度に研修生の受け入れの話があり快諾したものの、周りに英語を話す人がおらず、頼りは自分だけかと通勤時間に英語を聴いては口真似をした。研修初日の歓迎会前、Garrett氏との待ち合わせで食事をした時に「言葉が通じる」とおもった瞬間、壁がだいぶ低くなった。

豪州での研修の際は、やはり最初は言葉が耳に入ってこなかった。短い時間で慣れたが、事前勉強不足もあり、専門用語になるとなかなかついていけず悔しい思いをした。

Adelaide の生活スタイルは、豪州でも自然豊かな土地柄なのか、時間に追われる都会とは異なり、ゆったりと穏やかであった。ビジネスアワーでも備え付けのキッチンで1日2回（10時と15時頃だったか）程度のTeaTimeで気分転換、週末にはランチでビールを飲みながら政治問題を熱く語るなど、日本ではあまり見られない光景である。また、20:00くらいまでは陽が射すためか、研修先の社員の多くが、残業をすることなく定時には帰宅する。通勤時

間も1h以内と短く、家族と過ごす人、Mt.Loftyの頂上まで走る人等様々だが、プライベートな時間もゆったり確保し易いようだ。

一方で、数年前に大手コンサルタントで大規模なリストラがあり転職を余儀なくされたと聞き、公共事業縮小など抱える問題も多いのだと感じた。

帰国後は、遠方でもあるため十分ではないがYP分科会に所属し活動を始め、新たな人脈と環境を得ている。



skypeやLineといったInternetツールが充実し、海外の人たちとも比較的容易に関わることができる世の中であるが、現地の生活に浸り空気を直に感じるチャンスはなかなかないものである。

コンサルティング・エンジニアについては、言葉が解るとよりよい経験となるのは間違いないが、お互いが歩み寄ることで通じ合えることがたくさんあるのだと改めて実感する。そして、外国人と時間を共有すると日本のことを意外と知らないものだと思うし、多くの気づきを得た。

この研修をビジネスと直結させることは容易ではないが、長期的な継続と多くの人に参加し活動の場を世界へと広げる機会となるよう期待する。

## AJCEの海外調査活動



AJCE 理事 技術研修委員会委員長  
林 幸伸

### ■ AJCEの海外調査

AJCEではこれまで国際協力銀行（JBIC）、国際協力機構（JICA）、建設コンサルタンツ協会（JCCA）、全国上下水道コンサルタント協会（水コン協）等からの委託により、数々の海外調査を実施している。調査の内容は、FIDIC契約約款に関連が深い事項やコンサルタントおよびコントラクターの調達に関わる事柄であり、AJCEは会員企業のFIDIC契約に関わる知見やFIDICのネットワークを活用してこれら調査を実施した。過去10年間における実績は次の通りである。

年	調査内容（委託元）
2005 2006	海外におけるコンサルタントの選定に関する調査（JCCA）
2005	海外におけるデザインビルドの適用実態に関わる調査（JCCA）
2006	コンサルタント雇用の評価手順に関わる調査（JBIC）
2006 2010	片務的契約条件チェックリスト作成業務（JBIC/JICA）
2006 2007	海外の上下水道事業におけるデザインビルドの適用実態に関わる調査（水コン協）
2008 2009 2010 2011	アジア地域におけるDispute Board普及調査（JBIC/JICA）
2009 2010 2012	国際契約マネジメントセミナー（JICA）

本稿では、上記調査からいくつかを抜粋してその概要を報告する。

### ■ 海外におけるデザインビルド調査 2005年

日本国内ではまだなじみの薄い土木工事におけるデザインビルド方式の適用実態を、英国、豪州、米

国における関係機関（発注者、コントラクター、コンサルタント）からの情報収集とヒアリングにより調査した。これらの国々ではデザインビルドは既に一般的な調達方式として定着しており、Early Contractor Involvement (ECI)、Design -Build-Finance-Operate (DBFO)、Guaranteed Maximum Pricing (GMP)などの多様かつ先駆的なバリエーションが取り入れられていることが確認された。また、デザインビルドの利点と課題、コンサルタントの関わり方と留意点について考察を行った。

### ■ コンサルタント雇用の評価手順調査 2006年

発注者がコンサルタントを雇用する際の評価手順、体制や留意点を整理して体系化を行った。調査ではアジア地域の発注者との意見交換も行った。JICAはこの調査結果を参考として、「円借款事業におけるコンサルタント雇用の評価手順ガイド」を編纂している。

### ■ 片務的契約条件チェックリスト 2006年 2010年

FIDICの契約条件書は、プロジェクト毎に、そのプロジェクトの特性や要求事項を勘案して加筆・調整がなされ最終化されるが、原文にあるリスク配分の考え方が大きく変更され、請負者の負うべきリスクが過大となるような書換えが行われた場合には、以下のような問題を引き起こす原因となる。

- ① 入札価格の上昇
- ② 入札の不調とこれに起因する工事完成予定日の延伸
- ③ 誠実で有能な請負者の入札への不参加
- ④ リスクを適正に評価できない請負者の落札
- ⑤ 工事品質の低下や工期延長
- ⑥ 契約当事者間の信頼関係の低下
- ⑦ 契約上の根拠に乏しいクレームの多発
- ⑧ 契約当事者間の紛争状態の発生

⑨ 最悪のケースとして契約の途中終了

これらの状況はプロジェクトの円滑な実施を大きく妨げるものであり、発注者にとっても利益とはならない。本チェックリストは、契約の片務性を予防することを目的に作成された。チェックリストは、過去の円借款プロジェクトの事例などに基づいて作成され、FIDIC Red Book MDB版を対象として約50項目のチェックポイントが抽出された。本チェックリストはJICAのウェブサイトで公開されている。

■ **アジア地域におけるDispute Board普及調査**  
2008年～2011年

世界銀行やアジア開発銀行などの国際開発金融機関（MDB）の標準工事契約書では、2005年よりDispute Board（DB）の設置を義務付けている。また、JICAは2009年に工事標準入札書類を改定しDB設置を規定するFIDIC Red BookのMDB版を導入した。これに呼応し、JICAは2008年～2011年の4か年にわたりDispute Board導入・普及のための調査を日本工営・AJCE・京都大学の共同企業体へ委託した。調査の目的は、①円借款プロジェクト関係者にDBの機能・利点について理解を深めDBの利用促進を図ること、②アジア地域においてDBを構成するアジュディケーター育成を図ること、であった。調査を通して以下の成果が得られた。

1) **DB普及セミナーの開催**

インドネシア、ベトナム、スリランカ、フィリピン、バングラデシュ、インドおよび日本において、円借款事業実施機関、請負者、コンサルタント、法曹界、大学関係者を招聘してDB普及セミナーを開催した。DBの仕組みとその効果を解説するものであり、合計で14回のセミナーを行い1,100名を超える参加者を動員した。セミナーでは、DBの利点として以下3点が強調された。

- ① 紛争に対する迅速（84日以内）な裁定
- ② 仲裁の回避
- ③ 紛争自体の予防機能

2) **JICA DBマニュアルの作成**

DB利用者がDBの正しい機能および設置・運用方法を理解し、適切にDBを機能させることを目的に、事業費積算時のDB費用の見積り方法、アジュディケーター選定方法、DB設置後の現地訪問、支払い方法など、DBの運用に必要な一連の情

報をまとめた利用者マニュアルを開発した。このマニュアルは、JICAウェブサイト上で公開されている他、FIDICやDRBF（Dispute Resolution Board Foundation）の国際会議等の場で、DB運用に関わる基本的な文書として頻繁に参照されている。

3) **アジュディケーター・ナショナルリストの設置**

調査において開発したアジュディケーター研修キットの教育効果を確認するために、トレーニングワークショップ（5日間）とアセスメントワークショップ（3日間）を東京とマニラで開催した。ワークショップには日本、フィリピン、インドネシア、スリランカ、ベトナムからアジュディケーターを目指す約40名の方々が参加した。



アセスメントワークショップ風景

この成果を活用し、2014年7月現在、日本、スリランカ、フィリピンのFIDIC加盟協会が、アジュディケーター・ナショナルリストを設置するに至っている。（AJCEリストの詳細については、アジュディケーター委員会を参照）

■ **国際契約マネジメントセミナー**

2009年～2011年

JICA工事標準入札書類の理解を深めることを目的として、円借款事業実施機関の職員を対象とし、FIDIC 契約約款（MDB版）の研修セミナーを、日本、フィリピン、インドネシア、スリランカ、ベトナムで開催した。セミナーは、FIDICの研修モジュール（Module 1: Practical Use of FIDIC Contract、Module 2: Management of Claims and the Resolution of Dispute）を中核とした5日間のプログラムで構成し、約160名の方が参加した。

## COLUMN 海外調査 英国のパブにて

技術研修委員会 大山満弘

私は2006年に、「海外におけるデザインビルド (DB) 方式の適用実態に関わる調査業務 (海外調査)」に参加する機会をいただきました。本調査の対象国は、英国、豪州、米国の3カ国で、私はこのうち英国調査班に、藤江五郎AJCE事務局長 (当時)、建設技術研究所の加藤奈保美さんと共に参加しました。



調査は約1週間の短期集中スケジュールで、英国コンサルティング・エンジニア協会 (ACE)、コンサルタントやコントラクター数社、英国道路庁 (Highways Agency) 等へのインタビュー、関連資料の収集を主としたものでした。調査予定のスケジュールを消化し、明日は帰国という晩、「大山さんは英国は初めてですね。最後の晩ですから英国ならではのものを食べに行きましょう」と藤江さんにお誘いいただき、3人で宿泊先近くのパブに行きました。藤江さんが言われたように自分は英国を訪れるのは初めてだったので、パブのエールも、フィッシュ&チップスも、本場でいただくのは当然初めてです。前日まで翌日の調査に向けての準備等もあり、なかなかゆっくりと夕飯を楽しむという感じではなかったのですが、この晩はあわただしい現地調査を終えて何とか一息つけたこともあり、3人ともリラックスして会話も弾み、食事もお酒もおいしくいただきました。エールはビール的一种ですが、我々日本人が日常飲んでいるラガービールとは発酵のさせ方が違うそうです (ラガーは下面発酵に対し、エールは上面発酵)。エールはその発酵方法により、すっきりした味を特徴とするラガーよりも比較的複雑な香りと深いコクが特徴であると言われています。

その土地ならではの味覚に実際に触れる機会が得られるのも、海外現地調査の合間の楽しみの一つと思います。



英国でのDBの変遷について現地コンサルタントにインタビュー



左から、加藤さん、ACEのChief Executive、藤江さん、筆者



現地調査最後の晩、パブにて



## 倫理委員会のこの10年の活動について



AJCE 理事 倫理委員会委員長  
**澁谷 實**

倫理委員会が担う主たる責務は、倫理規則の運用と表彰に関する事案の取り扱いにあるが、近年企業の社会的責任に対する関心が深まり、公正管理システムが企業経営の根幹として重視されるようになってきた。更にFIDICが公正管理システム（Business Integrity Management System BIMS、現在はFIDIC Integrity Management System FIMSと称する）の構築を行い、企業及び構成するコンサルティングエンジニアの社会的責任も強く要請されてきたことから、倫理要綱の適正な運用と維持、そしてFIMSに代表される倫理要綱遵守の仕組みを会員企業等に啓発普及することにも範囲が広がってきた。

倫理要綱は、倫理委員会にて起草され、理事会の審議を経て平成17年4月12日第202回理事会で制定され、技術に立脚したコンサルティングエンジニアが広く社会に貢献する責任を明確にし、AJCE会員全員に趣旨を認識して戴き、公正の維持遵守に努める内容を網羅した。

しかし、残念ながらこの趣旨が徹底できないままに、元会員であった大手コンサルタントが各種不祥事により、平成20年に営業停止、さらには事業譲渡という事態を起こした。組織の一部の者による不祥事とはいえ、この事件への国内外からの業界に対する批判は厳しく、協会として会員及び会員企業に倫理要綱を徹底する必要性に迫られ、当該倫理委員会の啓蒙活動の重要性が一層増していることを認識する。AJCEの倫理要綱は、AJCE会報に掲載されているのみでなく、AJCEのホームページで公開され、会員各位への浸透を図っている。

### ■ 表彰

会長賞は、本協会の正会員として10年以上在籍し、かつ協会の発展、コンサルティングエンジニアの社会的地位の向上に顕著な功績のあった会員に授与される。会長褒賞は、本協会の正会員として5年

以上在籍し、主として実務的な実績を対象に、会長賞に準ずる貢献のあったものに授与するものである。名誉会員は永年にわたり協会の発展、コンサルティングエンジニアの社会的地位向上に特に顕著な貢献のあった会員が推挙される。（受賞者のお名前は巻末の資料集参照）

表彰式は、毎年5月に開催する定時総会にて行われる。



平成 26 年表彰式の様子

また、協会の40周年を記念して、永年、AJCEの会員として日本のコンサルティングエンジニアの発展に尽力された会員を対象に、AJCE創立40周年記念賞が授与された。（受賞者のお名前と授賞式の様子は42頁に掲載）

### ■ 公正管理システムインタビュー

平成17年から5年間にわたり、会員企業10社の公正管理システムのあり方と運用方法に関するインタビュー調査を実施し、各社のインタビュー結果をAJCE会報に紹介した。この調査結果を通して、経営トップのコンプライアンス維持への真剣な取り組み姿勢を感じ取って戴きたい。キーワードは、企業倫理、顧客満足、法令遵守、環境配慮、個人情報保

護が主体であって、会社と社員で共通の問題意識を持ち、企業活動の公正な運営に邁進することが肝要であることは言うまでもない。本活動のとりまとめは、当時の田中達吉委員長が中心となって行われた。

### ■ BIMSに関するアンケート調査

平成19年に、FIDIC公正管理システム（Business Integrity Management System BIMS、現在はFIDIC Integrity Management System FIMSと呼称する）に対する会員企業の理解を深めるとともに、AJCEが日本の状況をよく把握し、FIDICにフィードバックし、更に会員企業に詳細を開示する事を目的として、BIMSに係るアンケート調査を行った。調査対象はAJCE会員企業19社であった。本調査はBIMSトレーニングマニュアルに係るアンケート調査報告書としてまとめられた。日本のコンサルタント企業の典型的な姿を示すものではないが、本邦企業における傾向を示す資料となっている。

### ■ CSRインタビュー

平成22年より、会員企業のCSRインタビューを開始した。CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）は企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会に与える影響に責任を持たなければならない。これは2つの側面を持っており、一つは利害関係者に対して、説明責任を果たし、会社の財務状況や経営の透明性を高めるなど、適切な企業統治とコンプライアンスを実施し、リスクマネジメントや内部統制を徹底する活動を指す。すなわち我々が平成17年から行ってきた公正管理システム

の構築そのものを指し、これをアメリカ型と呼んでいる。もう一つはヨーロッパ型と呼ばれ、企業の未来への投資の一環として、持続可能な社会を実現するため、環境や労働問題などについて企業が自主的に取り組む活動を示すものである。倫理委員会は後者のヨーロッパ型CSRについて、インタビューを実施することとした。

平成26年4月までに9社にインタビューし、インタビュー結果はAJCE会報に掲載された。各社ともに企業行動規範を定め、的確に社内外に発信できているという印象である。本インタビューは平成26年度中に予定10社を終了し、CSR総括報告書を作成する予定である。

### ■ 倫理委員会の活動の方向

現時点の倫理委員会の業務は、

- 1 倫理要綱の運用及び維持に関すること
- 2 名誉会員及び会長賞受賞候補者の選考に関すること

である。コンサルティングエンジニアには個人及び組織としての高い職業倫理が求められており、倫理綱領の実質的な運用に当たっては、会員及び社会に対する倫理活動、情報発信が重要であると認識する。倫理委員会は、この認識に基づき次の3項目に力点を置いた活動を展開し、会員企業の将来の発展に資することを使命と考えている。

- 1 会員企業CSR（企業の社会的責任）活動状況の紹介
- 2 職業倫理に関わる事象の個別検討
- 3 名誉会員、表彰の選考事務

## 政策委員会 公益法人化とFIDIC100周年記念賞



前 AJCE 副会長 前政策委員会委員長  
宮本正史

### ■ 公益法人化

政策委員会の2005年度以降2013年度までの10年間の活動としては、AJCEの公益社団法人への移行認定申請とそれに伴う定款並びに諸規程の整備が最大のものであった。委員会として公益社団法人化への取り組みを開始したのは新公益法人関連法が施行された2005年度からである。この時の委員長は内村好氏であり、2006年度から2009年度までは友澤武昭氏、2010年度から2012年4月の公益社団法人移行までは宮本が委員長を務めた。足かけ7年間、3代の委員長が関わったことになる。委員は交代で入れ替わっているが、春公一郎氏は副委員長として、一貫してこの課題に取り組まれたことは特筆すべきことである。また、この課題には総務財政委員会に関わる事項が多々あり、当委員会との合同委員会が幾度か持たれたことも特徴的なことであった。両委員会の委員各位の尽力、膨大な資料作成、関係機関との煩雑な交渉等に尽力頂いた事務局に対し、この場を借りて感謝したい。

以下に公益法人化に向けての活動を時系列的に記す。

当初、改革の方向性は示されたものの、施行規則が公表されていないこともあり、公益法人の要件、定款改訂の内容等不明なことばかりであった。また、移行期限が2013年末と時間的余裕があった。そのため、活動としては情報収集から始め、公益法人協会主催説明会への参加、他協会からの聞き取りなどを行った。当時の最大の関心事は、AJCEが公益社団法人に移行すべきか、あるいは一般社団法人に移行すべきか、であった。公益社団法人を目指す方向ではあったが、利害得失等の詳細な検討は情報不足により、できなかった。

2007年になると、6月に関連3法案の公布、9月に「公益法人制度関係、内閣府令」の公布があり、

公益社団法人移行認定申請の際の要件等が徐々に明らかになってきた。これを受け公益法人協会主催セミナーや文部科学省の説明会が開かれ、これを通して内容の把握に努め、定款変更の方針を検討することができるようになった。9月には内閣府から、「公益法人改革政令」が公表された。制度改革の内容が固まりつつあったが、定款改訂の具体的な作業には未だ着手できない状態であった。実はAJCEでは、公益法人化に取り組む以前に、FIDIC定款の変更を受けて、AJCE定款変更の検討を行っており、原案を2004年に作成していた。しかし、公益法人改革の話題が生じたことにより、変更原案は棚上げとなっていた。

2008年4月「公益法人認定ガイドライン」が公表され、9月には公益社団法人と一般社団法人の差異が明らかとなり、実際の定款改訂作業が開始された。この時点でAJCEが公益と一般どちらの法人を目指すかの決定はなされていなかったが、いずれの法人であっても定款内容にそれほど違いがあるわけではないことが判明したからである。2009年は引き続き定款内容の審議を行い、公益、一般のいずれかの決定、定款変更の承認、移行認定、認可申請までのスケジュールを検討した。11月にはこれらの内容を含んだ「公益法人制度改革への対応」と称する報告書をまとめ、理事会に諮り承認を得た。定款変更は内閣府から提示されたモデル定款を参考に2004年作成の定款変更（案）の内容を反映させることから始められた。

2010年5月定時総会の承認を受け、申請手続きおよびそのスケジュール、定款変更のスケジュールが確認され、2011年2月の理事会での承認、5月定時総会での承認が計画された。同時に定款変更に伴う諸規程の作成について、必要規程の特定と作成担当の委員会が決定された。モデル定款で示された諸規

程のなかでAJCEには備わっていないものや改訂が必要なものが多数存在したからである。

予定通り、2011年4月の理事会、5月の定時総会の承認を経て、6月24日には公益認定等委員会への申請を行った。その後、同委員会の指摘事項の修正を行い、9月26日の臨時総会において修正定款の承認を受け修正案を提出した。2012年1月13日公益認定等委員会より内閣総理大臣宛てに、「公益認定基準に適合する」旨の答申が発表され、4月1日の登記をもって、公益社団法人への移行は完了した。公益社団法人への移行の検討を開始してから足かけ7年間に及ぶ作業が完了したのである。

### ■ FIDIC100周年記念賞

ここ10年の委員会活動として記しておかなければならないことに2013年FIDICバルセロナ大会におけるFIDIC100周年記念大賞の受賞が挙げられる。2013年はFIDICが創設されてから100周年に当たり、FIDICは100周年を記念して、世界各国の100年間の記念碑的なプロジェクトとコンサルティングエンジニア個人を顕彰することとした。対象は建築物・土木構造物などのプロジェクト部門とエンジニア個人部門で、加盟各国から公募し、審査のうえ、大賞を授与するものである。応募締め切りは2012年9月21日と発表された。我が国から応募すべき案

件および個人の候補の選定を委員会で検討した結果、①代々木競技場、②東海道新幹線、③久保田豊氏（日本工営創設者）の3件を応募することが理事会で決定された。

我が国から応募した3件はいずれも記念大賞に選定され、2013年FIDICバルセロナ大会において受賞の榮譽に浴することができた。我が国は大賞に相応しいものとして、各部門において1件を厳選して応募したのであったが、ある国などは各部門に数十件も応募し、多数の受賞を獲得していた。我が国も遠慮することなく、もう少し多数の応募を行うべきであったといささか反省したものである。

（大賞を受賞した3件の概要は70頁に掲載）

### ■ AJCE創立40周年記念事業

委員会の活動の最後を締めくくるものは、40周年記念事業の企画検討であった。2013年に記念事業の内容を検討し、

- ① 記念セミナー
- ② 祝賀パーティー
- ③ 40周年記念賞
- ④ 国際大会への若手技術者派遣
- ⑤ 記念誌の発行

を企画した。各事業の実施は2014年に発足した40周年記念事業実行委員会が統括した。

## 総務財政委員会



AJCE 副会長 総務財政委員会委員長  
永治泰司

### 1. 総務財政委員会の役割

総務財政委員会の役割は創立以来大きくは変わっていないが、公益法人改革等の出来事が発生する都度、必要な事項を企画、提案、審議等を行っている。

主なものは以下である。

- ・ 総会支援：毎年開催される定時総会の議案、運営等に関して審議及び理事会への上程（尚、最近10年では、法人改革に伴う公益社団法人への移行のための臨時総会も開催した）。
- ・ 事業報告書並びに事業計画書の作成：各委員会の当該年度の実績及び翌年度の計画を基に事業報告書並びに事業計画書を作成し理事会に上程。
- ・ 収支決算書並びに収支予算書の作成：各委員会の収支実績並びに収支予算を基に事務局経費等を加味し当該年度の収支実績及び翌年度の予算計画書を作成し理事会に上程。
- ・ 月次収支管理：年間予算に対し月次の収支報告を作成し理事会に報告。
- ・ 書籍単価の改定：為替レートを勘案して当該年度の書籍販売価格を決定し理事会に報告。
- ・ 各種規程の見直し及び新規作成：必要に応じ、規程、内規等の規程類を見直しまたは新規作成し理事会に上程。
- ・ その他事務局支援：稟議決裁の事務局起案に対する確認、小額支出の承認等事務局作業、発案等の確認支援。

### 2. 30周年後の10年間の主な活動

この10年で毎年実施している定例作業外での主な実施作業を以下に示す。

#### (1) AJCE会費の改定

AJCEは、2014年3月末現在、法人会員37社（個人会員177名）という小さな組織である。したがって会費収入も大きくはなく、2000年をピークにその後会員数が減少したこともあり、2002年からは、毎年赤字が続くようになり、2008年に会費の改定を行った。その後、収支ほぼプラスマイナスゼロでの運営ができています。

会費改定の考え方は以下のとおりである。

会費は、年会費と維持会費で構成されるが、2008年の改定では、経営規模の小さな会社の負荷を考慮し、維持会費を改定することとした。

旧会費での収支が2008年で年間マイナス500万円程度であったことから、概ね500万円の増額を行うこととし、維持会費の算定方法を従業員10名ごとに15000円、最大150万円とした。本会費改定提案は、2008年の総会で決議され、現在に至っている。

#### (2) 書籍販売価格の決定方法の改定

AJCEはFIDIC発行の契約約款等の書籍を販売しているが、原書は、FIDICが印刷販売しているものであり、それをAJCEが仕入れ、国内販売を行っている。そのため、為替レートの変動に伴う書籍の国内価格設定を毎年実施している。

書籍販売は、建設業の海外進出の拡大傾向等とあわせて、伸びが続いている。FIDIC書籍は、各種の契約関係の国際的な基準書となっており、海外プロジェクトに携わるエンジニアあるいはコントラクターにとって最低限理解しなければいけないものといえる。

#### (3) 公益社団法人移行に伴う各種規程の見直し

AJCEは2013年に公益社団法人へ移行したわけであるが、それに伴い定款を初め、協会の各種規程を改定・整備した。定款及び各種規程の整備は、政策委員会をはじめとする各委員会で分担し行ったもの

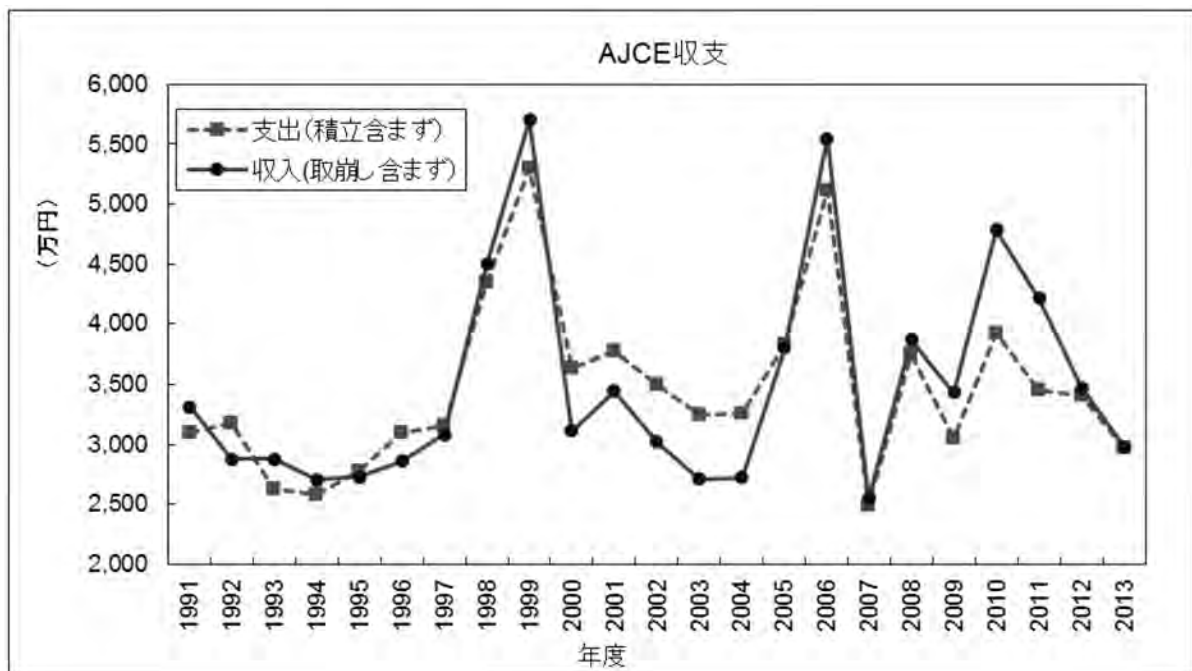


であるが、総務財政委員会では、経理規程、稟議規程等の総務関連規程、経理関連規程を分担した。

### 3. 今後の展開

我国の方針でも、Japanパッケージの輸出、建設関連業の海外進出等、今後ますますコンサルティングエンジニアが、海外で働く機会が増えていくことになると考えられるが、海外業務は、その国々の慣習、風習の違い、商取引のさまざまな課題、相手国

の政権交代による事業継続上の課題など、海外特有の問題に対処しなければならない。そのためには、様々な情報を収集し、AJCE会員に周知することが重要と考えている。AJCEは、今後も活動を活発にし、FIDIC及び国内関連団体とも連携し、会員の海外業務の支援をしていかなければならない。総務財政委員会は、直接的に情報収集を行うわけではないが、事務局を支援し、他の委員会活動を支援し続けることでその役割を全うしたいと考えている。



## 会員委員会



AJCE 理事 会員委員会委員長  
長谷川伸一

会員委員会の委員長は、2006年5月までは友澤武昭氏、2010年5月までは清水 慧氏、その後筆者が引き継いで現在に至る。30周年から40周年までの会員委員会の活動については、歴代の委員長在任期間を含めた活動記録について筆者が担当することをご了解願いたい。

### 1. 会員委員会の目的と委員構成

会員委員会のミッションは以下である。

- ① 会員資格に関すること
- ② 会員増強に関すること

また、主たる活動内容は、

- ① 会員入退会の審査
- ② 会員増強に関する検討

であり、40周年を迎える2014年5月に選任された会員委員会の委員は7名である。

### 2. これまでの10年間の活動概要

これまでの会員委員会の議事録をもとに、会員委員会の主な活動の概要を述べる。

#### (1) 会員の資格に関する事項

2005年5月～

- ・「技術士補」は企業内個人会員になるための資格でないとしつつも、AJCEへの貢献が大きい活動実績を有する人材の入会を認める細則（当時）改定が必要との問題提起が成された。
- ・ 会員条件として、コンサルティング部門の売上高を50%超を規定。

2006年5月～

- ・ 会員資格の「技術士」を「技術士またはこれに準ずる資格（以下“技術士等”という）」に置き換える。
- ・ 「技術士と同等の資格の認定の基準」を以下のとおりとする。
  - ① 一級建築士、建築設備士、環境計量士等。

- ② プロジェクトの法務または経済分析に7年以上の経験を有する者。
- ③ コンサルティングエンジニアの業務に関連のある分野の学位取得者。
- ④ 本協会活動を通じて卓越した力を発揮する実力を有すると認められる者。

- ・ 「FIDICの定款に沿った会員条件に配慮すること」を会員委員会の内規とする。
- ・ 「名誉会員が正会員の資格を保持することを妨げない」を追加。
- ・ ホールディングについて、「代表者は・・・持ち株会社の所属者を当てることができる。但し、2社以上の代表者を兼ねることはできない」を付記する。
- ・ 「普通会员資格を有する法人または団体は普通会员として入会することを原則とする」を備考欄に付記する。

2010年6月～

- ・ コンサルタントの会員の入会は賛助会員ではなく普通会员（当時）とすることを明示した。
- ・ 技術士等を保持しない若手の会員の入会が困難なため、公益社団法人移行に伴う定款変更において「準会員」の新設を検討したが、会員資格の「AJCEの活動への参加」という項目で対応可能であり、準会員の新設は不要であるとした。
- ・ 技術士と同等の資格要件に、弁護士、アジュディケーターを追加した。
- ・ この改訂により、当時賛助会員（個人）であった方々の個人正会員への変更手続きを行った。

#### (2) 会員増強に関する事項

2005年5月～

- ・ 新規入会企業にFIDIC契約約款を贈呈することが決められた。

2006年5月～

- ・写真つきの会員証を発行した。
- ・複数の大学に対して「コンサルティングエンジニアについて」のテーマで出張講座を実施した。

2010年6月～

- ・非会員企業への勧誘を強化した。
- ・大学への出張講座については技術研修委員会に引き継いだ。
- ・現在会員になっていない委員に会員になっていただくよう理事会に依頼した。
- ・会員証の有効期限が平成24年3月31日であること、平成24年4月1日に「社団法人」から「公益社団法人」に移行することから、すべての会員の会員証を更新することとした。

### 3. 社団法人から公益社団法人への移行と会員委員会の活動

2012年4月に「社団法人」から「公益社団法人」に移行することに伴う定款変更により、当時の細則と内規を「会員に関する規程」に一本化した。

公益社団法人への移行に際して会員委員会として特筆すべき改革は、これまでの会員規程の会員の資格を見直し、普通会员を法人正会員に、企業内個人会員を個人正会員（個人正会員は法人正会員の役職者を含む）、及び賛助会員に分類することとした。

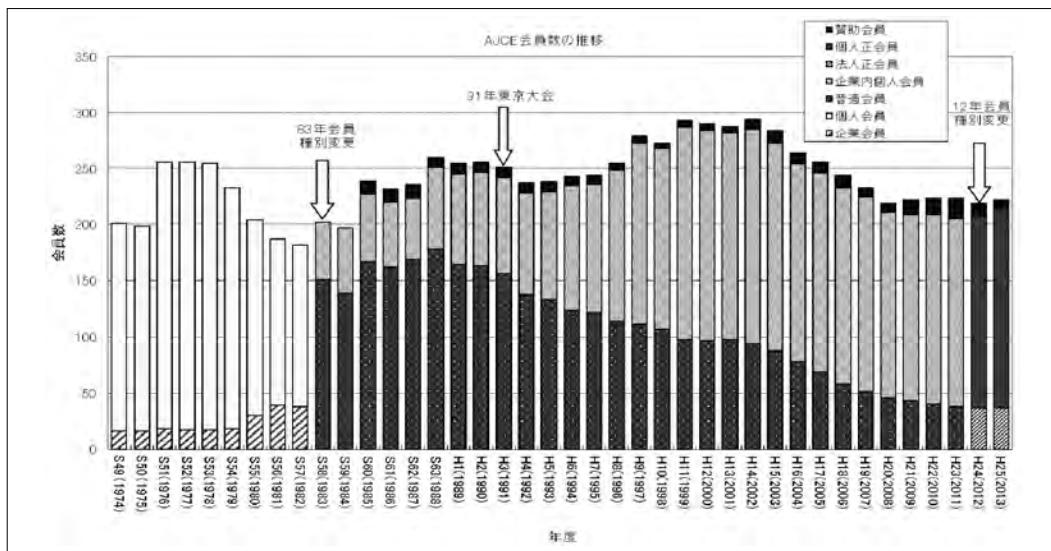
また法人改革にあたって本協会の英語名称の変更について検討したが、基本的に略称であるAJCEは

広く認められている呼称であることから変更しないほうが良いとの結論となった。更に名誉会員については定款に記載しないで、選考規程の中で「正会員には名誉会員の称号を与えることができる。ただし正会員を退会した場合でも名誉会員の称号を保持することができる」ものとした。

1974年（設立時）から2013年までのAJCEの会員数の推移は、以下の図に示す通りであり、2014年9月現在、法人正会員37社、個人正会員176名、賛助会員4社5名となっている。

現在、個人正会員は技術士やエンジニアを擁するコンサルタントに限定されず、建築資格を持った専門家、弁護士、アジュディケーター等の入会が増加し、協会活動の多様化、活性化が図れてきている。

今後のコンサルティング市場は、政府の成長戦略による経済活性化、社会資本の老朽化に伴う維持・補修・更新、東日本大震災以降の防災・減災対策に加え、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、今後、拡大していくことが予測される。また国内外業務のボーダーレス化を踏まえて、会員委員会は、海外業務を行う企業だけを対象とするのではなく、国内市場に従事する企業にも有益な協会であることを広報し、広く多様な協会活動について議論し、会員増強に努めていきたいと考えている。



# 国際活動委員会の10年 —海を渡る本邦CEの応援団として



AJCE 理事 国際活動委員会委員長  
**藏重俊夫**

## 1. はじめに

国際活動委員会は、2000年に発足して以来、約15年にわたる活動を行ってきたが、その方針はFIDIC活動との連携と支援で一貫しており、時勢に応じて設置する分科会でのFIDICと連携した活動成果によって、勇躍、海外展開していく本邦コンサルタントを支援することを旨としている。AJCEの30年史が発刊された平成17年以降の国際活動委員会は、同年に初代委員長の廣谷彰彦氏がAJCE会長就任を機に委員長を宮本正史氏に引き継がれ、その後、平成22年に著者が委員長を仰せつかっている。この約10年間の活動方針は委員長の顔が交代しても変わらないが、分科会はFIDICをめぐる世界的なテーマと我が国の事情を両にらみで眺めつつ、適宜改編してきた。

## 2. 分科会活動

現在の分科会は以下の4つで構成される。

- 契約分科会 (Contract Sub-Committee)、
- FP 分科会 (FIDIC Policy Sub-Committee)、
- CB 分科会 (Capacity Building Sub-Committee)、
- 契約管理者育成分科会  
(Contract Administrator Training Sub-Committee)

契約分科会は委員会設立当時からあるが、それ以外の分科会はすべてここ10年の間で新設された。各分科会の活動は次頁以降に報告する。尚、QBS分科会 (Quality Based Selection Sub-Committee) は、平成26年にFP分科会と統合したが、統合までの活動を、FP分科会と分けて報告する。

## 3. その他の活動

国際活動委員会では、FIDICからの意見照会に答えたり、世銀銀行、アジア開発銀行 (ADB) 等の国際機関へ我が国の立場から様々な意見を発信したりといった活動にも取り組んでいる。分科会からの報告と多少重複する部分も含め、ここ10年間での主なものを以下に紹介する。

- 平成16年、ADBがコンサルタントの調達を、品

質・技術による選定 (Quality Based Selection QBS) から品質・技術と価格による選定 (Quality and Cost Based Selection QCBS) へ変更したため、QBS堅持の意見書をADBとFIDICへ同時に提出し、FIDICの公式意見書へも数多く反映された。

- 同じく平成16年に、日本国内でのQBS普及を目的に、AJCE・建設コンサルタンツ協会 (JCCA) ・国際建設技術協会 (IDI) ・海外コンサルティング企業協会 (ECFA) の4協会連絡会を設立した。
- 平成19年、廣谷彰彦AJCE会長 (当時) がASPAC議長に就任し、AJCEがASPAC事務局を運営することとなったため、当委員会にASPAC分科会を設立し、ASPACのHPを立ち上げるなど、今日のASPAC活動の礎を固めた。(平成22年にASPAC議長が交代し、ASPAC事務局が他国へ異動したため、ASPAC分科会は解散した)
- 平成19年、世界18か国にQBSに関するアンケート調査を行い、QCBSへと移行しつつある現状に警鐘を鳴らした。
- 平成20年頃、建設産業の国外展開が声高に叫ばれるなか、契約約款の詳細な解説や契約管理者の育成の必要性に関する議論を開始。平成23年と平成25年のFIDIC Red Book MDB版解説セミナーの開催、平成24年以降の契約管理者育成セミナー定期開催へと繋がった。

## 4. おわりに

国際活動委員会は、数多くの委員の方の「本邦CEの海外での活動に少しでもお役に立ちたい」という素朴で純粋な矜持に支えられて今日を迎えることができた。しかしながら、多忙を極める業務の間をみて献身的な活動をされる委員の方のためにも、バトンを受け取り、次のステージへと歩を進める若手諸子の参加を心から期待するものである。

# 国際活動委員会 契約分科会



国際活動委員会契約分科会分科会長  
藤原亮太

## 1. 活動の趣旨

契約分科会（旧称：Contract Committee 分科会）は、FIDICの各種契約約款を会員に紹介する目的で設立されました。またAJCE会員の契約管理能力の向上も重要な活動の一つです。

具体的には、英語で書かれているFIDIC契約約款を翻訳して日本語版を出版したり、FIDIC契約約款に関連したセミナーを開催したりします。またAJCE内の契約管理に係る様々な事項について協力を行っています。

## 2. FIDIC契約約款

FIDICにとって契約約款の出版は重要な事業で、この契約約款は下記のように分類でき、各約款の表紙の色からRed Book、Yellow Bookなどと呼称されます。

### ■工事契約

- ・ Construction：建設工事（Red Book）
- ・ Plant and Design Build：プラント及び設計施工（Yellow Book）
- ・ EPC/Turnkey：EPC/ターンキー（Silver Book）

上記3種は1999年版が最新版です。

### ■工事・運営契約

- ・ Design, Build and Operate：設計・施工・運営一括方式（Gold Book）

### ■コンサルタント契約

- ・ Client/Consultant Model Services Agreement：発注者-コンサルタント間の契約（White Book）

## 3. 活動実績

### (1) FIDIC約款の翻訳

契約分科会が翻訳・出版した約款は次の通りです。

- 1) Red Book MDB版 2006年

- 2) Red Book MDB版 2010年

- 3) White Book 第4版 2006年

尚、契約分科会設立以前にも、幾つかの契約約款や関連書籍が日本語に翻訳・出版されています。



### (2) セミナー

契約分科会委員が講師となって、FIDIC契約約款の解説セミナーを開催しています。

2013年7月：

FIDIC Red Book MDB 2010年版の解説

（このときの資料を再編して「Red Book MDB版の解説」として出版しています。）

2011年9月：

Red Book MDB2006年版の解説

2007年7月：

Red Book MDB2006年版の解説

## 4. 活動の形態

FIDIC契約約款の日本語版の作成、解説資料の作成やセミナーの準備は分科会委員全員で手分けして行われます。しかしその作業量は多く、また契約に関する事柄であるので正確性、客観性が求められます。そのため十分な議論が必要であり、1～2ヶ月に1回の割合で分科会を開いてワーキングを行っています。出張先からビデオ・スカイプを利用した参加もあります。

分科会の前には、当日の検討部分を担当している委員が、資料を作成して事前に各委員に配布します。この「宿題」も委員にとって悩ましく、海外から、そして週末土日の夜あたりに配信されることも

多い様です。

この様に分科会の活動は大変ではありますが、なによりも委員自身の勉強になることが長く続けられる理由の一つだと思われます。（「（真の）理由は分科会の後の赤提灯である」という意見も有り。）

## 5. 分科会のメンバー

メンバーの出身・経歴は様々です。

契約管理の専門家や、法学部を卒業し建設工事に係る法務を担当してきた人もいます。一方で土木工学の各分野を専門としている人、営業を担当している人もいます。共通しているのは、海外での業務を担当する部署に在席していることでしょう。

また、分科会のメンバーではありませんが、FIDIC契約約款の日本語版作成にあたっては法律事務所の校閲協力を戴いています。（長島・大野・常松法律事務所、アンダーソン・毛利・友常法律事務所、他）



## 6. 今後の活動

現在は、Silver Book1999の日本語版を作成中で、2016年には出版の予定です。

この分科会の活動は、事務局をはじめ国際活動委員会や理事会などAJCE各位の御支援、分科会各委員の所属するAJCE会員企業各社の温かい御理解に支えられて成り立っています。この場をお借りして改めて御礼申し上げますと共に、今後とも宜しくお願い致します。

## COLUMN AJCE、FIDIC約款、そして日本人

元広報委員会 山田耕三

FIDICの契約約款という、これはまことに合理的にできた約款であり、なるほど、多くの事業で使われ、長い歴史を生きてきているものである。つまり、世界的に信頼された約款である。私は、広報委員会に携わっていた間に、このFIDIC約款の合理性や根本精神、発注者と請負者の対等性、契約書や金額明細書のあり方を日本の公共事業に導入しようではないか、という意見や議論に数多く触れた。たとえば、土木工事では、鉄をいれる前から全ての土質地質条件を十分正確に予見することは極めて困難である。そこでFIDIC契約では「予見不可能な物理的条件」という概念を導入し、これを即座に数量化し、契約変更という手続きを逐一とることなく精算すること、またそのために金額明細書の中に予備費という費目を設けておくことが定められている。これは請負者のキャッシュフローを円滑にし、入札価格の低減につながっている。私は、FIDIC約款の導入議論に触れるたび、「なるほど」「それはいい」と感じているが、当時の日本では、予備費なるものを契約書に導入することは、会計法の変更を要し簡単なことではないという話を聞いていた。



さて私は、広報委員会を離れてからインドネシアに来て、今まさに「契約管理」というエンジニアをしており、毎日FIDICの約款を片手に業務を行っている。時折日常の業務を離れて考えるのであるが、はたしてFIDIC約款の精神や合理性なるものが、日本社会に、あるいは日本人に合うのであろうか、と。やはり根本的な何か異なるようだし、多くの法律の変更を余儀なくされ実質困難ではないか、と。だが、最近異なる結論に行きつくのである。FIDIC約款の合理性の導入は、多分日本人にとってはたやすいことではないか。長く外国にいる私は、多くの外国人を目にするが、彼らの行動や考え方について日本人だったらこうするの、などと考えている内に、先の結論が次第に変わりこのようになった、と紙面の都合上説明する他ないであろう。日本人にとっては、FIDICの約款だろうと他の何であろうと、取り入れることに根本的な抵抗があるわけではなく、一旦取り入れようとなれば、たちまちの内に実現してしまうであろう。そんなスゴイところを日本人は持っている。最近つくづくこう考えるようになった。



## COLUMN MDB版翻訳 白熱する議論

国際活動員会契約分科会副分科会長  
鎗木孝治

我々契約分科会は月に1回という他の委員会にない頻度で集まり2~3時間にわたり飽くことなく作業（議論）を繰り返してきた。事務局の迷惑も顧みずに激論を交わした罰として、表記の議題について書くよう依頼されたのではと勘ぐっているが、何をそんなに騒いでいるのか、言い訳を兼ねて一端を紹介させて頂くこととした。AJCEでのFIDIC約款の翻訳はRed Book 1987年版から始まったが、過去の翻訳を見ると現在の我々の苦勞と同じ苦勞をしたことが想像される。特に用語などは、同一系統の英単語には同一系統の日本語で統一的に翻訳する意図を強く感じている。現在の当分科会の活動は、過去の巨大な成果を翻訳の基礎として大々的に利用しており、過去の成果の上に発展を重ねるという性格を色濃く有している。

現在の契約分科会の翻訳における基本的な方針は以下の通りである：

- ①同系統の英単語にはなるべく同系統の訳語を用いる
- ②それまでの英単語の翻訳を変えるには十二分に注意する
- ③翻訳はなるべく原文の構造と順序に沿って行う
- ④不明瞭なことは不明瞭に訳す

①は先にも述べたように全体の統一性を保持する上で有用であり、類似した単語を訳し分ける上でも重要と考えている。②は先達たちの苦勞を乗り越えるために必要不可欠である。③は、FIDIC約款は最終的には英語原文の確認が必要であるが、日本語訳が原文の理解に役立つよう、可能な限り原文の順番と構造を再現するという意図の表れである。④はかなりの検討を行っても意味が不明瞭な場合があり、この場合には正直にわからない状態に訳すというものであり、具体的な説明が難しいのだが次でもう少し説明を加えたい。

例えば「法35条によって罰せられないものと・・・」という文章は、通常日本語では二通りの解釈が可能である。一つは「法35条があるがゆえに罰せられない」であり、もう一つは「法35条によっては罰せられない（だが36条では罰せられる）」である。いずれの解釈が妥当かは、文法的には決め手を欠くが、全体の意味の整合性から決められることもある。内容が過去の事実の場合には意味の整合性から判断するのは比較的容易だし、なにより実務上の問題も少ない。これが将来に向けたFIDICの規定の場合には、このような判断が困難な場合がある。さて、先の文章を英語に訳すとどうなるか？“...shall not be punished by article 35...”。全く同じ不明瞭さが残ることがご理解いただけるかと思う。かくして翻訳作業における我々の甲論乙駁が始まる。幸いに全員が納得できる名解釈が出ることも多々ある。しかしどちらとも判断できない場合もある。この時には二通りの訳を兼ねた「法35条によって罰せられないものと・・・」と訳すこととなる。

契約分科会が遭遇する問題は手を変え、品を変えやってくる。それは一つ一つ丁寧に対処するしか術はない。それはAJCEの先達が築いた遺産に対する我々の貢献と信じている。現在、契約分科会ではSilver Book 1999の翻訳に取り組んでいる。かくして契約分科会の白熱の議論は止むことなく続くのである。

## 国際活動委員会 FP分科会 (FIDIC Policy:FIDICポリシー)



AJCE 理事 国際活動委員会副委員長 前 FP 分科会分科会長  
狩谷 薫

私が分科会活動に参加した2003年頃、FIDIC Policy (FP) 分科会は技術研修委員会に属し、第2分科会と呼ばれており、当時のFIDIC Sustainable Development Task Force (SDTF, 現在はSDC = Sustainable Development Committee) の活動をフォローし、その内容を研究しAJCE会員に広く周知することを主たる目的としていた。当時は山下佳彦氏が分科会長をしており、私を含めて7名の委員が参加していた。その後、私が分科会長となり、2014年に河上英二氏に分科会長を引き継いだFP分科会は設立当初、持続可能な発展と関連する環境問題を中心的な活動テーマとし、1) SDC作成の文書案に関して、意見を集約、提出し、我が国の事情を文書に反映してもらおう、2) 文書の内容を理解し、必要に応じて翻訳し、会員企業に伝えることを主な活動内容としていた。当初は山下氏がSDTFに参加し、その後は春公一郎委員と私が委員としてSDCに参加した。

2010年に国際活動委員会所属となり、同年に狩谷がFIDIC Business Practice Committee (BPC) 委員となったため、BPCをもフォローすることとなった。BPCはDefinition of Service (DOS) Guide、Guide to Practice (G2P)、FIDIC Client Awards、Quality Based Selection (QBS)、Design for Safety、Disaster Management等の多くのテーマを扱う委員会である。

以下に、SDC、BPCの動きと関連して、FP分科会のこの10年間の活動を総括する。

- ◆ 2002年にSDTFの発表した持続可能な開発に関連した文書、「Sustainable development in the consulting engineering industry - a unique capacity to address the priorities」を翻訳し、原本に添付して配布した。
- ◆ SDCが2004年コペンハーゲン大会で、プロジェクトにおける持続可能性を評価・促

進するためのガイド、「Project Sustainable Management (PSM) Guideline」を発表した。これを受け、本書の翻訳作業を行うと同時にその内容をAJCEセミナーで発表したが、その内容は途上国寄りで、具体的な活用方法が明確でないため、翻訳版に関しては内部資料に留めた。

- ◆ 長良川河口堰プロジェクトにPSMを適用してみた。PSMはPDCA (Plan:計画→Do:実行→Check:評価→Act:改善) サイクルを回し、持続可能性の向上を図るが、①如何に持続可能性を総合的に評価するのか、②長期に亘る土木プロジェクトでの評価指標の考え方、に関して検討した。検討結果は、2005年のFIDIC北京大会で春委員が、2008年のASPACソウル大会で狩谷が発表した。
- ◆ 現在PSMの改訂が進められており、当分科会は時々送られてくる改訂版案に関して、意見を提出している。
- ◆ 2010年より、FIDIC BPCの活動をもフォローすることになった。当時のBPCでホットなテーマはQBSであった。QBS関連の改訂文書案に関するレビューと意見提出をQBS分科会と共同で対応した。
- ◆ 2012年、BPCでは東日本大震災等の大災害を受け、Disaster Management Guideの作成に取りかかったため、当分科会の遠山正人委員がFIDICの作業部会メンバーとなり、我が国の状況を踏まえた意見を提出した。
- ◆ 2013年のバルセロナ大会でPSM Guidelineの第2版が発行されたのを受け、現在精読・翻訳を進めているFP分科会は、FIDICの方向性を会員企業に的確かつタイムリーに伝達する使命を有する重要な分科会である。FP分科会は、これを常に意識し、今後も活動を継続する所存である。

# 国際活動委員会 CB分科会 (Capacity Building:能力開発)



国際活動委員会 CB 分科会副分科会長  
深谷茂広

## 1. はじめに

CB分科会（Capacity Building Sub-Committee）は2004年に発足して以来、約11年にわたり、FIDICの能力開発に関する活動を行っており、2011年には、IFI分科会（International Funding Institutions Sub-committee）とBIMS分科会（Business Integrity Management System Sub-Committee）を統合して、現在に至る。CB分科会の分科会長は初代の桜井一氏から2011年に秋永薫児氏に引き継がれている。尚、IFI分科会長は寒川江武司氏から中嶋幸房氏に引き継がれ、また、BIMS分科会長は永治泰司氏から著者が引き継ぎ、CB分科会への統合に至っている。

この10年間のCB分科会はFIDIC Capacity Building Committee（CBC）の能力開発に係わる世界的なテーマに取り組みつつ、将来海外に渡る本邦若手コンサルティングエンジニア（CE）の能力開発の支援を行ってきた。

## 2. CB分科会活動

### 2.1 CB分科会（2004～）

FIDIC CBCの活動を本邦に紹介することを担当してきた。IFI分科会との統合後は、FIDICのニュース・年次報告の邦訳・会員紹介、若手技術者の海外業務に参考となる図書データベースの作成・改定を行ない、将来海外に渡る本邦若手CEの能力開発を支援する活動を行っている。また、FIDIC Integrity Management System（FIMS）の動向について情報収集し、紹介することも担当している。

### 2.2 IFI分科会（2004～2010）

IFI分科会は、国際開発金融機関とFIDICとの隔年会議（BIMILACI）の内容を国内に紹介することが目的で設立されたが、BIMILACIが休止となったため、FIDICニュースあるいは年次報告の邦訳と紹介、FIDIC 関係用語集の作成・改訂を行ってきた。

### 2.3 BIMS分科会（2006～2010）

BIMS分科会は、FIDIC Business Integrity Management System（BIMS）Task-Forceを支援するために設置され、BIMS（公正管理システム）をJBICセミナーで紹介した。また、Government Procurement Integrity Management System（GPIMS：政府調達における公正管理システム）を全文邦訳し、JICAで紹介した。

## 3. 分科会の主な成果

上記3つの分科会活動で生まれた主な成果を紹介すると、以下のとおりである。

- ・ FIDICニュースと年次活動報告の邦訳  
（本邦訳はAJCE会報とホームページに掲載している。）



FIDIC Annual Report 2012-2013

- ・ FIDIC関係用語集（英語と邦訳）の作成
- ・ 参考図書データベース  
（本データベースの電子データを希望者に配布している。）
- ・ GPIMS 1st Draft（政府調達における公正管理システム）の全文翻訳
- ・ Bribery Act 2010（2010年贈収賄禁止法）の概要版邦訳  
（本邦訳はAJCEホームページに掲載している。）

## 国際活動委員会 契約管理者育成分科会



国際活動委員会契約管理者育成分科会分科会長  
白谷 章

### ■ はじめに

海外プロジェクトの施工監理業務において、契約管理は最も重要な業務の一つであり、コンサルタント並びにコントラクター、さらに施主の契約管理能力がプロジェクトの成否を大きく左右する。当分科会は、海外プロジェクトの施工監理に従事する契約管理者の育成・能力向上を目的として2012年に設立された。主な分科会活動は海外プロジェクトにおける施工管理の初心者並びに実務経験者を対象としたセミナー・ワークショップの開催である。

### ■ 初心者対象セミナー

本セミナーでは海外プロジェクトの施工監理業務における契約管理の重要性とFIDIC契約約款の概要並びに契約管理の基本的な事例を紹介するプレゼンテーションを行っている。



第1回セミナーは2013年2月22日に開催し、コンサルタントの他、コントラクター、JICA、関連協会職員、弁護士事務所等から100名を越える参加者があり、契約管理の関心の深さが覗かれた。

第2回セミナーは2014年2月6日に開催し、前回の参加者の意見・要望などを参考に、事例紹介の一方的な講演だけではなく、参加者がグループに分かれて各々が議論し発表するといったワークショップも行った。このワークショップは、各自が意見を出し合い、討議し、さらに自分の管理能力レベルを確

認するといった点で非常に効果的であった。

引き続き、年に1回程度のペースで開催予定である。

### ■ 実務経験者対象ワークショップ

実務経験者対象ワークショップは25名ほどの海外プロジェクト経験者を対象に開催される。第1回ワークショップは2013年11月28日に開催された。本ワークショップでは、先ず、契約管理をする上での原則、クレームの考え方、さらにFIDIC Red Book MDB（国際開発金融機関）2010年版をベースにした工期延長（Extension of Time）、追加支払（Additional Payment）、変更（Variations）、クレームの手順、紛争解決手順などに係わる条文の解説を行い、更に理解を深めるために事例についてのグループディスカッションを行っている。

ワークショップも引き続き、年に1回程度のペースで開催予定である。



### ■ おわりに

本セミナー・ワークショップは、講師が一方的なプレゼンテーションを行うのではなく、受講者同士の議論により自分自身も考えることに重点を置いている。今後とも改善を重ねながら継続していく所存である。

# 国際活動委員会

## QBS分科会 (Quality Based Selection: 技術・品質による選定)



国際活動委員会 FP 分科会分科会長 前 QBS 分科会分科会長  
河上英二

### 1. QBS分科会の設立経緯

QBS分科会の前身であるQBS-タスクフォース(TF)は下記の背景から1年間を期限として設置された。

- ① 2002年4月からアジア開発銀行(ADB)が品質・技術と価格による選定(QCBS)を導入することになり、その適正な運用への働きかけが至急に必要になったこと
- ② 時を同じくしてFIDICがコンサルタント選定ガイドを作成中であり、このガイドの方針や内容が開発銀行や関係発注機関の選定方法に大きな影響力を有することが予想されることへの対応を図るため

1年の活動を経て、ADBへの提案や、FIDICガイドへのコメントなど緊急の対応は完了したが、コンサルタント選定に関する課題は、その実施状況をモニタリングしながら適切な運用に向かうようタイムリーな提案を行うことが必要と考えられた。そこで2003年4月、QBS-TFは、QBS分科会として国際活動委員会に設置、活動を継続することとなった。TFでの活動は、小林良明氏を座長として、遠藤信雄氏、畑尾成道氏、宮本正史氏と経験と頭脳をあわせ持ったメンバーに加え、石井弓夫FIDIC理事(当時)をアドバイザーとして、熱心に議論を重ねた。

FIDICでのQBSに関する活動は、FIDIC Business Practice Committee (BPC)が行っており、AJCE内でのFIDIC BPC活動のフォローはFP分科会が担当していることから、2014年QBS分科会の活動はFP分科会に統合した。

### 2. 特に印象に残った活動

QBS-TF及びQBS分科会の活動は、3.主な活動と成果に記すこととし、ここでは特に印象に残った活動を2点挙げる。

#### (1) 先進国のコンサルタント選定に関する海外調査 (2005年)

FIDICの会員協会(ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ)に協力をお願いし、発注機関や会員企業との意見交換を中心に調査結果を取りまとめた。各国とも快い調査協力に加え、会社内の見学や懇親会などの機会も設けていただき、FIDICの結束の強さを感じた。各国企業は日本企業と異なって、職場環境は快適(広く、明るく、活気がある)に見えた。また、価格競争の問題、QCBSの拡大、評価項目や価格の割合など、同じような課題を抱えていることに親近感と、一緒に力を合わせて変えていくのではといった期待を感じた。

#### (2) FIDIC コンサルタント選定ガイド(QBSガイド)等の和訳

国内外を問わず、「コンサルタントの選定は能力(技術力)に基づくべきである」といったポリシーを説明、解説している資料はFIDICのコンサルタント選定ガイド(QBSガイド)以外にはないと思う。選定のマニュアルや手順書はあるが、本書のようになぜそうしなくてはならないのかといった解説はほとんどない。

QBSのメリットは、

- ① QBSは発注者の評価や判断で企業を選定できること
- ② 選定までのプロセスで業務内容の理解が深まるだけでなく、発注者との合意のもとで業務が実施できること
- ③ さらに技術力が評価されるため、技術開発や技術力向上などのインセンティブが大いに働くこと

であると思う。

改めて、ガイドを読み直し、今後の普及活動にも活かしていきたいと考える。

### 3. 主な活動と成果

西暦	コンサルタント調達に関するトピックス	AJCE の活動
1972	米国：The Brooks Act 制定	
1997	世界銀行（WB）：QCBS 導入	
2000	日本：プロポーザル方式（QBS）の本格導入	
2002	アジア開発銀行（ADB）：QCBS 導入	<b>【QBS-TF 設置】</b> ・海外コンサルティング企業協会（ECFA）、国際建設技術協会（IDI）、AJCE の3協会共同で、コンサルタントの選定に関する懇談会を開催 ・上記3協会共同で、財務省との懇談会を開催、ADB に対する要望を提出
2003	FIDIC：「FIDIC Guidelines for the Selection of Consultants, First Edition 2003（QBS ガイド 2003）」を策定	<b>【QBS-TF 解散】【QBS 分科会設置】</b> ・QBS ガイド 2003 の策定過程で、AJCE としてのコメントを検討、作成、提案 ・QBS ガイド 2003 を和訳、普及
2004		・AJCE 年次セミナー「コンサルタントの選定はどうあるべきか？」を開催
2005	日本：「公共工事の品質確保の促進に関する法律（品確法）」施行	・品確法施行に先立ち、先進国の調達に関する調査を実施
2008	日本：総合評価落札方式（QCBS）本格導入	
2010	JICA：コンサルタント等契約における調達方法の見直しに着手	
2011	FIDIC：「Quality Based Consultant Selection Guidelines September 2011（QBS ガイド 2011）」を出版	・QBS ガイド 2011 を和訳、普及
2013	・FIDIC：「FIDIC Guidelines for Selection of Consultants, Second Edition 2013（QBS ガイド 2013）」を策定（2003 年版の改訂） 	・コンサルタント調達に関する世界銀行、アジア開発銀行への働きかけに関する会員企業調査を実施、会員企業の海外進出に関する意識や課題を把握 ・調査結果を会員企業へ報告 ・QBS ガイド 2013 を和訳（現在も作業中）、和訳完成後普及予定
2014		<b>【FP 分科会と統合】</b>



# 技術研修委員会 —コンサルティングエンジニアの能力開発と 人材育成—



前 AJCE 副会長 前技術研修委員会委員長  
**森村 潔**

## 1. 組織の変遷と活動方針

技術研修委員会は、2000年に当時の研修委員会と環境委員会を合併する形で発足した。発足当時は4つの分科会があり、

第一分科会：セミナー

第二分科会：FIDIC活動のフォロー

第三分科会：教育推進

第四分科会：若手活動及び日豪交換研修

と役割分担していた。

その後、2004年に分科会を下記3つに再編した。

FP分科会：FIDIC活動のフォロー

教育分科会：セミナー、教育促進

YPF分科会：若手活動及び日豪研修

YPF分科会は2006年に一度解散し、2009年にメンバーを一新、YP分科会と名称を変更して再結成された。FP分科会は2010年にその活動主旨を勘案して国際活動委員会へ異動した。教育分科会は2006年に技術研修推進分科会と名称を変更し、2014年にその活動を委員会全体で担うこととして解散した。

以上の組織改変を経て、2014年現在の技術研修委員会はYP分科会を傘下に以下の方針で活動している。

- (1) セミナー、講演会等を通じ、我が国のコンサルティングエンジニアの能力開発、国際化、ひいてはビジネス機会の増強を図る。
- (2) 海外交換研修、勉強会、FIDIC-YPF (Young Professional Forum) やASPAC-YPFとの連携等を通じて、若手技術者の育成と交流を図る。
- (3) FIDICの年次大会、各委員会活動等への参画を支援し、AJCEの地位向上を図る。

このうち、(2) 海外交換研修については、前述「日豪交換研修」に、(2) 勉強会、FIDIC-YPF (Young Professional Forum) やASPAC-YPFとの連携等を通じて、若手技術者の育成と交流は、後述「YP分科会」に譲り、本稿では(1) セミナーと

(3) FIDIC年次大会関連について記す。

## 2. セミナーの開催

技術研修委員会では、我が国コンサルティングエンジニアの能力開発や国際化を目的としたセミナーを年に1回開催している。テーマは、FIDIC契約約款・FIDIC出版書籍の解説やコンサルタントのリスク管理、国際展開などである。特にコンサルタントをテーマにしたセミナーを以下に紹介する。尚、AJCEが開催したセミナーの一覧を巻末の資料編に掲載している。また、各セミナーの報告は、AJCEホームページ (info@ajce.or.jp) で公開している。

### (1) 2005年11月

『コンサルティング・サービスの品質確保・向上にむけて』

平成17年(2005年)7月に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律(品確法)」では、公共構造物の品質確保の重要性が法的に規定された。これを受け、コンサルティングエンジニアに求められる品質とは何か、品質確保の具体策について、AJCE会員による講演とパネルディスカッションを行った。

### (2) 2007年11月

『設計・施工一括契約(DB方式)におけるコンサルタントの役割』

海外プロジェクトにおけるDB方式の適用が増加する中、日本の公共事業にもDB方式の導入が検討され、一部では試験的な適用が行われている。従来が発注方式で、設計を担っているコンサルタントがDB方式でどのような役割をするべきか、海外の事例を紹介し、パネルディスカッションを行った。

### (3) 2008年7月

『コンサルタント業務におけるリスクマネジメント』

海外プロジェクトにおいて、顧客がより大きな損害賠償責任をコンサルタントに課す傾向が強まって



いることや、PPP方式（官民連携）やデザインビルド方式（設計施工一括発注方式）等、リスクの高い契約方式の増加を背景に、法律家や保険の専門家を講師に招いて講演いただいた。

**(4) 2009年7月**

**『世界に飛躍するコンサルタント ―将来市場の展望―』**

新興国の発展や世界同時不況対策として実施される大規模な財政出動などにより、海外における社会資本整備の需要はますます旺盛になることが予想される。このような背景を元に、JICA審議役・大学教授・海外プロジェクト専門家に海外市場の現状と今後の展望を講演いただいた。

**(5) 2010年7月**

**『日本のコンサルタントは国際展開本格化にどう取り組むか ―海外市場で戦うために必要なものは何か―』**

前年のテーマを踏まえ、コンサルタントが本格的に海外へ出て行くために何をすべきか、コンサルタントの目指すべき姿について、AJCE会員によるパネルディスカッションを行った。



**(6) 2012年5月**

**『コンサルタントの国際展開 ―国際コンサルティング・エンジニア連盟 (FIDIC) 会長と共に考える―』**

世界の中での我が国コンサルタントの位置づけを

再確認し、今後益々世界に貢献するために何が必要なのか探るべく、FIDIC会長、国土交通省、JICA、AJCE会員がそれぞれ講演した。



**3. FIDIC大会報告会**

FIDICは年に1回秋に年次大会を開催しており、AJCEからも毎年多くの会員が参加している。FIDIC大会で議論されるテーマは、その時々の世界の潮流を反映したものであり、その内容は日本のコンサルタントにも非常に重要である。そこで、技術研修委員会では、FIDIC大会に参加したAJCE会員にFIDIC大会のセミナー・ワークショップの内容を報告いただく、報告会を開催している。同時に報告内容はAJCE会報に掲載している。

**最後に**

日本においては残念ながら未だ“コンサルティングエンジニア”という職能が一般社会において認知されていない。しかし一方、AJCEが日本を代表して加盟しているFIDIC (International Federation of Consulting Engineers) の存在感が、海外で建設プロジェクトに携わる企業のみならず、国土交通省、国際協力機構 (JICA) をはじめ国内建設業界の中で日を増して拡く認識されるようになってきたことは喜ばしい。

当技術研修委員会では、我々日本のコンサルティングエンジニアが、海外において仕事を行っていくにあたって必要な契約管理からリスク管理までのマネジメント力、コミュニケーション力、等々の更なる能力開発を目的として、セミナーを開催してきた。毎回の企画に加えセミナー司会と奮闘いただいた金井恵一前副委員長、毎回のようにセミナー講師にて活躍いただいた林幸伸前副委員長（現委員長）のお二人のご尽力に、深く感謝するものである。

# 技術研修委員会 YP分科会 (Young Professional) 誕生と飛躍 そして 未来へ



技術研修委員会 YP 分科会分科会長  
赤坂和俊

## ■ 誕生 (Birth)

2009年12月、YP分科会はメンバーを一新して再スタートした。分科会再スタートにあたり、著者が分科会長を仰せつかった。

### ～YP分科会の目的～

- ① 海外市場で活躍できるコンサルタント技術者の育成のため、FIDIC/ASPAC活動への参加等を通して、若手技術者の研修及び国内外の若手技術者のネットワークづくりを行う。
- ② 学生をはじめとする若者がコンサルティング業界への関心と興味を高める活動を行う。

中々の大風呂敷である。以下では、分科会の再スタートから2014年夏までの約4年半の活動とそれに伴い拡大するネットワーク、そして今後について、初代分科会長としての本音を交えて語る。

※文中の人名はページ数の関係から失礼ながら全て敬称を略させて頂いた。了承頂きたい。

## ■ 活動目標 (Goal)

1. FIDIC/ASPAC-YPF を通じた情報収集、海外YPグループとのネットワークづくり
2. FIDIC NEWS、FIDIC発行情書等を通じた海外情勢の研究
3. 技術者間のネットワークづくり（懇談会、勉強会の実施）
4. 日豪交換研修の運営支援
5. サイトビジット等の（中・高・大学生）就学者対象のイベント企画・開催
6. 若手CE関連の広報・HP 運営
7. YPアワード等の若手による協会活動の活性化
8. CE職業紹介の支援

当初の活動目標はこうである。

## ■ 飛躍 (Jump)

### 2009年12月～2010年（1年目）

YP分科会設立検討会に集められたクルーは、中島隆志、宗広裕司、渡津永子、そして筆者の4名であり、かなりの不安を覚えつつ、筆者が分科会長に就任することとなった。大風呂敷のわりにクルーが少ない。早速人材を募り、森永友貴、今井学、中村秀親、矢神卓也、甲斐慎一郎の精鋭が招集され、2009年12月の理事会において設立が正式承認された。9人での船出である。時に、波荒れ狂う年度末の出来事である。本格出港は春までお預けである。

2010春、激しい船酔いを何とかうっちゃり、クルーが一堂に会し、話し合った結果、すでに活動中のFIDIC/ASPAC YPF関連活動及び翻訳活動の継続に加え、AJCEとして依頼を受けていた大学出張講座の運営を担うこととなり、YP分科会はついに出港した。夏には手塚誠、北野知行の新たなクルーを迎え、「夜会」という名の若手の交流会（いわゆる飲み会）を開催し、大いに盛り上がった。



夜会 2010

その後、宗広の代わりに野澤誠、澤部純浩の2名が参加してさらに活動が活性化し、初年度の活動が無事終了、各自の荒波に戻って行った。当初から3倍の12名のクルーとなり、ネットワークが順調に広がっていることに喜びを覚えたことを思い出す。出会いは人を大きくする。

### 2011年（2年目）

各自年度末恒例の荒波を乗り越え、春に再会した。2年目の活動には日豪交換研修運営が新たに追加された。また、長田太宗、筈瀬明日香、花原英徳の3名が参加し、15名体制での運営となった。心強いクルーと共に行く海原は何とも言えない。しかし、予定していた日豪交換研修は東日本大震災の発生により中止を余儀なくされた。

多くの出会いがあり、少し成長できたことを感じつつ、皆もそうであればと願う。

### 2012年（3年目）

3年目は、前年開催できなかった日豪交換研修の運営に若手の活動報告会「YP大賞」の開催が新たに追加された。クルーは甲斐、中島に代わり原田拓也と満倉真が加わり、昨年同様15名体制での運営となった。

YP大賞には8社、43人が参加し、非常に内容に富んだ発表会となった。開催前は隔年での実施を考えていたが、好評につき翌年も実施する方向で検討することとなった。



YP大賞 2012

日豪交換研修では、11名の豪州研修生を受け入れ、特にYP分科会として最終日のヤングサミットを開催した。実を言うと、この時期筆者はかなり多忙な時期であり、司会・進行という重い役割を花原、澤部、筈瀬の3名に丸投げした（押し付けた）のである。この場を借りて謝罪と感謝を述べたい。

3年目の活動は参加人数が多く、さらにネットワークが広がったことを実感した。また分科会設立から3年が過ぎ、当初感じていた不安はほとんどなくなっていることに気づく。一人の力は小さくとも、集まれば大きな力になることを再認識し、人の



日豪交換研修 2012 ヤングサミット

つながりの大事さを思う。

### 2013年（4年目）

4年目は、女性CEの交流会の開催、AJCEフットサル大会が、新たに追加された。クルーとして安達理央太、松尾隆が加わり、また、甲斐が委員に再就任して18名体制での運営となった。

この女性CE交流会は、まだまだ男社会である本邦CE業界を考える上で大きな試みであった。このイベントはYP分科会の紅二点、渡津と筈瀬が担当し、男性クルーは完全沈黙のサポート役に徹した。次回は男性クルーの意見も交えた交流会になるとさらに面白くなりそうである。



女性 CE の交流会 2013

また、夜会から派生したフットサルを通じた交流会は言葉による表現ではないネットワーク形成の形であり、魅力的なコミュニケーションツールの一つである。

その後、今井にかわり井村修二、金子拓史、高木沙織、深谷正史、福澄浩恒、増田淳の6名が加わり、YP分科会は総勢23名の大所帯となった。

この時期筆者は、国内事業部から海外事業部へ異動となり、YP活動への参加が大きく制限されるこ

とが予想されたため、分科会の舵を取る副分科会長を矢神、澤部に依頼、快諾頂いた。

## 2014年（5年目）

5年目は、伊丹由紀子が新たに加わる一方、原田、長田、中村、増田、森永が巣立ち、19名の心強い仲間と共に新しい試みに挑戦中である。ただし、この時点で筆者は長期海外出張中であり、実質的な舵取りは、矢神、澤部の両副分科会長に依っている。

本邦CEを紹介するためのHP作成は大きな試みの一つであり、学生やCEを知らない一般の方への情報発信のツールとして非常に有益である。また、現場見学会の実施は、他CE企業間での情報交流見学会の場としては大いに期待でき、他の仕事を垣間見る重要なイベントである。



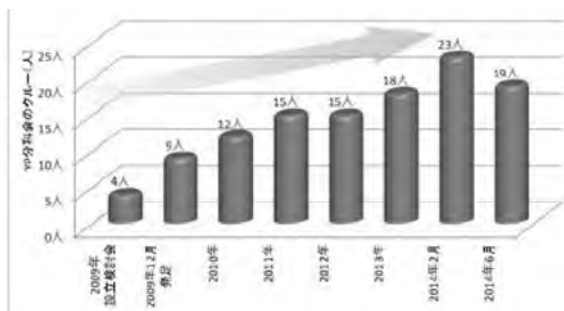
現場見学会 2014

現在、筆者はYP分科会の活動にほとんど参加できていないが、その活動状況をメールや委員会報告を通じて目を見ると、非常にワクワクが広がり、共に活動しているような錯覚を覚える。

## ■ YPメンバーとYP活動の変遷

YP分科会のクルーとその活動の変遷を示す。

### 【YP分科会クルーの変遷】



4人から始まったこの分科会が、今や19人もの大所帯となり、当初掲げた大風呂敷も、この4年半でしっかり風を捉え、帆を広げ、さまざまなサポートを受け、ぐんぐん推進力を上げて進んでいる姿がイメージできる。

## ■ 未来へ (To the Future)

YP分科会は、YPにとってのネットワークを構築するツールの一つである。今後もその位置づけは変わらない。そして、最もその恩恵を享受できる立場にるのがYP分科会のクルー自身である。

筆者は、YP分科会長という役割を通じて、すでに昔YPの年齢となった今でさえ、この状況を活用し、多くのネットワークを構築できている実感を伴って、感動し、感謝している。なんてラッキーなんだ！と。

しかし、その場がなくなっては意味をなさない。AJCE YP分科会という場が存続し続けることを切に望んでやまない。そのための協力はおしまない。

YP分科会で構築されたネットワークは、いわば「利害のない関係でできたネットワーク」である。そのすごさを10年後、20年後に味わうことになる信じている。そんな出会いを我々は経験し、そのつながりを大切にすべきである。

いくつかの忘れられない出会いがあればなお良い。

## ■ さいごに

AJCE 40周年という区切りに、YP分科会というこれからのCE業界を支える若者のための場が構築されている素晴らしさ、そして、その初代分科会長に就け、皆と素晴らしい時間を共有できた偶然に感謝したい。

筆者は海外事業部に異動したことはすでに既述した。そのため、そろそろYP分科会長を退き、若手に任せたいと考えている。もちろん、許されるならば、今後もその活動には関われば幸いである。最後に、これまで支えて頂いた方々にこの場を借りて謝辞を述べたい。本当にありがとうございました。

COLUMN

ボールでつながる・広がるネットワーク  
～AJCEフットサル大会～

技術研修委員会 YP 分科会  
安達理央太



自分自身の余計な(?)一言で当初想定していなかった作業が発生し、自分の首を絞める。仕事ではよくある話だが、どうやら仕事以外でも同じらしい。AJCE主催のイベントについての話し合いの最中、「フットサル大会でもやりましょうか(夜会アンケートの回答にそのような希望があった)」と、ごく軽い気持ちで発した提案のおかげで、冬の寒空の下を駆けずり回るハメになってしまった。記念すべきAJCE主催フットサル大会(通称:AJCE杯)の第1回目である。発案から実現まで約1ヶ月。時期は12月初旬。ご存知の通り、年末～年度末にむけて非常に忙しくなる時期である。さらに夜の屋外コートなのでかなり寒い!ただ、このような状況にもかかわらず38名(6チーム)もの方々に参加していただけたのは救いだった。間の悪いことに運営側の人手が少なく、試合の呼びかけや結果の記録、メンバーが足りないチームへの対応など、文字通り「駆けずり回って」いた。いろいろと段取りが悪く、あるべき配慮も行き届かず、さらには「疑惑の判定」等々、終了後の宴会が始まるころには軽く落ち込んでいたものの、参加者の方々には思いのほか好評だった(栄えある第1回優勝チームは「長大JV」!)。

これに気を良くして(調子によって)開催の運びとなったのが翌年5月の「第2回AJCE杯」である。参加人数は前回は大きく上回る77名(8社10チーム)であった。これに対応するため運営側も人数を確保し、前回の反省を活かしながら事前準備を入念に行った。その甲斐あって当日の試合運びも非常にスムーズに進み、大きなケガ等もなく無事大会を終了することができた。優勝チームは「ゲシュペンスト(日水コン)」。これにまた気を良くして(調子によって)、大会後の美酒に酔った勢いで「フットサル大会を年2回開催する」と放言してしまった。まさに、この稿の冒頭に戻る流れである。

このような顛末はさておき、「スポーツ交流」について一考する。最大の魅力はやはり、老若男女関係なく、仕事とは違う次元で「アツくなれる」ことだと思う。同業である他社チームにも、対戦相手として闘争心が燃えこぞすれ、「商売敵」として見る目線はない。このような、会社の垣根を超えた活動を継続・拡大していくことで、AJCEが目指す「コンサルティング・エンジニア業界全体の発展」に一役買うのではないかと大きなことが頭に浮かんだりしている。最後に、多大な協力をいただいたYP分科会の皆様、参加者の皆様、および懐の深いAJCE事務局に感謝の気持ちを述べて拙稿を締めたい。



第2回大会参加者とAJCE杯



# 技術交流委員会

## —異種技術者の交流—



AJCE 理事 技術交流委員会委員長  
田中 宏

### 1. はじめに

プロジェクトの多くは複数の専門分野によって成り立っており、異なる分野の技術者の相互理解がプロジェクトを円滑に進める上で非常に重要である。このため、多様な専門分野を会員に持つAJCEに異種技術者の交流の場を設けることを目的として、1987年に技術交流委員会の前身である「業務開発委員会」が設置された。

技術交流委員会は、2000年にこの業務開発委員会を改名する形で発足した。改名後も設立当時の異種技術交流の意思を引継いでおり、現在の委員の専門分野も鉄道、原動機、産業機械、構造、化学と多岐にわたる。

このように多様な専門分野のコンサルティングエンジニアがともに活動できる場を提供できるのは、AJCEがFIDIC加盟協会としてコンサルティングエンジニアのあらゆる分野の会員を持つからである。

### 2. 技術交流委員会の基本方針

現在の技術交流委員会の基本方針は下記のとおりである。

- ・ 異種技術交流の活発化
- ・ 国際コンサルティング活動の促進、支援
- ・ コンサルティングエンジニアの資質向上と業務開発

この基本方針のもと、2ヶ月に1回程度の割合で委員会を開催し、各専門分野の情報交換・意見交換を行っている。

### 3. 技術交流セミナー

技術交流委員会では、定例委員会の成果を内外に発信するため、年に1回、技術交流セミナーを開催している。講師は当委員会委員のほか、AJCE会員以外にもお願いしている。以下に最近のセミナーのタイトルとプログラムを示す。下記プログラムからも、当委員会活動の多様性がご理解いただけるだろう。

#### 2009年11月

##### 『最新技術と省エネ』

- ・ リニアメトロ電車（大江戸線）の開発と現状
- ・ 電力潮流と揚水発電
- ・ 地球温暖化防止に有効な省エネ関連技術
- ・ 環境マネジメントシステムによる経営改善のポイント



休憩中 講演者と議論する参加者

#### 2010年11月

##### 『事故から学ぶ：安全化技術と伝承』

- ・ 自宅で出来る地震予知—電磁波ノイズ検出システム—
- ・ 「もんじゅ」ナトリウム漏洩事故は防げなかったか—高速炉開発と技術の伝承—
- ・ エレベーターの安全化対策—死亡事故から学ぶ—



## 2011年11月

### 『建設・エネルギー分野における安全化技術とリスク対策』

- ・ 再生可能エネルギーの可能性と課題
- ・ 空前の建設バブルとリスク対策（ドバイのDesign-build）
- ・ 事故事例の分析と安全技術－電気・ガス・石油機器を中心として－
- ・ 活性炭を使用した排ガス処理



花岡浩委員  
「再生可能エネルギーの可能性と課題」を講演

## 2012年11月

### 『鉄道・環境・上下水道及び交通分野における技術者のイニシャチブ』

- ・ 開発コンサルタントから見た国の盛衰
- ・ 生物多様性と環境経営
- ・ 鉄道における早期地震警報の変遷と今後の展開
- ・ トコトン環境にやさしい大江戸上下水道



澁谷實副委員長  
「開発コンサルタントから見た国の盛衰」を講演

## 2013年11月

### 『エネルギー・災害対策・鉄道分野におけるトピック』

- ・ 総合災害対策－ハードとソフトの融合－
- ・ シェールオイル及びシェールガス
- ・ インド貨物専用鉄道
- ・ 風力発電



田中宏委員長  
「風力発電」を講演

技術交流委員会及びそのセミナーでは、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災と続く大災害に対するエンジニアのあり方、そして福島原子力発電所の事故発生の問題点、その後の自然エネルギー開発についても議論された。これらは建設、機械、電気、応用理学、環境、原子力などの各分野のエンジニアが交流を通じて今後も真剣に取り組むべき課題である。

海外のコンサルティング市場でも、鉄道の建設や再生近代化では、総合技術監理、建設、土木、電力、信号通信、車両、運転ダイヤ、環境などの多くの分野のエンジニアが集まって受注する。日立製作所のように鉄道事業そのものを一括して受注するケースもでてきた。このように、複数の専門が絡み合う事業では、エンジニア実務や事業経営の経験者が重要な役割を担う。

いつか、FIDIC大会で、多くの専門家が集まる技術交流委員会の活動を報告したいとの夢を持っている。

こういった技術交流に関心をお持ちのエンジニアの参加をお待ちしている。

# 広報委員会



AJCE 副会長 広報委員会委員長  
**瀬古一郎**

## 1. 活動内容

広報委員会は、AJCEや会員の活動、FIDICやFIDIC 会員協会の活動、FIDIC出版物の紹介などを行ってきた。

活動内容としては、

- ① 広報に関する企画の検討と立案
  - ② 会報誌の発行
    - ・日本語版会報 年3回発行
    - ・英語版ニューズレター（NL） 年1回発行
  - ③ ホームページ（HP）の管理・運営
- 最近の活動は下記のとおりである。

### (1) 広報の企画・立案

- ・会報の志向性：平成18年（Vol.30）頃から、読まれる会報を目標に掲げ、AJCEとFIDICとの連帯、若手コンサルティングエンジニア（CE）の活躍に直結するような記事を志向。
- ・会報配信先：平成24年から逐次拡充。

### (2) 会報誌の発行

- ・表紙デザイン：NLについては平成18年（Vol.28）から、会報については平成22年（Vol.34）からAJCEやCEをイメージできるデザインに変更。
- ・読者アンケート：平成22年11月と平成25年7月に実施。
- ・電子配信：会員からのペーパーレスの要望を踏まえ平成23年（Vol.35）から実施。

## (3) HP

- ・日本語版HPを平成17年に、英語版HPを平成18年に改訂。会報・NLを公開。

## 2. 日本語版会報誌 「AJCE会報」

会報は、巻頭言や寄稿、行事や委員会報告、会員の近況報告などを通して、AJCEの活動を会員に伝え、会員相互の情報交換の一助となるものである。また、FIDIC会長来日（平成20年）、東日本大震災（平成23年）、公益社団法人移行（平成24年）、FIDIC100周年（平成25年）、AJCE40周年（平成26年）というような、その時々的重要事項をとりあげアーカイブする役目を担っている。

平成20年は年4回、それ以外は年3回発行してきた。発行時期は、平成20年以前には夏・冬・秋・新年・春が混在したが、平成21年以後は夏・秋・新年の年3回に固定されている。

また、会報は会員向けというだけではなく、関係機関や一般の人々へもコンサルティングエンジニアについて理解して頂けるように、配布先の拡充、AJCEホームページでの公開などを進めている。現在、会報の印刷部数は約200冊（会員140冊、発注機関・関係協会等60冊）、PDFでの配信先は約400件（会員・会員企業社員340件、発注機関・関係協会関係者等60件）である。

表 最近10年間の会報の特集

年度(西暦) 年度(元号)	2004 H16	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	備考
Vol.	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
No.1	特集／各委員会委員長就任報告	(特集なし)	(特集ではないが、各委員会委員長就任報告あり)	特集／座談会 2006年FIDICフタバベスト大会を読み解く(後半)	特集／社会を明るくしようー若い技術者に夢を・未来をー	特集／技術力によるコンサルタンの選定ーFIDICとAJCEのあゆみー	特集／Sustainability 会外での事業機会を探るー	特集／海外展開とAJCEの新たな役割(座談会)	特集／若者よ、世界にはばたこう!	特集／今あらためてFIDICー創立100周年を機にー	特集／AJCE創立40周年	7月(夏号)に発行。ただし、Vol.32のみ4月発行(春号)。
No.2	特集／FIDIC大会報告 (コペンハーゲン大会)	特集／FIDIC大会報告 (北京大会)	特集／FIDIC大会報告 (フタバベスト大会)	特集／FIDIC大会報告 (シンガポール大会)	特集／AJCEを知るーAJCEとは何か	特集／FIDIC大会報告 (ロンドン大会)	特集／FIDIC大会報告 (ニューデリー大会)	特集／FIDIC大会報告 (ダボス大会)	特集／FIDIC大会報告 (ソウル大会)	特集／FIDIC大会報告 (ハルセロナ大会)	(H26/11月発行予定)	11月(秋号)か12月(冬号)に発行 Vol.35、No.2には東日本大震災報告 Vol.37、No.2には創立100周年記念大会
No.3	特集／日豪交換研修報告	特集／日豪交換研修報告	特集／座談会 2006年FIDICフタバベスト大会を読み解く(前半)	特集／日豪交換研修報告	特集／FIDIC大会報告 (ケベック大会)	特集／日豪交換研修報告	特集／日豪交換研修報告	特集／東日本大震災からの復旧復興	特集／日豪交換研修報告	特集／日豪交換研修報告	(H27/1月発行予定)	Vol.33以後は1月発行(新年号) Vol.32は11月発行(秋号)、Vol.31以前は1月～4月発行(新年号～春号)。
No.4					特集／日豪交換研修報告							Vol.32のみ1月(新年号)発行した。

■ 特集／FIDIC大会報告

■ 特集／日豪交換研修報告

(1) 特集

特集の内容を表にまとめた。最近では、夏号で特別企画、秋号でFIDIC大会報告、新年号で日豪交換研修を取り扱っている。

AJCEとFIDICとが連帯するメリットを認識でき、若手CEにも興味を抱いて頂き、読まれる会報を目指して、次のような企画を進めてきた。

- ・ 座談会：若手や理事クラス別に3回実施 (Vol.30-3、Vol.31-1、Vol.32-1、Vol.35-1)
- ・ QBSなど選定方式 (Vol.33-1)
- ・ 海外展開 (Vol.34-1、Vol.35-1)
- ・ 若者育成 (Vol.36-1)

(2) シリーズ

過去10年間のシリーズを図に示した。

- ・ 委員会活動関係：3件（会員企業のコンプライアンス、CSRインタビュー、一口辞典）
- ・ FIDIC関連：5件（海外のCE企業、FIDICを知る、FIDIC契約約款、FIDIC会員協会の紹介、新刊紹介）
- ・ 業務や会員の紹介：4件（こだわりの会員、海外だより、CEのプロジェクト奮闘記、プロジェクト紹介）
- ・ ODAや発注機関関連：1件（JICAなう）

FIDIC出版物の紹介やAJCE会員の紹介をはじめ、プロジェクトの紹介や海外プロジェクト奮闘記、JICAなう、など、読んで面白い内容、業務に役立つ内容を取り入れてきた。

平成22年と25年に会報の読者アンケートを実施した。その結果を踏まえ、読者のニーズに配慮しつつ広報活動の充実に努めている。

3. 英語版会報誌 「AJCE NEWS LETTER」

現在、毎春450冊をAJCE会員、FIDIC本部、各国

加盟協会（約100協会）、国際開発金融機関等に配布している。AJCE会長による巻頭言、内外の関係者の寄稿やAJCE理事らの所感、AJCEの活動報告、AJCE会員企業のプロジェクト紹介、AJCE会員名簿などを掲載しており、AJCEの取組みを世界へ発信する役目を担っている。

平成23年（Vol.32）には東日本大震災の速報を、平成24年（Vol.33）には震災1年後の経過報告を行った。表紙もVol.28以後、赤富士、障子のモチーフ、暁とカルタのモチーフへと変遷し、日本らしいデザインに配慮してきた。

4. ホームページ

ホームページは、平成17年に日本語版を、平成18年に英語版を改訂・新装した。この間、事務局とともにHP管理のあり方などを検討してきた。

コンテンツとしては、AJCE紹介、AJCE活動報告、FIDIC出版物紹介と販売、FIDIC活動の紹介、紛争裁定委員会（DAB）の紹介とアジュディケーターAJCEリストの掲載、AJCE入会案内などがある。

また、ホームページからは、AJCE会報とAJCEニューズレター、FIDICニュースやFIDIC年次報告（英文、和訳文）を閲覧／ダウンロードできるようになっている。FIDIC大会の紹介や申込みページへのリンクなどを含め、FIDICにおける日本代表機関としての役割を担っている。

5. 委員会活動

広報委員会は年間5回開催を予定し、必要に応じ臨時にも開催してきた。今日まで数多くの委員が参画し、国内外を問わず業務多忙に係わらず、企画・検討に多大な尽力と熱意を頂戴した。この場を借りて謝意を表したい。

図 最近10年間の会報のシリーズ（平成26年7月まで）

シリーズ名称	開始年月 ～ 終了年月	回数	2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		担当委員会		
			元号	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	西暦	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012		2013	2014
			Vol.	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	No.	1	2	3	1	2	3	1	2	3		1	2
会員企業のコンプライアンス	2005/1～2010/7	11回		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	倫理委員会		
海外のCE企業	2005/1～2010/7	5回		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	倫理委員会		
FIDICを知る	2007/7～2009/7	4回																							国際活動委員		
FIDIC契約約款	2008/1～2010/1	3回																							国際活動委員		
こだわりの会員	2010/1～2011/11	6回																							国際活動委員		
FIDIC会員協会の紹介	2009/7～現在	14回																							国際活動委員		
海外だより	2009/7～現在	15回																							国際活動委員		
CSRインタビュー	2011/1～現在	9回																							国際活動委員		
AJCE一口辞典	2013/7～現在	4回																							国際活動委員		
新刊紹介(FIDIC書籍の紹介)	2013/7～現在	2回																							国際活動委員		
JICAなう	2013/11～現在	3回																							国際活動委員		
CEのプロジェクト奮闘記	2014/1～現在	2回																							国際活動委員		
プロジェクト紹介	2014/1～現在	2回																							国際活動委員		

○:シリーズ(記事あり) □:シリーズ(記事なし) ⊙:単発(シリーズ外)

## COLUMN 協会誌に彩りを添えて

元 AJCE 事務局員 元広報委員会  
大和美穂

私が事務局員を務めておりました平成18年2月、それまでモノクロで刊行されていたAJCE NEWS LETTERを、FIDIC会員の他国協会誌に倣って全頁カラー化することが決定いたしました。予算が限られていた中で、表紙デザインをどうするかという議論になった時、当時の私の上司でありました藤江五郎事務局長の「やってみたら」という温かい励ましのお言葉に背中を押され、私が担当させていただきました。それまでデザインや絵の勉強など何もしたことがないままで素人の分際ではありましたが、当時の広報委員会で活発に議論し出された様々なアイデアをヒントに、デザインツールソフトをかじりつつ、ほとんどそのソフトの機能を頼りに、広報委員会と事務局の皆様を支えて頂きながら、どうにか見様見真似で表紙の形にすることが出来ました。

そうして最初に刊行されたのが、いま見るのも恥ずかしくなるくらい下手な「赤富士」の表紙でしたが、それでも会員の皆様、さらにはFIDIC加盟協会からも、「誌面が読みやすくなった」「明るくなった」「カラーで目立つので、手に取ってみようという気になる」などのお言葉を頂き、ほんのちょっとしたことでも、見た目のイメージ、色彩の影響力というのは、このような協会誌にとってはたしかに一つの大切な広報的要素なのだとならためて感じました。その後、NEWS LETTERに続き、国内会員向けの会報表紙もカラー化することが決まり、こちらも担当させていただく機会を頂きました。

毎号、会員の皆様からお寄せいただく貴重な原稿を基に、幾度もの校正を施し、たくさんの段階を経て、やがて一冊の冊子になっていく、その根気の要る緻密な編集作業は広報委員と事務局の方々のお力あってこそそのものです。皆で様々なテーマやアイデアを絞り出し、思いを結晶させ、一冊の協会誌を作り上げることは、大変ですがやり甲斐に満ちた、喜び溢れる作業です。そこに一寸の彩りを添えるお手伝いができたことをとてもうれしく思い、感謝しております。これからも微々力ではありますが、お手伝いが出来れば幸いに思うと共に、今後、協会がますます発展していくことをお祈り申し上げます。

(大和氏がデザインした表紙の数々は写真集に掲載しています)

## COLUMN 広報委員として

広報委員会 小林正樹



「簡単な仕事だよ。決まっている議案について、コメントすればいいだけだから。」

これが前任者から引継ぎを受ける際に言われたセリフである。当然、そんな軽い気持ちで上野のAJCE事務局を訪れてみると、自分より遥かに年上の諸先輩がずらり。自己紹介もさっと終わり、話題の中心は「AJCE30年史」の企画・編集へ移り…。おやっ、そんな話は聞いていないなと振り返る間もなく、次回作業日が指定されて…。

今思えば、AJCE広報委員として初期の頃は驚きの連続だった。海外業務経験もなく、FIDICが何かも知らない中での委員会参加、きっと他の委員の方々にはご迷惑を掛け放しだったと思う。そんな中、厳しくかつ温かく指導してくださったのが、佐久間襄副委員長(当時)である。103~104頁の広報委員会の活動報告を見ていただくとお分かりになると思うが、2006年No.2(夏号)までは特集記事といってもFIDIC大会か日豪交換研修の報告しかなかった。しかしそれ以降は、「FIDICブタベスト大会を読み解く」に始まり、「社会を明るくしよう」「若者よ、世界にはばたこう!」などの若手を鼓舞する企画や、「技術力によるコンサルタントの選定」「海外での事業機会を探る」など日本のCEが抱える諸課題をタイムリーに取り上げる企画などが採り上げられるようになっている。これらの企画検討にあたっては広報委員内で熱く議論を重ねた(時には夜にまで及んで)が、その口火を切っていたのはいつも佐久間副委員長であったのは間違いない。



広報委員会の様子  
右列奥から2番目が佐久間副委員長(当時)

その佐久間副委員長が我々に対し常に言い続けていたのは、「若者が夢を持たなくてどうするのか。未来は自分たちで創っていかねばやってこないぞ。」という趣旨の事だったと思う。ともすると、輝かしい実績に満ちている諸先輩の前にして引き気味になっている我々(私だけか?)に、喝と励ましを送り続けてくれていたのだと、この歳になって実感しているところである。

気がつく自分より若い広報委員も増えてきた。そんなメンバーに、40周年の先に向けて何を伝えていけば良いのか、委員会の度に頭を悩ませている。

## アジュディケーター委員会



アジュディケーター委員会委員長  
野崎秀則



アジュディケーター委員会副委員長  
林 幸伸

### ■ アジュディケーターとは

アジュディケーター（Adjudicator、裁定人）とは、FIDICが1999年に発刊した3種類の工事契約約款（通称Red Book、Yellow Book、Silver Book）、およびRed Bookを国際開発金融機関用に編集したMDB版に規定される紛争裁定委員会（Dispute Board、以下DB）を構成する裁定人である。

1999年以前のFIDIC約款では、通常コンサルタントがその役を担う「エンジニア」が発注者及び請負者間の紛争の解決を図ってきた。しかしながら、エンジニアは発注者との契約関係にあるため十分な中立性を確保できない可能性があるとの意見が高まり、1999年より契約上の紛争を第三者であるDBに付託するというプロセスが導入された。

1999年版契約約款のアジュディケーター導入に合わせ、FIDICはアジュディケーターの登録制度を立ち上げ、そのリスト（FIDIC President's List of Approved Dispute Adjudicators）を公開しており、契約当事者がアジュディケーターを探す際の手助けとしている。FIDICは3年に1回程度の頻度で試験・審査を実施しており、FIDIC President's Listには2014年6月現在約60名のアジュディケーターが登録されている。

### ■ アジュディケーター育成の必要性

世界銀行やアジア開発銀行などの国際開発金融機関（MDB）は2005年にその標準工事契約書にFIDIC MDB版を採用し、国際協力機構（JICA）も2009年の標準入札書類改定でMDB版を導入した。さらに、これら援助機関は土木工事以外のプラント用約款や小規模工事の約款にも2012年以降は紛争解決の標準プロセスとしてDBを採用している。このように、国際プロジェクトにおけるアジュディケーターの需要は近年飛躍的に高まってきているといえる。

FIDICは、President's Listだけでは増加するアジュディケーター需要に対応することが困難となってゆることが予想されることから、加盟協会に対して独自のアジュディケーターリスト（National List）を設置することを推奨しており、そのための支援も提供している。

### ■ AJCE アジュディケーター検討会

このような背景から、AJCEは、日本版アジュディケーターリストの作成と、日本人アジュディケーターの輩出に向けて、2010年（平成22年）8月に「アジュディケーター検討会」を設置し、日本でアジュディケーター試験・審査を実施する際のルール作り、アジュディケーターリストの運用・管理のルール作りを行った。

アジュディケーター検討会は「アジュディケーター試験審査規程」「アジュディケーターAJCEリスト規程」の作成をもってその任務を終え、以降の活動を常設委員会であるアジュディケーター委員会に引き継いだ。

### ■ AJCE アジュディケーター委員会

2011年2月、下記を活動目的とする常設委員会アジュディケーター委員会が発足した。

- ・ アジュディケーターAJCEリストの登録・管理
- ・ アジュディケーター試験・審査の実施
- ・ アジュディケーター普及促進

#### (1) アジュディケーターAJCEリストの登録・管理

AJCEは、2010年12月にJICAがトレーニングキットの有効性の検証のため実施したワークショップの参加者に対し、「アジュディケーター試験・審査規程」に基づく合格証を発行した。また、「アジュディケーターAJCEリスト規程」に基づき、前述ワークショップの合格者のAJCEリスト登録の準備を進



め、2011年5月にAJCEリストの運用を開始、公開した。2014年7月現在で10名の日本人アジュディケーターが登録されるに至っている。

AJCEリストはアジア初のNational Listであるが、今後、日本人アジュディケーターの方々が円借款事業を始めとする数多くの国際プロジェクトで活躍されることが期待される。



## (2) アジュディケーター試験・審査の実施に向けた検討

アジュディケーター委員会では日本でのアジュディケーター試験・審査の実施に向けた準備を進めている。アジュディケーター試験・審査の応募要件にはFIDIC契約研修 (Module1,2,3) の受講が必須となっていることから、日本国内でFIDIC契約研修を開催するなど、現在は試験・審査の応募対象者の拡大に努めている。

## (3) アジュディケーター普及促進

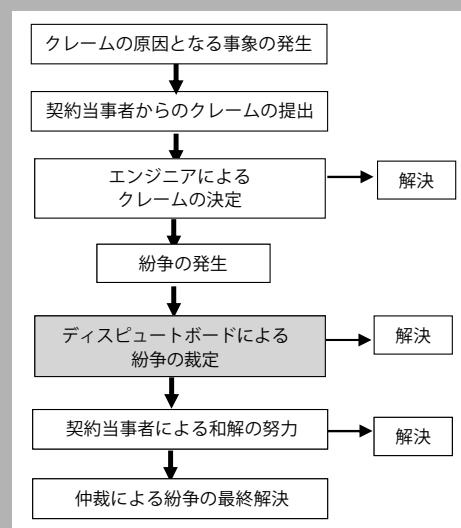
インフラプロジェクトへのディスピュートボードの導入は、多くの便益や効果があるが、未だ契約関係者への理解が不十分で、コスト負担に対する抵抗感は依然として根強く、啓蒙活動を継続する必要がある。また、アジア地域内におけるアジュディケーターが少ないことも普及に向けた課題となっている。

アジュディケーター委員会は、AJCE会報への寄稿やセミナー開催などを通じて、ディスピュートボードの普及に努めている。

## ■FIDIC 約款における紛争解決のプロセス

請負者が追加コスト若しくは工期延長の権利を有すると考える場合、そのクレームはエンジニアに提出されエンジニアはその決定を行う。また、クレームは発注者から提出される場合もあり、その決定はやはりエンジニアに委ねられている。契約当事者がエンジニアの決定に不服がある場合に紛争となり、紛争はディスピュートボード (DB) に付託され、DBは84日以内に裁定を下す。その裁定は、裁定に対する不服が宣言され次のステップである和解や仲裁により覆されない限り、契約当事者を拘束するという効力を有している。

ディスピュートボードは工事契約後すぐに設置され、アジュディケーターは契約書や行程表、図面、当事者からの報告などからプロジェクトを熟知し、3~4ヶ月に1回程度、現場に出向き、プロジェクトの進捗状況をチェックする。問題になりそうな状況があれば、仲裁に発展する前の現場レベルで対処し、紛争を未然に防いだり、早期に解決することで、仲裁費用の削減や工事遅延を最小限に抑えるメリットが期待できる。



## ■アジュディケーターの選定方法

ディスピュートボード (DB) は1名又は3名のアジュディケーターからなる。3人制DBの場合は、発注者と請負者のそれぞれがアジュディケーターを推薦し、もう一方の当事者の合意を得る。契約当事者に選定された2名のアジュディケーターが、議長となる3人目のアジュディケーターを提案する。発注者と請負者、双方の意見が反映される合理的な選定方法である。



# 第6章

## 資料集

## AJCEのあゆみ

1913(大正2)

### FIDIC設立



FIDIC : International Federation of Consulting Engineers 国際コンサルティング・エンジニア連盟設立

あらゆる技術分野を包含し、かつ独立・中立の立場を保持する各国コンサルティング・エンジニア協会を会員とする世界的に権威のある連盟

1974(昭和49)

### AJCE設立



1974年4月26日 任意団体『日本コンサルティング・エンジニア協会』として設立  
設立当時 個人会員：185名 企業会員：16法人

「施工業、製造業及び販売業との関係で中立の立場を保持するコンサルティング・エンジニアの職業倫理を確立するとともに、これらのコンサルティング・エンジニアの業務の発展をはかり、もってわが国科学技術及び産業の発展、社会の福祉、国民の健康及び安全の増進並びに海外との経済・技術・研究協力の促進に寄与することを目的とする。」（設立時の定款より）

1974(昭和49)

### FIDIC加盟

1974年10月1日 FIDICケープタウン大会FIDIC総会にて、AJCEの加盟が承認される

1975(昭和50)

### FIDIC加盟記念大会



左：田中宏 AJCE 会長  
右：オルソン FIDIC 会長

年月日：1975（昭和50）年10月14日

会場：ホテルオークラ別館

FIDICオルソン会長 フライリング前事務総長 出席

オルソン会長は日本メディアの取材に対し次の通りコメントした。「コンサルティング・エンジニアは政府・施行業者等から独立し、責任と品位を保持しなければならない。日本のコンサルティング・エンジニアは非常に高い能力と極めて強い基盤を持っていると承知している。日本のFIDIC加盟によりアジア地域には大きな力が加わった。」

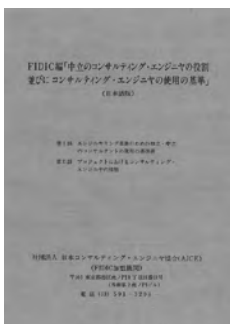
1977(昭和52)

### AJCE社団法人 承認

科学技術庁（現文部科学省）に社団法人として承認される

1982(昭和57)

### AJCE 5周年記念事業『中立のコンサルティング・エンジニアの役割』刊行



邦訳『中立のコンサルティング・エンジニアの役割並びにコンサルティング・エンジニアの使用の基準』刊行

コンサルティングエンジニア（CE）業務の基本的な重要事項であるCEの役割CEの業務などについて、FIDICが各国の英知を結集してまとめたもの。CEが各種のプロジェクトにおいて適切な役割を果たす上での基本的事項が述べられている。

## 1984(昭和59) FIDIC-AJCE合同セミナー 『海外建設プロジェクトの入札手続』



日時：1984（昭和59）年10月2日 13：00～17：00  
会場：学士会館本館 講師：P.O.Miller FIDIC会長  
セミナー開催に併せてAJCEでは邦訳版『建設工事の入札手続ガイドライン』を刊行

## 1988(昭和63) FIDIC-AJCE合同セミナー 『FIDIC Red Book Yellow Bookの解説』



日 時：1988（昭和63）年4月25日 9：00～17：00  
26日 9：00～17：00

会 場：京王プラザホテル  
講 師：Albert H. Campbell氏 Dan W. Graham氏  
Michel Mortiner-Hawkins氏 K. B. Norris氏  
1987年に刊行された『FIDIC土木建設工事契約条件書（Red Book 4th ed.）』『FIDIC電気および機械設備の契約条件書（Yellow Book 3rd ed.）』の解説セミナー  
セミナー開催に併せてAJCEでは邦訳版を刊行



## 1989(平成元) 第112回FIDIC理事会 東京開催

期 間：1989（平成元）年6月9日～10日  
会 場：京王プラザホテル  
出席者：Steven Gentry FIDIC会長 森村武雄FIDIC理事・AJCE副会長 他  
FIDIC理事会は年3回開催され、そのうち1回はFIDIC年次大会にあわせて開催され、残り2回は理事出身国にて、それぞれ持ち回りで開催するのが慣例となっている。FIDIC史上初めて東南アジアでの理事会開催となる

## 1989(平成元) FIDICセミナー コンサルタントの社会的使命と役割

日 時：1989（平成元）年6月8日  
会 場：京王プラザホテル  
講師及び講演内容：  
『コンサルタントの選定と評価』 S.E. フリックマイヤー FIDIC会長  
『政府機関とコンサルタントの関係』 S.C. ジェントリー FIDIC副会長  
『FIDICの沿革と現在の行動目標』 G.H. コーツ FIDIC理事  
FIDIC理事会東京開催に併せて開催

## 1991(平成3) FIDIC東京大会 『Harmonization between Man and Environment』

期間：1991(平成3)年9月15日(日)～19日(木)

会場：京王プラザホテル

FIDIC加盟50カ国(当時)のうち約40カ国から合計650名(うち日本人220名)が参加



Gentry FIDIC 会長(左から2番目)と  
AJCE 役員



FIDIC 総会の様子



プログラム

## 1991(平成3) FIDIC-AJCE合同セミナー『FIDIC White Bookの解説』



日時：1991(平成3)年9月19日 9:30～16:30

会場：サンケイ会館

講師：Godfrey Lloyd Ackers氏 Mark Griffiths氏 Paul Julian Taylor氏

1991年に刊行された『FIDIC 発注者/コンサルタント間の標準役務契約条件書(FIDIC White Book)』の解説セミナー セミナー開催に併せてAJCEでは邦訳版を刊行

FIDIC東京大会に併せて開催

## 1997(平成9) FIDIC-AJCE合同セミナー 『能力に基づくコンサルタントの選定』



日時：1997(平成9)年7月29日 13:30～16:15

会場：アルカディア市ヶ谷

講師：William D.Lewis FIDIC会長

FIDIC『Quality based selection for the procurement and consulting services』の刊行を受けFIDIC-AJCE合同セミナーを開催

AJCEでは邦訳版『能力に基づくコンサルタントの選定』を刊行

## 1999(平成11) FIDIC-AJCE合同セミナー 『New-Red Bookの解説』 『ISO14001』



日時：1999(平成11)年11月2日

9:30～17:00

会場：サンケイ会館ホール

講師：Dr. Marshall Gysi FIDIC専務理事

P. L. Booen 改訂版執筆主査 他

1999年に刊行された『FIDIC建設工事の契約条件書(New-Red Book)』の解説セミナー セミナー開催に併せてAJCEでは邦訳版を刊行



## 2002(平成14) 『アジア開発銀行のコンサルタント調達におけるQCBS導入問題に関する要望書』



アジア開発銀行（ADB）のコンサルタント調達において、品質・技術と価格による選定（QCBS）が導入されたことを受け、(社)日本コンサルティング・エンジニア協会、(社)海外コンサルティング企業協会、(社)国際建設技術協会の3協会（いずれも当時）はQCBS導入に関する懸念を表明し、ADBへ入札結果のモニタリング実施などの要望書を提出。同時に財務省国際局へもQBSの適宜適用と、QCBSの入札結果のモニタリングを指導いただく様、要望書を提出。FIDIC会長はADBを訪問し、QBS維持を訴えた。

## 2003(平成15) 第3回世界水フォーラム FIDIC会長来日 技術重視を提言



日時：2003（平成15）年3月17日

会場：京都国際会館

AJCE-FIDIC共催セッション『持続的で安全な水供給及び洪水制御システム』

基調講演：Pedersen FIDIC会長

モデレーター：Kawaguchi 前FIDIC理事

共催セッションでは最終日の閣僚会議の資料としての提言を行い、この提言に盛り込まれたキーワード「能力開発」、「技術移転」が閣僚宣言に反映された

Pedersen FIDIC会長は国土交通省幹部と会談し、「コンサルタントの選定は技術中心にするべきであり、その後、価格面の協議をすべき」との考えを明らかにした

## 2004(平成16) 第157回FIDIC理事会 東京開催

期間：2004（平成16）年5月18日～19日

会場：Pacific-House

出席者：Richard Kell FIDIC会長 石井弓夫FIDIC理事・AJCE会長 他

## 2004(平成16) AJCE 30周年記念シンポジウム 『新たな価値への挑戦 —真のパートナーとしてのコンサルティングエンジニア』



日時：2004（平成16）年5月20日 13:00～17:30

会場：ルポール麹町 エメラルド

講師及び講演内容

Richard Kell FIDIC会長：世界のコンサルティング・エンジニアが当面する問題に対応した戦力について

Gregs Thomopoulos FIDIC理事：米国ブルックス法の歴史的背景やコンサルティング・エンジニアが専門職業として確立した過程  
シンポジウムに併せてFIDIC理事会が東京で開催された

2005(平成17) パンフレット  
『先進諸外国におけるコンサルタントの選定方法』を作成



AJCEと(社)建設コンサルタンツ協会、(社)海外コンサルティング企業協会、(社)国際建設技術協会の4協会は、アメリカ・イギリス・フランス・ドイツの先進4カ国におけるコンサルティング・エンジニア選定方法を調査し、各国で採用されている「技術力を重視する選定方法(QBS)」を紹介するパンフレットを作成

2012(平成24) AJCE 公益社団法人へ移行

公益社団法人へ移行  
協会名を『公益社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会』に変更

2012(平成24) 第181回FIDIC理事会 東京開催



期間：2012(平成24)年5月9日～10日  
会場：泉ガーデンコンファレンスセンター  
出席者：Geoff French FIDIC会長  
廣谷彰彦FIDIC理事 他

2012(平成24) FIDIC-AJCE共催セミナー コンサルタントの国際展開  
ー国際コンサルティング・エンジニア連盟(FIDIC)会長と共に考えるー



日時：2012(平成24)年5月8日 13:30～17:00  
会場：ル・ポール麴町 ロイヤルクリスタル  
講師及び講演内容：  
『FIDIC創立100周年を迎えて FIDICビジョンとミッション』  
Geoff French FIDIC会長  
『コンサルティング・エンジニア産業発展に向けたFIDICの取り組み』  
Enrico Vink FIDIC専務理事  
『官民連携による海外インフラプロジェクトの推進』  
橋場 克司 国土交通省大臣官房技術参事官  
『ODA事業とFIDIC/コンサルタントへの期待』三浦 和紀 JICA資金協力支援部長  
『わが国コンサルタント発展の歴史と国際展開』廣谷 彰彦 FIDIC理事  
FIDIC理事会東京開催に併せて開催

2012(平成24) FIDIC契約約款研修コース FIDIC Module1,2



期間：2012(平成24)年12月3日～6日  
会場：日本工営株式会社 本社3階A会議室  
講師：Geoffrey Smith氏 (FIDIC認定講師)  
内容：FIDIC Module 1 Practical Use of the FIDIC Contract  
FIDIC Module 2 Management of Claims and the Resolution of Dispute

## FIDIC理事の輩出 (定数：9名 任期：4年)

1986年9月～1990年9月 森村 武雄  
 2001年9月～2005年9月 石井 弓夫  
 2009年9月～2013年9月 廣谷 彰彦



森村武雄氏  
1991年FIDIC東京大会にて



石井弓夫氏  
2000年FIDICハワイ大会にて



廣谷彰彦氏  
2009年FIDICロンドン大会にて

## アジア太平洋地域会員協会連合 (ASPAC) 理事・議長の輩出

1988年9月～1990年9月 森村 武雄 ASPAC議長  
 —2000年ASPAC運営規約改定によりASPAC理事会設置—  
 2000年9月～2003年9月 石井 弓夫 ASPAC議長  
 2003年9月～2009年9月 廣谷 彰彦 ASPAC理事  
 2006年9月～2009年9月 廣谷 彰彦 ASPAC議長  
 2009年9月～ 内村 好 ASPAC理事

## 歴代会長



初代 (1974~1976)  
田中 宏  
TANAKA Hiroshi  
(1910.9.17~1979.4.23)



第2代 (1976~1982)  
河野 康雄  
KAWANO Yasuo  
(1909.8.18~1991.2.28)



第3代 (1982~1988)  
田邊 弘  
TANABE Hiroshi  
(1909.11.7~2004.4.5)



第4代 (1988~1990)  
堀 龍雄  
HORI Tatsuo  
(1913.9.8~1991.4.27)



第5代 (1990~1994)  
森 博  
MORI Hiroshi  
(1922.7.12~1996.2.3)



第6代 (1994~1996)  
梅田 昌郎  
UMEDA Masao  
(1929.3.26~)



第7代 (1996~1998)  
松永 一成  
MATSUNAGA Kazunari  
(1929.5.10~)



第8代 (1998~2002)  
石井 弓夫  
ISHII Yumio  
(1935.12.4~)



第9代 (2002~2005)  
都丸 徳治  
TOMARU Tokuji  
(1936.11.20~)



第10代 (2005～2010)  
廣谷 彰彦  
HIROTANI Akihiko  
(1945.8.8～)



第11代 (2010～2014)  
廣瀬 典昭  
HIROSE Noriaki  
(1945.7.30～)



第12代 (2014～)  
内村 好  
UCHIMURA Konomu  
(1950.3.11～)

## 歴代役員 事務局長

期	任期	会長	副会長	理
1期 2期	昭和49年 昭和51年	1974年4月26日 ～ 1976年5月12日	田中 宏	相澤 英郎 辻 薦 村川 二郎 河野 康雄 豊田龍三郎
3期 4期	昭和51年 昭和53年	1976年5月12日 ～ 1978年5月29日	河野 康雄	田邊 弘 辻 薦 村川 二郎 新井政太郎 三好 正 馬渡 明 柳川 達吉
5期 6期	昭和53年 昭和55年	1978年5月29日 ～ 1980年5月19日	河野 康雄	久米 庚子 田邊 弘 辻 薦 池田紀久男 土居 靖夫 馬渡 明 三好 正
7期 8期	昭和55年 昭和57年	1980年5月19日 ～ 1982年11月19日	河野 康雄	篠原 茂之 堀 龍雄 石原 健二 瀬古 隆三 森村 武雄 笠松 重信 田原 保二
9期 10期	昭和57年 昭和59年	1982年11月19日 ～ 1984年5月22日	田邊 弘	藤田 峻五 森村 武雄 石原 健二 篠原 茂之 村川 二郎 金本 恒 篠原 捨喜
11期 12期	昭和59年 昭和61年	1984年5月22日 ～ 1986年5月20日	田邊 弘	森 博 森村 武雄 石原 健二 篠原 捨喜 柳川 達吉 大塚 智洲 瀬古 隆三
13期 14期	昭和61年 昭和63年	1986年5月20日 ～ 1988年5月26日	田邊 弘	森 博 森村 武雄 石原 健二 瀬古 隆三* 牧野 一成 一宮 隆夫 長友 正治 柳川 達吉*
15期 16期	昭和63年 平成2年	1988年5月26日 ～ 1990年5月30日	堀 龍雄	森 博 森村 武雄 石原 健二 田中 全人 保原 光雄 梅田 昌郎 堤 武 堀部 潔
17期 18期	平成2年 平成4年	1990年5月30日 ～ 1992年5月26日	森 博	保原 光雄 森村 武雄 梅田 昌郎 石原 健二 長友 正治 本多 四郎 市川 英彦 西岡 悟郎 山口 正史
19期 20期	平成4年 平成6年	1992年5月26日 ～ 1994年5月26日	森 博	保原 光雄 森村 武雄 梅田 昌郎 石原 健二 長友 正治 松永 一成 市川 英彦 西岡 悟郎 本多 四郎
21期 22期	平成6年 平成8年	1994年5月26日 ～ 1996年5月29日	梅田 昌郎	森村 武雄 松永 一成 池田 豊 土谷 尚 早房 長雄 石原 健二 西岡 悟郎 本多 四郎
23期 24期	平成8年 平成10年	1996年5月29日 ～ 1998年5月28日	松永 一成	石井 弓夫 森村 武雄 池田 豊 清水 巖 早房 長雄 上林 好之 清野 茂次 菱沼 忻多
25期 26期	平成10年 平成12年	1998年5月28日 ～ 2000年5月25日	石井 弓夫	玉井 義弘 森村 武雄 大津 亘 清野 茂次 前川 典生 大塚 敬介 西堀 清六 和田 勝義
27期 28期	平成12年 平成14年	2000年5月25日 ～ 2002年5月9日	石井 弓夫	玉井 義弘 都丸 徳治 清水 巖 廣谷 彰彦 森 研二 高城 重厚 本多 四郎 森村 潔

事	監事	事務局長	備考
鈴木 清 橋本 敏男	田邊 弘 宮川 育郎	馬渡 明 森村 武雄	1974.4.26任意団体設立総会 1974.10.1FIDIC加盟 1974.10.14FIDIC加盟記念大会
久米 庚子	橋本 敏男	大西 千秋 加藤 幸男	1977年8月 田中 千秋
篠原 茂之	田原 保二 柳川 達吉	大西 千秋 瀬古 隆三	
斎藤 斉 堀 博	篠原 捨喜 村川 二郎	大西 千秋 相澤 英郎	
斎藤 斉 瀬古 隆三	佐々木敏雄 宮崎 誠一	市川 英彦 黒瀬 正行	1982法人化5周年事業
斎藤 斉 松久 恒一	篠原 茂之 宮崎 誠一	斎藤 正芳 橋本 義平	
大塚 智洲 保原 光雄	篠原 捨喜 堀部 潔	梶谷 正孝 橋本 義平	1985年8月 斎藤 貞雄
			1986年6月10日 八川 徳平衛
			1986.8.25瀬古隆三理事辞任、柳川達吉理事 繰上就任
			1987年6月1日 内田 弘
			1987.8.30-9.1FIDIC京都大会を予定するが 中止
桑 靖彦 長友 正治 本多 四郎	鈴木 善三 西堀 清六 柳川 達吉	梶谷 正孝 橋本 義平	
田中 全人 西堀 清六 山田 直明	堤 武 堀部 潔	梶谷 正孝 橋本 義平	1991.9.15-19FIDIC東京大会
黒澤 豊樹 錦織 達郎 山口 正史	田中 全人 西堀 清六	梶谷 正孝 橋本 義平	
市川 英彦 西堀 清六 前川 典生	田中 全人 錦織 達郎 山口 正史	梶谷 正孝 橋本 義平*	1994.10.12橋本義平監事退任
木戸 武 土谷 尚 前 迪	久野 一郎 西堀 清六 前川 典生	大野 正夫 小寺 重郎	1996年3月1日 藤江 五郎
上林 好之 菱沼 忻多	清水 巖 前 迪	大野 正夫 土谷 尚	
竹村 陽一 本田 尚士 山根 亮太郎	中島 光一 前 迪 和田 勝義	大野 正夫 大野 欣雄	



期	任期		会長	副会長	理	
29期 30期	平成14年	2002年5月9日 ～	都丸 徳治	玉井 義弘 廣谷 彰彦	内村 好 友澤 武昭 本田 尚士	遠藤 信雄 中島 光一 森村 潔
	平成16年	2004年5月10日				
31期 32期	平成16年	2004年5月10日 ～	都丸 徳治 * 廣谷 彰彦 *	廣谷 彰彦 * 清水 慧 内村 好 *	内村 好 * 高木 秀雄 中西 武徳 都丸 徳治 *	遠藤 信雄 高城 重厚 畑尾 成道
	平成18年	2006年5月9日				
33期 34期	平成18年	2006年5月9日 ～	廣谷 彰彦	清水 慧 内村 好 畑尾 成道	遠藤 信雄 竹内 正善 中西 武徳	佐久間 襄 田中 達吉 宮本 正史
	平成20年	2008年5月13日				
35期 36期	平成20年	2008年5月13日 ～	廣谷 彰彦	内村 好 清水 慧 * 宮本 正史 廣瀬 典昭 *	大野 静男 清水 慧 * 田中 宏 *	片山 陽夫 * 瀬古 一郎 友澤 武昭
	平成22年	2010年5月25日				
37期 38期	平成22年	2010年5月25日 ～	廣瀬 典昭	内村 好 宮本 正史 森村 潔	蔵重 俊夫 竹内 正善 野崎 秀則	小宮 雅嗣 田中 達吉 長谷川 伸一
	平成24年	2012年5月29日				
39期 40期	平成24年	2012年5月29日 ～	廣瀬 典昭	宮本 正史 森村 潔 瀬古 一郎	熊谷 忠輝 澁谷 實 永治 泰司	蔵重 俊夫 竹内 正善 野崎 秀則
	平成26年	2014年5月20日				
41期 ~	平成26年	2014年5月20日 ～	内村 好	永治 泰司 瀬古 一郎 小宮 雅嗣	狩谷 薫 澁谷 實 林 幸伸	熊谷 忠輝 田中 宏 藤原 廣輝

30年史 p137

就任期間 「1975年5月22日～」は「1974年4月26日～」の誤り  
 1980年5月19日～1982年11月19日の理事 「堀 博」 記載漏れ  
 就任期間 「1986年5月22日」 は 「1986年5月20日」の誤り  
 1980年5月19日～1982年11月19日の理事 「篠原 茂元」 記載漏れ  
 1992年5月26日～1994年5月26日の理事 「松永 一成」 記載漏れ  
 1994年5月26日～1996年5月29日の副会長 「松永 一成」 記載漏れ  
 1996年5月29日～1998年5月28日の理事 「久野 一郎」 記載漏れ

事	監事	事務局長	備考
亀田 宏 中西 武徳 山下 正義	高城 重厚 畑尾 成道 山根 亮太郎	大野 欣雄 森 研二	
後藤 浩一 竹内 正善 宮本 正史	佐久間 襄 友澤 武昭 森村 潔	大野 欣雄 森 研二	2004.5.20創立30周年記念シンポジウム 2005.8.9都丸徳治会長退任、廣谷彰彦理事 会長就任、内村好理事副会長就任
高木 秀雄 田中 義則 森村 潔	高城 重厚 * 友澤 武昭	大野 欣雄 藤堂 博明	2006.9.5高城重厚理事退任
小宮 雅嗣 竹内 正善 長谷川伸一 *	清水 巖 田中 達吉 森村 潔	大野 欣雄 * 藤堂 博明 早房 長雄 *	2007年10月1日 山下 佳彦 2009.5.29清水慧副会長・理事退任、片山陽 夫理事退任、大野欣雄監事退任、廣瀬典昭 副会長・理事就任、田中宏理事就任、長谷 川伸一理事就任、早房長雄監事就任
澁谷 實 田中 宏 横内 秀明	瀬古 一郎 永冶 泰司	藤堂 博明 花岡 浩	2012.4.1公益社団法人移行 協会名変更
小宮 雅嗣 田中 宏 長谷川 伸一	佐々部圭二 中原 修	藤堂 博明 花岡 浩	
蔵重 俊夫 野崎 秀則 村田 博道	佐々部圭二 長谷川伸一	藤堂 博明 花岡 浩	2014.7.9創立40周年記念セミナー

## 名誉会員

年月日		氏 名
昭和49年～ 昭和57年	1974年～ 1982年	－該当者なし－
昭和58年	1983年3月24日	河野 康雄
昭和59年～ 昭和62年	1984年～ 1986年	－該当者なし－
昭和63年	1988年8月30日	田邊 弘
平成元年～ 平成5年	1989年～ 1993年	－該当者なし－
平成6年	1994年5月26日	藤田 峻五 三好 正
平成6年	1994年12月13日	森 博
平成7年	1905年6月17日	－該当者なし－
平成8年	1996年5月29日	保原 光雄
平成9年	1997年5月27日	石原 健二
平成10年～ 平成14年	1998年～ 2002年	－該当者なし－
平成15年	2003年5月8日	石井 弓夫 梅田 昌郎 上林 好之 松永 一成 森村 武雄
平成16年	2004年5月10日	清野 茂次 玉井 義弘
平成17年	2005年5月10日	西堀 清六
平成18年	2006年5月9日	前 迪
平成19年	2007年5月15日	清水 巖 都丸 徳治
平成20年	2008年	－該当者なし－
平成21年	2009年5月29日	池田 豊 長友 正治
平成22年	2010年5月25日	早房 長雄
平成23年	2011年	－該当者なし－
平成24年	2012年5月29日	瀬古 隆三
平成25年～ 平成26年	2013年～ 2014年	－該当者なし－

30年史 p138

1983年3月24日河野康雄氏記載漏れ

1988年8月30日田邊 弘氏記載漏れ

## 会長賞 会長表彰

受賞年月日		会長賞 会長表彰	備考
昭和62年	1987年3月24日	石原 健二 久米 庚子 永井 雅夫 三好 正 森村 武雄	1987年 会長賞創設
昭和63年	1988年5月26日	篠原 茂之 篠原 捨喜 柳川 達吉	
平成1年	1989年5月25日	瀬古 隆三 藤田 峻五 堀部 潔 森 博	
平成2年	1990年5月30日	斎藤 正芳 長友 正治 西岡 悟郎	
平成3年	1991年5月30日	市川 英彦 梶谷 正孝 堤 武 橋本 義平 本多 四郎 三川 和也	
平成4年	1992年5月26日	片倉 彬就 佐々木敏雄 宮崎 誠一 山口 正史	
平成5年	1993年5月28日	梅田 昌郎 小島 貞男 田中 全人 中村 哲哉	
平成6年	1994年	－該当者なし－	
平成7年	1995年5月25日	保原 光雄	
平成8年	1996年	－該当者なし－	
平成9年	1997年5月27日	西堀 清六 斎藤 齊	
平成10年	1998年	－該当者なし－	
平成11年	1999年5月27日	早房 長雄	
平成12年	2000年	－該当者なし－	
平成13年	2001年5月24日	松永 一成 上林 好之	
平成14年	2002年5月9日	清水 巖 前 迪 前川 典生 土谷 尚	
平成15年	2003年	－該当者なし－	2003年会長賞を 会長表彰と名称 を変え新たに会 長褒賞を創設
平成16年	2004年5月10日	池田 豊 本田 尚士	
平成17年	2005年5月10日	竹村 陽一	
平成18年	2006年5月9日	大野 欣雄 亀田 宏	
平成19年	2007年5月15日	山下 佳彦	
平成20年	2008年5月13日	中西 武徳	
平成21年	2009年5月29日	中嶋 幸房	
平成22年	2010年5月25日	永治 泰司 蔵重 俊夫	
平成23年	2011年5月24日	林 幸伸 秋永 薫児	
平成24年	2012年5月29日	春 公一郎	
平成25年	2013年5月21日	狩谷 薫	
平成26年	2014年5月20日	小西 秀和 河上 英二	

## 会長褒賞

受賞年月日		会長褒賞	備考
平成15年	2003年 ～ 2004年	—該当者なし—	2003年会長賞を 会長表彰と名称を 変え新たに会長褒 賞を創設
平成17年	2005年	山下 佳彦 蔵重 俊夫 会長特別褒賞 30周年記念事業祝賀会委員会 (内村好委員長、国際活動委員会全委員、技術研修委員会全委員) 会長特別褒賞 30周年記念史編集委員会 (遠藤信雄委員長、佐久間襄、工藤利昭、小林正樹、渋谷光教、 田岡範久、田島照義、都丸俊明、中谷光夫、永治泰司、 山田耕三、吉栖雅人) 会長特別褒賞 30周年記念シンポジウム委員会 (畑尾成道委員長、国際活動委員会全委員、技術研修委員会全委員)	
平成18年	2006年5月9日	林 幸伸 永治 泰司 河上 英二	
平成19年	2007年5月15日	秋永 薫児	
平成20年	2008年5月13日	小西 秀和 狩谷 薫 佐久間 襄	
平成21年 ～ 平成22年	2009年 ～ 2010年	—該当者なし—	
平成23年	2011年5月24日	金井 恵一 赤坂 和俊	
平成24年	2012年5月29日	田中 宏	
平成25年	2013年	—該当者なし—	
平成26年	2014年5月20日	藤原 亮太 鎬木 孝治 原 崇 林 竜郎 星 弘美 渡津 永子	

# 総 会

和暦	年月日		議題	場所
昭和49年	1974年4月26日	日本コンサルティング・エンジニア協会創立総会	第1号議案 定款承認について 第2号議案 入会金・会費について 第3号議案 昭和49年度事業計画ならびに収支予算について 第4号議案 役員を選任	日比谷公園 「松本楼」
昭和50年	1975年5月22日	第1回定時	第1号議案 昭和49年度会務報告ならびに修正決算について 第2号議案 昭和50年度事業計画ならびに収支予算について 報告 細則制定について	日本工業クラブ
昭和51年	1976年5月12日	第2回定時	第1号議案 1975年度会務報告および収支決算 第2号議案 1976年度事業計画 第3号議案 1976年度会費変更について 第4号議案 1976年度収支予算について 第5号議案 1976年度借入金限度額の承認について 報告 役員改選の結果について	日本工業クラブ
昭和52年	1977年5月25日	第3回定時	第1号議案 1976年度会務報告および収支決算 第2号議案 1976年度余剰金の処分について 第3号議案 1977年度事業計画 第4号議案 1977年度収支予算について 第5号議案 1977年度借入金限度額の承認について 第6号議案 日本コンサルティング・エンジニア協会の解散について 第7号議案 精算委員会の設置および精算人の選任について 第8号議案 残余財産および一切の権利 義務を社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会に引継ぐの件	日本工業クラブ
	1977年6月23日	社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会 設立総会	第1号議案 社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会の設立に関する件 第2号議案 定款に関する件 第3号議案 寄付財産に関する件 第4号議案 事業計画および収支予算に関する件 第5号議案 役員について 第6号議案 設立代表者選任に関する件 第7号議案 議事録署名人選任に関する件 第8号議案 字句の一部修正委任の件	日比谷公園 「松本楼」

和暦	年月日		議題	場所
昭和53年	1978年3月15日	臨時	第1号議案 理事の定足数不足に伴う特別措置に関する件 第2号議案 昭和53年度事業計画に関する件 第3号議案 昭和53年度収支予算に関する件 第4号議案 会費変更に関する件 第5号議案 昭和53年度借入金限度額に関する件 第6号議案 次役員改選年度における役員の定員に関する件 第7号議案 事務所の移転に関する件 第8号議案 事務所の移転に伴う定款の変更に関する件	農業土木会館
	1978年5月29日	定時	第1号議案 昭和52年度事業報告について 第2号議案 昭和52年度収支決算について 第3号議案 基本金組み入れについて 第4号議案 収支決算差引残高処分について	秀和第2虎ノ門ビル
昭和54年	1979年3月30日	臨時	第1号議案 昭和54年度事業計画に関する件 第2号議案 昭和54年度収支予算に関する件 第3号議案 昭和54年度借入金限度額に関する件	農業土木会館
	1979年5月29日	定時	第1号議案 昭和53年度事業報告について 第2号議案 昭和53年度収支決算について	日本工業クラブ
昭和55年	1980年2月19日	臨時	第1号議案 定款変更について 第2号議案 会費改訂について	国立教育会館
	1980年3月28日	臨時	第1号議案 昭和55年度事業計画に関する件 第2号議案 昭和55年度収支予算に関する件 第3号議案 昭和55年度借入金限度額に関する件 第4号議案 時役員改選年度における役員の定員に関する件	秀和第3虎ノ門ビル
	1980年5月19日	定時	第1号議案 昭和54年度事業報告について 第2号議案 昭和54年度収支決算について 役員選挙	国立教育会館
	1980年10月21日	臨時	第1号議案 会費の改訂について 第2号議案 昭和55年度収支予算の変更について	秀和第3虎ノ門ビル
昭和56年	1981年3月24日	臨時	第1号議案 昭和56年度事業計画に関する件 第2号議案 昭和56年度収支予算に関する件 第3号議案 昭和56年度借入金限度額に関する件	秀和第3虎ノ門ビル
	1981年5月24日	定時	第1号議案 昭和55年度事業報告について 第2号議案 昭和55年度収支決算について	秀和第3虎ノ門ビル
昭和57年	1982年3月16日	臨時	第1号議案 昭和57年度事業計画に関する件 第2号議案 昭和57年度収支予算に関する件 報告 細則の変更	国立教育会館
	1982年5月24日	第6回定時	第1号議案 昭和56年度事業報告について 第2号議案 昭和56年度収支決算について 役員選挙	秀和第3虎ノ門ビル
	1982年11月19日	臨時	役員選挙	(社)産業公害防止協会



和暦	年月日		議題	場所
昭和58年	1983年3月24日	臨時	第1号議案 昭和58年度事業計画について 第2号議案 昭和58年度収支予算について 第3号議案 名誉会員推薦について	(社)産業公害防止協会
	1983年5月30日	第7回定時	第1号議案 昭和57年度事業報告について 第2号議案 昭和57年度収支決算について 報告事項 FIDIC世界会議の日本開催について	麻布グリーン会館
昭和59年	1984年3月29日	臨時	第1号議案 定款変更について 第2号議案 会費改定について 第3号議案 昭和59年度事業計画について 第4号議案 昭和59年度収支予算について	(社)産業公害防止協会
	1984年5月22日	第8回定時	第1号議案 昭和58年度事業報告について 第2号議案 昭和58年度収支決算について 役員選挙	(社)日本工業倶楽部
昭和60年	1985年3月22日	臨時	第1号議案 昭和60年度事業計画について 第2号議案 昭和60年度収支予算について 第3号議案 借入金限度額について 報告1. 細則の一部変更について 報告2. 海外向報酬基準について 報告3. FIDIC世界会議日本開催について	秀和第三虎ノ門ビル A会議室
	1985年5月24日	第9回定時	第1号議案 昭和59年度事業報告について 第2号議案 昭和59年度収支決算について 報告1. 1987年FIDIC世界会議日本開催準備状況 報告2. 会員の増強について	(社)産業公害防止協会
昭和61年	1986年3月24日	臨時	第1号議案 昭和61年度事業計画について 第2号議案 昭和61年度収支予算について 第3号議案 借入金限度額について 報告1. 海外向コンサルタント料参考料率について 報告2. FIDIC世界会議日本開催（中間報告）について 報告3. 細則の一部改正	秀和第三虎ノ門ビル A会議室
	1986年5月20日	第10回定時	第1号議案 昭和60年度事業報告について 第2号議案 昭和60年度収支決算について 報告 1.名誉会長設置 2.FIDIC理事補欠候補推薦について 3.オークランドFIDIC世界会議参加について	学士会館 神田本館
	1986年9月8日	臨時	第1号議案 名誉会長について	学士会館 神田本館303号室

和暦	年月日		議題	場所
昭和62年	1987年3月24日	臨時	第1号議案 昭和62年度事業計画について 第2号議案 昭和62年度収支予算について	秀和第3虎ノ門ビル B会議室
	1987年5月28日	第11回定時	第1号議案 昭和61年度事業報告について 第2号議案 昭和61年度収支決算について 第3号議案 会費規則の改正 報告1. カナダモントリオールFIDIC理事会について	秀和第3虎ノ門ビル B会議室
昭和63年	1988年3月24日	臨時	第1号議案 昭和63年度事業計画について 第2号議案 昭和63年度収支予算について 第3号議案 時期改選時における役員の定員変更について 報告事項1. FIDIC Red Book / Yellow Bookセミナーについて	学士会館 神田本館203号室
	1988年5月26日	第12回定時	第1号議案 昭和62年度事業報告について 第2号議案 昭和62年度収支決算について 第3号議案 役員選挙について 報告1. FIDIC Red Book / Yellow Bookセミナー完了報告 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
	1988年8月30日	臨時	第1号議案 名誉会員推挙	学士会館 本郷分館8号室
平成1年	1989年3月24日	臨時	第1号議案 平成元年度事業計画について 第2号議案 平成元年度収支予算について 報告事項1. 6月東京でのFIDIC理事会とその前日のセミナー開催予定について	学士会館 神田本館302号室
	1989年5月25日	第13回定時	第1号議案 昭和63年度事業報告について 第2号議案 昭和62年度収支決算について 報告事項1. 定款第11条による除名の件 報告事項2. FIDIC関連事項 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成2年	1990年3月20日	臨時	第1号議案 平成2年度事業計画について 第2号議案 平成2年度収支予算について 報告事項1. FIDIC世界会議日本開催準備について(中間報告)	学士会館 神田本館302号室
	1990年5月30日	第14回定時	第1号議案 平成元年度事業報告について 第2号議案 平成元年度収支決算について 第3号議案 役員選挙について 報告事項1. FIDIC1990オスロー年次大会について 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成3年	1991年3月20日	臨時	第1号議案 定款の一部変更について 第2号議案 平成3年度事業計画について 第3号議案 平成3年度収支予算について 報告事項1. FIDIC世界会議日本開催準備について(中間報告)	学士会館 神田本館203号室
	1991年5月30日	第15回定時	第1号議案 平成2年度事業報告について 第2号議案 平成2年度収支決算について 報告事項1. FIDIC世界会議日本開催準備について 報告事項2. 定款の一部変更認可の件	学士会館 神田本館203号室

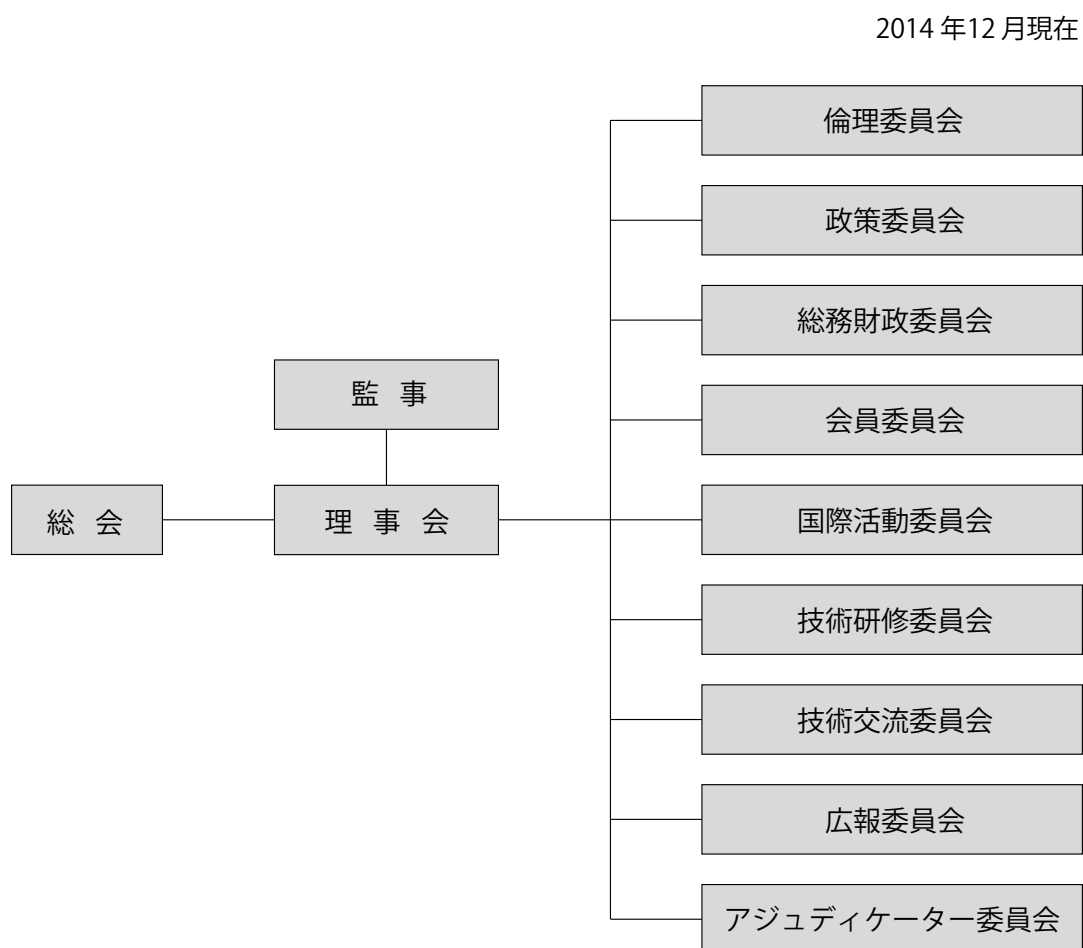
和暦	年月日		議題	場所
平成4年	1992年3月24日	臨時	第1号議案 平成4年度事業計画について 第2号議案 平成4年度収支予算について 報告事項1. 1991年FIDIC東京大会完了報告	学士会館 神田本館203号室
	1992年5月26日	第16回定時	第1号議案 平成3年度事業報告について 第2号議案 平成3年度収支決算について 第3号議案 役員選挙について 表彰式	学士会館 神田本館203号室
平成5年	1993年3月19日	臨時	第1号議案 平成5年度事業計画について 第2号議案 平成5年度収支予算について 表彰式	学士会館 神田本館203号室
	1993年5月28日	第17回定時	第1号議案 平成4年度事業報告について 第2号議案 平成4年度収支決算について	学士会館 本郷分館6号室
平成6年	1994年3月17日	臨時	第1号議案 平成6年度事業計画について 第2号議案 平成6年度収支予算について	学士会館 本郷分館6号室
	1994年5月26日	第18回定時	第1号議案 平成5年度事業報告について 第2号議案 平成5年度収支決算について 第3号議案 役員改選について 表彰式	学士会館 本郷分館6号室
平成7年	1995年3月16日	臨時	第1号議案 平成7年度事業計画について 第2号議案 平成7年度収支予算について	学士会館 神田本館302号室
	1995年5月25日	第19回定時	第1号議案 平成6年度事業報告について 第2号議案 平成6年度収支決算について 表彰式	学士会館 本郷分館6号室
平成8年	1996年3月18日	臨時	第1号議案 定款の一部変更について 第2号議案 平成8年度事業計画について 第3号議案 平成8年度収支予算について	学士会館 本郷分館6号室
	1996年5月29日	第20回定時	第1号議案 平成7年度事業報告について 第2号議案 平成7年度収支決算について 第3号議案 役員改選について 報告事項 細則の一部変更について 表彰式	学士会館 本郷分館6号室
平成9年	1997年3月19日	臨時	第1号議案 平成9年度事業計画について 第2号議案 平成9年度収支予算について	学士会館 神田本館118号室
	1997年5月27日	第21回定時	第1号議案 平成8年度事業報告について 第2号議案 平成8年度収支決算について 表彰式	学士会館
平成10年	1998年3月19日	臨時	第1号議案 平成10年度事業計画について 第2号議案 平成10年度収支予算について	国際文化会館 神田本館302号室 D室
	1998年5月28日	第22回定時	第1号議案 平成9年度事業報告について 第2号議案 平成9年度収支決算について 第3号議案 役員改選について	学士会館 本郷分館6号室

和暦	年月日		議題	場所
平成11年	1999年3月18日	臨時	第1号議案 平成11年度事業計画について 第2号議案 平成11年度収支予算について	学士会館 本郷分館8号室
	1999年5月27日	第23回定時	第1号議案 平成10年度事業報告について 第2号議案 平成10年度収支決算について 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成12年	2000年3月16日	臨時	第1号議案 平成12年度事業計画について 第2号議案 平成12年度収支予算について 第3号議案 平成11年度事業計画、収支予算の修正について	学士会館 本郷分館8号室
	2000年5月25日	第24回定時	第1号議案 平成11年度事業報告について 第2号議案 平成11年度収支決算について 第3号議案 役員改選について	学士会館 本郷分館8号室
平成13年	2001年3月15日	臨時	第1号議案 平成13年度事業計画について 第2号議案 平成13年度収支予算について 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
	2001年5月24日	第25回定時	第1号議案 平成12年度事業報告について 第2号議案 平成12年度収支決算について 第3号議案 定款改定審議 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成14年	2002年3月14日	臨時	第1号議案 平成14年度事業計画について 第2号議案 平成14年度収支予算について	学士会館 本郷分館8号室
	2002年5月9日	第26回定時	第1号議案 平成13年度事業報告について 第2号議案 平成13年度収支決算について 第3号議案 役員改選について 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成15年	2003年3月14日	臨時	第1号議案 平成15年度事業計画について 第2号議案 平成15年度収支予算について 第3号議案 定款改訂について	学士会館 本郷分館8号室
	2003年5月8日	第27回定時	第1号議案 平成14年度事業報告について 第2号議案 平成14年度収支決算について 第3号議案 定款改訂について 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成16年	2004年5月10日	第28回定時	第1号議案 平成16年度事業計画について 第2号議案 平成16年度収支予算について 第3号議案 平成15年度事業報告について 第4号議案 平成15年度収支決算について 第5号議案 定款改訂について 第6号議案 役員改選 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成17年	2005年3月18日	臨時	第1号議案 平成17年度事業計画について 第2号議案 平成17年度収支予算について 第3号議案 定款改訂について	学士会館 本郷分館8号室
	2005年5月10日	第29回定時	第1号議案 平成16年度事業報告について 第2号議案 平成16年度収支決算について 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成18年	2006年3月14日	臨時	第1号議案 平成18年度事業計画について 第2号議案 平成18年度収支予算について	学士会館 本郷分館8号室
	2006年5月9日	第30回定時	第1号議案 平成17年度事業報告について 第2号議案 平成17年度収支決算について 第3号議案 役員改選について 表彰式	学士会館 本郷分館8号室

和暦	年月日		議題	場所
平成19年	2007年3月13日	臨時	第1号議案 平成19年度事業計画について 第2号議案 平成19年度収支予算について	学士会館 本郷分館8号室
	2007年5月15日	第31回定時	第1号議案 平成18年度事業報告について 第2号議案 平成18年度収支決算について 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成20年	2008年3月11日	臨時	第1号議案 平成20年度事業計画について 第2号議案 平成20年度収支予算について	学士会館 本郷分館8号室
	2008年5月13日	第32回定時	第1号議案 平成19年度事業報告について 第2号議案 平成19年度収支決算について 第3号議案 会費規則変更について 第4号議案 役員改選について 表彰式	学士会館 本郷分館8号室
平成21年	2009年3月17日	臨時	第1号議案 平成21年度事業計画について 第2号議案 平成21年度収支予算について 報告事項 役員補欠選挙の実施について	学士会館 神田本館302号室
	2009年5月29日	第33回定時	第1号議案 平成20年度事業報告について 第2号議案 平成20年度収支決算について 第3号議案 役員補欠選挙について 表彰式	学士会館 神田本館302号室
平成22年	2010年3月2日	臨時	第1号議案 平成22年度事業計画について 第2号議案 平成22年度収支予算について 報告事項 公益法人制度改革の対応について	学士会館 神田本館302号室
	2010年5月25日	第34回定時	第1号議案 平成20年度事業報告について 第2号議案 平成20年度収支決算について 第3号議案 公益法人制度改革の対応について 第4号議案 役員選挙について 表彰式	学士会館 神田本館302号室
平成23年	2011年3月8日	臨時	第1号議案 平成23年度事業計画について 第2号議案 平成23年度収支予算について 報告事項 定款変更(案)について	学士会館 神田本館203号室
	2011年5月24日	第35回定時	第1号議案 平成22年度事業報告について 第2号議案 平成22年度収支決算について 第3号議案 定款変更について 第4号議案 会費規則変更について 表彰式 懇親会	学士会館 神田本館302号室
	2011年9月26日	臨時	第1号議案 定款変更について 第2号議案 役員報酬規程について	学士会館 神田本館302号室
平成24年	2012年3月13日	臨時	第1号議案 平成24年度事業計画について 第2号議案 平成24年度収支予算について 第3号議案 定款変更(案)	学士会館 神田本館302号室
	2012年5月29日	第36回定時	第1号議案 平成23年度事業報告について 第2号議案 平成23年度収支決算について 第3号議案 役員改選について 表彰式 公益法人移行パーティ	学士会館 神田本館302号室

和暦	年月日		議題	場所
平成25年	2013年5月21日	第37回定時	第1号議案 平成24年度事業報告について 第2号議案 平成24年度収支決算について 報告事項 平成25年度事業計画について 報告事項 平成25年度収支予算について 表彰式	学士会館 神田本館203号室
平成26年	2014年5月20日	第38回定時	第1号議案 平成25年度事業報告について 第2号議案 平成25年度収支決算について 第3号議案 関連協会との連携について 第4号議案 役員改選について 表彰式 懇親会	学士会館 神田本館203号室

## 組織図





## 委員会変遷

昭和48年	1973年	技術士会にFIDICFIDIC委員会設立
昭和49年	1974年	AJCE設立 FIDIC加盟
昭和50年	1975年	5/22 第1回定時総会で「会務」「業務」「FIDIC」3委員会設置を決定
昭和51年	1976年	
昭和52年	1977年	8月 科学技術庁より社団法人承認 8/9 第1回理事会「資格審査小」「会報」「財政基盤強化特別」「会員増強」4委員会追加 10/18 第3回理事会「広報委員会」設置「会報」を吸収
昭和53年	1978年	8/8 第14回理事会 事業本部制に改編 9/12 第15回理事会 各本部の委員会を決定
昭和54年	1979年	
昭和55年	1980年	各本部名改称 「総務・財政」→「財政」に改称
昭和56年	1981年	
昭和57年	1982年	6/8 第51回理事会「AJCE5周年記念事業推進委員会」設置
昭和58年	1983年	1/24 第56回理事会 「定款委員会」設置 8月 特別委員会：FIDIC世界会議日本開催実行委員会発足
昭和59年	1984年	3/29 第65回理事会 本部制廃止 「常設委員会」と「特別委員会」に区分 「定款委員会」終了
昭和60年	1985年	
昭和61年	1986年	3/25 「異種技術交流会」発足
昭和62年	1987年	6/9 第93回理事会 「中国委員会」発足
昭和63年	1988年	
平成1年	1989年	10/11 第108回理事会 「環境委員会」設置
平成2年	1990年	
平成3年	1991年	9月 FIDIC東京大会 東京大会参加の若手勉強会開催（→FIDIC研究会）
平成4年	1992年	FIDIC活動研究会発足趣意書確認
平成5年	1993年	
平成6年	1994年	
平成7年	1995年	
平成8年	1996年	
平成9年	1997年	12/18 第158回理事会 協会財政見直しおよび会員増強検討のため、特別委員会の設置
平成10年	1998年	「財務対策特別委員会」→「AJCE21世紀委員会」へ改組
平成11年	1999年	2/18 第165回理事会 「中国委員会」が発展的に改称し「国際活動委員会」に呼称を変更
平成12年	2000年	6/15 第173回理事会 「研修委員会」および「環境委員会」を発展的に改組し「技術研修委員会」発足 「業務開発委員会」を「技術交流委員会」に改名
平成13年	2001年	
平成14年	2002年	
平成15年	2003年	「国際活動委員会YPF分科会」→「技術研修委員会YPF・YPEP分科会」へ改組
平成16年	2004年	
平成17年	2005年	6月 「国際活動委員会30周年記念誌事業協力分科会」は記念誌発刊により作業完了、解散

平成18年	2006年	9月 廣谷会長ASPAC議長就任 国際活動委員会に「ASPAC分科会」設立
平成19年	2007年	
平成20年	2008年	
平成21年	2009年	5月 総会 定員不足を補充するため役員補選 9月 廣谷会長ASPAC議長任期終了に伴い「ASPAC分科会」解散 12月 技術研修委員会に「YP分科会」設立
平成22年	2010年	6/8 「FP分科会」が技術研修委員会から国際活動委員会へ移動し「CB分科会」と合併 10/19 「アジュディケーター検討会」発足
平成23年	2011年	2/8 「アジュディケーター検討会」解散 「アジュディケーター委員会」発足 2/8 「協会連携特別委員会」発足 5月 FIDIC理事会準備委員会解散
平成24年	2012年	8/4 国際活動委員会に「契約管理者育成分科会」設置
平成25年	2013年	
平成26年	2014年	4/15 「AJCE40周年記念事業実行委員会」発足 4/15 国際活動委員会「QBS分科会」を「FP分科会」に統合 6/17 技術研修委員会技術研修推進分科会解散 6/17 「協会連携特別委員会」は活動内容を「政策委員会」に引継ぎ解散

YPF：Young Professionals Forum FIDIC若手専門職委員会

YPEP：Young Professionals Exchange Program 日豪交換研修

ASPAC：Asia-Pacific Member Associations FIDICアジア太平洋地域会員協会連合

CB：Capacity Building 能力開発

FP：FIDIC Policy FIDICポリシー

QBS：Quality Based Selection 品質・技術による選定

## 委員会名簿

\* 途中退任 ・ 途中就任 ( ) はアドバイザー、オブザーバー

### 技術士会 FIDIC委員会 1973-1974年

年		委員長	委員
昭和48年	1973年	相澤英郎、山村豊二郎、鈴木 潔、森村武雄、藤野 武、奥田教朝、田邊 弘、大西千秋、金子宗一	
昭和49年	1974年		

### 会務委員会 1975-1977年

年		委員長	委員
昭和50年	1975年	辻 鷹	田邊 弘、村川二郎、久米庚子、橋本敏男
昭和51年	1976年		
昭和52年	1977年		

### 業務委員会 1975-1977年

年		委員長	委員
昭和50年	1975年	村川二郎	柳川達吉、新井政太郎、三好 正
昭和51年	1976年		
昭和52年	1977年		

### FIDIC委員会 1975-1977年

年		委員長	委員
昭和50年	1975年	村川二郎	田邊 弘、村川二郎、久米庚子、橋本敏男
昭和51年	1976年		
昭和52年	1977年		

### 法人格取得委員会 1976年

年		委員長	委員
昭和51年	1976年	田邊 弘	村川二郎、橋本敏男

### 財政基盤強化特別 1976-1977年

年		委員長	委員
昭和51年	1976年	村川二郎	橋本敏男、三好 正、黒沢豊樹
昭和52年	1977年		

### 会報委員会 1977年

年		委員長	委員
昭和52年	1977年	田邊 弘	久米庚子

### 会員増強特別委員会 1977年

年		委員長	委員
昭和52年	1977年	辻 鷹	柳川達吉、新井政太郎、三好 正、久米庚子

会員資格審査小委員会  
1977-1978年

年		委員長	委員
昭和52年	1977年	三好 正	石松尚武、重光世洋、山縣 彰
昭和53年	1978年	三好 正	伊藤美光、扇田 諦、北村新蔵

会務本部 総務本部  
1978-1983年

年		本部長
昭和53年	1978年	田邊 弘
昭和54年	1979年	
昭和55年	1980年	田邊 弘
昭和56年	1981年	
昭和57年	1982年	田邊 弘
昭和58年	1983年	藤田峻五

業務本部 広報本部  
1978-1983年

年		本部長
昭和53年	1978年	久米庚子
昭和54年	1979年	
昭和55年	1980年	久米庚子
昭和56年	1981年	
昭和57年	1982年	久米庚子
昭和58年	1983年	森村武雄

事業本部 振興本部  
1978-1983年

年		本部長
昭和53年	1978年	辻 鷹
昭和54年	1979年	
昭和55年	1980年	辻 鷹
昭和56年	1981年	
昭和57年	1982年	辻 鷹
昭和58年	1983年	森村武雄

業務開発委員会  
1978-2000年

年		委員長	副委員長	委員
昭和53年	1978年	篠原茂之	柳川達吉	吉野次郎、金子宗一、鈴木 清
昭和54年	1979年	篠原捨喜		
昭和55年	1980年	篠原捨喜		
昭和56年	1981年			
昭和57年	1982年	篠原捨喜		山口正史、伊藤美光、柴田安助、橋本欣一、 横山一男、瀬古隆三
昭和58年	1983年			
昭和59年	1984年	篠原捨喜		山口正史、伊藤美光、橋本欣一、横山一男、 瀬古隆三、斎藤斎、高橋登、・大塚智洲
昭和60年	1985年			
昭和61年	1986年	篠原捨喜		一宮隆夫、長友正治、黒沢豊樹、篠原茂之、 本多四郎、柳川達吉、*西岡正光
昭和62年	1987年		一宮隆夫 長友正治	
昭和63年	1988年	長友正治	柳川達吉	篠原茂之、篠原捨喜、本多四郎、・大塚敬介
平成1年	1989年		桑 靖彦	
平成2年	1990年	長友正治		市川英彦、大塚敬介、桑 靖彦、篠原茂之、 篠原捨喜、本多四郎
平成3年	1991年			
平成4年	1992年	長友正治	大塚敬介	大津 亘、篠原茂之、篠原捨喜、清水 巖、鈴木英雄、 本多四郎、松本光次、*桑 靖彦、・桜井国夫
平成5年	1993年		菱沼忻多	
平成6年	1994年	早房長雄	大塚敬介 菱沼忻多	大津 亘、桜井国夫、清水 巖、鈴木英雄、 本多四郎、*篠原茂之、*松本光次、・上田育世、 ・栗原不二夫、・竹内昭夫、・建守 健、・和作幹雄
平成7年	1995年			
平成8年	1996年	早房長雄	大塚敬介 菱沼忻多	上田育世、大津 亘、栗原不二夫、桜井国夫、 清水 巖、鈴木英雄、竹内昭夫、建守 健、本多四郎、 和作幹雄
平成9年	1997年			
平成10年	1998年	清水 巖	大塚敬介 菱沼忻多	上田育世、大津 亘、桜井国夫、鈴木英雄、竹内昭夫、 建守 健、本多四郎、森村武雄、和作幹雄、 ・栗原不二夫、
平成11年	1999年			

技術交流委員会へ改名

## FIDIC海外連絡会 1978-2000年

年		委員長	副委員長	委員
昭和53年	1978年	村上二郎		篠原茂之、池田紀久男、森村武雄、堀部清志、 堀 博、金子宗一、井料政吉
昭和54年	1979年			
昭和55年	1980年	森村武雄		
昭和56年	1981年			
昭和57年	1982年	森村武雄		梶谷正孝、鈴木 清、三川和也、大橋文雄、 堀 龍雄、三好正
昭和58年	1983年			
昭和59年	1984年	森村武雄		梶谷正孝、鈴木 清、三川和也、大橋文雄、 堀 龍雄、三好正、森 博、・佐山 実
昭和60年	1985年			
昭和61年	1986年	森村武雄		大橋文雄、堀 龍雄、三川和也、三好 正、森 博
昭和62年	1987年			
昭和63年	1988年	森村武雄		大橋文雄、堀部 潔、森 博
平成1年	1989年			
平成2年	1990年	森村武雄		大橋文雄、保原光雄、堀部 潔
平成3年	1991年			
平成4年	1992年	森村武雄	田中全人	小林 明、西堀清六
平成5年	1993年			

平成6年 平成7年	1994年 1995年	森村武雄	田中全人	小林 明、美和或男
平成8年 平成9年	1996年 1997年	森村武雄	前 迪	小林 明、美和或男、・藏重俊夫、・遠矢勇作、 ・廣谷彰彦、・森村 潔、・山下佳彦
平成10年 平成11年	1998年 1999年	森村武雄	美和或男	藏重俊夫、遠藤博之、小林良明、遠矢勇作、 廣谷彰彦、森村 潔、山下佳彦

国際活動委員会へ併合年

#### 研修委員会 1978-2000年

年		委員長	副委員長	委 員
昭和53年	1978年	土居靖夫		山口正史、扇田 諦
昭和54年	1979年	笠松重信		
昭和55年	1980年	笠松重信		
昭和56年	1981年			
昭和57年	1982年	笠松重信		
昭和58年	1983年	瀬古隆三		金本 恒、本多四郎、長友正治、小川武郎、 大塚智洲、篠原捨喜
昭和59年 昭和60年	1984年 1985年	瀬古隆三	大塚智洲	本多四郎、長友正治、小川武郎、大塚智洲、 篠原捨喜、*伊東慶禧、・田島重男
昭和61年	1986年	牧野一成	柳川達吉	篠原捨喜、柳川達吉、田中全人、田島重男、
昭和62年	1987年	森 博		*瀬古隆三、・堀部 潔
昭和63年 平成1年	1988年 1989年	森 博	・田中全人	篠原捨喜、田島重男、田中全人、柳川達吉、 ・蛭間豊春
平成2年 平成3年	1990年 1991年	田中全人	・蛭間豊春	小林良明、篠原捨喜、杉木 潔、田辺立美、 蛭間豊春、松田益義
平成4年 平成5年	1992年 1993年	田中全人	蛭間豊春	伊藤一正、上林好之、小林良明、田辺立美、松田益義
平成6年 平成7年	1994年 1995年	田中全人	蛭間豊春 小林良明	伊藤一正、上林好之、松田益義、*田辺立美、 ・廣谷彰彦
平成8年 平成9年	1996年 1997年	久野一郎	小林良明 伊藤一正	上林好之、廣谷彰彦、松田益義
平成10年 平成11年	1998年 1999年	和田勝義	小林良明 伊藤一正 廣谷彰彦	網野重信、岩坪光昭、高樋直人、中司龍明名、 松田益義、丸岡健二、*大町良子、・佐藤晋吾

技術研修委員会へ発展的改組

#### AJCE5周年記念事業推進委員会

1982年

年		委員長	委 員
昭和57年	1982年	堀 龍雄	石原健二、笠松重信、篠原捨喜

#### 定款委員会

1983年

年		委員長	委 員
昭和58年	1983年	篠原捨喜	篠原茂之、斎藤 斎、瀬古隆三、三好正、堀龍雄、村川二郎、 斎藤正芳

FIDIC世界会議日本開催実行委員会  
1983-1991年

年		委員長	副委員長	委 員
昭和58年	1983年	田邊 弘	藤田峻五 田原保二 三好 正 森村武雄	吉松昭夫、千葉英夫、大橋文雄、堀部 潔、篠原捨喜
昭和59年	1984年	田邊 弘	三好 正 森村武雄 田原保二 森 博	堀部 潔、千葉英夫、大橋文雄、梅田昌郎、 *篠原捨喜・保原光雄、・片瀬貴文、・梶谷正孝
昭和60年	1985年	森村武雄	森 博 三好 正	
昭和61年	1986年	森村武雄		一宮隆夫、大橋文雄、梶谷正孝、保原光雄、堀龍雄、 堀部潔、森 博、三好 正
昭和62年	1987年			
昭和63年	1988年	森村武雄	三好 正	鈴木善三、田中全人、保原光雄、堀部潔、三川和也、 森 博、若本 修、・石井弓夫
平成1年	1989年			
平成2年	1990年	森村武雄	三好 正	石井弓夫、小寺重郎、小林良明、桜井 一、田中全人、 保原光雄、堀部 潔、三川和也、若本 修
平成3年	1991年			

QBSセミナー実行委員会  
1997年

年		委 員
昭和62年	1987年	委員長：石井弓夫、副委員長：小林良明、委員：水谷潤太郎、桜井一、中嶋幸房、 伊藤一正、大町良子、秋永薫児

異業種技術交流会  
1986-1997年

年		委 員
昭和61年	1986年	篠原捨喜、安藤黎二郎、稲葉大策、内桶 明、今川為一、大庭常良、大塚智洲、 金子恭三、上岡昭春、北村裕也、桑 靖彦、黒沢豊樹、斎藤 斎、斎藤正芳、 坂本 正、桜井国夫、篠原茂之、鈴木清、瀬古隆三、田邊 弘、永友 真、長友正治、 中村哲哉、中森岩夫、西岡正光、橋本欣一、長谷川 要、古橋一樹、藤井三千男、 堀部 潔、本多四郎、森 博、森村武雄、山口純一、横田和恕、柳川達吉、 渡辺治郎、
昭和62年	1987年	
昭和63年	1988年	
平成1年	1989年	
平成2年	1990年	青木 司、荒井明、安藤黎二郎、池田 豊、市川英彦、伊藤美光、今川為一、 大迫明德、太田紘一、大津 亘、大塚敬介、岡村 浩、尾崎光三、加藤友彦、 金子恭三、木下光敏、桑 靖彦、斎藤 斎、斎藤正芳、桜井国夫、佐鳥聡夫、 清水 巖、篠原茂之、篠原捨喜、鈴木英雄、杉本利夫、竹内吉次、谷本 彰、 田村徳一郎、寺崎和郎、中塩真喜夫、中村幸雄、中村哲哉、中森岩夫、長友正治、 針生昭一、長谷川 要、早房長雄、樋口弘、菱川幸雄、堀部 潔、本多四郎、 松本光次、宮崎誠一、柳川達吉、山口純一、横山一男、横田和恕、善積恭宗
平成3年	1991年	
平成4年	1992年	
平成5年	1993年	
平成6年	1994年	
平成7年	1995年	
平成8年	1996年	
平成9年	1997年	安藤黎二郎、池田 豊、市川英彦、今村 了、植木正憲、上田育代、大津 亘、 大塚敬介、大野欣雄、岡村浩、尾崎光三、栗原不二夫、黒澤豊樹、斎藤 斎、 桜井国夫、清水 巖、鈴木英雄、竹内昭夫、建守健、中塩真喜夫、中村幸雄、 中村哲哉、中西武徳、長友正治、長谷川要、早房長雄、樋口 弘、廣川一男、 菱沼忻多



中国委員会  
1987-1998年

年		委員長	副委員長	委員
昭和62年	1987年	森 博	石原健二	篠原捨喜、長友正治、柳川達吉、梶谷正孝、堀龍雄、 箭内 勤
昭和63年	1988年	石原健二	本多四郎	桑 靖彦、篠原捨喜、長友正治、柳川達吉、 ・斎藤正芳、・橋本義平
平成1年	1989年		西岡悟郎	
平成2年	1990年	石原健二		斎藤正芳、篠原捨喜、長友正治、西岡悟郎、 橋本義平、針生昭一、本多四郎、箭内 勤
平成3年	1991年			
平成4年	1992年	石原健二	西岡悟郎	斎藤正芳、橋本義平、針生昭一、本多四郎、 箭内 勤、・石原健二
平成5年	1993年	西岡悟郎	・小林良明	
平成6年	1994年	西岡悟郎	小林良明	石原健二、針生昭一、本多四郎、*橋本義平、 *箭内 勤、*斎藤正芳、・玉井義弘
平成7年	1995年			
平成8年	1996年	玉井義弘	山根亮太郎	
平成9年	1997年			
平成10年	1998年	玉井義弘	山根亮太郎	桜井 一、白谷 章、大津 亘、長友正治、早房長雄

国際活動委員会へ改組

## 環境委員会 1989-1999年

年		委員長	副委員長	委員
平成1年	1989年	石原健二		内田 顕、久保田穰、小島貞夫、中嶋幸房、針生昭一
平成2年	1990年	石原健二		池田 豊、内田 顕、久保田穰、小島貞夫、 中川義徳、中嶋幸房、早房長雄、針生昭一、 若本修、・山下佳彦、・西嶋善昭
平成3年	1991年			
平成4年	1992年	石原健二		池田 豊、内田 顕、久保田穰、小島貞夫、 中川義徳、中嶋幸房、早房長雄、針生昭一、 山下佳彦、若本 修、・本多四郎
平成5年	1993年			
平成6年	1994年	石原健二	・山下佳彦	中嶋幸房、早房長雄、山下佳彦、*池田 豊、 *内田 顕、*久保田穰、*小島貞夫、*中川義徳、 *針生昭一、*本多四郎、*若本 修、
平成7年	1995年			
平成8年	1996年	池田 豊	山下佳彦	小島貞夫、清水 巖、中嶋幸房、早房長雄、 菱沼忻多、堀 尚義、松田益義、水谷潤太郎、 宮本正史、森村 潔
平成9年	1997年			
平成10年	1998年	和田勝義	山下佳彦	春公一郎、堀 尚義、水谷潤太郎、宮本正史、 森村 潔、・秋山直樹、・高城重厚、・谷川有司、 ・袖川政憲
平成11年	1999年			

技術研修委員会へ発展的改組

FIDIC活動研究会  
1991-2002年

年		委 員	
平成3年	1991年	和作幹雄、桜井 一、小林良明、・佐々木、・伊藤一正、・山下佳彦、 ・堀 尚義、・中嶋幸房	
平成4年 }	1992年 }	桜井 一、浅田一洋、和作幹雄、伊藤一正、山下佳彦、堀 尚義、中嶋幸房、 小林良明、松田益義、森村 潔、折下定夫、広瀬典昭、廣谷彰彦、宮本正史、	
平成14年	2002年	*佐々木照治、*北島義一、・瀬谷、・水谷潤太郎	

財務対策特別委員会幹事会  
1997年

年		委員長	委 員
平成9年	1997年	内村 好	栗原不二夫、久保眞介、春 公一郎、宮本正史

AJCE21世紀委員会幹事会へ改組

財務対策特別委員会  
1997年

年		委員長	委 員
平成9年	1997年	石井弓夫	上林好之、栗原不二夫、佐山 実、田中全人、玉井義弘、 長友正治、西堀清六、廣谷彰彦、前川典生

AJCE21世紀委員会へ改組年

AJCE21世紀委員会幹事会  
1998-2000年

年		委員長	委 員
平成10年	1998年	内村 好	栗原不二夫、久保眞介、春 公一郎、宮本正史
平成11年	1999年		

AJCE21世紀委員会  
1998-2000年

年		委員長	委 員
平成10年	1998年	玉井義弘	上林好之、栗原不二夫、田中全人、長友正治、西堀清六、 廣谷彰彦、前川典生、*佐山 実
平成11年	1999年		

政策委員会  
1978年-

年		委員長	副委員長	委 員
昭和53年	1978年	三好 正		柳川達吉、篠原茂之、土居靖夫、金子宗一、岩井 清
昭和54年	1979年	篠原茂之		
昭和55年	1980年			
昭和56年	1981年	篠原茂之		
昭和57年	1982年			
昭和58年	1983年	佐々木敏雄	瀬古隆三	石原健二、斎藤 斎、宮崎誠一、金本 恒、柴田 勉
昭和59年	1984年	藤田峻五		石原健二、瀬古隆三、吉国 宏、三好 正、 佐々木敏雄、森 博
昭和60年	1985年	森 博	保原光雄	
昭和61年	1986年			
昭和62年	1987年	森 博		石原健二、桑 靖彦、篠原捨喜、堤 武、保原光雄、 森村武雄、・梅田昌郎
昭和63年	1988年			
平成1年	1989年	梅田昌郎	保原光雄	石原健二、桑靖彦、田中全人、堤 武、長友正治、 村 武雄
平成2年	1990年			
平成3年	1991年			

平成4年	1992年	梅田昌郎	保原光雄	石原健二、田中全人、長友正治、西堀清六、町田富士夫、松永一成、森村武雄、山口正史、*桑 靖彦
平成5年	1993年			
平成6年	1994年	森村武雄		石井弓夫、石原健二、田中全人、長友正治、西堀清六、町田富士夫、松永一成、山口正史
平成7年	1995年			
平成8年	1996年	石井弓夫	前川典生	田中全人、長友正治、西堀清六、町田富士夫
平成9年	1997年			
平成10年	1998年	玉井義弘	*前川典生	田中全人、前川典生、長友正治、西堀清六、町田富士夫
平成11年	1999年		・田中全人	
平成12年	2000年	玉井義弘	都丸徳治	内村 好、今野啓吾、春 公一郎、和田勝義、(石井弓夫)
平成13年	2001年			
平成14年	2002年	玉井義弘	内村 好	友澤武昭、元山 宏、春 公一郎、(都丸徳治)
平成15年	2003年			
平成16年	2004年	内村 好	春 公一郎	大野静男、元山 宏、浅田一洋
平成17年	2005年			
平成18年	2006年	友澤武昭	春 公一郎	大野静男、河上英二、守屋種修
平成19年	2007年			
平成20年	2008年	友澤武昭	*片山陽夫→ ・長谷川伸一	河上英二、守屋種修、田村 保
平成21年	2009年		春 公一郎	
平成22年	2010年	宮本正史	春 公一郎	*河上英二→・藤原直樹、*田村 保→・志村和紀、吉本雅彦、
平成23年	2011年			藤原直樹、吉本雅彦
平成24年	2012年	宮本正史	春 公一郎	
平成25年	2013年			
平成26年	2014年	小宮雅嗣	佐々部圭二 春 公一郎	吉本雅彦

財政委員会 総務財政委員会  
1978年—

年	年	委員長	副委員長	委 員
昭和53年	1978年	馬渡 明	土居靖夫	池田紀久男、三好 正、斎藤 斎
昭和54年	1979年			
昭和55年	1980年	斎藤 斎	瀬古隆三	
昭和56年	1981年			
昭和57年	1982年	斎藤 斎	瀬古隆三	伊東慶禧、山口正史、橋本義平、伊藤美光、内桶 明
昭和58年	1983年	篠原茂之		
昭和59年	1984年	篠原茂之		山口正史、内桶明、伊藤美光、*棚沢英郎、*伊東慶禧
昭和60年	1985年			
昭和61年	1986年	保原光雄		室町忠彦、三川和也、一宮隆夫、箭内勤、*内桶 明
昭和62年	1987年			
昭和63年	1988年	保原光雄		長友正治、西堀清六、三川和也、室町忠彦、 ・堀部 潔
平成1年	1989年			
平成2年	1990年	保原光雄	・山口正史	上野 武、内村 好、能登 仟、堀部 潔、 三川和也、山口正史
平成3年	1991年			
平成4年	1992年	保原光雄	山口正史	上野 武、内村好、栗原不二夫、能登仟、前 迪
平成5年	1993年			
平成6年	1994年	西堀清六	山口正史	内村 好、栗原不二夫、中嶋幸房、前 迪、 *上野武、・玉井義弘
平成7年	1995年			
平成8年	1996年	西堀清六	玉井義弘	内村 好、栗原不二夫、中嶋幸房、前 迪
平成9年	1997年			

平成10年 平成11年	1998年 1999年	西堀清六	内村 好	栗原不二夫、中嶋幸房、林 秀樹、前 迪
平成12年 平成13年	2000年 2001年	前 迪	林 秀樹	内村 好、*栗原不二夫
平成14年 平成15年	2002年 2003年	内村 好	林 秀樹	元山 宏
平成16年 平成17年	2004年 2005年	宮本正史	江連晃尉	元山 宏、浅田一洋
平成18年 平成19年	2006年 2007年	内村 好	江連晃尉	中沢 修、浅田一洋
平成20年 平成21年	2008年 2009年	内村 好		中沢 修、浅田一洋
平成22年 平成23年	2010年 2011年	内村 好	"永治泰司	浅田一洋、江連晃尉、*関根博道→・菅原茂樹、 中沢 修
平成24年 平成25年	2012年 2013年	永治泰司	佐々部圭二	浅田一洋、*江連晃尉→・村上杜夫、菅原茂樹
平成26年	2014年	永治泰司	金井恵一	菅原茂樹、間宮健匡、村上杜夫

会員委員会  
1978年—

年		委員長	副委員長	委 員
昭和53年 昭和54年	1978年 1979年	三好 正	篠原茂之	馬渡 明、伊藤美光
昭和55年 昭和56年	1980年 1981年	瀬古隆三	斎藤 斎	
昭和57年 昭和58年	1982年 1983年	瀬古隆三 斎藤 斎	斎藤 斎	宮崎誠一、山口正史、伊藤美光、柴田安助、 西岡悟郎、斎藤正芳
昭和59年 昭和60年	1984年 1985年	森 博 堀 龍雄		山口正史、伊藤美光、西岡悟郎、梅田昌郎、 篠原茂之、篠原捨喜、柳川達吉、*斎藤正芳、 ・森 博
昭和61年 昭和62年	1986年 1987年	*瀬古隆三 ・牧野一成 牧野一成		堀 龍雄、梅田昌郎、深川三郎、山口正史、 大塚智洲、西岡悟郎、佐山 実、梶谷正孝、箭内 勉
昭和63年 平成1年	1988年 1989年	梅田昌郎		佐山 実、田中全人、西岡悟郎、西堀清六、森 博、 山口正史
平成2年 平成3年	1990年 1991年	梅田昌郎		佐山 実、竹村 因、田中全人、西岡悟郎、 西堀清六、山口正史
平成4年 平成5年	1992年 1993年	梅田昌郎		佐山 実、清野茂次、竹村 因、田中全人、 西岡悟郎、錦織達郎、山口正史、*西堀清六、 ・林 享
平成6年 平成7年	1994年 1995年	錦織達郎		石井弓夫、佐山 実、清野茂次、竹村 因、 田中全人、西岡悟郎、林 享、山口正史
平成8年 平成9年	1996年 1997年	上林好之	廣谷彰彦	石井弓夫、佐山 実、竹村 因、田中全人
平成10年 平成11年	1998年 1999年	上林好之	廣谷彰彦	岡田鉄三、久保眞介、古長猛彦、田中全人
平成12年 平成13年	2000年 2001年	都丸徳治	*久保眞介	伊藤一正、辰巳正明、元山 宏

平成14年 平成15年	2002年 2003年	遠藤信雄		大野静男、伊藤一正、浅田一洋、吉田典明
平成16年 平成17年	2004年 2005年	友澤武昭	後藤浩一	浅田一洋、守屋種修、伊藤一正、吉田典生、大野静男、*山崎丈夫
平成18年 平成19年	2006年 2007年	清水 慧	田中義則	浅田一洋、伊藤一正、大野静男、田中 博、*園尾恭司、・小林佳嗣
平成20年 平成21年	2008年 2009年	清水 慧	小宮雅嗣	浅田一洋、伊藤一正、*田中 博→・藤岡和久、*小林佳嗣→・西畑賀夫、・狩谷 薫、
平成22年 平成23年	2010年 2011年	長谷川伸一	小宮雅嗣	浅田一洋、*伊藤一正→・柴野正一、狩谷薫、西畑賀夫、*藤岡和久→・宮越一郎
平成24年 平成25年	2012年 2013年	長谷川伸一	小宮雅嗣	浅田一洋、狩谷 薫、柴野正一、西畑賀夫、宮越一郎
平成26年	2014年	長谷川伸一	藤原廣輝	狩谷 薫、柴野正一、西畑賀夫、間宮健匡、宮越一郎

広報委員会  
1978年～

年		委員長	副委員長	委 員
昭和53年	1978年	馬渡 明		斎藤 斎、尾崎通二、扇田 諦
昭和54年	1979年	石原健二		
昭和55年	1980年	石原健二		
昭和56年	1981年			
昭和57年	1982年	石原健二		
昭和58年	1983年	石原健二		宮崎誠一、西岡悟郎、松久恒一、藤谷栄市
昭和59年	1984年	石原健二		宮崎誠一、西岡悟郎、松久恒一、馬場和彦
昭和60年	1985年			
昭和61年	1986年	石原健二	堀部 潔	松久恒一、西岡悟郎、馬場邦彦、松田益義、柳川達吉
昭和62年	1987年			
昭和63年	1988年	堀部 潔	石原健二	塚本昭吾、西岡悟郎、松田益義、柳川達吉
平成1年	1989年			
平成2年	1990年	本多四郎	佐田昭平 水谷潤太郎	石原健二、橋本義平、堀部潔、松田益義、水谷潤太郎、柳川達吉、*西岡悟郎、・池田 豊、・大塚敬介、・斎藤広、・佐田昭平
平成3年	1991年			
平成4年	1992年	本多四郎 松永一成	佐田昭平 水谷潤太郎	池田 豊、斎藤 廣、*大塚敬介、*橋本義平、*畑中孝雄、*松田益義、*柳川達吉、・鶴飼昭一、・川村忠男
平成5年	1993年			
平成6年	1994年	松永一成	佐田昭平	池田 豊、鶴飼昭一、斎藤 廣、川村忠男、*秋永薫児
平成7年	1995年		水谷潤太郎	
平成8年	1996年	土屋 尚	水谷潤太郎	秋永薫児、池田 豊、斎藤 廣、*川村忠男、・北島義一、・森田悠紀雄
平成9年	1997年		*佐田昭平	
平成10年	1998年	前 迪	水谷潤太郎	池田 豊、小林六郎、北島義一、斎藤 廣、関谷堅二、山中誠仁、*星加義照、*岩坪学、・藤江 智
平成11年	1999年			
平成12年	2000年	山根亮太郎	網野信重	池田 豊、北島義一、鈴木泰之、関谷堅二、藤江 智、山田耕三、・都丸俊明
平成13年	2001年			
平成14年	2002年	山根亮太郎	網野信重	池田 豊、畑中孝雄、鈴木泰之、関谷堅二、藤江智、山田耕三、都丸俊明
平成15年	2003年			
平成16年	2004年	遠藤信雄	佐久間 襄	山田耕三、都丸俊明、・小林正樹、早川弘美、（・武田正一郎）
平成17年	2005年			
平成18年	2006年	遠藤信雄	佐久間 襄	山田耕三、小林正樹、早川弘美、市川恵美、都丸俊明、*武田正一郎、・大和美穂、・民岡順朗
平成19年	2007年			

平成20年 平成21年	2008年 2009年	瀬古一郎	*佐久間 襄→ ・横内秀明	佐久間 襄、山田耕三、小林正樹、大和美穂、民岡順朗、 ・小林大祐
平成22年	2010年	瀬古一郎	横内 秀明	佐久間 襄、*山田耕三→・鮫島義明、 、小林正樹、大和美穂、*小林大祐→・折原敬二、*民岡順朗→ ・野澤 誠、・清野聡子、・余川達郎
平成23年 平成24年	2011年 2012年	瀬古一郎	中原 修	折原敬二、小林正樹、佐久間襄、鮫島義明、 *清野聡子→・吉川 泰代、橘 裕人、野澤 誠、 余川達郎、・芦野 誠
平成25年 平成26年	2013年 2014年	瀬古一郎	芦野 誠	五十嵐大樹、*折原敬二→・石えい、河上英二、 小林正樹、鮫島義明、橘 裕人、野澤 誠、吉川泰代

倫理委員会  
1983年—

年		委員長	副委員長	委 員
昭和58年	1983年	永井雅夫		田原保二、金子健二、柴田安助、五十嵐修蔵、 田村徳一郎
昭和59年 昭和60年	1984年 1985年	永井雅夫		五十嵐修蔵、柴田安助、田村徳一郎、*田原保二、 *金子健二
昭和61年 昭和62年	1986年 1987年	三好 正		堀 龍雄、石原健二、斎藤正芳
昭和63年 平成1年	1988年 1989年	三好 正		石原健二、斎藤正芳、堤 武
平成2年 平成3年	1990年 1991年	*三好 正 ・西岡悟郎		石原健二、斎藤正芳、堤 武
平成4年 平成5年	1992年 1993年	西岡悟郎		石原健二、斎藤正芳、松永一成
平成6年 平成7年	1994年 1995年	西岡悟郎		石原健二、松永一成、*斎藤正芳、 ・中村哲雄
平成8年 平成9年	1996年 1997年	池田 豊		中村哲雄、西堀清六、森村武雄
平成10年 平成11年	1998年 1999年	前川典生	長友正治	西堀清六、森村武雄
平成12年 平成13年	2000年 2001年	中島光一	・高城重厚	長友正治、森村武雄、山根亮太郎、宇田川俊夫
平成14年 平成15年	2002年 2003年	中島光一	高城重厚	長友正治、森村武雄、山根亮太郎、渋谷 實、 渋谷光教
平成16年 平成17年	2004年 2005年	高城重厚	清水 慧	森村武雄、和作幹雄、渋谷 實
平成18年 平成19年	2006年 2007年	田中達吉	*高城重厚	森村武雄、渋谷 實、永井伸幸
平成20年 平成21年	2008年 2009年	田中達吉	大野静男	森村武雄、渋谷 實、*永井伸幸→・吉田雅美
平成22年 平成23年	2010年 2011年	田中達吉	渋谷 實	森村武雄、西村洋一
平成24年 平成25年	2012年 2013年	渋谷 實	熊谷忠輝	*森村武雄、西村洋一
平成26年	2014年	渋谷 實	熊谷忠輝	西村洋一

国際活動委員会  
1999年～

年		委員長	副委員長	委員
平成11年	1999年	玉井義弘	山根亮太郎	桜井 一、白谷彰、長友正治、早房長雄
平成12年	2000年	廣谷彰彦	藏重俊夫	委員：桜井 一、長友正治、森村 潔、*江塚道明、*下村紀美男、*中嶋幸房、*美和彥男、ASPAC：*藤倉信一郎、*白谷 彰、・磯部猛也、・寒川江武司、・平野明正、YPF：佐々部圭二、田島照義、BPC：・白谷 彰、・田岡範久、・永治泰司、IMS：・藤倉信一郎、渋谷光協、・*大川敬之、・西井 理
平成13年 平成14年	2001年 2002年	廣谷彰彦	宮本正史 藏重俊夫	"幹事長：桜井 一、委員：長友正治、森村 潔 ASPAC：磯部猛也、寒川江武司、 BPC：白谷 彰、・田岡範久、永治泰司 IMS：・藤倉信一郎、渋谷光協、西井 理 YPF：佐々部圭二、桜井 一、秋永薫児、*田島照義、 QBS：小林良明、河上英二、江連晃尉、畑尾成道、 宮本正史、（石井弓夫、廣谷彰彦）"
平成15年	2003年	廣谷彰彦	宮本正史 藏重俊夫	幹事長：桜井一、委員：長友正治、森村潔 ASPAC：磯部猛也、寒川江武司、秋永薫児、瀬野正敏 BPC：永治泰司、田岡範久、岡村達哉 IMS：・藤倉信一郎、渋谷光協、西井理 CB：桜井一、田島照義、都丸俊明 QBS：河上英二、江連晃尉、露崎高康、（宮本正史、 石井弓夫、小林良明、遠藤信雄、畑尾成道）
平成16年	2004年	廣谷彰彦	竹内正喜 藏重俊夫	幹事長：桜井一、委員：長友正治、森村潔 CB：桜井一、田島照義、都丸俊明 CC：小西秀和、藤倉信一郎、田中賢治、飯島元彦 IFI：寒川江武司、秋永薫児、瀬野正敏 QoC：永治泰司、田岡範久、*工藤利昭 QBS：河上英二、江連晃尉、*露崎高康、 ・横川真理子、（宮本正史、石井弓夫、小林良明、 遠藤信雄、畑尾成道）
平成17年 平成18年	2005年 2006年	宮本正史	竹内正喜 藏重俊夫	幹事長：桜井 一、委員：長友正治、森村 潔 CB：桜井 一、中沢修、*都丸俊明、・橘 裕人 CC：小西秀和、*伊藤不二夫、*飯島元彦、 ・藤原 亮太、・原 崇、・鏑木孝治 IFI：中嶋幸房、秋永薫児、*瀬野正敏、・武内正博 BIMS：永治泰司、田岡範久、藤倉信一郎 QBS：河上英二、江連晃尉、横川真理子、加地 諭 ・ASPAC：前田剛和、赤坂和俊、渡津永子
平成19年 平成20年	2007年 2008年	宮本正史	竹内正喜 藏重俊夫 ・廣瀬典昭	幹事長：桜井 一、委員：長友正治、*森村 潔 CB：桜井 一、中沢 修、佐藤正治 CC：小西秀和、藤原亮太、原崇、鏑木孝治、 ・秋永薫児、・星 弘美、・林 竜郎、・水流純男 IFI：中嶋幸房、秋永薫児、武内正博 BIMS：*永治泰司→・深谷茂広、田岡範久 QBS：河上英二、江連晃尉、横川真理子、辻 良 ASPAC：*前田剛和、*赤坂和俊、*渡津永子、 ・*中島隆志
平成21年 平成22年	2009年 2010年	藏重俊夫	竹内正喜 *野崎秀則	委員：桜井一、長友正治、・中嶋幸房 FP：狩谷薫、春公一郎、袖川政憲、*井伊亮太→ ・山田和人、*荒岡邦明→・安田智広、・遠山正人 CC→契約：藤原亮太、飯島元彦、小西秀和、原崇、 鏑木孝治、秋永薫児、星弘美、林竜郎、*水流純男 →・渡辺眞道 QBS：河上英二、江連晃尉、横川真理子、辻 良 ・CB：秋永薫児、深谷茂広、*田岡範久、武内正博、 ・高上 顕 *IFI：中嶋幸房、秋永薫児、武内正博 *BIMS：深谷茂広、田岡範久
平成23年	2011年			

平成24年	2012年	藏重俊夫	竹内正喜 狩谷 薫	委員：桜井 一、長友正治、中嶋幸房 QBS：河上英二、*江連晃尉→・山内 順、辻 良、 *横川真理子→・齋藤淳、 契約：藤原亮太、鎚木孝治、*飯島元彦→ ・北野知行、小西秀和、林 竜郎、原 崇、 星 弘美、*渡辺眞道→・柴田 悟 FP：狩谷 薫、袖川政憲、遠山正人、春 公一郎、 安田智広、山田和人 CB：秋永薫児、深谷茂広、高上 顕、武内正博、 ・黒崎ひろみ 契約管理：白谷 章、小西秀和、嶋田 宏、 新地貴博、西 修一、賦勺秀樹
平成25年	2013年			
平成26年	2014年	藏重俊夫	狩谷薫	委員：桜井 一、長友正治、中嶋幸房 FP：河上英二、春 公一郎、齋藤淳、袖川政憲、辻良、 遠山正人、安田智広、山内順、山田和人、(狩谷薫) 契約：藤原亮太、鎚木孝治、北野知行、小西秀和、 柴田悟、林 竜郎、原 崇、星 弘美 CB：秋永薫児、深谷茂広、黒崎ひろみ、高上 顕、 武内正博 契約管理：白谷 章、小西秀和、海藤 勝、 嶋田 宏、新地貴博、西 修一、賦勺秀樹

ASPAC：Asia-Pacific Member Associations FIDICアジア太平洋地域会員協会連合

YPF：Young Professionals Forum FIDIC若手専門職委員会

BPC：Business Practice Committee FIDIC業務委員会

IMS：Integrity Management Committee FIDIC公正管理委員会

QBS：Quality Based Selection 品質・技術による選定

CB：Capacity Building 能力開発

CC：Contract Committee FIDIC契約委員会

IFI：International Funding Institution 国際金融機関

QoC：Quality of Construction 施工品質

BIMS：Business Integrity Management System ビジネス公正管理システム

FP：FIDIC Policy FIDICポリシー

技術研修委員会  
2000-

年		委員長	副委員長	委 員
平成12年	2000年	和田勝義	竹村陽一 山下佳彦	第一：竹村陽一、谷川有司、岩坪 学、瀬谷光昭、 宮崎芳樹、網野信重、*木村友一、・松田康治 第二：山下佳彦、袖川政憲、春 公一郎、荒岡邦明、 高城重厚、宮本正史、森村潔、池田 豊、中嶋幸房 第三：和田勝義、磯村辰彦、林 幸伸、秋山直樹、 浦田康滋、高橋勝美、堀尚義
平成13年	2001年			
平成14年	2002年	畑尾成道	竹村陽一 山下佳彦 ・田村 哲	第一：竹村陽一、谷川有司、松田康治、瀬谷光昭、 文 雪峰、網野信重、中嶋幸房 第二：山下佳彦、春 公一郎、袖川政憲、狩谷 薫、 森村 潔、荒岡邦明、高城重厚、池田 豊 第三：畑尾成道、磯村辰彦、林 幸伸、浦田康滋、 高橋勝美、田中達吉
平成15年	2003年			



平成16年	2004年	畑尾成道	竹村陽一 田村 哲 山下佳彦 ・林 幸伸	行事：中谷光雄、文 雪峰、中嶋幸房 FP：狩谷 薫、春 公一郎、袖川政憲、荒岡邦明、池田 豊 教育：林 幸伸、坂田隆博、浦田康滋、高橋勝美、田中達吉 YPF：秋永薫児、高樋直人、水野直人、鵜 貴之、渡辺雅彦、佐藤 勇、草野康裕、高田修、山内健久、古嶋 篤、吉栖雅人、福永明彦、上住和夫、落合幸恵、片柳 哲、境田孝吉、端谷研治、原 崇、・浅田薫永、(桜井 一、佐々部圭二、早房長雄、・中島庸佑)
平成17年 平成18年	2005年 2006年	畑尾成道	竹村陽一 田村 哲 林 幸伸 *山下佳彦 ・金井恵一	技研：金井恵一、中谷光雄、秋永薫児、高樋直人、浅田薫永、*文 雪峰、・グエンソンフン FP：狩谷 薫、春 公一郎、袖川政憲、荒岡邦明、池田 豊
平成19年 平成20年	2007年 2008年	森村 潔	竹村陽一 田村 哲 林 幸伸 金井恵一	技研：金井恵一、秋永薫児、グエンソンフン、浅田薫永、*中谷光雄→・大山満弘、*高樋直人、・山内寛人、・田畑彰久 FP：狩谷 薫、春 公一郎、袖川政憲、荒岡邦明、池田豊、・井伊亮太 YP：・赤坂和俊、・中島隆志、・宗広裕司、・森永友貴、・渡津永子、・今井学、・中村秀親、・矢神卓也、・甲斐慎一郎、(金井恵一)
平成21年 平成22年	2009年 2010年	森村 潔	竹村陽一 *田村 哲 →・野本昌弘 林 幸伸 金井恵一	技研：金井恵一、秋永薫児、浅田薫永、*グエンソンフン→・*橘 裕人、大山満弘、田畑彰久、山内寛人、(林 幸伸) YP：赤坂和俊、中島隆志、*宗広裕司、森永友貴、渡津永子、今井 学、中村秀親、矢神卓也、甲斐慎一郎、・手塚 誠、・北野知行、・野澤 誠、・澤部純広、・長田太宗、・釜瀬明日香、・花原英徳、(金井恵一)
平成23年 平成24年	2011年 2012年	森村 潔	竹村陽一 林 幸伸 金井恵一 野本昌弘	技研：金井恵一、秋永薫児、浅田薫永、大山満弘、山内寛人、(林 幸伸) YP：赤坂和俊、*今井 学、釜瀬明日香、北野知行、澤部純広、手塚 誠、長田太宗、中村秀親、野澤誠、花原英徳、満倉 真、森永友貴、矢神卓也、渡津永子、*中島隆志→・原田拓也→・伊丹由紀子、・安達理央太、・井村修二、・甲斐慎一郎、・金子拓史、・高木沙織、・深谷正史、・福澄浩恒、松尾 隆、(金井恵一)
平成25年 平成26年	2013年 2014年	林 幸伸	村田博道 野本昌弘 磯部猛也	委員：浅田薫永、大山満弘、福沢敬三、山内寛人 YP：赤坂和俊、矢神卓也、澤部純広、安達理央太、伊丹由紀子、井村修二、釜瀬明日香、甲斐慎一郎、金子拓史、北野知行、高木沙織、手塚 誠、野澤 誠、花原英徳、深谷正史、福澄浩恒、松尾 隆、満倉 真、渡津永子

FP：FIDIC Policy FIDICポリシー

YPF：Young Professionals Forum FIDIC若手専門職委員会

YP：Young Professionals 若手専門職

技術交流委員会  
2000年ー

年		委員長	副委員長	委 員
平成12年	2000年	本田尚士	・中西武徳	大津 亘、清水 巖、中西武徳、早房長雄、 本多四郎、*菱沼忻多、・池田 豊、・大野欣雄、 ・黒澤豊樹、・長友正治、・林 裕
平成13年	2001年			
平成14年	2002年	本田尚士	中西武徳	池田 豊、植木正憲、大野欣雄、黒澤豊樹、清水巖、 長友正治、早房長雄、本多四郎、*林 裕
平成15年	2003年			
平成16年	2004年	中西武徳	高木秀雄	本田尚士、池田 豊、植木正憲、大野欣雄、 黒澤豊樹、清水 巖、長友正治、早房長雄、 本多四郎、・平野輝美、・武田正一郎、 ・中島庸佑、・大野寿彦、・内藤 紘
平成17年	2005年			
平成18年	2006年	高木秀雄	中西武徳	本田尚士、池田 豊、植木正憲、大野欣雄、 黒澤豊樹、清水 巖、長友正治、早房長雄、 本多四郎、平野輝美、中島庸佑、大野寿彦、 内藤 紘、花岡 浩、・田中 宏、*武田正一郎、
平成19年	2007年			
平成20年	2008年	清水 巖	・田中 宏	池田 豊、黒澤豊樹、田中 宏、長友正治、 中西武徳、早房長雄、花岡 浩、平野輝美、 本田尚士、*大野欣雄、
平成21年	2009年			
平成22年	2010年	田中 宏	澁谷 實	*池田 豊、黒澤豊樹、長友正治、早房長雄、 花岡 浩、平野輝美、*本田尚士
平成23年	2011年			
平成24年	2012年	田中 宏	澁谷 實	黒澤豊樹、長友正治、早房長雄、花岡 浩、平野輝美
平成25年	2013年			
平成26年	2014年	田中 宏	澁谷 實	黒澤豊樹、長友正治、早房長雄、花岡 浩、平野輝美

アジュディケーター検討会  
2010年

年		委員長	副委員長	委 員
平成22年	2010年			蔵重俊夫、藤原亮太、林 幸伸、金井恵一、 小宮雅嗣、春 公一郎、鍋木孝治、星 弘美

アジュディケーター委員会へ改組

アジュディケーター委員会  
2011年ー

年		委員長	副委員長	委 員
平成23年	2011年	野崎秀則	林 幸伸	上野修作、下村紀美男、西村秀士、藤井克己、 藤原亮太
平成24年	2012年	野崎秀則	林 幸伸	上野修作、下村紀美男、西村秀士、藤井克己、 藤原亮太
平成25年	2013年			
平成26年	2014年	野崎秀則	林 幸伸	上野修作、下村紀美男、西村秀士、藤井克己、 藤原亮太

FIDIC理事会準備委員会  
2011年

年		委員長	委 員
平成23年	2011年	宮本正史	狩谷 薫、袖川政憲、遠山正人、*藤岡和久→・宮越一郎、 横川真理子

協会連携特別委員会  
2011-2013年

年		委員長	委 員
平成23年	2011年	小宮雅嗣	佐々部圭二、春 公一郎
平成24年	2012年		
平成25年	2013年		

AJCE40周年記念事業実行委員会  
2014年

年		委員長	委 員
平成26年	2014年	宮本正史	瀬古一郎、藏重俊夫、林 幸伸、春 公一郎

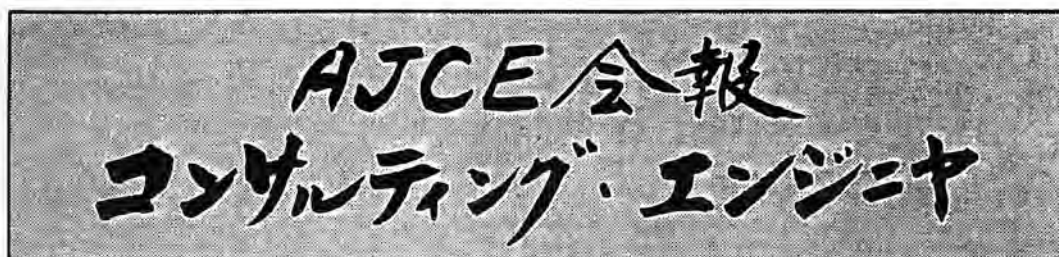
## AJCE 覚書

## Memorandum Of Understanding 一覧

国名	協会名	締結年月日	会長名
中国	中国国際工程諮詢公司 (CIECC)	1985年5月22日	AJCE 田邊 弘 CIECC 李 雪潔
豪州	The Association of Consulting Engineers Australia (ACEA)	1995年10月30日	AJCE 梅田 昌郎 ACEA Richard A. Kell
ニュージーランド	The Association of Consulting Engineers New Zealand Inc (ACENZ)	1998年1月11日	AJCE 松永 一成 ACENZ Jon J Lorentz
中国	China National Association of Engineering Consultants 中国工程諮詢協会 (CNAEC)	2001年2月27日	AJCE 石井 弓夫 CNAEC 余 健明
トルコ	The Association of Turkish Consulting Engineers and Architects (TurkishACEA)	2001年3月24日	AJCE 石井 弓夫 TurkishACEA Haluk Dogancay
韓国	Korea Engineering & Consulting Association (KENCA)	2008年7月22日	AJCE 廣谷 彰彦 KENCA Cho Haeng Rae
ウズベキスタン	The UZBEK ASSOCIATION OF CONSULTING ENGINEERS (UZACE)	2009年3月12日	AJCE 廣谷 彰彦 UZACE Mirodil M. Mirakhmedov
アゼルバイジャン	National Engineering Consultancy Society of Azerbaijan (NECSA)	2009年4月27日	AJCE 廣谷 彰彦 NECSA Ibrahim Mammadzadeh

## FIDIC加盟とAJCEの創立

FIDIC 加盟と AJCE の創立特集号



Vol.12 No.2 昭和63年9月1日

### FIDIC 加盟と AJCE の創立

社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会 AJCE  
(FIDIC加盟機関)

〒105 東京都港区虎ノ門1丁目21番19号 秀和第2虎ノ門ビル 電話03(591)3208(代表)

**ASSOCIATION OF JAPANESE CONSULTING ENGINEERS (AJCE)**  
FIDIC MEMBER ASSOCIATION

Showa-Dani-Toranomon Bldg., 1-21-19 Toranomon, Minato-ku, Tokyo, 105 Japan

## ま え が き

昭和62年秋に田邊弘前会長は、この際当協会運営の理念を協会の内外に宣明するため、元事務局長で当協会創立の経緯に詳しい田中千秋氏に、当時の経緯を示す資料の収集を依頼した。ここに森副会長を委員長とする政策委員会は、田中氏によって収集された資料を整理編集して、この文書を作成した。委員会はこの文書によってわが国の識者各位がコンサルティング・エンジニアが高度の技術力と公正な判断力によって、社会の発展に寄与する職業であることをご理解いただくことを期待する。また委員会は当協会の会員各位がコンサルティング・エンジニアの職業理念と、その理念を貫くために努力した先人の業績をこの文書によって理解し、目前の利害にまどうことなく、その社会的使命を果たされることを切望するものである。

(社) 日本コンサルティング・エンジニア協会  
政策委員会

## 1. FIDIC 加盟交渉の経過

日本の技術者と技術会社は FIDIC に加盟することによって、諸外国の技術者との交流をはかり、海外進出の機会を得ることを期待して FIDIC への加盟を希望していた。ことに世界銀行、国連など国際機関のプロジェクトに参画するために FIDIC 加盟を希望する企業が多い。わが国の技術団体の中では技術士会が FIDIC 委員会を組織して熱心に FIDIC に加盟を交渉した。昭和35年5月に清水正吉会員ほか6名の代表を派遣、村川理事が FIDIC 事務局を訪問するなどの行動があった。

このように技術士会が FIDIC 加盟を交渉したのは、昭和48年当時において既に世界23ヶ国が FIDIC に加盟しており、その組織の環はますます広がりつつあった情勢を踏まえて、加盟しなければ日本だけが世界に孤立することになり、日本のコンサルタントが国際的に活動する場合不便であろうと判断したことによる。（文献1）

このような加盟努力にもかかわらず、昭和45年にいたるも FIDIC は加盟を承認しなかった。昭和47年4月の理事会で田中会長は FIDIC 加盟の交渉は不首尾であったと報告している。（文献2）

昭和47年11月に、Frijlink 事務総長が来日し、技術士会幹部と会談し、技術士会の FIDIC 加盟問題について討議した。FIDIC 側は技術士会の会員には建設業やメーカーの企業内技術士を混在していることを指摘した。技術士会の会員構成が FIDIC のコードに合致しないことを指摘して、会員構成に根本的な問題があることは技術士会内部でも認めていた。（文献3）

昭和48年1月に Fitt 会長が Frijlink 事務総長とともに来日し、田中会長他技術士会幹部と協議した。1月27日の最終的な会談において「JCEA（技術士会）の中に FIDIC の条件に合致するような会員だけの集団を組織し、この団体が FIDIC に加盟するという方式」が合意された。（文献4）

技術士会の加盟申請を FIDIC が拒否した理由について、昭和47年5月、Fitt 会長はアムステルダム年次会議の一般報告の中でつぎのように述べている。『日本技術士会に関する事務局長と私の討論について申し上げると、日本の各種協会など職業団体

と世界の他の国々の団体との間には相当に大きな相違があることが歴然としている。この相違があるので日本の協会の FIDIC 正式加盟を可能にするような解決を難しくしている』。(文献5)

Fitt 会長の報告は日本の協会の立場を尊重して婉曲な表現を使っているが、その意味するところは、技術士会は定款内容においても会員構成においても職業技術者(プロフェッショナル・エンジニア)を混在する団体であって、コンサルティング・エンジニアの団体ではないことを指摘しているものである。技術士の中にはコントラクターやメーカーに所属していて計画設計も製作施工も兼業する職業に従事する人がある。製造業や請負業の利害に左右されることなく、依頼主のニーズを尊重して公正な判断ができるコンサルティング・エンジニア(CE)を社会は必要とするので、諸外国では製作施工などに従事する技術者を含めてプロ技術者をプロフェッショナル・エンジニア(PE)と呼び、計画設計に専従して製作施工販売などの商業的活動から独立しているコンサルティング・エンジニア(CE)とを明瞭に区別しており、欧米諸国ではPEとCEはそれぞれの団体に所属している。日本ではCEとPEの区別が不明瞭に放置されている。技術士会はPEとCEとが混在する団体である。この認識が不明瞭であったことが10年以上にわたる努力にもかかわらず、技術士会のFIDIC加盟が実現しなかった原因となっている。

## 2. AJCE の創立

Fitt 会長との合意(48. 1. 27)に基づいて、技術士会では当初は FIDIC の条件に合致するような団体を技術士会の内部機構として組織し、FIDIC に対しては日本コンサルティング・エンジニア協会(仮称)という任意団体を作る形式で FIDIC 加盟を実現しようと画策した。(文献1)、(文献7)

国内的には新団体を技術士会の一環として繋ぎとめるため新団体の会員は技術士会の会員であるという条件を付けた(文献6)。しかし、反面技術士会の理事会においても技術士会の性格を曖昧にしてそのまま FIDIC に加盟することは、将来に禍根を残すということで反論があった(文献1)。そこで、性格の明確な団体を設立してこ



れをパイプとして FIDIC への加盟を実現することを決意し、これについて、科学技術庁の了解も得た。(文献1)、(文献8)

技術士会幹部によって起案された新団体の定款は FIDIC に提示され、FIDIC はアムステルダム総会の一般報告で同意を表明している(文献5)。これを受けて、昭和49年4月26日の設立総会において日本コンサルティング・エンジニア協会(英文名 ASSOCIATION OF JAPANESE CONSULTING ENGINEERS 略号 AJCE)が設立された。

その後昭和52年8月1日、日本コンサルティング・エンジニア協会は科学技術庁所管の社団法人として内閣総理大臣により認可された。

## あ と が き

前述したように技術士会は10年以上にわたって FIDIC 加盟を運動したが、結局コンサルティング・エンジニアの職業理念に合致しない技術士会の FIDIC 加盟は成らず、AJCE が技術士会に代わって FIDIC のメンバー協会となることで解決した。

しかし、AJCE は FIDIC 加盟を実現するための技術士会の代替機関ではなくて、技術士会とは全く独立の法人格をもった団体である。AJCE は会員の職業の倫理について CE の理念を鮮明にした定款とそれに合致した会員構成からなっている。さらに特記すべきことは、技術士会が技術士個人を会員とする団体であるのに対して、AJCE は法人あるいは個人の企業を普通会员とする団体である。

FIDIC は技術士会が加盟することを固く拒み続けたにもかかわらず、昭和47年から数次にわたって会長と事務総長が来日し、日本の CE を組織化するために技術士会の幹部と会談している。FIDIC はその定款に謳っているように、各国の CE の組織化を促進する活動を進めている。しかし日本の CE を組織化するに当たっては、日本の CE の自主的な活動を尊重しこれを支援する方向を堅持している。AJCE が創設されたのは当時技術士会員であって、AJCE の会員となった先覚者諸氏の努力に負うものであって、決して FIDIC によって AJCE が作られたものではない。

**参考文献**

1. 豊田龍三郎（発起人代表）報告「FIDIC加盟に関する説明」、技術士会資料，昭和49年3月26日。
2. 昭和47年第1回理事会議事録，技術士会，昭和47年4月18日，p. 2.
3. 技術士会臨時理事会議事録，昭和49年5月7日。
4. 田中千秋氏の記述によるが，その後に技術士会理事会などに報告された事実と一致している。
5. FIDICアムステルダム総会，Fitt会長の一般報告，pp.11-24.
6. 昭和48年度第3回理事会議事録，技術士会，昭和48年6月12日。
7. 昭和48年度第6回理事会議事録，技術士会，昭和48年12月11日。
8. 昭和50年第2回技術士審議会議事録，科学技術庁第3会議室，昭和50年4月3日。

## FIDIC 加盟交渉経過一覧表

- 昭和35-05 技術士会清水代表以下6名をFIDICへ派遣
- 45-07 FIDIC W. W. Moore 会長来訪
- 46-07 技術士会田中会長, 村川理事, FIDIC シドニー総会に出席
- 47-04 FIDIC 加盟見通しについて技術士会理事会に報告
- 47-05 村川理事 FIDIC 事務局を訪問
- 47-11 FIDIC Frijlink 事務総長来訪, 13/14両日加入問題討議
- 48-01-27 FIDIC Fitt 会長, Frijlink 事務総長来訪, 加盟問題につき討議
- 48-05-22 FIDIC アムステルダム総会で, Fitt 会長一般報告でJCEAの性格について言及。村川理事出席
- 48-06-12 JCEA 理事会で会員構成の問題点指摘
- 48-10 村川理事より FIDIC に準備状況報告
- 49-02-04 AJCE 発起人総会
- 49-03-26 豊田発起人名の文書によって各会員宛経過報告
- 49-03-27 技術士会総会で, AJCE の設立と FIDIC 加盟申込を議決
- 49-04-26 加盟申請書を Frijlink 事務総長宛発信
- 49-04-26 AJCE 創立総会
- 49-05-07 技術士会理事会で, AJCE 会員構成について質疑
- 49-06-12 第1回 AJCE 理事会: FIDIC ケープタウン総会に代表団派遣方針を決定
- 49-07-23 AJCE 代表団の氏名を報告し, 承認
- 49-10-01 FIDIC 総会で AJCE 加盟を承認
- 49-10-08 OLSON 会長より文書をもって加盟承認を通知
- 49-10-08 AJCE 理事会で FIDIC 加盟承認を報告
- 50-05-21 技術士会理事会において田中会長より JCEA として加盟できなかった事情を報告
- 50-05-27 技術士会定時総会において AJCE 創立および FIDIC 加盟を報告

## FIDIC大会一覧

空欄は不明

年	開催地	テーマ	備考	日本からの参加人数				
				会員	補助	同伴	外部	合計
1913年			1913年 FIDIC創立					
}								
1947年 (昭和22年)	Netherlands							
1948年 (昭和23年)								
1949年 (昭和24年)								
1950年 (昭和25年)	UK							
1951年 (昭和26年)								
1952年 (昭和27年)	Denmark							
1953年 (昭和28年)	Belgium							
1954年 (昭和29年)	Switzerland							
1955年 (昭和30年)	France							
1956年 (昭和31年)	UK							
1957年 (昭和32年)	Germany							
1958年 (昭和33年)	Norway							
1959年 (昭和34年)	Netherlands							
1960年 (昭和35年)	Sweden							
1961年 (昭和36年)	Switzerland							
1962年 (昭和37年)	Finland							
1963年 (昭和38年)	UK							
1964年 (昭和39年)	Paris, France	A: Aid to Developing Countries, B: Specialists' Services for the Realisation of Industry Projects						
1965年 (昭和40年)	Helsingor, Denmark	The Consulting Engineer and Society						
1966年 (昭和41年)	Dublin, Ireland	CE practice on Innovation in Engineering						
1967年 (昭和42年)	Washington DC, USA	International Consulting Activities						
1968年 (昭和43年)	Wiesbaden, Germany	The Independent CE and his Relations with Contracting and Manufacturing Industries						
1969年 (昭和44年)	Oslo, Norway	Society and Water						

空欄は不明

年	開催地	テーマ	備考	日本からの参加人数				
				会員	補助	同伴	外部	合計
1970年 (昭和45年)	Brussel, Belgium	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Professional Liability</li> <li>• Conduct of CEs</li> <li>• Bidding</li> <li>• Engineering Projects</li> <li>• Role of FIDIC</li> <li>• Contracts</li> <li>• Public Relations</li> </ul>						
1971年 (昭和46年)	Sydney, Australia	A: Role of Governments in the export of Consulting Services B: CE Practice and Turn Key Projects	後のAJCE創立者達がFIDIC大会に初参加					
1972年 (昭和47年)	Stockholm, Sweden	The CE and his Association - Relationship with Clients, Employees, Governmental Authorities and Other Profession, -Services Rendered the CEs by their Association						
1973年 (昭和48年)	Amsterdam, Netherlands	Client's and Contractor's Views of the CE		1			0	
1974年 (昭和49年)	Cape Town, S.A.	The Role of the CE in Developing Countries	AJCE設立 ケープタウン大会でAJCEのFIDIC加盟承認	2			0	
1975年 (昭和50年)	Paris, France	The CE and Related Professions	AJCE FIDIC加盟記念大会開催	5			0	
1976年 (昭和51年)	Ottawa, Canada	Management of CE Firms		10		8	0	18
1977年 (昭和52年)	Helsinki, Finland	The Future of Consulting Engineering	AJCE社団法人承認 ASPACの前身が初会合（非公式）	7			0	
1978年 (昭和53年)	London, UK	The CE and Public Sector Consultancy	ASPACの前身が第2回会合（非公式）	7			0	
1979年 (昭和54年)	Copenhagen, Denmark	The Responsibility and Liability of the CE	公式のASPAC Meeting 初開催	4			0	
1980年 (昭和55年)	San Francisco, USA	Consulting Engineering: A Risky Business		9			1	
1981年 (昭和56年)	Bern, Switzerland	Financing the Project Cycle		10			1	
1982年 (昭和57年)	Singapore	Independent Engineering Professionals		14			1	
1983年 (昭和58年)	Florence, Italy	Client/Consultant Relationships		13			1	
1984年 (昭和59年)	Rio de Janeiro, Brazil	The Involvement of CEs in Research and Development		7			0	
1985年 (昭和60年)	Viennese, Austria	Development-A Partnership of Interests <ul style="list-style-type: none"> <li>• Business Practice</li> <li>• Performance of CEs</li> <li>• Risk &amp; Liability</li> <li>• Business with IFIs</li> </ul>		11			0	
1986年 (昭和61年)	Auckland, NZ	Today's Target- The Professions <ul style="list-style-type: none"> <li>• Small Firms and Business Practice</li> <li>• Quality Control</li> <li>• Professional Liability</li> <li>• F I D I C's Plan</li> </ul>	森村武雄AJCE副会長 FIDIC理事就任（～1990年）	10		9	0	19

空欄は不明

年	開催地	テーマ	備考	日本からの参加人数				
				会員	補助	同伴	外部	合計
1987年 (昭和62年)	Lausanne, Switzerland	Facing the Future ・ In-debts Developing Countries ・ Changing/ Future Role of CE's Environmental Market	京都開催の準備を進めるが為替 レートの急変により中止となる	12		12	1	25
1988年 (昭和63年)	Dublin, Ireland	Value of Engineering	森村武雄AJCE副会長 ASPAC議 長就任	11		8	0	19
1989年 (平成1年)	Washington, USA	Engineering in Global Economy	6月9-10日 第112回FIDIC理事 会 東京開催	19		13	0	32
1990年 (平成2年)	Oslo, Norway	Sustainable Development - A Challenge for The Engineering Profession		22		12	0	34
1991年 (平成3年)	Tokyo, Japan	Harmonization between Man and Environment	日本（東京）でのFIDIC大会開 催が実現					
1992年（平 成4年）	Madrid, Spain	The Future of the Consulting Engineer		21		14	0	35
1993年 (平成5年)	Munich, Germany	Urban and Rural Redevelopment		14	4	13	0	31
1994年 (平成6年)	Sydney, Australia	Consulting Engineer - Challenge of Leadership		20	4	11	0	35
1995年 (平成7年)	Istanbul, Turkey	Global Challenges and Consulting Engineer		21	3	15	0	39
1996年 (平成8年)	Cape Town, S.A.	The Dynamics of Development		19	3	11	0	33
1997年 (平成9年)	Edinburgh, UK	Procurement and Management of Construction in the New Millennium		20	4	0	0	24
1998年 (平成10年)	Edmonton, Alberta, Canada	Re-Inventing The Engineering industry Solution for a Changing World		13	4	7	0	24
1999年 (平成11年)	Hague, Netherlands	Expanding the Boundaries	FIDICオランダ大会にあわせて、 ハーグで「日蘭修好400周 年記念セミナー」開催	18	4	13	3	38
2000年 (平成12年)	Honolulu, USA	Sustainability -Challenge of the New Millennium	石井弓夫AJCE会長 ASPAC議長 就任（～2003年）	29	30	20	0	79
2001年 (平成13年)	Montreaux, Switzerland	Partners in Sustainability	石井弓夫AJCE会長 FIDIC理事 就任（～2005年）	18	5	12	0	35
2002年 (平成14年)	Acapulco, Mexico	Integrity & Capacity Building for Development		25		10	0	35
2003年 (平成15年)	Paris, France	Globalization with Responsible Investment	廣谷彰彦AJCE副会長 ASPAC理 事就任（～2009年）	29		18	0	47
2004年 (平成16年)	Copenhagen, Denmark	Consultancy - Profession or Business	5月18-19日 第157回FIDIC理 事会 東京開催 5月 AJCE30周年記念シンポジ ウム開催	19		10	0	29
2005年 (平成17年)	Beijing, China	Sustainable Engineering - Global Leadership		25		11	0	36
2006年 (平成18年)	Budapest, Hungary	Where the roads meet	廣谷彰彦AJCE会長 ASPAC議長 就任（～2009年）	28		11	0	39
2007年 (平成19年)	Singapore	Global Services - Enhanced Partnerships		28		8	4	40
2008年 (平成20年)	Quebec, Canada	A strong industry, serving society		21		6	1	28
2009年 (平成21年)	London, UK	Global challenges - Sustainable solutions	廣谷彰彦AJCE会長 FIDIC理事 就任 内村好AJCE副会長 ASPAC理事 就任	24		8	0	32

空欄は不明

年	開催地	テーマ	備考	日本からの参加人数				
				会員	補助	同伴	外部	合計
2010年 (平成22年)	New Delhi, India	Managing Innovation - The way forward		25		6	3	34
2011年 (平成23年)	Davos, Switzerland	Local Resources -Global Perspectives	チュニス・チュニジアで開催予定であったが、治安悪化により急遽、スイス・ダボスに変更	25		9	0	34
2012年 (平成24年)	Seoul, Korea	Beyond Green- New Paradigm	4月 AJCE公益社団法人へ移行 5月9-10日 第181回FIDIC理事会 東京開催	49		12	2	63
2013年 (平成25年)	Barcelona, Spain	Quality of Life- Our Responsibility	FIDIC100周年記念大会	34		15	3	52
2014年 (平成26年)	Rio de Janeiro, Brazil	Innovative Infrastructure Solutions	南米初の開催	25	5	5	1	36

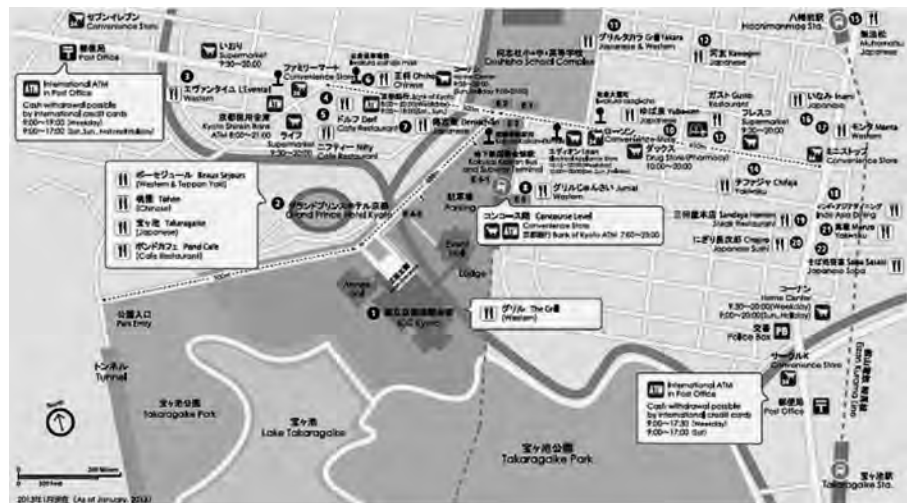
## 幻のFIDIC京都大会 概要

京都大会は円高の影響により中止となりました。以下は当時検討された概要です。

- 開催期間：1987（昭和62）年8月30日（日）～9月2日（水）
- フォーラムテーマ：Facing the Future
- 会場：国立京都国際会館（京都市）



HPより



### ■ 想定人数

参加者 300人 + 同伴者 200人 = 500人（第19回実行委員会添付資料より）



## ■ 経緯

1981年（昭和56） 6月	ベルリン大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FIDICより、非公式に日本開催を打診され、AJCEはFIDICから要請があれば日本招致の用意がある旨、返答</li> </ul>
1982年（昭和57） 6月8日	第51回 理事会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FIDICから要請があれば受ける方針を合意</li> <li>・ 候補年 1985年（科学万博つくば85） 1987年（AJCE10周年）</li> </ul>
1982年（昭和57）	シンガポール大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本開催招致の意向を表明</li> </ul>
1983年（昭和58） 6月5日～8日	フローレンス大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FIDIC大会日本開催を正式提案し、承認される。</li> <li>・ 開催地候補 東京・開催時期候補 1987年10月</li> </ul>
1983年（昭和58） 8月		<p>FIDIC世界会議日本開催実行委員会 設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員長 田邊 弘</li> <li>・ 副委員長 田原保二</li> </ul>
1983年（昭和58） 10月4日	第1回 実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催地として京都と東京を比較検討</li> </ul>
1984年（昭和59） 12月18日	第74回 理事会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FIDIC内部で下記了承されたことを報告</li> <li>・ 開催日 1987年8月30日（日）～9月2日（水）</li> <li>・ 開催地 京都</li> <li>・ 会場 国立京都国際会館</li> <li>・ 参加人数 500人を想定</li> </ul>
1985年（昭和60） 6月19日	ウィーン大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総会にて1987年京都開催をアナウンス</li> <li>・ 期間中にEldridge会長、Campbell事務局長と打合せ</li> <li>・ テーマ、ワークショップ案を報告</li> </ul>
1986年（昭和61） 4月2日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森村武雄理事とEldridge会長がロンドンで会談。</li> <li>・ FIDICより円高による登録料の引き上げと参加者減少が予想されるため、日本開催の延期を提案。</li> <li>・ Campbell事務局長が来日して、AJCE理事会・実行委員会と協議することとする。</li> </ul>
1986年（昭和61） 5月12日	書簡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都大会中止 日本での開催延期を要請</li> <li>・ 急激な円高のため</li> <li>・ 87年大会はFIDIC本部のスイスオスロー開催に変更</li> <li>・ 日本開催は1991年とすることで内定</li> </ul>
1986年（昭和61） 5月19日	第85回 理事会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都大会中止 日本での開催延期を了承</li> </ul>
1986年（昭和61） 6月16日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内関係者へ京都会議延期を通知</li> </ul>

# FIDIC東京大会 概要

■ 開催期間：1991（平成3）年9月15日（日）～19日（木）



■ テーマ：Harmonisation Between Man and Environment :Actions for the Profession

人間と環境との調和 — コンサルタントの使命

■ 会 場：京王プラザ インターコンチネンタルホテル（東京 新宿）



HPより




■ 申込人数

日本人	204人	+	同伴者	39人	=	243人	（名簿より 協賛含む）
日本人招待	27人				=	27人	（名簿より）
海外（38カ国）	229人	+	同伴者	164人	=	393人	（名簿より）
合計	460人	+	同伴者	203人	=	663人	


■ 参加人数（記念誌より）

日本人	63人	+	同伴者	41人	=	104人	（記念誌より）
日本人協賛	142人				=	142人	（記念誌より）
日本人招待	27人				=	27人	（名簿より）
海外（38カ国）	195人	+	同伴者	150人	=	345人	（記念誌より）
合計	427人	+	同伴者	191人	=	618人	



<p>16日 (月)</p>	<p>09:40 ～ 12:10</p>	<p>FIDIC Forum 基調講演 Harmonization between Man and Environment: Action fore the Profession 人と環境の調和</p> <p>議長 A.M. Acheson [U.S.A]</p> <p>1. The handling of Environmental Issues within Projects an Environmental'st View プロジェクトと環境 加藤三郎 環境庁地球環境部長 小野川和延 環境庁地球環境部</p> <p>2. Our Challenge: Engineering for Sustainable Development プロジェクト・サイクルと環境問題との調和 Henry J. Hatch 米国陸軍中將、陸軍技監 [U.S.A]</p> <p>3. The Integration of Environmental Considerations into the Design Process - A Consulting Engineer Looks at Daily Practice デザイン・プロセスと環境問題の考察 Ernst Hofmann FIDIC 理事 ハスマー&amp;フホフマン社 [Switzerland]</p>	<p>エミネンスホール</p>  <p>小野川和延</p>  <p>Henry J. Hatch</p>  <p>Ernst Hofmann</p>
	<p>12:15 ～ 13:45</p>	<p>Joint Lunch 同業者合同昼食会</p>	<p>コンコードホール</p>
	<p>14:00 ～ 17:30</p>	<p>Workshops ワークショップ</p> <p>1. Development and Transfer of Appropriate Environmental Technology (TRANDEFER) 適切な慣用保全技術の開発と移転 Charles A. Liburd [Kenya]</p> <p>2. Hazardous Waste Management - The New Global Opportunity (HAZARD) 有害廃棄物の処理 Michael Yates [U.S.A.]</p> <p>3. Effective Use of Resources - Recycling of Materials (RECYCLING) 資源の有効利用 山下佳彦 建設技術研究所</p> <p>4. The Role of the Engineer in Energy Management (ENERGY) エネルギー管理とコンサルティングエンジニアの役割 Roland Walthert [Switzerland]</p>	
	<p>17:15 ～ 22:00</p>	<p>Leisure evening at Garden Restaurant 日本庭園で立食</p>  	<p>八芳園 (はっぼうえん)</p>

17日 (火)	09:00 ～ 17:30	Workshops ワークショップ 5. The Public Participation Process in Project Planning - An Industrial Country Perspective (PUBRIC) プロジェクト・プランニングへの大衆参加 Marcy S. Schwartz [U.S.A] 6. Some Aspects of Development of Consultants in Third World Countries (DEVELOPMENT) 第三世界におけるコンサルタント業務の発展 Reghavan Srinivasan 7. Construction Industry Contracts in Common Law and Civil Law Regimes (LAW) 慣習法と市民法における建設契約 Christopher R. Seoala 8. Practice and Management Education for Consulting Engineers and their Staff (EDUCATION) コンサルティング・エンジニアのための実務・管理教育 Geoffrey Greenham 9. FIDIC's Draft Policy Statement on Quality Assurance (QUALITY) 品質保証に関するFIDICの政策提言 James W. Poirot 10. The Consulting Engineer's Role in the Promotion of Projects (PROMOTION) プロジェクトのプロモーションにおけるコンサルティング・エンジニアの役割 Seven-Erik Frick-Meijer 11. Computer Security - High-Tech Threat (SECURITY) コンピューターの安全性について Phil Dolan	
	17:15 ～ 22:00	Kabuki tour (optional) 83人 19,600円 歌舞伎座 幡随院長兵衛 他	
18日 (水)	09:00 ～ 10:30	Wrap up session パネルディスカッション	エミネンスホール
	11:00 ～ 12:30	Reports/Presidential Address FIDIC 会長・委員会報告	エミネンスホール
	12:30 ～ 14:00	Business lunch 昼食	
	14:00 ～ 17:00	GAM FIDIC 総会  	エミネンスホール
19:00 ～ 24:00	Gala Banquet 晩餐会   	コンコルドホール	

19日 (木)	09:00 ～ 11:00	Seminars セミナー ERBD Financing and Procurement Procedures (EBRD) EBRD融資並びに調達方法	
		休憩	
	13:30 ～ 16:30	Seminars セミナー Japanese Foreign Assistance Programme (ODA) 日本の対外協力計画	スターライト
	08:15 ～ 20:30	Day tours (optional)	
	09:30 ～ 16:30	特別セミナー FIDIC ホワイト・ブック セミナー AJCE 会員 30,000 円 非会員 45,000 円 82 人 講師: Godfrey Lloyd Ackers Mark Griffiths Paul Julian Taylor	サンケイ会館
20日 (金) ～ 26日 (木)	Post-Conference tour Northern Course 4泊5日 126,000円 *申込みが10人程度のためキャンセル、西コースへ変更 20日(金) 東京-函館 函館観光 21日(土) 青函トンネル見学 函館観光 22日(日) 森地熱発電所・昭和新山・洞爺湖・札幌 23日(月) 小樽・札幌観光 24日(火) 札幌観光 千歳空港解散  Post-Conference tour Western Course Short 2泊3日 88,500円 Middle 3泊4日 138,500円 Full 6泊7日 185,000円 20日(金) 東京-FANUC ロボット工場見学-新幹線-伊勢賢島観光ホテル泊 21日(土) 三木本真珠島-奈良東大寺-京都 22日(日) 京都観光 (Short コース解散) 23日(月) 新幹線-岡山-瀬戸大橋-広島 24日(火) 広島平和記念公園 (Middle コース解散) -熊本 25日(水) 熊本城-阿蘇 26日(木) 阿蘇-福岡 福岡空港・博多駅解散		
			

■ Accompanying Person's 同伴者プログラム

16日 (月)	14:00 ～ 17:00	Art Museums Tour 241人 無料 太田美術館（渋谷区神宮前） 浮世絵 戸栗美術館（谷区松濤） 東洋磁器
17日 (火)	08:30 ～ 15:00	A Day of Japanese Culture 100人 13,000円 京王プラザホテル内 茶道、華道、着物着付、琴演奏 
18日 (水)	08:15 ～ 20:30	Day Tour Nikko 102人 19,000円 日光東照宮、華厳の滝、中禅寺湖、いろは坂、金谷ホテル（昼食）
	09:00 ～ 18:00	Day Tour Disneyland 32人 9,000円 往復バス + 一日パスポート

# FIDIC委員会 AJCE委員

年		Executive Committee (EC)	Risk and Liability Committee (RLC)	Environment Task Committee (ENVTC)
		理事会	リスクと責任に関する委員会	環境保護に関する作業部会
			*1968年：Professional Liability Committee 特別委員会として発足 *1973年～：Professional Liability Committee 常設委員会となる *1993年（ミュンヘン大会）：Professional Liability Committee廃止 Risk Management Committee新設 *2000年～：Risk Management Forum 常設委員会からはずれる *2007年～：Risk and Liability Committee 常設委員会となる	*1988年特別委員会発足
昭和51年	1976年			
～	～			
昭和61年	1986年	1986.9-1990.9		
昭和62年	1987年	森村武雄		
昭和63年	1988年		1988.9-1990.9	1988.9-1990.9
平成1年	1989年		川上高央	堀部 潔
平成2年	1990年		1990.9-1997.9	1990.9-1992.9
平成3年	1991年		阿部勝久	石原健二
平成4年	1992年			1992.9-1998
平成5年	1993年			山下佳彦
平成6年	1994年			
平成7年	1995年			
平成8年	1996年			
平成9年	1997年		1997.9-	
平成10年	1998年		蔵重俊夫	
平成11年	1999年			
平成12年	2000年			
平成13年	2001年	2001.9-2005.9		
平成14年	2002年	石井弓夫		
平成15年	2003年			
平成16年	2004年			
平成17年	2005年			
平成18年	2006年			
平成19年	2007年			
平成20年	2008年			
平成21年	2009年	2009.9-2013.9		
平成22年	2010年	廣谷彰彦		
平成23年	2011年			
平成24年	2012年			
平成25年	2013年			
平成26年	2014年			

AJCEが委員を輩出した委員会のみ記載  
各委員会の設立、解散時期はAJCEの資料による



年		Quality Management Committee(QMC)	Sustainable Development Committee (SDC)		Integrity Management Committee
		品質管理委員会	持続可能な開発に関する委員会		公正管理委員会
		*1990年5月専門委員会発足	*1998年Sustainable Development Task Force Group発足 *2005年9月北京大会理事会でTask Force（作業部会）からCommitteeに格上げ		1995年：イスタンブール大会でTask Force（作業部会）設置
昭和51年	1976年				
～	～				
昭和61年	1986年				
昭和62年	1987年				
昭和63年	1988年				
平成1年	1989年				
平成2年	1990年	1990-1991			
平成3年	1991年	川上高央			
平成4年	1992年	1991-1994			
平成5年	1993年	石井弓夫			
平成6年	1994年				
平成7年	1995年				
平成8年	1996年				
平成9年	1997年				
平成10年	1998年		1998-2007		
平成11年	1999年		山下佳彦		
平成12年	2000年				
平成13年	2001年				2001-2007
平成14年	2002年				藤倉信一郎
平成15年	2003年				
平成16年	2004年				
平成17年	2005年				
平成18年	2006年				
平成19年	2007年		2007.10-	2007.10-2010.9	
平成20年	2008年		春 公一郎	狩谷 薫	
平成21年	2009年				
平成22年	2010年				
平成23年	2011年				
平成24年	2012年				
平成25年	2013年				
平成26年	2014年				

年		Business Practice Committee (BPC)	Capacity Building Committee (CBC)	Young Professionals Forum (YPF)	Conference Committee
		業務委員会	能力開発委員会	若手専門職委員会	大会委員会
		*2000年発足	*2004年5月東京理事会 でTask Force（作業部 会）からCommitteeに格 上げ	*1998年9月ハワイ大会で 発足 *2003年1月理事会で正式 承認	*2004年発足
昭和51年	1976年				
～	～				
昭和61年	1986年				
昭和62年	1987年				
昭和63年	1988年				
平成1年	1989年				
平成2年	1990年				
平成3年	1991年				
平成4年	1992年				
平成5年	1993年				
平成6年	1994年				
平成7年	1995年				
平成8年	1996年				
平成9年	1997年				
平成10年	1998年				
平成11年	1999年				
平成12年	2000年				
平成13年	2001年	2001.9－2010.5	発足時期不明		
平成14年	2002年	廣谷彰彦	2002-2011.10		
平成15年	2003年		桜井 一	2003.1-佐々部圭二	
平成16年	2004年			2004-2008 秋永薫児	2004-2007.9 藤江五郎 AJCE
平成17年	2005年				
平成18年	2006年				
平成19年	2007年				
平成20年	2008年			2008.9-2010.9 中島隆志	
平成21年	2009年				
平成22年	2010年	2010.5－		2010.9-2013.9 北野知行	
平成23年	2011年	狩谷 薫	2011.10-		
平成24年	2012年		武内正博		
平成25年	2013年			2013.9-	
平成26年	2014年			松尾 隆	

年		Assessment Panel for Adjudicators (APA)	Climate Change Task Group	Disaster Management Task Force
		紛争裁定人審査委員会	気候変動作業部会	災害マネジメント作業部会
				*2012年9月設置が決定 *2012年12月8カ国のメンバーが決定
昭和51年	1976年			
～	～			
昭和61年	1986年			
昭和62年	1987年			
昭和63年	1988年			
平成1年	1989年			
平成2年	1990年			
平成3年	1991年			
平成4年	1992年			
平成5年	1993年			
平成6年	1994年			
平成7年	1995年			
平成8年	1996年			
平成9年	1997年			
平成10年	1998年			
平成11年	1999年			
平成12年	2000年			
平成13年	2001年			
平成14年	2002年			
平成15年	2003年			
平成16年	2004年			
平成17年	2005年			
平成18年	2006年			
平成19年	2007年			
平成20年	2008年			
平成21年	2009年	2009－ 大本俊彦		
平成22年	2010年		2010.4-2012 藤本雅彦	
平成23年	2011年			
平成24年	2012年		2012.12－ 遠山正人	
平成25年	2013年			
平成26年	2014年			

## ASPAC会議一覽

年月日日		開催地	同時開催	会議	AJCE 出席者	事務局出席者	備考
昭和52年	1977年6月5-9日	Helsinki	FIDIC大会	非公式			第1回会合（非公式） 毎年会合するグループの創設を提案
昭和52年	1977年10月14日	Sydney	ACEA25周年会議		河野康雄	田中千秋	
昭和53年	1978年6月14日	London	FIDIC大会	非公式	河野康雄、久米庚子、 村川二郎	田中千秋	第2回会合（非公式） その後ASPAC名称決定
昭和54年	1979年2月23日	Manila			河野康雄、堀 博	田中千秋	ここから「ASPAC Meeting」の名称となる
昭和54年	1979年9月27日	Singapore			堀 博		
昭和55年	1980年3月17日	香港			堀 博		
昭和55年	1980年9月5-6日	Manila			河野康雄、堀 博		
昭和56年	1981年3月11日	香港				田中千秋	
昭和56年	1981年10月13日	Singapore			河野康雄	田中千秋	
昭和57年	1982年3月19日	Manila			河野康雄	田中千秋	
昭和57年	1982年12月5日	香港			森村武雄	田中千秋	
昭和58年	1983年2月26日	Colombo			森村武雄、河野康雄	田中千秋	
昭和58年	1983年11月1日	Singapore			河野 森村		
昭和59年	1984年3月21日	Delhi			森村 田中		
昭和59年	1984年2月15日	Bangkok			森村武雄		
昭和58年	1984年10月9日	Jakarta			森村武雄		
昭和60年	1985年10月21日	Singapore			森村武雄	斎藤貞雄	
昭和61年	1986年4月14日	Manila			森村武雄		
昭和61年	1986年9月21日	Auckland			森村武雄	八川徳平衛	
昭和62年	1987年8月	Jakarta					
昭和63年	1988年5月2日	香港			森村武雄		
昭和63年	1988年9月						森村武雄AJCE副会長 がASPAC議長に就任
昭和63年	1988年12月	Manila					
平成1年	1989年6月6日	Kuala Lumpur			森村武雄 (ASPAC 議長)		
平成2年	1990年						森村武雄AJCE副会長 ASPAC議長退任
平成3年	1991年2月2日	Singapore			森 博、小林良明		
平成4年	1992年4月6日	Manila			西岡悟郎		
平成5年	1993年2月17日	Kuala Lumpur			藤堂博明		
平成6年	1994年9月26日	Sydney			梅田昌郎、阿部勝久		
平成8年	1996年2月	Manila					
平成8年	1996年10月1日	Capetown	FIDIC大会		松永一成、山下佳彦		
平成9年	1997年5月24日	北京			山根亮太郎	藤江五郎	
平成9年	1997年9月17日	Edinburgh	FIDIC大会		松永一成	藤江五郎	
平成10年	1998年9月6日	Edmonton	FIDIC大会		内村 好	藤江五郎	
平成11年	1999年9月19日	Hagu	FIDIC大会		都丸徳治	藤江五郎	
平成12年	2000年4月10日	Kualalumpur				藤江五郎	

年月日日		開催地	同時開催	会議	AJCE 出席者	事務局出席者	備考
平成12年	2000年9月10日	Honolulu	FIDIC大会		石井弓夫、廣谷彰彦	藤江五郎	ASPAC運営規約が承認議長と理事の任期3年が決定 石井AJCE会長がASPAC議長に就任 同時にAJCEがASPAC事務局を担う
平成13年	2001年9月1日	Montreux	FIDIC大会		石井弓夫 (ASPAC 議長)、 廣谷彰彦、白谷 章	藤江五郎、 関 賢史	
平成13年	2001年10月20日	山峡,China	FIDIC大会		石井弓夫 (ASPAC 議長)、 都丸徳治、玉井義弘、 廣谷彰彦	藤江五郎	
平成14年	2002年5/17日	上海		理事会	石井弓夫 (ASPAC 議長)、 磯部猛也 (オブザーバー)、 文 雪峰 (オブザーバー)	藤江五郎	
平成14年	2002年10月1日	Acapulco	FIDIC大会	総会	石井弓夫 (ASPAC 議長)、 都丸徳治、玉井義弘、 廣谷彰彦	藤江五郎	
平成15年	2003年9月9日	Pari	FIDIC大会	総会	石井弓夫 (ASPAC 議長)、 都丸徳治、玉井義弘、 廣谷彰彦、他 名	藤江五郎	石井弓夫ASPAC議長・ ASPAC理事 退任 廣谷彰彦氏 ASPAC 理事就任
平成16年	2004年9月14日	Copenhagen	FIDIC大会	理事会	石井弓夫 (FIDIC 理事)、 山下佳彦 (廣谷彰彦 ASPAC 理事の代理)		
平成17年	2005年9月5日	Beijing	FIDIC大会	総会	石井弓夫 (FIDIC 理事)、 廣谷彰彦 (ASPAC 理事)		
平成18年	2006年9月27日	Budapest	FIDIC大会	理事会	廣谷彰彦会長 (ASPAC 理事)	藤江五郎	廣谷ASPAC理事 議 長就任 AJCEにASPAC事務局 設置
				総会	廣谷彰彦会長 (ASPAC 理事)、 石井弓夫、上林好之、 内村 好、宮本正史、 蔵重俊夫、桜井 一		
平成19年	2007年3月21日	Lahore	TCDPAP	Extra Meeting	廣谷彰彦会長 (ASPAC 議長)、 前田剛和 (ASPAC 事務局)、 渡津永子 (ASPAC 事務局)	山下佳彦	

年月日		開催地	同時開催	会議	AJCE 出席者	事務局出席者	備考
平成19年	2007年9月12日	Singapore	FIDIC大会	理事会	廣谷彰彦会長 (ASPAC 議長)、 前田剛和 (ASPAC 事務局)、 赤坂和利 (ASPAC 事務局)、 渡津永子 (ASPAC 事務局)		
				総会	廣谷彰彦会長 (ASPAC 議長)、 前田剛和 (ASPAC 事務局)、 赤坂和利 (ASPAC 事務局)、 渡津永子 (ASPAC 事務局)		
平成20年	2008年4月24日	Seoul	TCDPAP	Extra Meeting	廣谷彰彦会長 (ASPAC 議長)、 前田剛和 (ASPAC 事務局)、 赤坂和利 (ASPAC 事務局)、 渡津永子 (ASPAC 事務局)	山下佳彦	
平成20年	2008年9月9日	Queb	理事会 FIDIC大会	理事会	廣谷彰彦会長 (ASPAC 議長)、 前田剛和 (ASPAC 事務局)、 赤坂和利 (ASPAC 事務局)、 渡津永子 (ASPAC 事務局)、 宮本正史 (オブザーバー)	山下佳彦	
				総会	廣谷彰彦会長 (ASPAC 議長)、 前田剛和 (ASPAC 事務局)、 赤坂和利 (ASPAC 事務局)、 渡津永子 (ASPAC 事務局)、 他 11 名	山下佳彦	
平成21年	2009年3月12日	Katmandu	TCDPAP	Extra Meeting	廣谷彰彦会長 (ASPAC 議長)、 渡津永子 (ASPAC 事務局)、 藤岡和久	山下佳彦	

年月日日		開催地	同時開催	会議	AJCE 出席者	事務局出席者	備考
平成21年	2009年9月 14-15日	London	FIDIC大会	理事会	廣谷彰彦会長 (ASPAC 議長)、 赤坂和利 (ASPAC 事務局)、 渡津永子 (ASPAC 事務局)、 内村 好 (オブザーバー)	山下佳彦	
				総会	廣谷彰彦会長 (ASPAC 議長)、 前田剛和 (ASPAC 事務局)、 赤坂和利 (ASPAC 事務局)、 渡津永子 (ASPAC 事務局)、 藤岡和久、蔵重俊夫、 遠山正人、河上英二	山下佳彦	廣谷氏ASPAC議長及 びASPAC理事退任 内村副会長ASPAC理 事就任
平成22年	2010年9月21日	New Delhi	FIDIC大会	総会	内村 好 (ASPAC 理事)、 廣谷彰彦 (FIDIC 理事)、他	山下佳彦	
平成23年	2011年4月25日	Kualalumpur	TCDPAP	Extra Meeting	内村 好 (ASPAC 理事)、 廣谷彰彦 (FIDIC 理事)、他		
平成23年	2011年10月2日	Davos	FIDIC大会	理事会	内村 好 (ASPAC 理事)、 廣谷彰彦 (FIDIC 理事)	山下佳彦	
				総会	内村 好 (ASPAC 理事)、 廣谷彰彦 (FIDIC 理事)、他	山下佳彦	
平成24年	2012年3月2日	Colombo	TCDPAP	理事会		山下佳彦	
平成25年	2013年3月 7-8日	Bangkok	TCDPAP		内村 好 (ASPAC 理事)	山下佳彦	JICA調達管理課伊藤 課長が講演
平成25年	2013年9月18日	Barcelona	FIDIC大会	理事会	内村 好 (ASPAC 理事)	山下佳彦	
				総会	内村 好 (ASPAC 理事)、他	山下佳彦	
平成26年	2014年3月 2-5日	Bali	TCDPAP	理事会	内村 好 (ASPAC 理事)、他	山下佳彦	日本からは8名参加
平成26年	2013年9月 28、30日	Rio	FIDIC大会	理事会	内村 好 (ASPAC 理事)、他	山下佳彦	
				総会	内村 好 (ASPAC 理事)、他	山下佳彦	

# AJCE会報目次

Vol.1 No.1,2,3 創刊号

昭和52年 1977年10月31日

目		次	
ご挨拶	AJCE会長 河野康雄 …… 1	協会の発足に当り	
社団法人日本コンサルティング・エンジニア		AJCE副会長 村川二郎 …… 4	
協会の発足にあたって		会員の活動 …… 5	
科学技術庁振興局長 杉浦 博 …… 2		FIDIC資料 …… 7	
社団法人日本コンサルティング・エンジニア		情報・資料 …… 9	
協会発足を祝って		会議議事録 …… 11	
社団法人日本技術士会会長 田中 宏 …… 3		AJCE日誌 …… 15	
AJCEの事業について		業務照会・募集等 …… 16	
AJCE副会長 田邊 弘 …… 3		会員通信 …… 16	
社団法人日本コンサルティング・エンジニア		お知らせ …… 18	

Vol.1 No.4,5

昭和52年 1977年12月31日

目		次	
随想4題(AJCEの明日のために)			
AJCE副会長 村川二郎 …… 1			
会議議事録 …… 2			
部門会報告(概要) …… 5			
職業研修・セミナー …… 5			
FIDIC資料 …… 7			
会員通信 …… 8			
AJCE日誌 …… 9			
業務照会・募集等 …… 10			
プロジェクト・マネジャー育成について …… 11			
付録 1977年FIDICヘルシンキ総会報告書			



## Vol.1 No.6,7

昭和53年 1978年2月28日

## 目 次

個人会員の海外技術力へのアプローチ .....	AJCE副会長 辻 薫 .....	1
Consulting Engineer にとっての正念場 .....	AJCE理事 三好 正 .....	2
会議議事録 .....		3
職業研修・セミナー .....		6
お知らせ		
FIDICロンドン総会参加申込について .....		8
AJCE・カナダ協会(CEAC-Canada)両代表の会議について .....		9
シンガポールCE協会主催セミナー参加申込について .....		9
業務照会・募集等 .....		10
会 員 通 信 .....		11
会員の活動紹介 .....		12
AJCE日誌 .....		14
情報資料：英国の「技術者複合登録制度」の発足と経過 .....		15

## Vol.1 No.8

昭和53年 1978年3月31日

## 目 次

個人会員の海外技術協力へのアプローチ .....	AJCE副会長 辻 薫 .....	1
会議議事録 .....		2
AJCE日誌・会員通信 .....		10
部門会報告 .....		11
業務照会・募集等 .....		11
お知らせ .....		12

Vol.2 No.1,2,3,4

昭和53年 1978年7月31日

目	次
新しい段階を迎えたAJCE	AJCE会長 河野康雄 ..... 1
専門技術士の発展を願って	AJCE理事 柳川達吉 ..... 2
商 売 考	AJCE会員 柴田 勉 ..... 3
お知らせ (FIDIC主催プロキユアメント・セミナーご案内)	..... 4
会 議 議 事 録	..... 5
部 門 会 報 告	..... 13
FIDIC資料 (CEの見積金額に対する施工業者の見積金額の超過, その理由と対策)	..... 14
AJCE日誌	..... 15
講演会の開催 (記録)	..... 15
情報資料 (プロジェクト保険について, CEの独立・中立の立場に対する解釈の拡大について, 競争入札を禁止するNSPE倫理規定)	..... 16
FIDIC出版物ご案内	..... 19

Vol.2 No.5

—発行日・目次不明—

付録 1978年FIDICロンドン総会出席報告

Vol.3 No.1~3

—発行日・目次不明—

Vol.3 No.4,5,6,7

昭和54年 1979年10月31日

目	次
協会運営上の今日の問題点	
AJCE会長	..... 1
お し ら せ 事 務 局	
・業務開発推進計画	..... 2
・「海外におけるコンサルティング・エンジニア及び建設プロジェクト関係業務のリスクと対応」に関するフォーラムご案内	..... 3
FIDIC主催フォーラム出席報告	..... 3
第1回AJCE談話サロン開催記録	..... 4
ASPAC会議の報告	..... 5
会員の業務紹介	
(バシフィック・コンサルタンツ)	..... 5
情報資料	..... 7
業務照会	..... 8
AJCE日誌	..... 8

Vol.3 No.8,9

昭和54年 1979年12月31日

目	次
個人会員にうったえる 会員 金子宗一	..... 1
コンサルティング・エンジニアの責務と責任 (報告) 事務局	..... 2
業務開発推進計画 (第2報)	..... 3
これらの中国との交流について 会員 扇田 諦	..... 4
お知らせ (昭和54年度収支予算)	..... 4
会員の業務紹介 (日本工営)	..... 7

Vol.3 No.10~12

昭和55年 1980年3月31日

目 次	
1. 1980年代のコンサルティング業務 — 環境の変化とその対応について (Louis Berger の所説を中心として) ……	1
2. 報 告	
(1) 民間ベースの海外中小指導事業と コンサルタントの役割 ……	2
(2) JICAの事業とCEの役割について ……	2
(3) 部門会報告(第3部門) ……	4
3. 会員通信 台湾の生産工場を指導して 会員 篠原茂之 ……	5
4. 情報資料(1.米国の環境行政におけるCE の役割, 2.個人経営コンサルタントとコンサ ルティング企業, 起用上の得失, 3.インドネ シアのコンサルタント育成計画, 4.CEの新 しい課題 ……	5
5. おしらせ	
1. AJCE「業務開発計画」による登録申込 状況 ……	7
2. 1980年FIDIC サンフランシスコ総会 及びフォーラム(6月22日-26日)のご案内 ……	7
3. 国際機関に対するコンサルティング企業の 新登録様式について(DACON) ……	7
4. AJCE International Directory Memer Firms 1979/80 完成について ……	8
5. FIDIC International Directory of Consulting Engineers について ……	8
6. FIDIC 出版物他新刊案内 ……	8
7. AJCE 日誌 ……	9

Vol.4 No.1~5

昭和55年 1980年8月31日

目 次	
1. 今次会報を発行するに当って 広報本部長 ……	1
2. 業務開発活動の新展開 業務開発委員長 ……	1
3. 会員区分を明確化して新たな発展を 会員委員長 ……	3
4. 広報活動 広報委員長 ……	4
5. 研修事業 研修委員長 ……	5
6. FIDIC・海外連絡委員会の活動と抱負 FIDIC・海外連絡委員長 ……	5
7. 経歴書(日本語)の整備について 事務局 ……	5
8. サンフランシスコ総会出席者報告 ……	5
9. 1980年FIDICサンフランシスコ総会 フォーラム概要 事務局 ……	7
10. おしらせ ……	事務局 ……
11. AJCE日誌 ……	10
12. 編集後記 事務局 ……	12

Vol.4 No.6

昭和55年 1980年9月30日

目 次	
臨時総会の開催にあたって 協会の財政基盤の強化と事業活動 の活発化について ……	会 長 …… 1
コンサルティング・エンジニアのあり方に ついて想う ……	会 長 …… 1
財政基盤の強化について ……	総務本部長 …… 2
会員の業務開発と話合の場の拡大 1980年度 FIDIC総会出席者報告 ……	市川須真夫 …… 5
FIDIC サンフランシスコ総会追記 ……	6
昭和55年度第2回談話サロン報告 (講師 FIDIC POMiller 理事) ……	事務局 …… 6
おしらせ ……	6
全会員参加の会報作りを 「私にとってのAJCE」原稿募集 広報本部長 ……	7
AJCE 日誌 ……	8
編集後記 ……	8

Vol.4 No.7~10

昭和56年 1981年1月31日

— 目 次 —	
1980年代のコンサルティング・エンジニア — 回顧と展望 FIDIC元会長 H.C.フライリンク ……	1
私にとってのAJCE 青木 司 …… 相澤孝亮 …… 山崎大輔 ……	2
1980年度FIDIC総会 80年サンフランシスコFIDIC総会の副産物 堀部 潔 …… "A Risky Business"に寄せて 松尾敏美 …… 英, 米からみたコンサルティング市場の展望 — スペシャリストの役割増大の傾向 ……	3
情報資料 Quantity Surveyor の役割について ……	5
会員の活動 最近の海外プロジェクトから — ブイジ・スバ港プロジェクト — ……	6
AJCE日誌	

Vol.5 No.1~4

—発行日・目次不明—

Vol.5 No.5~10

昭和57年 1982年1月31日

目 次	
1. 年頭のごあいさつ	会長 河野康雄 1
2. AJCEのこれからのあり方 についての提言	理事 石原健二 2
3. 個人会員の業務の形成	理事 篠原茂之 2
4. 個人としての海外 コンサルタント業務	会員 青木 司 3
5. おしらせ	事務局 3
6. 情報資料	事務局 3
7. AJCE日誌	3

Vol.6 No.6~10

昭和58年 1983年1月31日

目 次	
ごあいさつ	会長 田辺 弘 ..... 1
FIDICセミナー「国際プロジェクトの契約問題」 出席報告(要旨)	.....事務局長 田中千秋..... 2
おしらせ	
新役員の紹介	..... 8
1983年FIDICの世界会議について	..... 8
会員の異動	..... 8

Vol.5 No.11~12

昭和57年 1982年3月31日

目 次	
コンサルタント業務の 採算性について一言	.....瀬古隆三... 1
FIDICベルン会議出席報告	.....森村武雄... 2
Abendmusic ohne 拍手	.....堀部 深... 3
FIDIC ASPAC会議概要報告	.....事務局... 3
工事入札手続の改善について (FIDICガイドライン)	..... 5
政府関係機関連絡会開催報告	..... 5
個人コンサルタントの業務形成について	.....田中千秋... 7
情報資料	..... 9
おしらせ	..... 9
AJCE日誌	..... 9

Vol.6 No.11~12

昭和58年 1983年3月31日

目 次	
委員会の構成及び本部長の担当	..... 1
本部長, 委員長就任あいさつ	..... 1
情報資料	..... 5
会員の異動	..... 6
AJCE日誌	..... 6

Vol.6 No.1~5

昭和57年 1982年8月31日

目 次	
FIDICシンガポール世界会議に思う	.....河野康雄... 1
FIDICシンガポール大会に出席して	.....長江四郎... 2
FIDIC 1982シンガポール総会に出席して	.....藤谷榮市... 3
CE職業が当面する若干の問題と対応 —シンガポールFIDIC世界会議出席報告 書より	.....田中千秋... 4
個人技術士業者は奮ってJICAのコンサルタ ント登録を	.....篠原浩喜... 6
情報資料	..... 7
おしらせ	..... 8
会員の異動	..... 8
AJCE日誌	..... 8

Vol.7 No.1

昭和58年 1983年7月31日

目 次	
FIDIC世界会議の意義と日本開催	..... 1
FIDICフローレンス大会に出席して	..... 2
ASPAC会議報告	..... 3
五周年記念事業(実施報告)	..... 4
情報資料	..... 5
会員の異動	..... 6
名誉会員推挙	..... 6
AJCE 辞令	..... 6

Vol.7 No.2 特別号

昭和58年 1983年8月10日

FIDICフロレンス世界会議出席報告

**Vol.7 No.3**

昭和59年 1984年1月1日

目 次	
新年を迎えるに当たって.....	1
業務開発・研修事業 1 .....	3
"          "      2 .....	4
懇談会実施報告.....	4
FIDICと私の業務.....	5
会員の異動.....	6
お知らせ.....	6
AJCE日誌 .....	6

**Vol.7 No.4**

昭和59年 1984年2月1日

目 次	
対談 「生涯の職業としての コンサルティング・エンジニア」.....	1
アセアンにおけるコンサルティング 業務の問題点.....	3
情報資料 .....	7
AJCE日誌 .....	8

**Vol.8 No.1 FIDIC1984年世界会議フォーラム特集号**

昭和59年 1984年9月30日

研究開発 (R&D) におけるコンサルティング・エンジニアの役割

目 次	
第 1 章 総 括.....	1
第 2 章 R & D 投資と経済活動.....	5
第 3 章 R & D への C E の参加と問題点 (この問題がとり上げられた背景).....	8
第 4 章 国際開発上の課題と C E の役割.....	12
第 5 章 工業国における R & D と C E の参加.....	14
第 6 章 D C における R & D と C E の参加.....	17

**Vol.8 No.2**

昭和59年 1984年10月1日

目 次	
FIDIG '87 Conference (日本での世界大会) の準備についての中間報告.....	1
日中交流とコンサルタントの活動.....	2
情報資料.....	3
新刊紹介.....	4
お知らせ.....	5
AJCE日誌.....	5

Vol.8 No.3 日中コンサルティング技術交流特集号

昭和59年 1984年11月10日

日中コンサルティング技術交流会について  
 -AJCEミッション報告-

目 次

はしがき	
交流(行動記録)	1
1.1 中国国際工程諮詢公司(CIECC)への表敬(北京)	8月10日(金) 1
1.2 国家計画委員会彭敏副主任(CIECC名誉理事長)挨拶要旨	1
2.1 CIECCとの交流(第一次会談)	8月11日(土) 1
CIECC李総経理の発言要旨	
2.2 CIECCメンバー公司「京西工程諮詢公司」との交流	4
王経理部長の発言要旨	
3. CIECC李総経理の招宴	8月12日(日) 5
4.1 日本大使館表敬	8月13日(月) 5
4.2 CIECCとの交流(最終会談)	5
田辺会長(団長)のAJCEの説明(AJCEの組織, 会員の性格・特色等)	
5. 北京発西安行(車中泊)	8月14日(火) 5
6. 西安中国建築西北工程諮詢公司との交流(西安)	8月15日(水) 5
西北建築工程諮詢公司理事長発言要旨	
田辺団長, 森村副団長応答要旨	
7. 市内見学	8月16日(木) 6
8. 江蘇省建設委員会との交流	8月17日(金) 7
第1グループ会談要旨	
第2グループ会談要旨	
9. 南京発, 上海着	8月18日(土) 8
市内視察	8月19日(日) 8
10. 中国軽工業上海工程諮詢公司施副経理発言要旨	8月20日(月) 8

## Vol.8 No.4 FIDICジャカルタセミナー特集号

昭和60年 1985年2月20日

開発のための資源としてのコンサルティング・エンジニアリング  
 —ジャカルタ・セミナー出席報告—  
 ASPAC Meetingについて

## 目 次

I. ジャカルタ セミナー ( Jakarta Seminar ) に就いて .....	1
1. 開会演説	
Dr. J. B. Sumarlin ( インドネシア開発計画大臣 ) .....	2
2. 強いエンジニアリング業務よりえられる国益	
Pedro G. Dumol 将軍 ( フィリピン大統領特別補佐官, 電化, 水道, 農村 開発等担当 ) .....	2
3. 現地資源としてのエンジニアとそれを育成する世銀の活動	
M. W. Dickerson ( 現世銀計画政策部コンサルタント・サービス顧問 ) .....	3
4. 自国コンサルティング・エンジニア育成の経験	
W. Wangsadinata ( インドネシア・コンサルタント協会々長 ) .....	3
5. 地方資源の開発におけるエンジニアの役割—インドネシアの経験	
Dr. Kartasasmita ( インドネシア国産推進省副大臣 ) .....	4
6. 各国におけるコンサルティングの発展のためのFIDICの役割	
Dr. P. O. Miller ( FIDIC会長 ) .....	4
7. ノウハウ移転の実際的方法	
J. G. Eldridge ( FIDIC会長代行 ) .....	4
8. いつ、どこで、いかにコンサルティング・エンジニアを選ぶか	
U. R. Sieber ( アジア開銀コンサルティング・サービス部長 ) .....	5
9. コンサルティング・エンジニアの契約および報酬の条件	
Povl B. Ahm ( FIDIC, 発注者コンサルタント関係常任委員会々長 ) .....	6
10. コントラクターの入札および事務資格審査の手続について	
J. J. de Greef ( オランダおよびヨーロッパ国際コントラクター協会々長 ) .....	6
11. 土木工事に用FIDIC条件におけるコンサルティング・エンジニアの役割	
A. Nadarajah ( 前シンガポール・コンサルティング・エンジニア協会々長 ) .....	7
12. 大規模プロジェクトの保険と職業責任	
Nael G. Bunni ( FIDIC 職業責任常任委員会々長 ) .....	8
13. 当地域の将来の発展における世銀の役割	
L. A. Jeurling ( 世銀インドネシア事務所次長 ) .....	8
II. ASPAC Meeting ( アジア・太平洋地域コンサルタント会議 ) について .....	9

**Vol.9 No.1**

昭和60年 1985年8月10日

目 次	
AJCE事務局長就任のご挨拶	1
中国国際工程諮詢公司訪日団を迎えて	2
1 CIECC訪日団とAJCE会員との 第1回会談	3
2 CIECC訪日団と関西AJCE会員との 会談(第2回会談)	4
3 CIECC訪日団とAJCE会員との 第3回会談	5
4 CIECCの概要	5
5 AJCEとCIECCとの間の覚書交換	7
臨時総会状況	7
第9回定時総会状況	8

**Vol.9 No.2**

昭和60年 1985年10月15日

目 次		(頁)
FIDIC世界会議出席	田辺会長	1
FIDIC世界会議印象記	森村副会長	1
FIDIC世界会議		2
1. ウィーン世界会議概要		2
2. FIDIC京都会議準備状況		6
OECD文書に対するFIDICの対応		7
会員の声原稿募集		7
会員のASPAC会議		7
会員入退会		8

**Vol.10 No.3**

昭和61年 1986年12月10日

目 次		(頁)
ご挨拶〔名誉会長に就任して〕	参議院議員 山内 一郎	1
オークランド年次大会報告		
〔ニュージーランドの年次大会より帰って〕	会長 田邊 弘	2
〔FIDICの理事に日本人として初めて選任されて〕	副会長 森村 武雄	2
1986年FIDIC年次大会		3
オークランド行き帰り体験記		
濠州大陸横断列車の旅	堀 龍雄	7
500km暁の疾駆	堀部 潔	7
臨時総会状況・理事会開催状況		8

**Vol.9 No.3,4**

昭和61年 1986年3月1日

目 次		(頁)
ご挨拶	田邊会長	1
FIDIC会長及び事務総長の来日		1
業務開発研修両委員会報告		2
新入会員及び退会々員		6

**Vol.10 No.1**

昭和61年 1987年7月25日

目 次		(頁)
ご挨拶	田邊会長	1
ご挨拶	森・森村副会長	2
第10回定時総会状況		3
事務局長就任ご挨拶		4
抱負	新各委員長	5~7
臨時総会状況・理事会開催状況		8

**Vol.10 No.2 ASPAC Meeting 特集号**

昭和61年 1986年9月10日

ASPAC Meetingについて  
—第17回ASPAC会議議事録—



## Vol.10 No.4

昭和62年 1987年3月31日

## 目 次

ご挨拶〔受賞感謝と回顧〕	久米 庚子	1
ニュージーランドにおけるFIDIC 事務局長会議およびASPAC会議概要		
I. FIDIC事務局長会議概要		2
II. ASPAC会議概要		3
海外コンサルティング雑感	柳川 達吉	4
海外体験記——コロンビア指導紀行	長友 正治	5
臨時総会状況		6

## Vol.11 No.1 日中コンサルティング第3回技術交流特集号

昭和62年 1987年7月31日

日中コンサルティング技術交流について  
—ASPAC第2次訪中代表団報告—  
(中国でCE活動をする人々のために)

## Vol.11 No.2

昭和62年 1987年7月31日

## 目 次

故 永井雅夫会員のご逝去を悼む	1
中国業務開発資料覚書	3
Red Book Seminarのお知らせ	5

## Vol.11 No.3

昭和63年 1988年3月1日

## 目 次

ローザンヌ年次大会報告	会長 田邊 弘	1
1987年 FIDIC年次大会		2
スイス旅行中のよもやま——雑感	河野 康雄	6
新入生の世界会議	森 博	7
ローザンヌ会議見たまま	一宮 隆夫	8
新会員のご紹介・理事会開催状況		10

## Vol.11 No.4

昭和63年 1988年3月31日

## Vol.12 No.1

昭和63年 1988年7月29日

## 目 次

《対談》AJCEの歩む道	1	
NSRTセミナー「情報革命と途上国」に出席して…… 本多 四郎	5	
(回顧) 機械製図と私	長谷川 要	7
臨時総会状況	10	
今年のFIDIC年次大会のご案内	10	

## 目 次

会長就任に当って	堀 龍雄	1
AJCE会長退任のご挨拶	田邊 弘	2
委員会の構成		3
訃報—久米庚子会員をしのぶ	柳川達吉	3
高根藤雄先生を偲ぶ	長友正治	4
FIDICの新しい事務局長 Marshall Gysiの横顔	森村武雄	4
FIDICセミナーについて	森 博	5
新会員のご紹介		6
定時総会状況・理事会開催状況		6
会員名鑑の訂正	(折り込み)	

**Vol.12 No.2 FIDIC加盟とAJCEの創立特集号**

昭和63年 1988年9月1日

FIDIC加盟とAJCEの創立

**Vol.12 No.3**

平成元年 1989年1月17日

目 次

ダブリン年次大会報告	会長 堀 龍雄	1
1988年 FIDIC年次大会		3
ダブリン大会の印象	堀部 潔	6
FIDIC理事会の報告	森村 武雄	7
第21回 ASPAC/FIDIC 会議（香港）概要	森村 武雄	7
日本からFIDICの新委員長、委員選出		8
FIDIC General Manager 来日		8
新刊案内：FIDIC 75年史		8
新会員のご紹介		9
名誉会員の推挙（臨時総会）		10
理事会開催状況		10

**Vol.12 No.4 ドイツコンサルティングエンジニアの業務活動に関する契約条件の調査 特集号**

平成元年 1989年3月31日

ドイツにおけるコンサルティングエンジニアの業務活動に関する契約条件の調査

**Vol.13 No.1**

平成元年 1989年7月10日

目 次

最近のASPAC及びFIDIC理事会の概況報告	副会長 森村 武雄	1
日本での研修	任 路明	3
パーレーン国技術協力について	早房 長雄	3
アルゼンチン共和国の印象	杉本 利夫	4
中国・ソビエトと日本の国際関係論	篠原 捨喜	5
中国委員会ニュース	石原 健二	7
新会員の自己紹介	佐鳥 聡夫	8
臨時総会、定時総会、理事会開催状況		10

**Vol.13 No.2**

平成元年 1989年10月10日

目 次

飛騨国際工芸学園とCE	名誉会員 河野 康雄	1
《対談》大臣表賞を機に捨喜先生大いに語る	篠原 捨喜	4
	石原 健二	
中華民国台湾：中国生産力中心のご紹介	鹿島幸太郎	6
ノイズとの戦い	清水 巖	7
上海市黄浦江横断道路技術協力について	菅原 一昌	8
新会員のご紹介		9
理事会開催状況		10

## Vol.13 No.3

平成元年 1989年12月28日

## 目 次

ワシントン年次大会報告	副会長 森 博	1
1989年F I D I C年次大会		3
ワークショップリーダーとしてワシントン大会に参加して	石井 弓夫	8
ワシントンにおけるENVTC第4回会合に出席して	石原 健二	9
新会員のご紹介		10
理事会開催状況		10
F I D I C東京大会開催準備進捗状況報告		10

## Vol.13 No.4

平成2年 1990年4月20日

## 目 次

1991 FIDIC Conference	副会長/FIDIC理事 森村 武雄	1
FIDIC第14回Executive Committee Meeting (ECM) の報告	" "	2
シンガポールにおける技術指導	篠原 茂之	3
中国における技術指導	長谷川 要	5
東南アジア産業視察報告	本多 四郎	6
"適正包装"に思う	松本 光次	7
新会員のご紹介		8
臨時総会開催状況		8
理事会開催状況		8

## Vol.14 No.1

平成2年 1990年8月3日

## 目 次

会長就任のご挨拶	森 博	1
退任のご挨拶	堀 龍雄	3
新役員・会長・副会長就任のご報告		4
委員会の構成		4
F I D I Cオスロ年次大会短信		4
日本から新たにF I D I C委員会委員に		5
I G R AがW H I T Eになりました		5
環境セミナー開催さる		5
新会員のご紹介		6
定時総会・理事会開催状況		6

## Vol.14 No.2

平成2年 1990年11月22日

## 目 次

オスロ年次大会報告	副会長 保原 光雄	1
F I D I Cオスロ大会に出席して	会 長 森 博	2
1990年F I D I C年次大会		3
オスロ大会のソーシャル・プログラム	副会長 梅田 昌郎	7
ポスト・カンファレンス・ツアーに参加して	中嶋 幸房	8
F I D I C理事の任期を終えて	副会長 森村 武雄	9
環境保護に関する政策ステートメント		11
欧州での業務協力申出		13
カナダからのJOINT WORK申出		14
瀬古新助先生を偲ぶ	会 長 森 博	15
新会員のご紹介・理事会開催状況		16
Red Book, Yellow Bookのフランス語版		16

**Vol.14 No.3 環境問題特集号**

平成3年 1991年1月10日

持続性のある開発とエンジニアリング職業の役割  
 Donald V. Roberts 講演原稿  
 石原健二 まえがき・訳

**Vol.14 No.4 FIDIC大会準備報告特別号**

平成3年 1991年3月31日

**目 次**

平成3年所感	会長 森 博	1
1991年 FIDIC 東京大会の準備について	実行委員会委員長 森村 武雄	3
総務部会より	部会長 堀部 潔	6
財務部会より	部会長 保原 光雄	7
ビジネス・プログラム部会より	部会長 田中 全人	7
ソシヤル・プログラム部会より	部会長 若本 修	8
1991年 FIDIC 東京大会の概要		8
河野康雄元会長を偲ぶ	会長 森 博	10
理事会・臨時総会開催状況		11
新会員のご紹介		12

**Vol.15 No.1**

平成3年 1991年6月21日

**目 次**

中国における私のCE業務の軌跡	篠原 裕彦	1
マレーシア出張報告	鈴木 英雄	6
シンガポールマレーシア訪問記	吉見 直喜	10
FIDICの大会が迫って	森村 武雄	14
前会長堀龍雄氏のご逝去を悼む	田邊 弘	15
FIDICのホワイト・ブック セミナー案内		16
パングラデシュからの災害救援要請		16
マレーシアで天然ゴム応用セミナー		16
FIDIC International Directory 新刊		16
AJCE 事業計画書		17
委員会報告		17
定時総会・理事会開催状況		18
新会員のご紹介		20

**Vol.15 No.2**

平成3年 1991年9月30日

**目 次**

アジア諸国のコンサルティング・エンジニア	会長 森 博	1
CIECC との技術交流について	石原 健二	
	森 博	4
ネットワーク社会	橋本 義平	8
衛生環境の整備 —— 適正施設とは	佐田 昭平	10
新しきチャレンジ —— 生涯学習のすすめ	蛭間 豊春	13
地球環境問題の動向	池田 豊	14
異業種交流あれこれ	本多 四郎	17
事務局からのお知らせ（ホワイト・ブック）		18
研修委員会報告		19
広報委員会報告		19
理事会開催状況		19
新会員のご紹介		20

## Vol.15 No.3 FIDIC大会完了報告特別号

平成3年 1991年11月30日

## 目 次

FIDIC 東京大会を終わって	会長 森 博	1
FIDIC '91東京大会を振り返って	森村 武雄	4
大会プログラム		6
FIDIC 東京大会に出席して	石原 健二	7
FIDIC Gentry 会長の提起したもの	水谷潤太郎	12
総会 (GAM) に出席して	保原 光雄	16
総務部会より	堀部 潔	17
ビジネス・プログラム部会より	田中 全人	19
ソシアル・プログラム部会より	若本 修	20
理事会開催状況		21
事務局からのお知らせ		22
FIDIC 本部からの要請		22

## Vol.15 No.4 環境問題 特集号

平成4年 1992年3月30日

我々のチャレンジ：  
持続性のある開発のためのエンジニアリング  
Lieutenant General Henry J. Hatch 講演原稿  
石原健二 まえがき・訳

## Vol.15 No.5

平成4年 1992年4月30日

## 目 次

A J C E の弥栄を祈ります	元理事 篠原 捨喜	1
資源リサイクルのグローバルな展望	山下 佳彦	3
最近の High-Tech 技術	伊藤 一正	8
東アジア諸国との技術協力について	吉見 直喜	10
今川為一、大迫明徳両会員を悼む		12
FIDIC(DRAFT)POLICY STATEMENT ON QUALITY MANAGEMENT		13
国際会議案内： LESSONS FROM STRUCTURAL FAILURES		11
新会員のご紹介		16
理事会開催状況		16
臨時総会開催状況		17

## Vol.16 No.1

平成4年 1992年7月30日

## 目 次

平成4年度への抱負	会長 森 博	1
新役員・会長・副会長就任のご報告		3
委員会の構成		3
CHECC 金董市長の訪日	中国委員会委員長 石原健二	4
中国との技術交流記	業務開発委員会委員長 長友正治	5
FIDIC Quality P/S についてのコメント		9
FIDIC QM 委員 石井 亨夫		9
FIDIC 活動研究会発足趣意書		15
FIDIC 新刊のご案内		16
新会員のご紹介		17
定時総会開催状況		17
理事会開催状況		17

## Vol.16 No.2

平成4年 1992年9月21日

## 目 次

マドリッド年次大会に参加して	会長 森 博	1
1992年FIDIC年次大会 (概要)		3
コーツFIDIC会長の挨拶	会長 森 博	4
ワークショップ	FIDIC活動研 有志	5
総会 (GAM)	副会長 保原光雄	12
ソシアルプログラム	FIDIC活動研 有志	14
Post Conference Tourに参加して	副会長 森村武雄	19
FIDIC環境委員会に日本から新委員		24
FIDIC Arbitrator募集		24
理事会開催状況		24

## Vol.16 No.3

平成4年 1992年12月25日

## 目 次

研修事業の難しさ	理事 田中全人	1
第1回A J C E 年次講演会開催さる		2
雪の話	松田益義	6
包宴偶感	松本光次	8
コロンビアでの指導で思うこと	大津 匡	11
フィジーでのセミナー講師体験談	桑 靖彦	16
F I D I C 新刊のご案内		19
新会員のご紹介		20
理事会開催状況		20

**Vol.16 No.4**

平成5年 1993年3月15日

**目 次**

大連、台北、ベトナム、深圳などを見て  
 .....理事 本多四郎...1  
 オーストラリアミッションとの交流を終えて  
 .....副会長 森村武雄...4  
 マレーシアで国際会議に発表して.....大塚敬介...7  
 ISO 9000品質監査制度について.....安藤黎二郎...10  
 環境問題懇談会開催さる.....理事 石原健二...12  
 FIDIC活動研究会から.....小林良明・桜井 一...14  
 事務局からのお知らせ.....16  
 新会員のご紹介.....18  
 理事会開催状況.....18

**Vol.17 No1**

平成5年 1993年4月28日

**目 次**

平成5年度への展望・・・会長 森 博 ..... 1  
 ASPAC27MEETING出席報告・・・藤堂博明..... 3  
 FIDIC広報誌“In CE”からの抄訳..... 6  
 事務局からのお知らせ..... 9  
 臨時総会開催状況..... 10  
 理事会開催状況..... 10

**Vol.17 No.3**

平成5年 1993年12月10日

**目 次**

広報委員長に就任して・・・広報委員会委員長 松永一成..... 1  
 第2回AJCE年次講演会開催さる ..... 2  
 事務局からのお知らせ..... 19  
 新会員のご紹介..... 20  
 理事会開催状況..... 20

**Vol.17 No.4**

平成6年 1994年2月10日

**目 次**

平成6年の新春に当たって.....会長 森 博..... 1  
 技術士コンサルタントへの期待.....科学技術庁 片桐一美..... 3  
 コンサルタント分野におけるガット合意事項・・副会長 梅田昌郎..... 4  
 海外コンサルタントとして時折考えたいくつかの事.....和田勝義..... 7  
 発展途上国における研修活動について.....美和國男..... 11  
 ロシア極東とペルー.....白石哲也..... 14  
 中国、西崑崙山脈での氷河調査.....入川真理..... 17  
 第2回環境懇談会の報告..... 19  
 セミナー完了報告..... 19  
 名誉会員田邊弘先生のご逝去を悼む..... 20  
 事務局からのお知らせ..... 21  
 新会員のご紹介..... 22  
 理事会開催状況..... 22

**Vol.17 No.2**

平成5年 1993年7月30日

**目 次**

ミュンヘン年次大会に出席して.....会長 森 博..... 1  
 1993年FIDIC年次大会(概要) ..... 3  
 フォーラム..... FIDIC活動研 堀 尚義..... 4  
 ワークショップ..... FIDIC活動研 有志..... 5  
 総会(GAM) .....副会長 保原光雄.....13  
 FIDIC委員会報告..... Liability 阿部勝久.....15  
 Environment 山下佳彦.....17  
 Quality Management 石井弓夫.....18  
 Technical Tour..... FIDIC活動研 森村 潔.....19  
 Social Program ..... " 桜井 一.....21  
 Post Conference Tourに参加して " 中嶋幸房.....26  
 中国国際コンサルタント会議に出席して.....会長 森 博.....28  
 事務局からのお知らせ.....31  
 新会員のご紹介.....32  
 理事会開催状況.....32

**Vol.18 No.1**

平成6年 1994年4月15日

目 次

総務財政委員長としての8年 ..... 総務財政委員長 保原光雄 ... 1  
 品質管理の「手引き」/FIDIC ..... FIDIC QM委員会委員 石井弓夫 ... 3  
 FIDICの倫理規範と基本政策声明書の翻訳について・広報委員会副委員長・水谷順潤太郎 ... 7  
 環境監査制度の動向 ..... 池田豊 ... 21  
 中国の水道施設を視察して ..... 林 亨 ... 27  
 REDHILL通信 英国研修紀 第1回英国生活事始め ..... 秋永薫児 ... 30  
 事務局からのお知らせ ..... 35  
 新会員のご紹介 ..... 36  
 理事会開催状況 ..... 36

**Vol.18 No.2**

平成6年 1994年7月29日

目 次

会長就任挨拶 ..... 会長 梅田昌郎 ... 1  
 AJCE会長を退任するに当たって ..... 森 博 ... 3  
 新役員・会長・副会長および各委員会委員長就任のご報告 ..... 4  
 名誉会員のタイトルを贈られて ..... 三好正 ... 10  
 お礼かたがた一筆 ..... 藤田峻五 ... 12  
 続 FIDIC基本政策 ..... 14  
 REDHILL通信 英国研修紀 第2回研修記録 ..... 秋永薫児 ... 30  
 篠原捨喜先生を偲んで ..... 長友正治 ... 34  
 事務局からのお知らせ ..... 36  
 新会員のご紹介 ..... 39  
 第18回定時総会開催状況 ..... 40

**Vol.18 No.3**

平成6年 1994年12月1日

**目 次**

シドニー年次大会に出席して ..... 会長 梅田昌郎 ..... 1  
 大会概要 ..... 5  
 フォーラム、総会(GAM) ..... 副会長 森村武雄 ..... 6  
 ワークショップ ..... FIDIC 活動研有志 ..... 7  
     廣谷彰彦 ..... 7  
     山下佳彦 ..... 7  
     水谷潤太郎 ..... 8  
     村田博道 ..... 8  
     浅田一洋 ..... 9  
     森村 潔 ..... 10  
     桜井 一 ..... 10  
 FIDIC委員会報告 ..... Risk Management 阿部勝久 ..... 11  
     Environment 山下佳彦 ..... 12  
     Quality Management 石井弓夫 ..... 13  
 ASPAC Meeting in Sydney ..... 阿部勝久 ..... 14  
 ソシアルプログラム ..... 桜井 一 ..... 15  
 テクニカルツアー ..... 水谷潤太郎 ..... 18  
 Post Conference Tour ..... 森村武雄 ..... 21  
     浅田一洋 ..... 22  
 お知らせ：森 博 前会長が名誉会員に ..... 24  
 CER(専業技術士)の立場と海外業務雑感 ..... 柳川達吉 ..... 25  
 第3回AJCE年次講演会開催さる ..... 28  
 環境懇談会の報告 ..... 環境委員長 石原健二 ..... 31  
     副委員長 山下佳彦  
 お知らせ：FIDIC 新刊案内 ..... 33  
 新会員のご紹介 ..... 34  
 理事会開催状況 ..... 34

Vol.18 No.4

平成7年 1995年3月10日

目 次	
1995年を迎えて.....	会長 梅田昌郎..... 1
コンサルタントの皆様への期待	JICA企画部長 鏡 武..... 3
日本廃棄物コンサルタント協会の社団法人化と今後の課題	同協会副会長 辻 喜磯..... 4
CM随想－阪神大震災の早期健全復興を想って	白石哲也..... 9
国際会議における発表と肌で感じたマレーシアの発展	大塚敬介.....13
タイ国水道への技術協力.....	芳賀秀壽.....16
REDHILL通信 英国研修記 第3回 路上の思い出	秋永薫児.....19
セミナー完了報告.....	研修委員会副委員長 小林良明.....27
FIDIC基本政策声明書(4件).....	FIDIC活動研究会有志.....28
新会員のご紹介.....	.....36
理事会開催状況.....	.....36
お知らせ：FIDIC新刊案内.....	折込

Vol.19 No.1

平成7年 1995年5月24日

目 次	
C. E. の中立性について.....	理事 西岡悟郎..... 1
ECFAの活動とコンサルタントの課題.....	ECFA会長 田上萬寿男..... 4
阪神大震災に思ったこと.....	理事 土谷 尚..... 6
災害時における飲料水の確保.....	小島貞男..... 9
FIDIC 基本政策声明書(3件).....	FIDIC 活動研究会有志.....12
ラオス国における海外コンサルティング業務について.....	横田義昭.....19
Reflections and Comparisons.....	A. McConnell.....23
FIDIC イスタンブール大会.....	事務局.....29
FIDIC List of Mediators.....	事務局.....30
新会員のご紹介.....	.....32
理事会開催状況.....	.....32
お知らせ：FIDIC環境行動指針日本語版、およびFIDIC新刊.....	折込



## Vol.19 No.2

平成7年 1995年8月22日

## 目 次

C.E.のステータス向上を.....	理事 前川典生.....	1
FIDIC 会長が来日.....	事務局.....	3
PEMEX との4年6ヶ月.....	守口 徹.....	4
インドネシア共和国の鉄道プロジェクトに従事して.....	栗田政勝.....	7
マジュロ島上下水道プロジェクト.....	小林茂.....	12
今日のエンジニアリング企業とそのコンサルタント.....	竹内正善.....	16
赤道の国エクアドルで.....	若本 修.....	20
FIDIC 四半期報告.....	水谷潤太郎(訳).....	24
新会員のご紹介.....		26
理事会開催状況.....		26

## Vol.19 No.3

平成7年 1995年12月28日

## 目 次

イスタンブール大会に出席して.....	会長 梅田昌郎.....	1
総会(GAM).....	副会長 森村武雄.....	4
フォーラム.....	上林好之.....	7
ワークショップ 1.....	廣谷彰彦.....	10
2.....	宮本正史.....	12
3.....	“ ”.....	13
4.....	秋永薫児.....	14
5.....	浅田一洋.....	15
6.....	山下佳彦.....	15
7.....	小林良明.....	17
FIDIC 委員会報告	Risk Management 阿部勝久.....	18
	Environment 山下佳彦.....	19
ソーシャルプログラム.....	宮本正史.....	21
Post Conference Tour 1.....	山下佳彦.....	23
2.....	浅田一洋.....	25
3.....	森村武雄.....	28
ACEA National Conferenceに招かれて.....		29
ACEA派遣団来日の件.....		32
第4回AJCE年次講演会開催さる.....		33
環境懇談会の報告.....	委員長 石原健二.....	37
	副委員長 山下佳彦.....	
事務局からのお知らせ3件.....		39
新会員のご紹介.....		40
理事会開催状況.....		40

Vol.19 No.4

平成8年 1996年3月13日

目 次

1996年を迎えて.....	会長 梅田昌郎.....	1
コンサルティング・エンジニア会社の技術者との仕事を通してのお付き合い.....	柏谷 衛.....	3
ドイツ下水道の抱える問題.....	林 信.....	8
公共土木設計業務等標準委託契約約款の策定と要旨.....	清野茂次.....	12
中国で開催の科学プロセスの工業化・開発研究セミナー.....	廣川一男.....	17
東南亜細亜今昔物語.....	澁谷吉治.....	21
「グアテマラ紹介」.....	堂屋光広.....	25
メキシコの思い出.....	権平慶孝.....	30
6年間の留学生活を通して感じたこと.....	N. T. トザン・ミッシェル.....	35
森前会長のご逝去を悼む.....	梅田昌郎.....	37
新会員のご紹介.....		38
事務局からのお知らせ.....		38
理事会開催状況.....		38

Vol.20 No.1

平成8年 1996年5月24日

目 次

国際標準化時代を迎えて.....	理事 池田 豊.....	1
食糧と安全保障—東アジア諸国が脱亜入欧するとき—.....	農林水産省 川島博之.....	4
「洪水と濁水」の生態学.....	国淡水生物研究所 森下郁子.....	7
バイオテクノロジーを基盤技術とした研究開発.....	豊橋技術科学大学 笠倉忠夫.....	14
FIDIC会長William D. Lewis氏とのMeeting.....	山下佳彦.....	19
セミナー「ISO シリーズ勉強会」完了報告.....	理事 田中全人.....	27
FIDIC 新刊書の紹介「技術移転の改善」.....	水谷潤太郎.....	28
事務局からのお知らせ	FIDIC Directory がインターネットに.....	9
	定款と細則の一部変更.....	29
	FIDIC ケープタウン大会.....	30
新会員のご紹介.....		31

## Vol.20 No.2

平成8年 1996年7月16日

## 目次

会長就任のご挨拶・・・会長 松永一成	1
新役員・会長・副会長および各委員会委員長就任のご報告	3
新会員のご紹介	14
理事会開催状況	14

## Vol.20 No.3

平成8年 1996年9月30日

## 目次

AJCEの当面の目標	副会長 石井弓夫	1
環境生態工学が目指すもの	東北大学大学院工学研究科 教授 須藤隆一	3
我が社のインターネット事情	㈱建設技術研究所 雨宮康人	7
FIDIC QUARTERLY REPORT	(和訳 広報委員会 副委員長 佐田昭平)	11
FIDIC環境セミナーについて	環境委員会委員長 池田 豊	10
旧共産圏国有企業のリストラ、近代化雑感	柳川技術士事務所 柳川達吉	13
Brisbaneでのホームステイ記		
「オーストラリアホームステイ研修」に参加して	㈱建設技術研究所 江守昌弘	15
AJCE-ACBA交換研修プログラムに参加して	㈱日水コン 関口敦子	17
オーストラリアの生活を通じて学んだこと	NJS 日本上下水道設計㈱ 上野修作	19
オーストラリアホームステイ	㈱ニュージェック 天野裕史	21
FIDICケーブタウン大会報告会のご案内	研修委員会	24
新会員のご紹介		24
理事会開催状況		24

## Vol.20 No.4 FIDICケーブタウン大会報告特集号

平成9年 1997年1月15日

## 目次

年頭のことば	会長 松永一成	1
FIDICケーブタウン大会		
FIDIC総会 (GMA)	副会長 石井弓夫	4
フォーラム I	廣谷彰彦	5
II	春公一郎	8
ワークショップ 1.	大町良子	12
2.	山下佳彦	13
3.	伊藤一正	14
4.	春公一郎	17
5.	秋永薫児	18
ASPAC会議	山下佳彦	19
ポストコンファレンスツアー (T1)	大町良子	21
(T3a)	秋永薫児	23
(T3b)	春公一郎	25
第5回AJCE年次講演会開催さる		29
FIDICの新基本政策(2件)と倫理規範	広報副委員長 水谷潤一郎	34
JICA発：コンサルタント契約制度に係るお知らせ		42
事務局からのお知らせ2件		43、44
田中千秋初代事務局局長を偲ぶ		45
新会員のご紹介		46
理事会開催状況		46

Vol.21 No.1

平成9年 1997年5月15日

目次	
FIDICの現況とAJCEの将来の展望	副会長 森村武雄… 1
平成9年度の事業計画の紹介	広報委員長 土谷 尚… 4
埼玉県より中国山西省南部に派遣されて	業務開発委員長 早房長雄… 6
FIDIC会長 WILLIAM D.LEWIS 氏とのミーティング	秋永薫児… 9
HOME STAY 1.	Jane Pott… 11
2.	Stephen Burkitt… 12
3.	横山とよ子… 14
4.	小林良明… 16
5.	Andrew Heath… 17
FIDICの組織	秋永薫児… 19
「お知らせコーナー」環境マネジメントシステム研修用教材	環境副委員長 山下佳彦… 22
FIDIC 年次大会	25
事務局便り	27
事務局長の交代	広報委員長 土谷 尚… 29

Vol.21 No.2

平成9年 1997年9月15日

目次	
巻頭言	理事 土谷 尚… 1
環境問題の国際動向と環境委員会の活動	環境委員会委員長 池田 豊… 4
建設コンサルタントの国際化と我が国の設計基準	基礎地盤コンサルタンツ(株) 森田悠紀雄… 10
FIDICのCONSULTING ENGINEERを読んで、日本のことをもっと知ろう	水谷潤太郎… 12
ACEA/AJCE ホームステイプログラム 1997 報告	秋永薫児… 13
QBS セミナーが成功裡に開催されました	水谷潤太郎… 15
協会便り	事務局… 22

Vol.21 No.3

平成9年 1997年11月15日

目次	
巻頭言	理事 上林好之… 1
FIDICにおける環境マネジメント市場へのチャレンジ	AJCE環境委員会副委員長 山下佳彦… 3
コンサルタントの雇用手続きの標準化	日本上下水道設計(株) 水谷潤太郎… 5
協会便り	事務局… 12
環境マネジメント講演会報告	環境委員会委員長 池田 豊… 23

## Vol.22 No.4

平成10年 1998年2月15日

## 目次

年頭言	会長 松永一成	1
FIDIC総会報告	AJCE副会長 石井弓夫	3
FIDIC Edinburgh大会 環境委員会報告	佛建設技術研究会 山下佳彦	5
FIDIC エジンバラ大会参加者報告		6
ACEA/AJCE Homestay Programme 1997 研修生の報告		31
業務用会員名鑑発刊		31
FIDIC 新刊案内		31
協会便り	事務局	33

## Vol.23 No.1

平成10年 1998年5月15日

## 目次

巻頭言 今年の業務開発について考えること	理事 早房長雄	1
二つのアンケートとODAの課題について	海外経済協力基金 理事 篠塚 徹	3
PFI：コンサルタントの黒夢？	基礎地盤コンサルタンツ(株) 森 研二	6
TF-21のコメントをめぐって	(株)日水コン 桜井 一	7
	(株)オリエンタルコンサルタンツ 廣谷彰彦	
FIDIC 活動研究会 (F研) 報告	(株)東京設計事務所 宮本正史	9
摩擦を利用した制振装置の開発	植木技術士事務所 植木正憲	10
「環境レポート」地球環境についての技術屋の考え方	清水技術士事務所 清水 巖	12
1997年FIDIC大会に参加して	菱沼技術士事務所 菱沼折多	14
Homestay in Japan	SMEC Australia Nick Valentine	15
	Sinclair Knight Merz Andrew Delves	16
	Norman Disney & Young Gran Clemens	17
	Cullen Grummitt & Roe Jim Hutchison	18
	Snowy Mountains Eng. Corp. Peter Folidis	20
Home Stay in Australia	(株)ニュージェック 須天正英	22
事務局報告		24

## Vol.23 No.2

平成10年 1998年9月1日

## 目次

会長就任のご挨拶	会長 石井弓夫	1
新役員：会長・副会長及び各委員会委員長就任のご報告		3
政策委員会委員長・中国委員会委員長・AJCE21世紀委員長に就任して	副会長 玉井義弘	4
FIDIC 海外連絡委員会委員長に就任して	副会長 森村武雄	5
倫理委員会委員長に就任して	理事 前川典生	6
総務財政委員会委員長に就任して	理事 西塚清六	6
会員委員会委員長に就任して	理事 上林好之	7
業務開発委員会委員長に就任して	理事 清水 巖	8
広報委員会委員長に就任して	理事 前 迪	8
研修委員会委員長に就任して	理事 和田勝義	9
環境委員会委員長に就任して	理事 和田勝義	10
FIDIC ハワイ大会準備会議報告	(株)日水コン 東北下水道部 秋永薫児	11
コンサルテイング・エンジニアにとっての危機管理	(株)シフィックコンサルタンツインターナショナル 田中全人	13
アル・ゴア「沈黙の春」への序文	(株)東京設計事務所 宮本正史	16
'97 AJCE/ACEA 交換ホームステイ研修参加記録	日本上下水道設計(株) 松本真明	19
事務局報告		21
事務局スタッフの紹介		23
AJCE ログ募集		23

Vol.23 No.3

平成10年 1998年11月1日

FIDICエドモントン会議に参加して	副会長 玉井義弘	1
PFIとコンサルティングエンジニア	(株)パシフィックコンサルタンツ 戸松壽則	3
日本のODAのあるべきスタンス	(株)ニュージェック 久保真介	5
性能設計法の現状と今後に関する一考察	(株)建設技術研究所 松井謙二	6
中国及び東欧を指導して	本多技術士事務所 本多四郎	10
戦略的環境アセスメント	千葉大学法経学部助教授 倉阪秀史	12
英米企業と日本企業とのパートナーシップ	駐日英国大使館商務部商務官 石田弘典	14
「AJCE財務対策3ヶ年計画」	AJCE 21世紀委員会幹事長 内村 好	16
事務局報告		18
編集後記		20
AJCEロゴ募集		20

Vol.23 No.4

平成11年 1999年2月1日

年頭言 ～途上国の開発計画に参加して考えること～	理事 前 迪	1
FIDICエドモント大会報告		3
「AJCE会報への改善意見アンケートの結果について」	広報委員会	30
会員名鑑(和文)の発行について	平成9年度 広報委員会委員長 土谷 尚	32
コンサルタントの変革	Kund Munk Jørgensen	33
協会活動報告		35
事務局報告		36
編集後記		40

Vol.23 No.5

平成11年 1999年4月

巻頭言 より魅力あるAJCE活動の実現に向けて	理事 和田 勝彦	1
長らく待たされていたAJCEの ロゴが決定しました	広報委員会副委員長 水谷潤太郎	2
FIDIC海外連絡委員会の活動の近況	FIDIC海外連絡委員会委員長 森村武雄	3
業務開発委員会の活動の現況について	業務開発委員会委員長 清水 巖	5
The FIDIC Annual Review for 1997-1998		7
AJCEとONRIの日蘭修好400年記念セミナーについて	日蘭セミナー準備委員会委員長 土林好之	10
日豪交換研修プログラム/参加者報告	研修委員会委員 岩坪 学	11
日本技術士会の最近の動き	社団法人日本技術士会理事 高城重厚	18
英国コンサルタントの強みと日本企業との協力 英国貿易産業省・対日輸出特別顧問大隈プロジェクト担当	ニック・コズラー	20
アジア開発銀行・将来の動向とビジネス機会 アジア開発銀行駐日代表事務所代表	ナリンP.サマラシンハ	23
日本のコンサルタント業界と世界銀行	世界銀行東京事務所所長 中村修三	26
事務局報告		27
編集後記		30

## Vol.23 No.6

平成11年 1999年6月

巻頭言 ～欧州旅行雑感～	理事 清水 巖	1
開発プロジェクトの社会配慮 海外経済協力基金(OECP) 環境社会開発室 専門調査委員	中川亜起子	3
わが国のODAを巡る環境の変化 (株)パシフィックコンサルタンツインターナショナル	伊藤忠 一	5
コンサルタントの倫理について	理事 前川典生	6
国際機関プロジェクトのコンサルタント業務について 日本工営(株) コンサルタント国際事業本部 営業部長	森 泰宏	8
FIDIC75年誌「コンサルテイング・エンジニア1913～1988」の抄訳(第1回) 広報委員会副委員長	水谷潤太郎	9
FIDIC'99ハーグ大会の紹介	FIDIC研究会 桜井 一	18
ACEC年次大会とFIDIC2000年ハワイ大会準備会議		20
FIDIC便り		21
日英セミナー報告		26
研修委員会活動報告～新FIDICレッドブックのスタイル面の特徴～ 研修委員会委員	林 幸伸	28
環境委員会活動報告～Guide to ISO14001 Certification/Registration改訂について～ 環境委員会副委員長	山下佳彦	29
事務局報告		30
編集後記		36

Vol.23 No.7  
平成12年 2000年1月

AJCE 会報 目次		Vol.23 No.7
巻頭言 2000年を迎え技術者として考えること	理事 清野深次	1
AJCEの10年目を振り返って	副会長 森村武雄	2
1990年代のコンサルティングエンジニア(建コン建築業協会の一環新書の立場から) 日本建設コンサルタント株式会社	田中慶雄	4
世界コンサルタント連盟(FIDIC)の変遷に見る国際コンサルタントの活動 株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	専務役員 営業本部長 廣谷彰彦	6
情報化とCEへの影響	北海道開発コンサルタント株式会社 専務部長 安江 哲	9
FIDIC75年誌「コンサルティング・エンジニア1913～1988」の抄訳(第2巻) 広報委員会 編集委員 水谷潤太郎		11
AJCEセミナー報告 ～新築約款の部～	監修委員会 委員 林 幸博	21
～ISO14001審査登録の指針の部～	監修委員会 副委員長 山下佳彦	24
1999年FIDICハーフ大会報告		28
FIDIC便り		27
事務局報告		28
編集後記		39

Vol.24 No.1  
平成12年 2000年5月

AJCE 会報 目次		Vol.24 No.1
巻頭言 わが国の取組開発援助と一技術者	株式会社 日本経済コンサルタント 代表取締役会長 理事 大野正夫	1
環境会計について	環境資源科学研究所 所長 池田技術士事務所 所長 正統委員会 副員 池田 登	3
上下水道のBOT/PPF	株式会社 日本コン 常務取締役 海外本部長 岩崎雄一	8
ITSの概要とETC(自動料金収受システム)	電気技術開発株式会社 第二技術本部長 岡本部長 鈴木邦彦	11
産業の将来	本多技術士事務所 所長 本多四郎	13
CE Museum	ソシアリティックコンサルタンツ株式会社 取締役 副社長 宮越 貴	15
FIDIC75年史	日本上下水道設計株式会社 技術本部長 次長 広報委員会 編集委員 水谷潤太郎	18
FIDIC便り	電気技術開発株式会社 管理本部長 海外営業部長 広報委員会 委員 北島義一	37
FIDIC2000年ハーフ大会成功へ向けて～AJCEの協力方針について～	株式会社 建設技術研究所 取締役 FIDIC2000年大会実行委員会 委員長 内村 好	38
平成12年度のAJCE 事業方針	株式会社 日本コン 代表取締役 副社長 副社長 玉井義弘	41
事務局報告		43
FIDIC/AJCE 出版物目録		48
編集後記		57



Vol.24 No.2  
平成12年 2000年12月

**AJCE** 会報 目次 Vol.24 No.2

巻頭言 21世紀への橋を架けるコンサルタント	株式会社 建設技術研究所 代表取締役社長 会 長 石井 亨夫	1
新役員・会長・副会長及び各委員会委員長就任報告 近未来社会における競争と協調	電気技術開発株式会社 代表取締役社長 理事・常務委員会委員長 中島 光一	3
政経委員会	株式会社 日本コン 代表取締役副社長 副会長・常務委員会委員長 玉井 義弘	4
総務財政委員会	株式会社 パシフィックコンサルタンツインターナショナル 専務取締役 理事・総務財政委員会委員長 前 進	5
AJCEの役割	日本建設コンサルタント株式会社 代表取締役社長 副会長・役員委員会委員長 都丸 誠治	6
AJCE技術研修委員会	日本工営株式会社 専務取締役 理事・技術研修委員会委員長 和田 啓彦	7
21世紀におけるAJCEの活動	創造工学研究所 所長 理事・技術研修委員会委員長 本田 高士	7
国際活動委員会の行動	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ 取締役専務常務本部長 理事・国際活動委員会委員長 廣谷 彰彦	8
広報委員長に就任して	日本上下水道設計株式会社 取締役水道事業本部長 理事・広報委員会委員長 山根 亮太郎	9
技術士法の改正とAJCE活動	タキ・アソシエイツ技術士事務所 代表 理事 高城 重厚	10
英語会話と私(English conversation and I)	愛宕技術士事務所 所長 養沼 折多	12
FIDIC2000 : A SUCCESSFUL INTERNATIONAL PARTNERSHIP	Parsons Brinckerhoff Quade & Douglas 社 副社長 Stanley Kawaguchi	14
FIDIC大会報告	石井 亨夫	16
FIDIC2000 ハワイ大会報告と今考えらるること	和田 啓彦	17
事務局報告		23
編集後記		26

Vol.24 No.3  
平成13年 2001年3月

**AJCE** 会報 目次 Vol.24 No.3

巻頭言 科学技術への信頼を取り戻すために	株式会社 建設技術研究所 代表取締役社長 会 長 石井 亨夫	1
トルココンサルティングエンジニア・建築家協会の年次例会 院会挨拶及びAJCEの紹介	石井 亨夫	2
21世紀を迎えて		
21世紀を迎えて	日本建設コンサルタント株式会社 代表取締役社長 副会長・役員委員会委員長 都丸 誠治	4
21世紀を迎えて～技術者役割が拡大の時代～	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ 取締役専務常務本部長 理事・国際活動委員会委員長 廣谷 彰彦	5
21世紀を迎えて	株式会社 ニューフエック 常務取締役技術本部長 理事・技術研修委員会委員長 竹村 陽一	8
21世紀を迎えて【コンサルタントの視点】	株式会社 日本コン 海外事業部技術第一部長 林 明	9
21世紀を迎えて	日本上下水道設計株式会社 技術本部長 木下 哲	11
平成12年度 日英ニュージーランド交換研修事業報告		
日・豪/NZ 交換研修プログラムの今後の課題	竹村 陽一	13
海外研修生を迎え入れて	株式会社 建設技術研究所 文化技術本部副本部長 兼 埼玉県市部長 宇野 茂樹	15
21世紀と省エネルギー	本多技術士事務所 所長 理事 本多 四郎	18
21世紀の橋の設計とその予想	株式会社 建設技術研究所 道路本部技術第1部部長 後藤 和典	21
ワープロと私	株式会社 東京設計事務所 取締役業務管理部長 兼 技術管理部長 技術研修委員会委員長 宮本 正史	22
事務局報告		24
編集後記		26

Vol.25 No.1  
平成13年 2001年7月

AJCE 会報 目次		Vol.25 No.1
巻頭言 技術者と若手会 ～顧客との関係において～	電気技術開発株式会社 代表取締役社長 西条 幸吉 会務委員会委員 中島光一	1
海外市場における日英コンサルタントのさらなる協力に向けて	駐日英領事館 商務参事官 石田弘美	3
IMS ～公正性と腐敗防止をめざして～	株式会社直光コンサルタンツ 海外事業部長兼取締役 副副社長兼海外役員(US分科会長) 藤倉信一郎	5
特集 Sustainability Sustainable Japan	日本建設コンサルタンツ株式会社 常務取締役 役員委員会委員 元山 宏	8
開発途上のサステナビリティと戦略	日本工業株式会社 専務取締役 渡川啓介	11
Sustainability ～生態系保全の視点で考える～	株式会社ニュージェック 取締役 成田研一	13
サステナビリティ ～開発途上国のインフラ整備と資源管理	株式会社バシフィックコンサルタンツインターナショナル 常務取締役 理事・取締役委員会委員長 前 進	15
建築におけるサステナビリティ	株式会社伊藤村設計 技術開発部長兼技師 技術開発委員会委員(第二分科会長) 柳川政憲	18
コンサルティング、エンジニアリングにおける競争可能な開発 ～FIDIC 戦略書(Strategic Paper)の紹介～	株式会社建設技術研究所 技術本部開発企画部長 技術開発委員会委員(第二分科会長) 山下佳彦	21
無償による列強国加盟システム	電気技術開発株式会社 執行役員兼一技術副本部長 長谷川豊	29
熱の有効利用と私	有限会社大野化学機械工業所 代表取締役社長 西沢 大野政雄	32
事務局報告		30
編集後記		35

Vol.25 No.2  
平成13年 2001年12月

AJCE 会報 目次		Vol.25 No.2
巻頭言 FIDIC2001 モントルー大会に参加して ～わが国 CE の未来像は?～	株式会社日本コン 代表取締役副社長 副会長・後援委員会委員長 玉井義弘	1
FIDIC MONTREUX 大会報告 ～Partners in Sustainability～	株式会社建設技術研究所 代表取締役社長 会長 石井巧夫	3
石井会長が FIDIC 理事に就任	株式会社建設技術研究所 技術本部開発企画部長 技術研修委員会副委員長(第二分科会長) 山下佳彦	4
特集: FIDIC2001 Conference FIDIC2001 Montreux 開会式と全体会議	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 取締役専務営業本部長 理事・国際活動委員会委員長 廣谷彰彦	
	株式会社ニュージェック 常任監査役 理事・技術研修委員会副委員長(第一分科会長) 竹村陽一	6
Sustainable Development - FIDIC Activities / Initiatives	株式会社森村設計 技術開発部 技術研修委員会委員(第二分科会幹事) 柳川政憲	11
FIDIC2001 大会参加報告 ～Business Practice Roundtables～	株式会社建設技術研究所 東京本社情報部次長 国際活動委員会委員(ASPAC分科会長) 磯部猛也	13
Sustainable Development ～Roundtable Discussion～	山下佳彦	14
ヤングプロフェッショナルフォーラム(YPF)の概要報告	日本建設コンサルタンツ株式会社 東京支社技術一部 小澤宏二	16
GAM(General Assembly Meeting)	株式会社建設技術研究所 事業本部技術第四部長 国際活動委員会委員(Young Forum 分科会長) 佐々部圭二	17
FIDIC2001 年モントルー大会ソシアルプログラムについて	株式会社日本コン 海外事業部業務部長代理 国際活動委員会委員(幹事長) 板井 一	20
フォーラムを終えて	株式会社バシフィックコンサルタンツインターナショナル コンサルティング事業部長 遠藤信雄	23
ISO9000s の 2000 年版改定のポイント	中西技術士事務所 所長 技術交代委員会副委員長 中西武雄	24
「引越しと私」	基礎地盤コンサルタンツ株式会社 東北支社長 技術研修委員会委員(特任委員) 中嶋幸房	28
事務局報告		31
編集後記		34

Vol.25 No.3  
平成14年 2002年3月

AJCF 会報 目次		Vol.25 No.3
巻頭語 科学技術を担うコンサルティングエンジニア	株式会社建設技術研究所 代表取締役社長 FDIC 理事・AJCF 理事 石井巧夫	1
“LOOK DOWNUNDER” アジアにおける架橋協力 オーストラリア大使館マーケティング事務所 マーケティングマネージャー	木村和人	2
特集：日豪 NZ 交換研修		
(1) 日豪交換研修報告録	株式会社ニュージェック 常任監査役 理事・技術研修委員会委員長 竹村陽一	4
(2) 2001 年研修生報告 ‘01 AJCE/ACEA/ACENZ Y-PEP 研修報告	株式会社建設技術研究所 東京本社造路・交通部 編 賀之	5
日豪 NZ 交換研修参加報告	日本建設コンサルタント株式会社 九州支店技術二部 草野康祐	8
日豪 NZ 交換研修に参加して	株式会社日水コン 海外事務部技術二部 佐藤 勇	10
Y-PEP-2001 ～ 豪州交換研修報告 ～	株式会社森村設計 環境部 高田 隆	12
日/豪・NZ 交換研修 (Y-PEP-2001) 報告	八千代エンジニアリング株式会社 国際事業部環境・水資源部水資源開発課 水野直人	15
日豪交換研修 2001 参加報告	株式会社アイ・エヌ・エー 計測本部計測情報部河川技術部 山内敏久	17
AJCE 交換研修プログラム参加報告	株式会社オリエントコンサルタンツ 中部支社地城環境部 渡辺雅彦	20
AJCE 契約セミナー開催記	株式会社建設技術研究所 技術本部開発企画部長 社務局事務局委員長 山下佳彦	23
会員プロジェクト紹介		
持続的な環境農業開発とコンサルタントの役割 ＜東南アジアでの 11 年の経験から＞	日本工業株式会社 インドネシア国小規模農業開発事務所 佐藤 周一	25
中国環境化学汚染処理事業 一プロジェクトマネジメントコンサルタント業務一	株式会社パンファイックコンサルタンツインターナショナル プロジェクトマネジメント事業部長 多賀 正義	30
21 世紀を拓くための環境経営	池田技術士事務所 所 長 技術交流委員会・広報委員会委員長 池田 豊	33
【オスターピンと私】	有限会社大塚エンジニアリング 代表取締役 大塚 敏介	37
事務局連絡		39
事務局特告		40
編集後記		42

Vol.26 No.1  
平成14年 2002年7月

AJCF 会報 目次		Vol.26 No.1
巻頭語 新会長就任のご挨拶	日本建設コンサルタント株式会社 代表取締役社長 会長 部丸徳治	1
各委員会委員長就任報告		
倫理委員長報告	電業技術開発株式会社 代表取締役社長 理事・倫理委員会委員長 中島光一	3
取調委員長に就任して	株式会社日水コン 代表取締役社長 顧問・取調委員会委員長 玉井義弘	3
財政の健全化を目指して	株式会社建設技術研究所 取締役 理事・財務報告委員会委員長 内村好	4
会長委員会 委員長報告	株式会社パンファイックコンサルタンツインターナショナル 取締役 理事・会長委員会委員長 遠藤信雄	5
国際活動委員会の活動	株式会社オリエントコンサルタンツ 代表取締役社長 副会長・国際活動委員会委員長 廣谷彰彦	5
Consulting Engineer の座標軸	創造工学研究所 所 長 理事・国際交流委員会委員長 本川尚士	6
広報委員長に再任されて	日本上下水道設計株式会社 取締役 理事・広報委員会委員長 山根亮太郎	7
AJCE 技術研修委員会委員長就任にあたって	日本工業株式会社 取締役 理事・技術研修委員会委員長 畑尾成道	7
プロジェクト紹介		
黒部ダムエンジニアリング	株式会社ニュージェック 常任監査役 技術研修委員会委員長 竹村陽一	9
QBS Task-Force 中間報告と QBS について	日本海外コンサルタンツ株式会社 専務取締役 QBS Task-Force 部長 小林良明	13
ASPAC 運営委報告	(株)日本コンサルティンク・エンジニア協会 事務局長 藤江五郎	15
ISO14001 の認証所得の光と影 一 審査員の立場から見た環境経営への貢献一	廣川産業・技術研究所 所 長 廣川一男	17
図 録：(1) 中国雑感	(株)日本コンサルティンク・エンジニア協会 事務局長 藤江五郎	20
(2) 「アフリカの調査から」	開発コンサルタント 三橋芳雄	24
FDIC 2002 年大会	(株)日本コンサルティンク・エンジニア協会 事務局	25
事務局連絡		28
事務局報告		28
編集後記		33

Vol.26. No.2

平成14年 2002年12月

AJICE 会報 目次		Vol.26 No.2
巻頭語 FIDIC2002 アカブルコ大会に参加して ～AJICEの活躍とわが国CEの将来は?～	株式会社日本コン 代表取締役副社長 副会長・役員委員会委員長 玉井義弘	1
FIDIC2002 年大会を終えて	日本工業株式会社 取締役 理事・技術研究委員会委員長 畑尾成道	2
FIDIC 活動の将来への展望	(社)日本コンサルティンク・エンジニア協会 事務局長 藤江五郎	4
特 集： FIDIC2002 アカブルコ大会報告		
FIDIC2002 アカブルコ年次総会報告 Conference Programmeの概要	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長 副会長・国際活動委員会委員長 廣谷彰彦	8
会長会議に出席して	日本建設コンサルタント株式会社 代表取締役社長 会長 藤丸徳治	12
FIDIC2002 年アカブルコ大会 理事会に出席して	株式会社建設技術研究所 代表取締役社長 FIDIC理事 石井号夫	13
メキシコ・アカブルコ大会Capacity Building 演説の報告	株式会社ニュー・ジエック 常任監事役 技術研究委員会委員長 竹村陽一	16
BIMS に関する全体セッションについて	株式会社日本コン 西川事業部長兼第一部長 顧問委員会委員長 森重敏夫	18
Consultant Selection	株式会社建設技術研究所 営業本部企画課次長 Q&A-Task Force 事務局長 河上英二	21
FIDIC2002 アカブルコ大会報告 ～ Quality of Construction ～	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長 副会長・国際活動委員会委員長 廣谷彰彦	23
FIDIC Virtual Water Forum	株式会社建設技術研究所 技術本部開発企画課長 技術研究委員会委員長 山下佳彦	26
ヤングプロフェッショナルフォーラム (YPT) ラウンドテーブルディスカッション報告	株式会社日本コン 海外事業部長兼課長 顧問委員会委員長 坂井 一 八千代エンジニアリング株式会社 西原事業部 環境水資源部 水野直人	27
2002年 FIDIC アカブルコ大会報告 Capacity Building Round Table Discussion	株式会社建設技術研究所 東京本社河川部 www.ajice.or.jp 堤枝伸和	31
FIDIC 世界大会に参加して	日本工業株式会社 建設技術部 広報委員会 山田耕三	32
ラウンドテーブル (Young Professionals Forum) の参加報告	日本建設コンサルタント株式会社 東京支社 古嶋 隆	35
FIDIC2002 年大会参加報告	株式会社東京設計事務所 施設グループ機電第2チーム 高橋直人	36
FIDIC2002 年アカブルコ大会ソシアルプログラムについて	株式会社日本コン 海外事業部長兼課長 顧問委員会委員長 坂井 一	39
参考資料 FIDIC 大会報告～臨話表～		43
特 集： 製成感あれこれ	早房技術士事務所 所長 早房長雄	45
事務局連絡		48
事務局報告		48
編集後記		54

Vol.26 No.3

平成15年 2003年3月

AJICE 会報 目次		Vol.26 No.3
巻頭語 顧客満足の追求	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長 副会長・国際活動委員会委員長 廣谷彰彦	1
座談会 マネジメントの刷新と今後の課題 (前編)	技術研究委員会第二分科会編	2
Young に期待すること/Young の期待すること	株式会社建設技術インターナショナル 事業本部技術企画部部長 国際活動委員会第二分科会編 佐々藤圭二	8
日豪交換研修報告 2002 年度日・豪/NZ 交換研修を終えて	株式会社ニュー・ジエック 国際事業本部東京国際部長 技術研究委員会第一分科会編 松田康治	10
豪州研修生報告 YFEP 2002 Japan Homestay Exchange Program	Sinclair Knight Merz Amanda HOPE	12
TCDPAP2002 年次大会参加報告	(社)日本コンサルティンク・エンジニア協会 事務局長 藤江五郎	14
FIDIC 大会の「採択」	(社)日本コンサルティンク・エンジニア協会 事務局長 藤江五郎	17
プロジェクト紹介 スリ・ランカ民主主義共和国 無償貸付能力「中小機受入れ普及計画」の紹介	株式会社オリエンタルコンサルタンツ スリ・ランカ国キャンディ事務所 部長 森本修平 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 国際事業部 部長 神山 敦	18
AJICE セミナー報告 セミナーテーマ：「社会資本整備事業におけるコンサルタントの役割」 満足の獲得	日本工業株式会社 取締役 理事・技術研究委員会委員長 畑尾成道	23
海外建設プロジェクトにおけるコンサルタントの役割	日本工業株式会社 コンサルタント国際事業本部建設技術部長 技術研究委員会第三分科会編 林 幸伸	24
AJICE セミナー 2002 パネルディスカッションを振り返って	株式会社ニュー・ジエック 常任監事役 技術研究委員会委員長 竹村陽一	27
技術交流委員会報告 原子力発電所で発生した原子炉関係事故による ブルワー・マル運風の停電をうらう	中西技術士事務所 所長 理事・技術研究委員会委員長 中西武徳	30
論 議 計算機との付き合い方	林格技術士事務所 所長 技術研究委員会編 林 裕	34
事務局連絡		37
事務局報告		39
編集後記		43

Vol.27 No.1  
平成15年 2003年7月

AJCE 会報 目次		Vol.27 No.1
巻頭言 土木工学と公共事業	日本建設コンサルタント株式会社 代表取締役社長 会長 部丸徳治	1
特集：第3回世界水フォーラム報告 第3回世界水フォーラム(WWF3) 報告	株式会社建設技術研究所 技術本部開発企画部長 技術研修委員会委員長 山下佳彦	2
FIDIC ベダーセン会長旅行要約記	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長 副会長・技術研修委員会委員長 廣谷彰彦	3
AJCE 常設委員会会議報告 常設委員会 - ベダーセン会長との懇談会報告	電気技術開発株式会社 代表取締役社長 理事・常務取締役 中島光一	7
財務財政委員会 - ベダーセン会長との会議報告	株式会社建設技術研究所 常務取締役 理事・財務財政委員会委員長 内村 好	8
会員委員会報告 - FIDIC メンバー協会の強みは何か	株式会社バリアコンサルティングインターナショナル 取締役 理事・会員委員会委員長 滝藤信雄	9
国際活動委員会 - ベダーセン会長との懇談会報告	株式会社日本コン 河川事業部技術第一部長 国際活動委員会委員長 森重俊夫	10
FIDIC ベダーセン会長と技術研修委員会との懇談会	日本工営株式会社 取締役 理事・技術研修委員会委員長 畑尾成道	12
座談会 マネジメントの最新動向と今後の課題(後編)	技術研修委員会第二分科会編	13
YPP 分科会活動報告 - これまでとこれから	株式会社日本コン 東北下水道設計第三課長 技術研修委員会 YPP・YPPF 分科会幹事 秋本富晃	20
プロジェクト紹介 スリ・ランカ湖カルガ河水物開発、給水拡張事業	日本上下水道設計株式会社 技術本部長 美和武男	22
道 筋 マネージメントシステム制度に関連して ISO9001(：2000)認証と日本規格品質(米墨 ME 質)の 調和と内容の相違について	有限会社高木技術士事務所 代表取締役 高木秀雄	27
事務局連絡		29
事務局報告		30
編集後記		34

Vol.27 No.2  
平成15年 2003年12月

AJCE 会報 目次		Vol.27 No.2
巻頭言 AJCEの活躍と今後の課題	日本建設コンサルタント株式会社 代表取締役社長 会長 部丸徳治	1
特集：2003年FIDICパリ大会報告		
随 筆 イランに潜在して	植木技術士事務所 所長 技術交流委員会委員 植木正憲	30
事務局連絡		33
事務局報告		34
編集後記		36

Vol.27 No.3  
平成16年 2004年3月

AJCE 会報 目次		Vol.27 No.3
巻頭言 建設コンサルタントの今後の発展	株式会社日本コン 取締役 副会長 技術委員会委員長 玉井雅弘	1
特集：2003年日英交換研修報告		
AJCE2003年度セミナー報告 2003年度年次セミナー開催報告	日本工営株式会社 海外カンパニー執行役員 理事・技術研修委員会委員長 畑尾成道	22
セミナー要約講演の概要	株式会社建設技術研究所 技術本部開発企画部長 技術研修委員会委員長 山下佳彦	23
セミナー(パネルディスカッション)要約	技術研修委員会編	27
AJCE創設30周年記念事業について	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長 副会長 AJCE創設30周年記念事業実施委員長 廣谷彰彦	32
随 筆 キャンベラの3日間	清水技術士事務所 所長 技術交流委員会委員 清水 康	33
旧 FIDIC 研究会をしのび		35
事務局報告		36
事務局連絡		37
編集後記		38

Vol.28 No.1

平成16年 2004年7月

AJCE 会報 目次		Vol.28 No.1
巻頭言 会長就任ご挨拶	日本建設コンサルタント株式会社 代表取締役社長 会長 都丸権治	1
新役員・会長・副会長及び各委員会委員長一覧		2
特集：各委員会委員長就任報告		
30周年記念事業進捗の中継報告	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長 30周年記念事業実行委員長 廣谷彰彦	9
AJCE30周年記念シンポジウムの要旨	株式会社東京設計事務所 下水道グループ・グループマネージャー 技術研修委員会 FIDIC Policy 推進分科委員長 狩谷 薫	13
会員の声 私の日中技術交流への取組	交友復興技術士事務所 所長 技術交流委員会委員長 長友正留	22
FIDIC：活動報告	(株)日本コンサルティンク・エンジニア協会 専務部長 藤江五郎	24
事務局報告		27
編集後記		29

Vol.28 No.2

平成16年 2004年12月

AJCE 会報 目次		Vol.28 No.2
巻頭言 2004年 FIDIC大会に参加して	日本建設コンサルタント株式会社 代表取締役社長 会長 都丸権治	1
特集：2004年 FIDIC コペンハーゲン大会報告		
事務局報告		51
編集後記		53

Vol.28 No.3

平成17年 2005年3月

AJCE 会報 目次		Vol.28 No.3
巻頭言 コンサルティンク・エンジニアとものづくり	株式会社 日本コン 代表取締役社長 取締役 清水 慧	1
特集：日豪交換研修報告		
AJCE セミナー2004 QBSセミナー報告	株式会社ニュー・ジェック 顧問 技術研修委員会委員長 竹村陽一	18
倫理委員会寄稿 日本建設コンサルタントの公正管理システム		倫理委員会 24
国際活動委員会寄稿 FIDIC NEWS (January 2005 発行)抄録		国際活動委員会 IFI 分科会 27
会員からの声 技術コンサルティンクにおける品質管理の取り組みについて —インドの経験に関連して—	武田敬誠・経営技術士事務所 所長 技術交流委員会 武田正一郎	30
事務局連絡 最近の話題 中印都市建設有様、AJCE 訪問 FIDIC 北京大会開催案内		32 32
事務局報告		33
編集後記		34

Vol.29 No.1

平成17年 2005年8月

AJCE 会報 目次		Vol.29 No.1
巻頭言 AJCE 創立	株式会社 東京設計事務所 取締役海外事業部長 国際活動委員会委員長 宮本正史	1
日本のコンサルティンク・エンジニア(CE)の過去、現在、未来	日本工業株式会社 専務副社長 和田勝義	2
Dispute Board—紛争審査委員会	大本健彦 建設プロジェクト・コンサルタント 工学博士 京都大学教授 大本健彦	7
倫理委員会寄稿 建設技術研究所のコンプライアンス・プログラム推進		倫理委員会 11
プロジェクト紹介 メコン河下流の水文特性：カンボジア、ラオス、タイ、ベトナム ブノンベン間洪水防衛・積水改善計画、カンボジア	株式会社 建設技術インターナショナル 重役部長 営業部長 前田剛和	14
FIDIC 業務計画-2005	(株)日本コンサルティンク・エンジニア協会 専務部長 藤江五郎	17
国際活動委員会寄稿 FIDIC NEWS (May 2005 発行)抄録		国際活動委員会 IFI 分科会 19
[CE 産業における持続可能な開発] FIDIC/SDTF レポートの紹介	株式会社東京設計事務所 下水道グループ・グループマネージャー 技術研修委員会 FIDIC Policy 推進分科委員長 狩谷 薫	22
事務局報告		24
事務局連絡		25
編集後記		26

**Vol.29 No.2**  
平成17年 2005年12月

AJCE 会報 目次		Vol.29 No.2
巻頭言 コンサルタントの明日を切り開く	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長 会長 廣谷彰彦	1
特集：2005 北京大会報告		
倫理委員会寄稿 オリエンタルコンサルタンツのトータル・マネジメント・システム	倫理委員会	65
国際活動委員会寄稿 FIDIC NEWS (October 2005 発行) 抄録	国際活動委員会 IPI 分科会	68
国際活動委員会寄稿 FIDIC 2005 年活動報告 抄録 各委員会の活動	国際活動委員会 IPI 分科会	71
中国北京の思い出	早稲技術士事務所 国際交流委員会 早房長雄	77
事務局報告		79
編集後記		80

**Vol.29 No.3**  
平成18年 2006年4月

AJCE 会報 目次		Vol.29 No.3
巻頭言 レゾン・デートル (存在理由)	株式会社建設技術研究所 常務取締役 副会長 内村 好	1
特集：日豪交換研修報告		
倫理委員会寄稿 日本工営におけるコンプライアンスの推進	倫理委員会	26
国際活動委員会寄稿 FIDIC NEWS (December 2005) 抄録	国際活動委員会 IPI 分科会	28
会員からの声 AJCE に入会して	内藤メディカル研究所 技術交流委員会 内藤 雄	32
事務局報告		
編集後記		

**Vol.30 No.1**  
平成18年 2006年7月

AJCE 会報 目次		Vol.30 No.1
巻頭言 活動を振り返り AJCE 会報再任ご挨拶	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長 会長 廣谷彰彦	1
新役員・会長・副会長及び各委員会委員挨拶		3
特集：各委員会委員長就任報告		
シリーズ・海外の CE 企業 第 1 回 COWI 社 (デンマーク)	広報委員会・編	11
コンサルティング エンジニア Consulting Engineer パシフィックコンサルタンツグループ株式会社 取締役副社長 CE/Mexico 部長 宮越 秀		16
第 4 回世界水フォーラム参加報告	株式会社建設技術研究所 本社 副社長 技術研修委員会 副委員長 山下佳彦	21
FIDIC 2006 ~ 2007 事業計画案	社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会 事務局長 藤江五郎	23
倫理委員会寄稿 パシフィックコンサルタンツにおけるコンプライアンスの価値	倫理委員会	25
国際活動委員会寄稿 FIDIC NEWS (March 2006 発行) 抄録	訳責：国際活動委員会 IPI 分科会	29
編者謝辞 (FIDIC ハンガリー プダベスト大会 2006 のご案内)		
事務局報告		
編集後記		

**Vol.30 No.2**  
平成18年 2006年12月

AJCE 会報 目次		Vol.30 No.2
巻頭言 変化するニーズへの対応	日本工営株式会社 常務執行役員 海外カンパニー パイスプレジデント 副会長 畑尾成道	1
社報 高 血圧への治療		2
「現代のガムライ」高血圧厚圧の過去を振り返る	日本工営株式会社 特別顧問・元理事 和田勝彦	3
	株式会社建設技術研究所 常務取締役 九州支社長 副会長 内村 好	4
特集：FIDIC 2006 プダベスト大会報告		
シリーズ・海外の CE 企業 (第 2 回・オーストラリア MBK Cardno 社)	広報委員会・編	43
倫理委員会寄稿 日本コンのコンプライアンス推進取組	倫理委員会	47
国際活動委員会寄稿 FIDIC NEWS (October 2006 発行) 抄録	訳責：国際活動委員会 IPI 分科会	50
事務局報告		
編集後記		

Vol.30 No.3

平成19年 2007年4月 春号

AJCE 会報 目次		Vol.30 No.3・春号
巻頭言 AJCE 活動に期待する	株式会社 且夫 代表取締役社長 理事・総務委員会委員長 友澤武昭	1
リスクマネジメントへのいざない	株式会社 日水コン 河川事業部副事業部長 国際活動委員会委員長 藤重俊夫	3
特集：座談会 2006年 FIDIC フダベスト大会報告を読み解く(前半)	広報委員会・編	8
TCDPAP/ASPAC Annual Conference 2007 "Engineering and Disaster Management" 参加報告	国際活動委員会 ASPAC 分科会	24
国際活動委員会寄稿 FIDIC NEWS (December 2006) 抄訳	訳責：国際活動委員会 IFI 分科会	28
印刷		35
事務局報告		36
編集後記		38

Vol.31 No.2

平成19年 2007年11月 秋号

AJCE 会報 目次		Vol.31 No.2・秋号
巻頭言 社会を変えようとする者に正当な評価を	株式会社建設技術研究所 会長 元 AJCE 会報 及び FIDIC 理事 土木学会会長 石井亨夫	01
シリーズ・FIDIC を知る FIDIC 目標達成のための行動計画 前編	株式会社パンフィックコンサルタンツインターナショナル 取締役 AJCE 理事・広報委員会委員長 遠藤信雄 訳	03
寄稿：FIDIC 協会発表記	国際協力銀行 プロジェクト開発部副課長 課長 宮尾泰助	07
特集：2007年 FIDIC シンガポール大会報告		09
ご挨拶 AJCE 事務局局長就任にあたって	AJCE 事務局局長 山下佳彦	65
AJCE の 10 年余を振り返り	AJCE 事務局局長 藤江五郎	66
事務局報告		67
編集後記		68

Vol.31 No.1

平成19年 2007年8月 夏号

AJCE 会報 目次		Vol.31 No.1・夏号
巻頭言 技術協力	OYO インターナショナル株式会社 代表取締役社長 理事・総務委員会委員長 田中達吉	01
シリーズ・FIDIC を知る FIDIC の理念・使命・目標	株式会社パンフィックコンサルタンツインターナショナル 取締役 理事・広報委員会委員長 遠藤信雄 訳	03
特集：座談会 2006年 FIDIC フダベスト大会報告を読み解く(後半)	広報委員会・編	07
シリーズ：海外の CE 企業 第3回 Golden 社(カナダ)	広報委員会・編(訳責)	22
Greggs Thomopoulos FIDIC 理事、Richard Stump FIDIC YPF 課長 との懇談会	株式会社 建設技術研究所 国際部部長 広報委員会委員長 山下佳彦	27
倫理委員会寄稿 応用地質株式会社のコンプライアンス経営展開	倫理委員会	30
FIDIC の BIMS について	株式会社 長 大 取締役 事業推進本部副部長 国際活動委員会 BIMS 分科会委員長 水沼泰司	33
国際活動委員会寄稿 FIDIC NEWS (June 2007) 抄訳	訳責：国際活動委員会 IFI 分科会	36
事務局報告		42
編集後記		43

Vol.31 No.3

平成20年 2008年1月 新年号

AJCE 会報 目次		Vol.31 No.3・新年号
巻頭言 日豪交換研修の新たなスタートを祝して	株式会社建設技術研究所 相談役 AJCE 協会長 名誉会員 梅田昌郎	01
シリーズ・FIDIC を知る FIDIC 目標達成のための行動計画 後編	株式会社パンフィックコンサルタンツインターナショナル 取締役 AJCE 理事・広報委員会委員長 遠藤信雄 訳	03
特集：日豪交換研修報告 新時代に入った蒙州交換研修	株式会社建設技術研究所 管理本部副部長 技術研修委員会委員長 金井重一	07
2007年度日豪交換研修生受入報告	株式会社建設技術研究所 通商・交通部 部長 前田信幸	11
2007年度 日豪交換研修生受入報告	いでる株式会社 東京支社 水循環グループ 小林孝介	13
YPEP-2007 に参加して	株式会社オリエントコンサルタンツ 社会環境事業部 神田直基 株式会社オリエントコンサルタンツ 社会環境事業部 国際活動委員会 渡津水子	15
YPEP2007 Nathan Scott 氏との出会い	株式会社且夫 構造事業本部 東日本構造事業部 高層構造技術部 部長 加藤博彦 株式会社 且夫 構造事業本部 東日本構造事業部 構造計画部 主任 佐藤英弘 株式会社 且夫 社会計画事業本部 西日本社会計画事業部 社会・環境計画部 部長 笠松扶美	18
2007年度日豪交換研修生受入報告	株式会社森村設計 海外グループ 今野直希	22
ヤングゼミットについて	株式会社日水コン 事業推進本部 技術研修委員会幹事 秋本寛見	24
国際活動寄稿 FIDIC 年次報告書 2006-2007 版 (FIDIC Annual Review for 2006-2007) 抄訳	訳責：国際活動委員会 IFI 分科会	26
韓国協会 2007年 国際セミナー講演(報告) KENCA 2007 Professional Engineers Seminar in Jeju	株式会社建設技術研究所 常務取締役 AJCE 協会長 内村 好	29
シリーズ・FIDIC 契約約款の紹介 その1 FIDIC レインボー	AJCE 事務局	31
事務局報告		33
編集後記		34



Vol.32 No.1

平成20年 2008年4月 春号

AJCE 会報 目次		Vol.32 No.1 春号
巻頭言 社会を明るく一若し技術者に夢を、未来を—	日本工営株式会社 社友 元AJCE理事 田川勝夫	01
特集「社会を明るくしよう—若い技術者に夢を、未来を— 「感動する心」を熱く燃けて!	元AJCE会長 名誉会員 松本 一 03 次世代に輝ける都市基盤整備を 株式会社日本コン 取締役 元AJCE理事 玉井義弘 05	03 05
産別会	広報委員会	07
技術研修委員会寄稿 2007年AJCE年次セミナーの総括	日本工営株式会社 常務執行役員 AJCE副会長 技術研修委員会委員長 堀尾成道	16
国際活動委員会寄稿 ASPAC分科会活動報告	株式会社建設技術インターナショナル 業務本部 営業企画室長 国際活動委員会ASPAC分科会長 前田剛和	21
BIMILACI2007年会議議事録 抄訳	訳者：国際活動委員会IF1分科会	24
倫理委員会寄稿 株式会社社長のコンプライアンス経営観	倫理委員会	27
事務局報告		30
編集後記		30

Vol.32 No.3

平成20年 2008年11月 秋号

AJCE 会報 目次		Vol.32 No.3 秋号
巻頭言 コンサルティングと異文化間コミュニケーション	株式会社エヌジョーエス コンサルタンツ代表取締役社長 AJCE理事 国際活動委員会副委員長 竹内正青	01
寄稿：FIDIC大会・古今東西	個人執務員 技術研修委員会常務委員長 竹村陽	03
特集：FIDIC-2008 ケベック大会報告		06
AJCE/KENCA 読書録	AJCE事務局	66
Richard Stump 氏来日報告	AJCE事務局	67
技術研修委員会 2008年AJCE年次セミナー開催報告 [コンサルティング業務におけるリスクマネジメント]	技術研修委員会 技術研修推進分科会	68
国際活動委員会 FIDICニュース2008年7月号抄訳	訳者：国際活動委員会IF1分科会	71
事務局報告		74
編集後記		76

Vol.32 No.4

平成21年 2009年1月 新年号

AJCE 会報 目次		Vol.32 No.4 新年号
巻頭言 年頭にあって	株式会社オリエントタルコンサルタンツ代表取締役社長 AJCE会長 廣谷彰彦	01
特集：日豪交換研修2008 報告		03
総括	金井 直	03
YJEP2008 日豪交換研修に参加して	中嶋 一博	05
YJEP2008に参加して	長谷川 正	07
日豪交換研修プログラムに参加して	矢野 卓也	09
YJEP2008 日豪交換研修報告	森本 大哉	11
YJEP2008 研修報告	石山 正人	13
YJEP08 研修報告	中村 秀典	16
公式行事報告	長谷川 正	19
YJEP2008 ヤングサミット報告	中村 秀典	21
日豪交換研修2008 報告会	浅田 謙永	23
シリーズ・海外のCE企業 第4回 Scott Wilson Group社 (イギリス)	広報委員会 編 (直訳)	26
倫理委員会 株式会社東京設計事務所のコンプライアンス経営観		28
国際活動委員会 FIDIC年次報告書2007-2008版 (The FIDIC Annual Review for 2007-2008)の紹介	国際活動委員会IF1分科会	31
シリーズ・FIDIC 契約約款の紹介 その2 FIDIC レインボー解説書	AJCE事務局	35
事務局報告		37
編集後記		38

Vol.32 No.2

平成20年 2008年7月 夏号

AJCE 会報 目次		Vol.32 No.2 夏号
巻頭言 AJCEの役割と展望	株式会社オリエントタルコンサルタンツ 代表取締役社長 AJCE会長 廣谷彰彦	01
特集「AJCEを知る—AJCEとは何か— 日本におけるAJCEの使命を考える	株式会社日本コン 代表取締役社長 AJCE副会長 鈴木 健	03
日本におけるCEの地位向上をめざして	株式会社建設技術研究所 常務取締役 AJCE副会長 内村 好	05
FIDIC大会を如何に活かすか	株式会社東京設計事務所 代表取締役社長 AJCE副会長 宮本正史	06
わが国CEの購買向上を考える	日本工営株式会社 常務執行役員 AJCE副会長 堀尾成道	07
AJCEを知る	広報委員会	09
AJCEの倫理観と倫理観測	倫理委員会	11
財政健全化とAJCEの使命	財務財政委員会	12
CEの魅力を次世代にキャンペーンする	会員委員会	14
FIDICの会報短会としてAJCEを考える	国際活動委員会	15
AJCEにおける能力開発 (Capacity Building)	技術研修委員会	17
異業種交流を考える	技術交流委員会	18
AJCEの広報を考える	広報委員会	19
FIDIC会長来日報告	AJCE事務局 山下佳彦	21
国際活動委員会 2008 FIDIC/ASPAC&TCOPAP SEOUL CONFERENCE "Role of Engineering in the Globalization Era" 参加報告	株式会社建設技術インターナショナル 国際活動委員会ASPAC分科会長 前田剛和 株式会社日本コン ASPAC分科会長 森本和俊 株式会社オリエントタルコンサルタンツ ASPAC分科会長 廣谷彰彦	23
FIDICニュース2008年5月号抄訳	訳者：国際活動委員会IF1分科会	25
事務局報告		29
編集後記		30

Vol.33 No.1

平成21年 2009年7月 夏号

AICE 会報 目次		Vol.33 No.1・夏号
<b>巻頭言</b>		
混迷の現状で未来に向けて向き直すべきこと パシフィックコンサルタンツ株式会社 代表取締役社長 AICE理事 長谷川伸一		01
<b>特集：技術力によるコンサルタントの選定 — FIDIC と AJCE のあゆみ —</b>		
技術力に基づくコンサルタント選定の重要性 FIDIC 会長 John Boyd		03
FIDIC のビジョン 課題 そして QBS 中央開発株式会社 代表取締役社長 AICE 理事 広報委員会委員長 瀬古一郎		05
FIDIC と AJCE のあゆみ 国際活動委員会 QBS 分科会編集		06
コンサルタントの選定と AJCE の活動 株式会社建設技術研究所 会長 元 AICE 会長 元 FIDIC 理事 石井弓夫		10
雑感 品質によるコンサルタント選定 株式会社東京設計事務所 代表取締役副社長 AICE 会長 国際活動委員会委員長 宮本正史		12
FIDIC 契約約款におけるエンジニアの職務と能力基準 株式会社 Kaido & Associates 代表 Trent Consulting Japan アソシエイツパートナー 海藤 勝		14
QBS の展望 株式会社オリエタルコンサルタンツ 代表取締役社長 AICE 会長 廣谷彰彦		17
<b>シリーズ・海外だより その1</b>		
ベトナム人はわざわざ好き 日本工営株式会社 AICE 広報委員会 山田 耕三		19
<b>シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 第1回</b>		
カナダ・コンサルティング・エンジニア企業協会 (ACEC) 広報委員会 編		20
<b>国際活動委員会</b>		
FIDIC ニュース 2009年5月号邦訳 訳責：国際活動委員会 IP1 分科会		21
FIDIC/ASPAC カトマンス会議参加報告 株式会社オリエタルコンサルタンツ 社会環境事業部 国際活動委員会 ASPAC 分科会 渡津永子		24
<b>技術研修委員会</b>		
FIDIC-POLICY 推進分科会の活動概要・報告 株式会社東京設計事務所 取締役 AICE 技術研修委員会 FIDIC-POLICY 推進分科会長 狩谷 薫		27
ウズベキスタン協会 (UZACE) と覚書を締結 AICE 事務局		30
訃報 親友 大野欣雄氏の逝去を悼む		31
事務局報告		32
編集後記		34

Vol.33 No.2

平成21年 2009年11月 秋号

AICE 会報 目次		Vol.33 No.2・秋号
<b>巻頭言</b>		
FIDIC の活動の日本への展開 日本工営株式会社 代表取締役社長 AICE 理事 廣瀬典昭		01
<b>FIDIC 理事就任挨拶</b>		
株式会社オリエタルコンサルタンツ 代表取締役社長 AICE 会長 廣谷彰彦		02
<b>ASPAC 理事に就任して</b>		
株式会社建設技術研究所 常務取締役 AICE 理事 内村 好		03
<b>特集：FIDIC2009 ロンドン大会報告</b>		
04		
<b>シリーズ・海外だより その2</b>		
面倒？ 難関？ 移動の足はもっぱらタクシー—— 中央開発株式会社 AICE 広報委員会 小林大祐		47
<b>国際活動委員会</b>		
FIDIC 年次報告書 2008-2009 版 (The FIDIC Annual Review for 2008-2009) の紹介 訳責：国際活動委員会 IP1 分科会		48
<b>技術研修委員会</b>		
2009年 AJCE 年次セミナー報告 「世界に飛躍するコンサルタント— 母来市場の展望 —」 技術研修委員会 技術研修推進分科会		51
<b>倫理委員会</b>		
八千代エンジニアリング株式会社のコンプライアンス経営展開 倫理委員会		54
<b>FIDIC 契約約款改訂の動向</b>		
FIDIC Asia-Pacific Contract Users' Conference 参加報告 AICE 技術研修委員会 倫理委員会 林 幸伸		57
<b>～私たちのワークスタイル～</b>		
「女性コンサルタントのキャリアパスとワークライフバランス」 AICE Young Professional Group		59
<b>新会員の紹介</b>		
		63
<b>事務局報告</b>		
		64
<b>編集後記</b>		
		68

Vol.33 No.3

平成22年 2010年1月 新年号

AJCE 会報 目次 Vol.33 No.3・新年号

巻頭言 2010年の年訓にあたって 株式会社オリエントコンサルタンツ 代表取締役社長 AJCE会長 廣谷 裕彦 01
寄稿 官民連携による我が国建設技術の海外展開の促進 国土交通省総合政策局 国際建設管理官 名波義昭 03
特集：日露交換研修 2009 報告 総括 金井 直 04 ～日露の架け橋としての交換研修を絶えて～ 2009年 日露交換研修生受入報告 渡部 敏樹 06 2009年 日露交換研修生受入報告 神山 敦 08 日露交換研修生受入報告 鹿田 陽平・塚瀬 明日香 10 YREPP2009 日露交換研修に参加して 澤部 純弘・長谷川 正 12 ヤングサミット 浅田 盛永 14
シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 第2回 オーストラリア：コンサルティング・エンジニア協会 (ACEA) 広報委員会 編 18
シリーズ・海外だより その3 シリアのファーストフード 株式会社日本コン 海外事業部技術部 主任 木村 光志 19
シリーズ・こだわりの会員 イギリスと日本の鉄道の今昔を考える 田中 宏 技術交流委員会 委員長 田中 宏 代表 AJCE 理事 20
国際活動委員会 FIDIC ニュース 2009年 10月号抄訳 訳責：国際活動委員会 IFI 分科会 21
シリーズ・FIDIC 契約約款の紹介 その3 FIDIC Gold Book AJCE 事務局 24
日中韓 3 協会首脳会議 AJCE 事務局 25
KENGA AJCE JCGA 意見交換会 AJCE 事務局 26
新会員の紹介 27
事務局報告 28
編集後記 29

Vol.34 No.1

平成22年 2010年7月 夏号

AJCE 会報 目次 Vol.34 No.1・夏号

巻頭言 会長就任のご挨拶 日本工営株式会社 代表取締役社長 AJCE 会長 廣瀬 典昭 01
特集：Sustainability～海外での事業機会を探る はじめに 瀬古 一郎 02 「Sustainability」FIDIC の考え方 佐久間 真 02 「Sustainability」持続性に配慮したプロジェクト紹介 カタール・ナショナル・マスタープラン 株式会社オリエントコンサルタンツ 04 パリ島海岸保全プロジェクト 日本工営株式会社 05 中華人民共和国内陸環境保護部タイオキシモニタリングセンター建設項目国外トレーニング いづみ 株式会社 07 無収水管理 中央開発株式会社 09 台湾における河川浄化について 株式会社日本コン 10 ジェリコおよびヨルダン渓谷における農業物産管理向上プロジェクト 八千代エンジニアリング株式会社 12 広域組合による持続可能な農業物産管理 株式会社建設技術インターナショナル 14 カンボジア国プノンベン市洪水防壁・排水改善計画における持続性への配慮
海外展開への助言 Sustainability～法律・交渉・紛争解決の専門家の視点 井口 直樹 16 日本企業にとっての中国インフラ市場の魅力 高 華 (ひょうま) 17 グローバル化の中での開発援助とこれに対応するビジネスの変化 岩野 雅幸 19
シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 韓国エンジニアリング協会 (Korea Engineering & Consulting Association) 広報委員会 編 21
シリーズ・海外だより その4 ラオスの健康生活のすすめ 株式会社 Ideo 三島 京子 22
シリーズ・こだわりの会員 「こだわり」 有限会社クープラス 取締役社長 AJCE 理事 技術交流委員会 花岡 浩 23
シリーズ・海外の CE 企業 第5回 Stanley Consultants (米国) 広報委員会・編 (訳責) 24
倫理委員会 公正管理システムインタビュー 倫理委員会 25
国際活動委員会 FIDIC News February 2010 訳責：国際活動委員会 IFI 分科会 26
新会員の紹介 29
退職にあたり 吉野 君江 32
事務局報告 33
編集後記 36

Vol.34 No.2

平成22年 2010年11月 秋号

AJCF 会報 目次		Vol.34 No.2・秋号
巻頭言	8年振りのFIDIC	株式会社森行設計 代表取締役社長 AJCF副会長 森村 潔 01
審議	FIDIC 財団 2010 (於、ニューデリー) に参加して	国際協力機構 (JICA) 上級顧問 柴川博人 02
	FIDIC 2010 New Delhi に参加して一弁護士感想	アシダーミン・モリ：女帝法律事務所 弁護士 月山武樹 03
特集	FIDIC2010 ニューデリー大会報告	04
シリーズ	FIDIC 会員協会紹介 第4回 ウズベキスタン コンサルティング・エンジニア協会 (the Uzbek Association of the Engineers - consultants and constructors)	広報委員会 編 44
シリーズ	海外だより その5 ラオス・ベトナム国境の町 Dansavanh から	株式会社建設技術インターナショナル 技術研修委員会 YP分科会委員 中島隆志 45
シリーズ	こだわりの会員 こだわりの技術士業	創造工学研究所長 技術士(化学) 技術交流委員会委員 平野輝夫 46
技術研修委員会	2010年 AJCF 年次セミナー 日本のコンサルタントは国際競争格化にどう取り組むか ～海外市場で戦うために必要なものは何か～	技術研修委員会 技術研修推進分科会 47
	Richard Stump 氏来日報告	技術研修委員会 Young Professional 分科会 50
	若手交流会 AJCF 夜会	技術研修委員会 Young Professional 分科会 51
国際活動委員会	FIDIC News July 2010	訳責：国際活動委員会 IPI 分科会 52
事務局報告		56
編集後記		58

Vol.34 No.3

平成23年 2011年1月 新年号

AJCF 会報 目次		Vol.34 No.3・新年号
巻頭言	新年のご挨拶	日本工営株式会社 代表取締役社長 AJCF会長 廣瀬典昭 01
メッセージ	ODA とともに	ベトナムスエンジニアリング株式会社 会長 AJCF理事 総務委員会委員長 技術交流委員会委員長 益谷 寛 02
特集	日豪交換研修 2010 報告	
	総括	金井恵 03
	～日豪の架け橋としての交換研修を終えて～	長田太宗 05
	YPEP2010 研修報告	花原英徳 07
	研修報告	伊藤貴行 09
	YPEP2010 日豪交換研修報告	津部誠浩 11
	YPEP2010 日豪交換前研修報告	岸 和宏 13
	YPEP2010 研修報告	茶瀬明日香 15
	YPEP2010 日豪研修を終えて	花原英徳 17
	公式行事報告	茶瀬明日香 19
	YPEP2010 ヤングサミット報告	茶瀬明日香 19
シリーズ	FIDIC 会員協会の紹介 第5回 アメリカ・コンサルティング・エンジニア協会 (American Council of Engineering Companies)	広報委員会 編 21
シリーズ	海外だより その6 未来都市シンガポール	建設地盤コンサルティング株式会社 国際活動委員会 YP分科会委員 安田智広 22
シリーズ	こだわりの会員 AJCF 発定時先達のこだわりと古参 CE 技術士の願い	黒澤 R&D 技術事務所 所長 技術交流委員会委員 黒澤豊樹 23
技術研修委員会	コンサルタントの海外展開と FIDIC 契約約款セミナー報告	技術研修委員会 技術研修推進分科会 24
国際活動委員会	The FIDIC Annual Review for 2009-2010 FIDIC 年次報告 2009-2010 年より Gregg Thomopoulos 会長からのメッセージ	訳責：国際活動委員会 IPI 分科会 26
総務委員会	CRS インタビュー報告 日本工営株式会社	総務委員会 28
計報	先着 清水龍氏の逝去を悼む	田中宏技術士事務所 代表 AJCF理事 技術交流委員会委員長 IPI 中 啓 30
事務局報告		32
編集後記		33

Vol.35 No.1

平成23年 2011年7月 夏号

AJCF 会報 目次 Vol.35 No.1・夏号

巻頭言 東日本大震災に遭遇し思うこと 株式会社東京設計事務所 代表取締役副社長 AJCF 副会長 宮本正史 01	
特集：海外展開と AJCE の新たな役割 一特別企画 正副会長・理事座談会一 編集 広報委員会 02	
シリーズ：FIDIC 会員協会の紹介 第 6 回 英国協会 Association of Consultancy and Engineering (ACE) 広報委員会 編 09	
シリーズ：海外だより その 7 ハノイ路線バス事情 株式会社オリエントタルコンサルタンツ GC 事業本部 道路計画部 菅沼泰久 10	
シリーズ：こだわりの会員 独立技術士活動の新しいロードマップ 二宮技術士事務所代表 二宮孝夫 12	
FIDIC 契約約款研修セミナー報告 日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部 開発事業部 副事業部長 アジュディケーター委員会委員長、技術研修委員会委員長 林 幸伸 14	
アジュディケーター委員会 AJCE・JICA・OCAJ 共催 FIDIC 契約約款・契約マネジメントセミナー アジュディケーター委員会 18	
アジア地域におけるアジュディケーターの育成とアジュディケーター登録制度 日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部 開発事業部 副事業部長 アジュディケーター委員会委員長、技術研修委員会委員長 林 幸伸 18	
国際活動委員会 国際活動委員会 (IAC, International Activities Committee) について 株式会社日本コン 執行役員 AJCE 理事 国際活動委員会委員長 森重俊夫 20	
FIDIC ASPAC クアラルンプール大会報告 「グローバル化した世界における持続性」 株式会社建設技術研究所 代表取締役副社長 AJCF 副会長、ASPAC 理事 内村 好 22	
事務局報告 24	
編集後記 25	

Vol.35 No.2

平成23年 2011年11月 秋号

AJCF 会報 目次 Vol.35 No.2・秋号

巻頭言 公益法人化へ向けて 株式会社建設技術研究所 代表取締役副社長執行役員 AJCF 副会長 内村 好 01	
巻頭 ODA 事業、FIDIC 契約約款そして本邦企業の海外展開 独立行政法人国際協力機構 資金協力支援部副部長理事 伊藤隆司 02	
特集：FIDIC2011 タボス大会報告 03	
シリーズ：FIDIC 会員協会の紹介 第 7 回 ベトナム協会 Vietnam Engineering Consultant Association (VECAS) 広報委員会 編 40	
シリーズ：海外だより その 8 韓流ブーム 株式会社森村設計 塚嶋忠 水谷貴俊 41	
シリーズ：こだわりの会員 「こだわり」と「ひらめき」 大塚エンジニアリング技術士事務所 代表 大塚敏介 42	
アジュディケーター委員会 アジュディケーター AJCE リスト運用開始 アジュディケーター委員会 44	
アジュディケーターとしての抱負 大成建設株式会社 アジュディケーター 大場邦久 45	
アジュディケーターとしての抱負 社団法人海外建設協会 アジュディケーター 加藤 武 46	
Dispute Board メンバーとなる日に向けて 株式会社 Kaido & Associates アジュディケーター 海藤 勝 47	
J・エンジニアからアジュディケーターへ 株式会社オリエントタルコンサルタンツ アジュディケーター 帆月隆二 48	
アジュディケーターとしての抱負、他 株式会社建設技術研究所 アジュディケーター AJCF 副会長 編木孝治 49	
Dispute Board とクレーム 株式会社日本コン アジュディケーター 岡本 隆 50	
Adjudicator としての抱負 アジュディケーター 松所陽一 51	
倫理委員会 会員企業 CSR インタビュー報告 株式会社オリエントタルコンサルタンツ 倫理委員会 52	
技術研修委員会 2011 年 AJCE 年次セミナー 海外プロジェクトにおけるコンサルタント契約 → FIDIC White Book とアジュディケーターへ 技術研修委員会 技術研修推進分科会 55	
若手交流会 AJCE 夜会 AJCE 技術研修委員会 Young Professional 分科会 58	
国際活動委員会 AJCE セミナー FIDIC 建設工事の契約条件書 国際開発金融機関版 (Red Book MOB 版) 解説 訳者：国際活動委員会 契約分科会 59	
FIDIC News September 2011 訳者：国際活動委員会 CB 分科会 62	
事務局報告 65	
編集後記 68	

Vol.35 No.3

平成24年 2012年1月 新年号

AJCE 会報 目次		Vol.35 No.3・新年号
巻頭言		
新年のご挨拶	日本工営株式会社 代表取締役社長 AJCE会長 廣瀬典昭	01
特集：東日本大震災からの復旧復興		02
シリーズ・海外だより その9 南スーダン国ジュバ市の生活事情	株式会社東京設計事務所 海外事業部 河村正士	32
国際活動委員会		
FIDIC 年次報告 2010-2011 年より Gregg Thomopoulos 会長からのメッセージ	訳者：国際活動委員会（CI1分科会）	33
倫理委員会		
会員企業 CSR インタビュー報告（株式会社建設技術研究所）	倫理委員会	35
読書		38
事務局報告		39
編集後記		40

Vol.36 No.1

平成24年 2012年7月 夏号

AJCE 会報 目次		Vol.36 No.1・夏号
巻頭言		
わが国コンサルタントの海外展開	日本工営株式会社 代表取締役社長 AJCE会長 廣瀬典昭	01
特集：若者よ、世界にはばたこう！		02
日本における国際展開の現状／若手技術者にとっての国際展開／ 先輩技術者からのメッセージ／国際展開に向けた企業の人材育成支援／ JICA の支援プログラム紹介／AJCE の若手技術者の活動		
シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 第8回 デンマーク協会 The Danish Association of Consulting Engineers (FDI)	広報委員会 編	18
シリーズ・海外だより その10 発展途上の築國 ブーゲンビル島	株式会社大 海外事業部海外技術1部 小林克哉	19
FIDIC 理事会 東京開催報告	株式会社東京設計事務所 代表取締役副社長 AJCE副会長 FIDIC理事会事務局委員 菅本正史	20
技術研修委員会		
2012年 FIDIC-AJCE 共催セミナー コンサルタントの国際展開 ー国際コンサルティング・エンジニア連盟 (FIDIC) 会長と共に考えるー	技術研修委員会 技術研修推進分科会	22
倫理委員会		
会員企業 CSR インタビュー報告 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)	倫理委員会	25
調査報告		
FIDIC 契約約款における紛争解決 (JICA 調査報告)	日本工営株式会社 契約管理室長 アソシエイトマネージャー 国際委員長 技術研修委員会委員長 林 幸伸	28
国際活動委員会		
FIDIC News April 2012 抄訳		30
新会員の紹介		33
事務局報告		35
編集後記		38

Vol.36 No.2

平成24年 2012年11月 秋号

AJCE 会報 目次		Vol.36 No.2・秋号
巻頭言	FIDIC と AJCE とコンサルタント	01
	中央開発株式会社 代表取締役社長 AJCE 副会長 藤川 一郎	
寄稿	2012年 FIDIC 大会（於、ソウル）に参加して	02
	独立行政法人国際協力機構 経済基盤開発部 部長 三浦和紀	
	ASPAC 理事に再選されて	03
	株式会社建設技術研究所 副社長 ASPAC 理事 AJCE 副会長 内村 好	
特集	FIDIC2012 ソウル大会報告	04
シリーズ	FIDIC 会員協会の紹介 第9回 ブラジル協会 Associação Brasileira de Consultores de Engenharia (ABCE)	05
	広報委員会 編	
シリーズ	海外たより その11 ・・・なアルメニア	06
	OYO インターナショナル株式会社 塩原 孝	
倫理委員会	会員企業 CSR インタビュー報告（八千代エンジニアリング株式会社）	07
	倫理委員会 編	
技術研修委員会	若手技術者発表会 YP 大賞 若手交流会 AJCE 夜会	08
	AJCE 技術研修委員会 Young Professional 分科会	
FIDIC セミナー報告	FIDIC Asia-Pacific Contract User's Conference 2012 参加報告 シンガポール	09
	FIDIC MDB Construction Contract Conference 2012 参加報告 ブリュッセル	10
	日本工営株式会社 契約管理室長 プロジェクトマネージャー兼副委員長、技術研修委員会副委員長 林 幸伸	
国際活動委員会	Bribery Act 2010 概要	11
	FIDIC News July 2012 抄訳	12
計報	森村武雄氏の逝去を悼む	13
	AJCE 理事報告 藤江 五郎	
事務局報告		14
編集後記		15

Vol.36 No.3

平成25年 2013年1月 新年号

AJCE 会報 目次		Vol.36 No.3・新年号
巻頭言	新年のご挨拶	01
	日本工営株式会社 代表取締役社長 AJCE 副会長 廣瀬典昭	
寄稿	首都大学東京とベトナム・ハノイにある大学との共同研究・教育	02
	首都大学東京都市環境学部 教授 梅山元彦	
特集	日豪交換研修報告 2012	03
	日豪交換研修 (YPEP2012) を終えて	03
	日豪交換研修報告 2012	04
	日豪交換研修報告 2012	07
	日豪交換研修報告 2012	09
	日豪交換研修報告 2012	11
	日豪交換研修報告 2012	14
	日豪交換研修報告 2012	18
	2012 日豪若手エンジニア交換研修プログラム (Young Professionals Exchange Program : YPEP)	18
	株式会社日本コンシテック事業推進部 推進技術2課長 技術研修委員会 YP 分科会長 赤坂和俊	
シリーズ	FIDIC 会員協会の紹介 第10回 シンガポール協会 Association of Consulting Engineers Singapore (ACES)	20
	広報委員会 編	
シリーズ	海外たより その12 知られざる北極ブラジルの魅力	21
	八千代エンジニアリング株式会社 業務企画部 新地貴博	
技術交流セミナー 2012	【鉄道・環境・上下水道及び交通分野における技術者のイニシャティブ】 の報告	22
	田中宏技術士事務所 代表 AJCE 理事 技術研修委員会委員長 田中 宏	
倫理委員会	会員企業 CSR インタビュー報告 (株式会社日水コン)	24
	倫理委員会 編	
FIDIC State of the World 報告書	FIDIC 世界事情レポート「持続可能な社会基盤」の紹介	26
	AJCE 国際活動委員会 (IF 分科会)	
新会員の紹介		29
計報	松永一成氏を悼む	30
	AJCE 元会長 株式会社建設技術研究所 副社長 石井弓夫	
事務局報告		31
編集後記		32

Vol.37 No.1

平成25年 2013年7月 夏号

AJCE 会報 目次		Vol.37 No.1・夏号
巻頭言	FIDICとAJCEとコンサルタント	01
	日本工営株式会社 代表取締役社長 AJCE会長 廣瀬典昭	
寄稿	国土交通省における海外プロジェクト推進の取り組み	02
	国土交通省総合政策局 海外プロジェクト推進課課長 石川雄一	
	FIDIC創立100周年に寄せて	03
	親立行政法人国際協力機構 資金協力支援部部長 坂田卓吉	
特集	今あらためてFIDIC - 創立100周年を機に -	04
シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 第11回	スペイン協会 Asociación Española de Empresas de Ingeniería, Consultoría y Servicios Tecnológicos (TECNIBERIA)	31
	広報委員会 編	
シリーズ・海外たより その13	ナロツクの水事情	32
	株式会社エヌジェーエス・コンサルタンツ 技術一部 八代大輔	
倫理委員会	会員企業CSRインタビュー報告 (株式会社 長大)	33
	倫理委員会	
技術研修委員会	FIDIC Module 1, 2 契約約款研修セミナー報告	36
	日本工営株式会社 契約管理室長 技術研修委員会副委員長 アシスタント・運営企画委員長 林 幸伸	
国際活動委員会	海外プロジェクトの契約管理育成セミナー	38
	国際活動委員会 契約管理育成分科会 建設工事の契約条件書 国際開発金融機関版 2010年版 日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部長兼技術部部長代理 国際活動委員会分科会副委員長 藤原宏太 株式会社建設技術研究所 国際部総務課長 国際活動委員会分科会副委員長 鈴木孝治	
	FIDIC News March 2013 抄訳	39
	訳者：国際活動委員会 CB分科会	41
事務局報告		45
一口辞典		47
編集後記		48

Vol.37 No.2

平成25年 2013年11月 秋号

AJCE 会報 目次		Vol.37 No.2・秋号
巻頭言	FIDIC 理事 1,500日の格闘	01
	株式会社オリエントタルコンサルタンツ 代表取締役会長 前FIDIC理事 (2009London -2013Beijing) 前AJCE会長 廣谷彰彦	
寄稿	Something New, Something Old	03
	アジア開発銀行 (ADB) 調達スペシャリスト 宮尾泰助	
	FIDIC100周年記念賞 大賞受賞 日本から3件	04
	国立代々木競技場 東武池袋新幹線 久保田豊氏 AJCE事務局	
特集	FIDIC2013 パルセロナ大会	05
JICAなう 第1回	地球環境部が目指す開発分野の中での課題の主流化	37
	親立行政法人国際協力機構地球環境部環境管理アネックス環境管理第二課課長 安達一博	
シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 第12回	ドイツ・コンサルティング・エンジニア協会 Verband Beratender Ingenieure (VBI)	39
	広報委員会 編	
シリーズ・海外たより その14	モンパセでの生活	40
	株式会社日本港湾コンサルタンツ 西野賢一	
国際活動委員会	技術研修委員会	41
	2013年AJCE セミナー 日本語版完成記念 FIDIC Red Book MDB 2010年版の解説 国際活動委員会 技術研修委員会	
技術研修委員会	若手技術者発表会 YP大賞2013	43
	若手交流会 AJCE 夜会 技術研修委員会 Young Professional 分科会	
国際活動委員会	FIDIC Newsletter JULY 2013 抄訳	46
	訳者：国際活動委員会 CB分科会	
広報委員会	AJCE 会報に関するアンケートの結果について	50
	広報委員会	
新会員の紹介		52
事務局報告		54
一口辞典		56
編集後記		57



Vol.37 No.3

平成26年 2014年1月 新年号

AJCE 会報 目次 Vol.37 No.3・新年号

巻頭言  
新年のご挨拶  
日本工営株式会社 代表取締役社長  
AJCE 会報 廣瀬典嗣 01

特集：日豪交換研修報告 2013  
日豪交換研修 2013 総括 金井恵 02  
AJCE YPEP 2013 報告 深谷正史 04  
YPEP 2013 日豪交換研修の報告 井村修 06  
日豪交換研修 2013 研修報告 安達理史太 08  
YPEP 2013 日豪交換研修報告 金子航史 10  
YPEP 2013 日豪交換研修報告 柳沼浩恒 12  
YPEP 2013 研修報告 高木涉輝 14  
YPEP 2013 研修報告 増田 淳 16  
日豪交換研修 2013 行事報告 安達 理史太・増田 淳 18  
YPEP 2013 Farewell Summit の報告 深谷正史・井村修 20  
日豪交換研修 2013 報告会 永坂和俊 22

JICA なう 第 2 回  
東南アジア・大洋州地域への協力  
～ 対 ASEAN 協力の新たな方向性 ～  
独立行政法人国際協力機構経済基盤開発局部長  
安達 24

シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 第 13 回  
ヨルダン・エンジニア協会  
Jordan Engineers Association 広報委員会 編 26

シリーズ・海外たより その 15  
アメージング・ミャンマー  
日本工営株式会社 ヤンブン事務所  
島田英徳 27

シリーズ・海外プロジェクト奮闘記 第 1 回  
ケニア湖ゾンドゥ・ミリウ水力発電事業の施工監理  
日本工営株式会社  
広報委員 数島義明 28

倫理委員会  
会員企業 CSR インタビュー報告 (国際航業株式会社) 倫理委員会 30

アジュディケーター活動報告  
～ FIDIC Dispute Board と国内の公正・中立な第三者について～  
前川幸造  
アジュディケーター 長所陽 33

プロジェクト紹介  
サンパウロ州沿岸部衛生改善事業 38  
モンゴル国ウランバートル市高架構橋(太陽橋)建設計画プロジェクト 39

新刊紹介 40  
新会員の紹介 41  
事務局報告 42  
一口辞典 45  
編集後記 46

Vol.38 No.1

平成26年 2014年7月 夏号

AJCE 会報 目次 Vol.38 No.1・夏号

巻頭言  
AJCE 会長就任あいさつ  
～ 40 年の歴史を超えて～  
株式会社建設技術研究所 代表取締役副社長  
AJCE 会報 内村 好 01

2014 ASPAC パリ大会 ASPAC 理事会報告  
FIDIC-ASPAC & TC DPAP Ball Conference 2014  
株式会社建設技術研究所 代表取締役副社長  
AJCE 会報 ASPAC 理事 内村 好 02

特集：AJCE 創立 40 周年  
水先案内人としての AJCE の 40 年 宮本正史 04  
AJCE 創立 40 周年を機に思う 石井 亨夫 05  
AJCE 創立 40 周年記念 「Young との関わり」 佐久間 義 06  
これまでの AJCE での活動を通して思うこと 秋本薫児 07  
原 崇 08

シリーズ・JICA なう 第 3 回  
開発プロジェクトにおけるジェンダーの視点  
JICA 経済基盤開発部ジェンダー平等・雇用開発推進室長  
原 智佐 09

シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 第 14 回  
マレーシア・コンサルティング・エンジニア協会  
The Association of Consulting Engineers Malaysia (ACEM)  
広報委員会 編 11

シリーズ・海外プロジェクト奮闘記 第 2 回  
マレーシア奮闘記 国際航業株式会社 執行役員海外事業部長  
上井 卓 12

倫理委員会  
会員企業 CSR インタビュー  
(株式会社東京設計事務所 株式会社 TEC インターナショナル)  
倫理委員会 14

国際活動委員会  
第 1 回 海外建設プロジェクトの契約管理委員会ワークショップ  
国際活動委員会 契約管理者育成分科会 16  
第 2 回 海外プロジェクトの契約管理者育成セミナー  
国際活動委員会 契約管理者育成分科会 18  
FIDIC Guidelines for the Selection of Consultants 2nd Edition  
2013 の紹介 国際活動委員会 QBS 分科会 19

世界銀行 (WB)、アジア開発銀行 (ADB) への働きかけに関する  
会員企業への調査結果報告  
国際活動委員会 QBS 分科会 20

技術研修委員会  
～ 私たちのワークスタイル～  
女性コンサルタントのキャリアパスとワークライフバランス その 2  
技術研修委員会 YP 分科会 22  
スポーツ交流会 AJCE 杯 フットサル大会  
技術研修委員会 YP 分科会 26

技術交流委員会  
技術交流セミナー 2013  
「エネルギー・災害対策・鉄道分野におけるトピック」の報告  
技術交流委員会 27

プロジェクト紹介  
ボスボラス海峡橋断地下鉄整備事業 29  
ゾンドゥ・ミリウ/サンゴロ水力発電所建設事業 30

計報 31  
新会員の紹介 32  
事務局報告 33  
一口辞典 37  
編集後記 38

# AJCEニューズレター目次

**Vol.1 No.1 創刊号**  
 昭和52年 1977年1-2月

CONTENTS	
<b>To the Friends Abroad</b>	
—Yasuo Kawano, President of AJCE .....	1
<b>Small Industry and Economic Cooperation</b>	
—Susumu Tsuji, Vice-President of AJCE .....	2
<b>AJCE Annual Report (Business and Activities) .....</b>	<b>3</b>
Brief Messages .....	6
A Summary of Dr. E. H. Mulder's Lecture on 7th September, 1976 .....	8
News .....	8

**Vol.1 No.2**  
 —発行日・目次不明—

**Vol.1 No.3~4**  
 昭和52年 1977年11-12月

CONTENTS (Vol. 1, No. 3~4)	
The Future Task of the Consultants... Hiromu TANABE..	1
On Professional Liability of Consulting Engineers in Japan..... Toshio HASHIMOTO..	2
Recent Overseas Activities of Nippon Koei.....	2
AJCE Report .....	4
Silver Jubilee of ACEA Celebrated, Representatives from Western Pacific and Asia Met in Sydney in October, 1977.....	6

**Vol.2 No.1~3**  
 昭和53年 1978年9、11月

Some Comments on Consultancy  
in Changing World

Siro MURAKAWA  
 Lecturer, Graduate School of Engineering,  
 Osaka University

Regional Co-operation

—Speech at ACES Seminar, Singapore—

Yasuo KAWANO  
 President of AJCE, President of  
 Public Consultancy Association-PCI

Annual Report on Activities for 1977

Major Events and Activities

AJCE at FIDIC GAM, London, 1978

— New Members — AJCE 7th and 8th  
 (1 month the time of every two-4th)

Use of Consulting Engineers  
by Governmental Sector

**Vol.3~Vol.6**  
 —発行日・目次不明—

## Vol.7

昭和58年 1983年9月

CONTENTS	
What we learnt from FIDIC Intl. Conference, Florence .....	1
Activities of AJCE Members – Part 3 (Continued) .....	2
⑩Portliner, a New Concept in Modern Japanese Urban Transit System .....	2
⑪Site Investigation and Geotechnical Consultancy for a High Rise Building in Singapore.....	3
⑫New Town for New Generations .....	4
⑬On planning the Urban Mass Transport .....	4
⑭Technical Cooperation Project in Livestock Field .....	5
Recent Activities of AJCE .....	5
FIDIC Annual Conference, 1987 proposed to be held in Japan .....	5

## Vol.8~Vol.16

—発行日・目次不明—

## Vol.17

平成7年 1995年8月

CONTENTS	
Consulting Engineer and Independence .....	1
Japan's Efforts towards Sustainable Development .....	3
Towards More Reliable Water Supply .....	6
Procurement Methods of Engineering Consulting Services in Japan .....	8
The Great Hanshin Quake .....	10
BIP System .....	13
The Engineering Firm and Its Consultants Today .....	16

## Vol.18

平成9年 1997年2月

Contents	
Reform of Construction Industries System and Construction Industries Policy in Japan .....	1
Future Technological Innovation in Railroads .....	3
Outline of Seismic Design Part of the Standard Specifications for Concrete Structure.....	5
Membrane Technology Development for Water Supply in Japan .....	10
Japan's Practice on Engineering Qualifications (Gijyutsushi and Others) .....	12
Japan's Economic and Technical Assistance and Technology Transfer.....	14

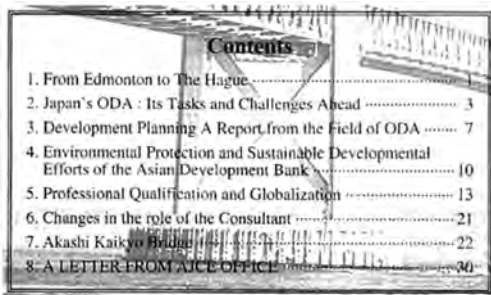
**Vol.19**

平成10年 1998年7月

<b>Contents</b>	
Tackling with Diverse Change of The World .....	1
Today's Trenchless Technology in Japan .....	4
The Current Situation and Future of Sewer Optical Fiber Technology in Japan .....	6
Moves toward the QBS (Quality-Based Selection) in Japan .....	14
Quality Management in Japanese Engineering Consulting Firms .....	16
Environmental Measures in Japan .....	19
Technical Guidance on Welding of Steel Pipe and Quality Control in China .....	24
Young Members Organize the PUBLICIZING THE FIDIC SOCIETY in AJCE .....	26
The Beginning Of A New Era in Japanese-Australian Relations The ACEA-AJCE Homestay Programme .....	28

**Vol.20**

平成11年 1999年3月



<b>Contents</b>	
1. From Edmonton to The Hague .....	3
2. Japan's ODA : Its Tasks and Challenges Ahead .....	3
3. Development Planning A Report from the Field of ODA .....	7
4. Environmental Protection and Sustainable Developmental Efforts of the Asian Development Bank .....	10
5. Professional Qualification and Globalization .....	13
6. Changes in the role of the Consultant .....	21
7. Akashi Kaikyo Bridge .....	22
8. A LETTER FROM AJCE OFFICE .....	30

**Vol.21**

平成12年 2000年3月

<b>C O N T E N T S</b>	
Consulting Engineers in the New Millennium .....	1
A short story of a student who chose to become a consulting engineer .....	2
Committed toward ITS City and Traffic Planning Introduction .....	6
Urban Development Strategy and City Assistance Program in East Asia .....	10
Endocrine disrupters pollution in Japan .....	16
The birth of Japan Bank for International Cooperation .....	18
History and view of exchange between Japan and Netherlands .....	19
Regional Cooperation of Consulting Engineers in Asian Region .....	20
Seminar on Conditions of Contract for Construction & Guide to ISO14001 Certification/Registration .....	22
AJCE Homepage .....	24
A Letter from AJCE Office .....	25

**Vol.22**

平成13年 2001年3月

<b>C O N T E N T S</b>	
Of Recovering Our Reliability to Science and Technology .....	1
Japan's Medium-Term Policy on Official Development Assistance (ODA) and JICA .....	2
Introducing Japan "Central Government Reform of Japan" .....	5
Outline of Okinawa Prefecture Seawater Desalination Plant in Japan .....	8
Development Trend of Train Control Systems in Japan .....	12
AJCE / ACEA / ACENZ Young Professionals Exchange Programme 2000 .....	15
Young Professionals Exchange Programme 2000 between AJCE and ACEA / ACENZ .....	15
Trainees' Reports .....	18
AJCE Activity Briefing .....	30

**Vol.23**

平成14年 2002年3月

<b>C O N T E N T S</b>	
Consulting Engineers: Playing a Key Role in Science and Technology .....	1
The Medium-Term Strategy for Overseas Economic Cooperation Operations: Experience in Last Three Years .....	2
Environmental Management in the 21st Century .....	3
Sustainable Water Resources Development and Role of Consultant .....	8
ACEA / ACENZ / AJCE Young Professionals Exchange Programme 2001 .....	13
Working and Living in Japan .....	15

**Vol.24**

平成15年 2003年3月

C O N T E N T S	
What are consulting engineers expected?	1
Recent ODA Trends and Roles of JICA	2
TCDPAP 2002-year Report	5
"The challenge" for FIDIC Annual Conference	6
ACEA/ACENZ/AJCE Looking back over the Young Professional Exchange Program2002	8
YPEP2002-Trainees' Reports	9
Summary of The Project for Reconstruction of Bridges in The Democratic Socialist Republic of Sri Lanka	23
A Letter From AJCE Office	28

**Vol.25**

平成16年 2004年3月

C O N T E N T S	
Changing the Role of Japanese Consulting Engineers	1
Opinion of AJCE	2
AJCE/ACEA Young Professionals Exchange Program (YPEP) 2003	7
YPEP2003-Trainee's Report	8
Consulting Engineers Training For The Global Market	10
Growing PFI/PPPs Market and its implications for Design Firms in Japan	13
A Letter From AJCE Office	18

**Vol.26**

平成17年 2005年3月

C O N T E N T S	
AJCE's past 30 years	1
AJCE, 30 Years and More	2
AJCE Seminar 2004 Report	6
AJCE/ACEA Young Professional Exchange Programme- Japan in 2004	9
YPEP2004 Trainees' Reports	20
Consulting services by AJCE members	23
AJCE standing committee report	33
A Letter From AJCE Office	42

**Vol.27**

平成18年 2006年3月

C O N T E N T S	
AJCE and Its Activity, 2006	1
AJCE/ACEA Young Professional Exchange Programme in Australia 2005	3
AJCE Seminar 2005 Report	7
Consulting services by AJCE members	9
AJCE Standing Committee Report	16
AJCE Yearly Activity	23
A Letter from AJCE Office	24

**Vol.28**

平成19年 2007年4月

C O N T E N T S	
<b>AJCE and Its Activity, 2007</b>	<b>02</b>
<b>Restoration of National Scenery after the High Economic Growth in Japan</b> Those who destroy, or create scenery	<b>03</b>
<b>A Foreigner's Look at AJCE's Activities over the past decade</b>	<b>05</b>
<b>Consulting Engineers Firms in Japan-Present and Future</b>	<b>07</b>
<b>Achievement of the Year 2006</b> Consulting services by AJCE members	<b>12</b>
<b>AJCE Yearly Activity 2006</b>	<b>22</b>
<b>A Letter from AJCE Office</b>	<b>24</b>

## Vol.29

平成20年 2008年4月

## CONTENTS

AJCE and its Activities, 2008	Akihiko HIROTANI	01
Public image matters	Taisuke MIYAO	02
The 1st Asia-Pacific Water Summit	Kazumasa ITO	04
Activities of ASPAC Sub-Committee in AJCE	Masakazu MAEDA	06
<b>AJCE Activity 2007</b>		
AJCE's Special Seminar 2007 FIDIC Red Book MDB Edition, March 2006		08
AJCE/ACEA Young Professionals Exchange Programme 2008		09
KENCA 2007 Professional Engineers Seminar in Jeju Report		19
AJCE Annual Seminar 2007		20
AJCE Year Activity 2007 at a glance		22
Project Accomplishments by AJCE Members		24
Recall My Life with FIDIC and AJCE	Goro FUJIE	31
Message from New Runner	Yoshi YAMASHITA	32
A Letter from AJCE OFFICE		39
Editor's note		40

## Vol.30

平成21年 2009年4月

## CONTENTS

AJCE and its Activities, 2009	Akihiko Hirotsani	01
Promotion of Qualified Dispute Adjudication Board (DAB) Members in the Asian Region	Dr. Toshihiko Omoto	02
Consulting and Cross Cultural Communication	Masayoshi Takeuchi	04
Activities of ASPAC Sub-Committee in AJCE in the year of 2008	Masakazu Maeda	05
<b>AJCE Activity 2008</b>		
FIDIC President Visited Japan		08
AJCE Annual Seminar 2008		10
Young Professionals Exchange Programme 2008		12
Inauguration of MOU between AJCE and KENCA		14
Dialogues with Richard Slump		31
Dialogues with Richard Slump		32
Project Accomplishments by AJCE Members		33
Editor's note		50
AJCE Members		

## Vol.31

平成22年 2010年 4月

CONTENTS		
AJCE and its Activities	Akihiko HIROTANI	02
New Development Paradigm	Hiroto ARAKAWA	04
Globalization of Engineering Consulting Industry in Japan	Konomu UCHIMURA	06
ASPAC Activities 2007-2009	Masakazu MAEDA	07
Establishment of Young Professionals (YP) Sub-Committee in AJCE	Kazutoshi AKASAKA	10
AJCE Activity 2009		12
Young Professionals Exchange Programme (YPEP)2009		14
-A bridge of friendship connecting Australia and Japan-		
Summit Meeting between AJCE, KENCA and CNAEC		20
Memorandum of Understanding with Uzbekistan (UZACE) and Azerbaijan (NECSA)		21
AJCE Annual Seminar 2009		22
Project Accomplishments by AJCE Members		25
Editor's note		44
AJCE Members		


## Vol.32

平成23年 2011年4月

CONTENTS		
AJCE and its Activities	Noriaki HIROSE	01
East Japan Disaster- Preliminary Report	AJCE	03
"Liquidated Damages" - Japanese law perspective	Naoki IGUCHI	09
FIDIC Red book 1999 will be applied to public work projects in Japan	Shunji KUSAYANAGI	11
Forty Years, As Sanitary Engineer	Masafumi MIYAMOTO	12
Railway as a Sustainably Developing Industry	Hiroshi TANAKA	13
Present State of Consultant Selection in Japan - Trend of Procurement in Japanese Government	Eiji KAWAKAMI	15
AJCE Activity 2010		17
Activity of Young Professionals in 2010		19
Young Professionals Exchange Programme (YPEP)2010		20
-Another success in technical and cultural exchange		
AJCE Annual Seminar 2010		33
- Challenge of Consulting Engineers in the World Market		
Expanding Overseas Business for Consulting Firms and an Outline of FIDIC Red Book		35
Role and Practice of "The Engineer"		
Project Accomplishments by AJCE Members		37
Editor's note		55
AJCE Members		


**Vol.33**

平成24年 2012年4月

CONTENTS			
AJCE and its Activities		Noriaki HIROSE	1
Report on the Great East Japan Disaster - The Year After -		Hiroshi TANAKA	3
DB or not DB, that is the question! ~Dispute Board (DB) for sound contract management in emerging countries~		Takashi ITO	7
Pathway to an attractive consulting engineering industry		Shinichi HASEGAWA	9
Looking forward to 2012		Francis Kiyoshi MORIMURA	11
Exclusions of consequential and indirect loss under English law		Simon BARRETT	12
AJCE Activity 2011			13
AJCE Annual Seminar 2011			15
Consulting Services Contract in Overseas Project			17
AJCE Seminar			19
FIDIC Conditions of Contract for Construction, MDB Harmonised Edition			
Activity of Young Professionals in 2011			
Project Accomplishments by AJCE Members			20
Editor's note			
AJCE Members			

**Vol.34**

平成25年 2013年4月


CONTENTS			
AJCE and Its Activities		Noriaki HIROSE	1
History of FIDIC and AJCE		Akihiko HIROTANI	3
The 'Smart' Way Forward		Francis Kiyoshi MORIMURA	4
What is needed to consultants (From the field of reconstruction assistance)		Masatsugu KOMIYA	5
AJCE Activity 2012			7
Activity of Young Professionals in 2012			9
FIDIC EC Meeting in Tokyo			11
FIDIC-AJCE Joint Seminar 2012			13
Globalization of Consulting Services			
~Share the Challenge with the President of FIDIC~			
Young Professionals Exchange Programme 2012			16
~A Strong Partnership of CA and AJCE~			
JICA's Initiative on Dissemination of Dispute Board			28
Project Accomplishments by AJCE Members			30
Editor's note			
AJCE Members			



## Vol.35

平成26年 2014年4月

## CONTENTS

AJCE and its Activities		Noriaki HIROSE	1
Efforts by the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism (MLIT) to contribute to infrastructure systems in overseas countries		Goro YASUDA	3
Fukushima and CEs, and the future		Ichiro SEKO	5
My lifetime as a Consulting Engineer		Minoru SHIBUYA	7
AJCE Forty-year Commemorative Undertaking			8
<b>AJCE Activity 2013</b>			9
FIDIC Centenary Award -Japan Received 3 Awards of Excellence-			11
Activities of Young Professionals (YP) in 2013			12
AJCE Annual Seminar in 2013			15
-Explanations on FIDIC Red Book MDB 2010 in Commemorating Publishing of Japanese Version-			
1st Contract Administrator Training Seminar for the Overseas Project			17
1st Contract Administrator Training Workshop for the Overseas Construction Project			18
Report of Interdisciplinary Seminar 2013			19
-Topic on Energy, Disaster Countermeasures and Railway for freight Transport-			
Young Professionals Exchange Programme 2013			21
-Everlasting Friendship of CA and AJCE-			
Project Accomplishments by AJCE Members			31
Editor's note			49
AJCE Members			

## AJCEセミナー一覧

空欄は不明

年月日	タイトル	テーマ 講師	場 所	参加人数
1975年10月14日 (昭和50年)	FIDIC加盟記念大会	記念講演 『日本コンサルティング・エンジニア協会の使命』 AJCE理事 河野康雄 『プロジェクトにおけるコンサルティング・エンジニアの役割』 H.C. フライリンク 『発展途上国におけるコンサルティング・エンジニアの役割』 ロバートL. フィット 『コンサルティング・サービスの輸出における政府の役割』 B.O.M オルソン	ホテルオークラ別館 春日の間	
1976年9月7日 (昭和51年)	技術士会共催 ムルダー博士講演会	『計画前調査及びフィージビリティ調査について』 オランダ経済研究所次長 E・Hムルダー博士		
1977年1月21日 (昭和52年)	技術士会共催 OECF総裁講演会	『日本の経済協力とコンサルティング・エンジニアの役割』 海外経済協力基金大来(OECF)総裁	蔵前工業会館	
1977年10月11日 ～14日 (昭和52年)	8協会共催 Quantity Surveyingセミナー	内容：建設の初期から最終段階までの見積り・契約 工事開始後のコストコントロール クレーム処理 講師：Appleyard and Trew社 David Wilshere Appleyard and Trew社 Andrew Clark	農業土木会館	71
1978年2月1日 1978年2月2日 1978年2月3日 1978年2月7日 (昭和53年)	6協会共催 エンジニアリング、マネジャーの育成	講師：AT&T社人事管理部長 J.L.Moses博士	東京商工会議所 福岡商工会議所 大阪商工会議所 札幌商工会議所	東京51 福岡14 大阪31 札幌15
1978年4月18日 (昭和53年)	講演会	『開発協力と日本の立場』 (財)国際開発センター理事長 河合三良		30
1978年11月28日 (昭和53年)	AJCEセミナー	『Role of the Consulting Engineer in Today's World 今日の世界におけるコンサルティング・エンジニアの課題—FIDICの活動を中心として』 FIDIC会長 H.C.Frijlik		81
1978年12月19日 (昭和53年)	AJCEセミナー	『北イエメンの事情—開発5カ年計画を中心として』 北イエメン公共事業省・都市省次官 A.A.Aziz		20
1979年2月9～9日 (昭和54年)	プロジェクト契約特別研修会	講師：弁護士 D.W.Graham Quantity Surveyor D.R.Wilshere		59
1979年5月10日 ～11日 (昭和54年)	科学技術庁・(社)日本技術士会共催 技術移転セミナー	講師：科学技術庁振興課長 今村陽次 (社)日本技術士会専務理事 本田尚士 山形県企業局須藤課長補佐 三浦孝治 群馬県商工労働部経営指導室主任 長谷川泰彦 千葉県柏市前公害課長 後藤健吉 群馬県桐生市監査委員会委員 森島 通 AJCE副会長 田邊 弘		100
1979年8月30日 (昭和54年)	第1回談話サロン	『中国の新しい動き』 前中国大使 小川平四郎		19
1979年10月23日 (昭和54年)	(社)日本技術士会共催 エネルギー問題研修会	講師：前科学技術庁原子力開発機構監理官 長柄喜一郎 (財)石炭技術研究所顧問 山村禮次郎 日本重化学工業(株)専務取締役 森芳太郎 石油公団理事 佐藤淳一郎		38
1979年11月15日 (昭和54年)	第2回談話サロン	『今日における日本のエネルギー対策』 (社)海外電力調査会会長 進藤武左工門		19
1979年12月6日 (昭和54年)	海外におけるコンサルティング・エンジニア及び建設プロジェクト関係業務のリスクと対応に関するフォーラム	講師：清水建設(株)海外営業部次長 小松忠夫 (株)熊谷組外事部長 加倉井活弥 前田建設工業(株)海外事業部長 木村甲子敏 三井物産(株)海外開建設部長 佐藤 誠 安田火災海上(株)業務第三課長 吉岡 哲 日本通信協力(株)常務取締役事業部長 坂本忠勝 (株)柴田技術研究所代表取締役 柴田 勉 (株)パシフィックコンサルタンツインターナショナル代表取締役社長 河野康雄		73

空欄は不明

年月日	タイトル	テーマ 講師	場 所	参加人数
1980年1月24日 (昭和55年)	第3回談話サロン	『発展途上国に対する民間ベースの企業指導と問題点』(財)海外貿易開発協会常務理事 松永嶽雄、海外業務部長 檜山旦昭		14
1980年2月8日 (昭和55年)	第4回談話サロン	『JICAの事業とコンサルティング・エンジニアの役割—問題点と課題』国際協力事業団理事 岸田静雄、鉱業計画調査部長 森 孝		19
1980年4月11日 (昭和55年)	昭和55年度第1回談話サロン	『国連の活動と日本のコンサルティング・エンジニアの役割』国連広報センター部長 D.J.Exley、UNDP東京連絡事務所長 廣瀬徹也		12
1980年9月 9,11,17日 (昭和55年)	コンサルティング・エンジニアのための技術英文講習会	講師:(社)電気通信協会 平野 進		17
1980年9月11日 (昭和55年)	昭和55年度第2回談話サロン	『FIDICの最近の活動とFIDIC Action Planを中心として』FIDIC理事 P.O.Miller		16
1980年12月10日 (昭和55年)	第1回境界領域技術交流セミナー	『バイオマスをとりまく周辺技術について』 AJCE会員 鈴木 清		12
1980年12月17日 (昭和55年)	昭和55年度第3回談話サロン	『当面の貿易問題』 日本貿易振興会理事 村田 恒		10
1981年1月21日 (昭和56年)	第2回境界領域技術交流セミナー	『中国にみるメタンガス利用』 AJCE会員 鈴木 清		5
1981年1月24日 (昭和56年)	第3回境界領域技術交流セミナー	『多種燃料エンジンについて』 AJCE会員 藤谷栄市		3
1981年5月18日 (昭和56年)	海外業務のリスク対応シンポジウム	講師:海外経済協力基金課長 山本海徳 鹿島建設(株)専務取締役 梅田健次郎 三井物産(株)海外開発部長 佐藤 誠 安田火災海上保健(株)業務第3課長 吉岡 哲 松尾・小杉法律事務所弁護士 小杉丈夫 (株)パシフィックコンサルタンツインターナショナル常務取締役 堀 博 AJCE事務局長 田中千秋		70
1981年9月5日 (昭和56年)	第5回談話サロン	『アジア太平洋地区の環境保護について法律家から見た問題提起』北海道大学法学部教授 熊本信夫		8
1981年10月7日 (昭和56年)	FIDIC契約約款日本語版出版記念セミナー	『コンサルタント契約の標準様式と一般国際ルール—建設・施工管理編(IGRA 1979 D&S)』 建設省計画局国際課長 三谷 浩 (株)パシフィックコンサルタンツインターナショナルプロジェクト室長 豊間 栄 清水建設(株)海外総務部長 小松忠夫 松尾・小杉法律事務所弁護士 小杉丈夫		45
1982年1月26日 (昭和57年)	第4回境界領域技術交流セミナー	『開発計画の学際的アプローチの取り組み方について』AJCE会員 鈴木 清		4
1982年10月20日 (昭和57年)	法人化5周年記念 FIDICプラント建設約款シンポジウム 電気および機械設備工事の契約条件書1980年版	『金融の立場からの問題提起』日本輸出入銀行 長沼元太 『エンジニアリング業の立場からの問題提起』 日本鋼管 大隈一武、東芝電気 北側俊光 『法律家の立場からの問題提起』 松尾・小杉法律事務所弁護士 小杉丈夫 『CEの立場からの問題提起』 AJCE理事 森村武雄、AJCE会員 白石哲也	農林年金会館	50
1983年3月8日 (昭和58年)	CEの役割と立場について	『CEの地位と役割』前AJCE会長 河野康雄 『CEの社会との関連』AJCE理事 森村武雄 『CEに対する期待』AJCE会員 堀部 潔	技術士会 会議室	10
1983年3月24日 (昭和58年)	法人化5周年記念 AJCE会員の海外業務開発を研究する会	『最近の海外業務』前AJCE会長 河野康雄 『海外援助機関の機能』 AJCE事務局長 田中千秋 『海外業務の経験と問題点』 AJCE理事 篠原茂之、AJCE理事 篠原捨喜、 AJCE会員 石川源光	秀和第2虎ノ門ビル8階 会議室	30
1988年5月19日 (昭和58年)	講演会	『海外業務にたずさわるコンサルティング・エンジニアの直面する問題点と対応について—特に日本のコンサルタントに対するアドバイス』 元世界銀行高級顧問 Harold E. Shipman	秀和第2虎ノ門ビル	30

空欄は不明

年月日	タイトル	テーマ 講師	場所	参加人数
1983年10月5日 (昭和58年)	AJCEシンポジウム 国際プロジェクトにおける問題 と対応—特にリスクを中心とし て—	『海外コンサルティング業務の問題点』 国際協力事業団理事 中澤式仁 『コンサルタントの立場と業務実施上の問題点』 日本工営(株)常務取締役 坂本 正、 (株)パシフィックコンサルタンツインターナ ショナル代表取締役 千葉英夫 『コントラクターから見た海外業務の問題点』 日本鋼管(株)次長 大隈一武、鹿島建設(株) 国際事業本部 M.W.テストロ 『海外業務に伴う保証の問題点』 AJCE事務局長 田中千秋、AJCE会長 田邊 弘	秀和第2虎ノ門ビル8階 会議室	50
1983年11月18日 (昭和58年)	懇談会	『日本におけるCEの在り方と業務開発への道』 (株)柴田技術士事務所体表取締役 柴田 勉 『個人コンサルタントの活用について』 国際協力事業団企画課長 熊岸建治	学士会館本郷分室	10
1984年3月1日 (昭和59年)	懇談会	『中小企業高度化事業と診断指導事業について』 中小企業事業団指導計画課 鈴木 博	(社)日本技術士会 会議室	10
1984年8月8日 (昭和59年)	懇談会	『中国上海電算品対外諮詢服務会社とAJCEとの 関係について』 AJCE理事 篠原捨喜 『上海地区における食品工場指導について』 AJCE会員 本多四郎	(社)日本技術士会 会議室	9
1984年9月20日 (昭和59年)	訪中団報告会 中国でのCE活動の可能性について	『日中CEの交流の方向—各分野及び個人営業の 立場を考えながら今後の交流を考える』 パネラー：AJCE会長 田邊 弘、AJCE副会長 森村武雄、AJCE理事 石原健二、AJCE理事 篠原捨喜、AJCE会員 堀 龍雄、AJCE理事 松久恒一	秀和第2虎ノ門ビル8階 会議室	22
1984年10月2日 (昭和59年)	FIDIC・AJCE合同セミナー	『FIDICの動向並びにFIDIC：海外建設プロジェク トの入札手続を中心として』 FIDIC会長 P.O.Miller	学士会館神田本館	63
1984年10月15日 (昭和59年)	AJCEセミナー	『世界銀行から見た国際コンサルティング業務 とその問題点』 世界銀行顧問 M.Dickerson氏	国立教育会館	24
1984年12月17日 (昭和59年)	懇談会	『世銀へのCE登録と中国へのCE参加可能性につ いて』 AJCE理事 篠原捨喜、AJCE事務局長 田中千秋	秀和第2虎ノ門ビル8階 会議室	13
1984年2月6日 (昭和60年)	懇談会	『発展途上国におけるハイテクノロジーの問題 —シンガポールの鉱業建設指導を中心として』 AJCE理事 篠原茂之	秀和第2虎ノ門ビル8階 会議室	12
1985年3月26日 (昭和60年)	AJCEセミナー	『プロジェクト・マネジメント・コンサルティング をめぐって』 海外経済協力基金調査開発部長 笹沼充弘	秀和第2虎ノ門ビル8階 会議室	30
1985年11月7日 (昭和60年)	技術協力に関する研修会	『技術協力プログラムの説明』 外務省技術協力課 大部一秋 『コンサルタント業務関連開発事業の説明』 外務省開発協力課 大村昌弘	霞ヶ関ビル33階 東海大学会議室	
1985年11月12日 (昭和61年)	政府無償資金協力事業研修会	『政府無償資金協力事業について』 外務省無償資金協力課審査官 岩口健二 『無償資金協力事業、特に開発調査へのコンサル タントの登用について』 国際協力事業団第一課長 新保昭治	学士会館本郷分室	
1987年9月25日 (昭和62年)	アメリカコンサルタント業界事 情講演会	『日米間のエンジニアリング協力の可能性—ア メリカの視点から』 CDM社社長 R.C.Marini	学士会館神田本館	30
1988年4月25 —26日 (昭和63年)	FIDIC・AJCE合同セミナー FIDIC国際工事契約	『FIDIC土木建設工事の契約条件書の発展と今回 の改定の概要』 FIDIC Red Book/Yellow Book専 門委員会委員・前FIDIC事務局長 Albert H. Campbell 『Red Bookの解説』 弁護士 Dan W. graham、 英国土木学会評議委員 K. B. Norris 『Yellow Bookの解説』 FIDIC Yellow Book専門 委員会委員 Michel Mortiner Hawkins	京王プラザホテル	207
1989年3月22日 (平成1年)	JODC民間専門家派遣について	『海外貿易開発協会の民間専門家派遣制度の解 説』 (財)海外貿易開発協会(JODC)理事 飯田秀雄	学士会館神田本館	

空欄は不明

年月日	タイトル	テーマ 講師	場 所	参加人数
1989年6月8日 (平成1年)	FIDICセミナー コンサルタントの社会的使命と役割	『コンサルタントの選定と評価』 FIDIC会長 S.E.フリックマイヤー 『政府機関とコンサルタントの関係』 FIDIC副会長 S.C.ジェントリー 『FIDICの沿革と現在の行動目標』 FIDIC理事 H.G.コーツ	京王プラザホテル	
1990年2月14日 (平成2年)	Professional Liability Insurance 勉強会	『Professional Liability とその保険』 (株)パシフィックコンサルタンツインターナ ショナル 川上高央 『Professional Liability Insuranceについて』 日本A.I.U保険 『建築家賠償責任保険について』 ヤスダ火災海上保険	パシフィックコンサル タンツ(株) 講堂	30
1990年2月20日 (平成2年)	AJCEセミナー	『CEの開発した技術ノウハウとソフトウェアの 知的財産権について』 弁護士 三木 茂	学士会館神田本館	29
1990年5月22日 (平成2年)	環境勉強会	『地球規模環境問題』 AJCE環境委員会委員長 石原健二	学士会館神田本館	
1990年7月31日 (平成2年)	大気科学と環境問題	『FIDIC/AJCEにおける地球規模環境問題の動向』 AJCE環境委員会委員長 石原健二 『大気科学と環境問題』 桜美林大学国際学部教授 大喜多敏一	アルカディア市ヶ谷 (私学会館)	
1990年9月11日 (平成2年)	環境勉強会	『紙/パルプその資源、回収、省エネ、環境への インパクト』 AJCE環境委員会委員 早房長雄	学士会館本郷分室	
1990年10月23日 (平成2年)	環境勉強会	『廃棄物と環境問題』 AJCE環境委員会委員 針生昭一	学士会館本郷分室	
1990年11月27日 (平成2年)	環境勉強会	『半導体・電子部品と環境問題』 AJCE環境委員会委員 池田 豊	弁護士ビル	
1990年12月6日 (平成2年)	建設におけるハイテク建設機械 のロボット化・地下空間の利用	『ケーソンの無人掘削』(株)白石会長 白石俊多 『産業ロボットの制御』中央大学理工学部教授 木下源一郎 『建設用ロボットの現状と今後の動向』 (株)大林組 中村俊男 『地下空間の利用、現状と未来』都市地下空間活 用研究会 西 淳二	虎ノ門パストラル	47
1991年2月6日 (平成3年)	研修会	『発展途上国でJISマーク取得を指導する場合の 問題点』 AJCE会員 菱沼忻多	学士会館神田本館	
1991年6月13日 (平成3年)	建設関連情報処理先端技術セミ ナー	『建設コンサルタントにおけるAI技術開発』 (株)建設技術研究所 伊藤一正 『地すべり自動観測・監視システムの開発』 基礎地盤コンサルタンツ(株) 土谷 尚 『大規模地下空洞工事における情報化施工』 (株)新日本技術コンサルタント 谷河正也	学士会館神田本館	44
1991年7月11日 (平成3年)	環境研修会	『環境問題解決への道』 AJCE理事環境委員会委員長 石原健二 『地球温暖化とそれに対する具体策』 AJCE環境委員会委員 池田 豊 『水質汚濁と対策の事例』 AJCE環境委員会委員 小島貞男	学士会館本郷分室	
1991年9月15日 ～ 1991年9月19日 (平成3年)	FIDIC東京大会 詳細は別紙			
1991年9月19日 (平成3年)	FIDIC東京大会 特別開催 FIDIC ホワイトブックセミナー	『ホワイトブックの内容と理念』 英国公認土木技師 Godfrey Lloyd Ackers 『契約合意書の作成 他』 英国最高裁判所事務弁護士 Paul Julian Taylor 『保険、ボンド、保証』 コンサルタント保険会社 Mark Griffiths	サンケイ会館	82
1992年1月28日 (平成4年)	環境研修会 自然エネルギーの有効利用およ び資源リサイクル	『問題解決への概念』 AJCE理事・環境委員会委員長 石原健二 『資源リサイクルのグローバルな展開』 AJCE 環境委員会委員 山下佳彦 『自然エネルギーの有効利用』 神奈川工科大学名誉教授 鳥居 亮	学士会館神田本館	

空欄は不明

年月日	タイトル	テーマ 講師	場所	参加人数
1992年6月29日 (平成4年)	AJCEセミナー コンサルティング・エンジニア が直面する新しい問題	『最近の凡例から見たエンジニアの ResponsibilityとLiability』 元AJCE事務局長 田中千秋 『Arbitrationのコンサルタントを経験して』 基礎地盤コンサルタンツ(株) 森 研二 『コンサルタント業務の品質管理』 (株)建設技術研究所 石井弓夫	学士会館神田本館	45
1992年10月23日 (平成4年)	AJCE年次講演会 南極から見た地球環境問題 他	特別講演『南極から見た地球環境問題』 国立極地研究所教授 渡辺興亜 『未観測地域の気象確立値の推定』 (株)自然環境科学研究所 石原健二 『土木工学分野における熱赤外線リモートセン シングの非破壊探査への実利用に関する研究』 (株)地研 一川宏也 『建設分野の情報化とAI技術』 (株)建設技術研究所 秋葉 努 『プロジェクト・マネジメントとFIDIC契約約款』 (株)ニュージェック 竹村陽一 『工業所有権について』 (有)樋口コンサルタント 樋口 弘 『中国の国営工場を指導して』 本多技術士事務所 本多四郎	学士会館神田本館	45
1992年12月3日 (平成4年)	環境問題セミナー	『FIDICにおける環境ポリシーについて』 (株)建設技術研究所 山下佳彦 『世銀における持続可能な開発への取組み』 環境庁長官官房 竹本和彦 『地球環境保全と経済メカニズム』 国立環境研究所 森田恒幸	サンケイ会館	45
1993年1月7日 (平成5年)	ODAセミナー	『新しいODAに対するコンサルティングサービスの 方向』 元海外経済協力基金理事 笹沼充弘	パシフィックハウス	17
1993年2月4日 (平成5年)	環境問題懇談会	『アジアの環境問題と我が国の協力について』 東京大学教授 桜井国俊	学士会館神田本館	12
1993年10月22日 (平成5年)	AJCE年次講演会	特別講演『明治改修 オランダ水理工師』 作家 三宅雅子 『海外広域調査におけるリモートセンシング/ GIS技術の利用』 日本工営(株) 廣瀬典昭 『コンピューターとネットワーク』 (株)システムブレイン 橋本義平 『BIPシステムを用いた調査例』 基礎地盤コンサルタンツ(株) 西垣好彦 『地球環境時代におけるコンサルタントの展望』 (株)建設技術研究所 山下佳彦	学士会館神田本館	72
1993年11月11日 (平成5年)	環境問題懇談会	『水と地球環境』 名古屋大学名誉教授 北野 康	学士会館神田本館	15
1993年12月10日 (平成5年)	AJCEセミナー	『文明開化の日本へ近代土木技術を移転した デ・レーケとエッセルら』 (株)ニュージェック 上林好之	パシフィックハウス	19
1994年10月20日 (平成6年)	AJCE年次講演会	特別講演『砂漠で考えたこと』 明治大学教授 小堀 巖 『日本の建設コンサルタントとCMへの展望』 (株)パシフィックコンサルタンツインターナ ショナル 白石哲也 『技術の社会システム化』 プラントグループ 畔上統雄 『景観検討におけるCGの活用法について』 (株)オリエンタルコンサルタンツ 野崎秀則 『礫間接触酸化法による河川浄化について』 (株)日水コン 嶋 国吉	学士会館神田本館	68
1994年10月28日 (平成6年)	環境懇談会	『地球環境問題の捉え方に対する一私見』 埼玉大学教授 西野文雄	学士会館神田本館	17
1995年1月25日 (平成7年)	AJCEセミナー	『地球環境と雪と氷』 (株)MTS雪氷研究所 松田益義	パシフィックハウス	14
1995年8月16日 (平成7年)	AJCEセミナー	『建設事業における環境管理・監査のうごきにつ いて』 土木学会 光家康夫、大竹公一	学士会館神田本館	14

空欄は不明

年月日	タイトル	テーマ 講師	場所	参加人数
1995年10月26日 (平成7年)	AJCE年次講演会	特別講演『これからの地球環境調査』 東京理科大学教授 大林成行 『環境管理・監査に関する国際規格化の動向』 池田技術士事務所 池田 豊 『年における水辺の再生方策』 日本上下水道設計(株) 水谷潤太郎 『シミュレーション技術の交通運用検討への適用について』(株)オリエンタルコンサルタンツ 亀井則夫、辻 光弘 『情報化戦略とネットワークシステム』 (株)建設技術研究所 小松泰機、雨宮康人	学士会館神田本館	65
1996年3月11日 (平成8年)	AJCEセミナー	『公共工事の品質管理とISO9000(品質管理システム)およびISO14000(環境管理システム)』 海洋開発建設協会常務理事 花市頼悟	パシフィックハウス	24
1996年10月28日 (平成8年)	AJCE年次講演会	特別講演『H-2ロケットの開発産業化』 宇宙開発事業団副理事長 五代富文 『海外コンサルティング企業とのJV等における文化的問題』 日本上下水道設計(株) 竹内正義 『阪神淡路大震災における地下構造物被災の実態と分析』日本工営(株) 吉田 保 『植生帯を利用した河川浄化について』 日水コン(株) 岡田敏治 『深部地熱源の効率的な利用』 (株)ニュージェック 大石 朗	学士会館神田本館	54
1997年7月29日 (平成9年)	FIDIC・AJCE合同セミナー 『能力に基づくコンサルタントの選定』	基調講演 AJCE副会長 石井弓夫 『能力に基づくコンサルタントの選定』 FIDIC会長 William D.Lewis	アルカディア市ヶ谷 (私学会館)	127
1997年9月2日 (平成9年)	環境講演会	『環境に関する国際標準化の動向』 池田技術士事務所 池田 豊 『環境マネジメント・システム研修用教材の概要』 (株)東京設計事務所 宮本正史 『環境マネジメント市場とコンサルタントの役割』 (株)建設技術研究所 山下佳彦	学士会館神田本館	32
1997年10月24日 (平成9年)	AJCE年次講演会	特別講演『恐竜時代の温暖地球環境』 東京大学海洋研究所教授 平 朝彦 『ロボットによる廃車解体リサイクルシステム』 黒澤R&D技術士事務所 黒澤豊樹 『水力発電所の規模ならびに投入時期の決定手法について』(株)ニュージェック 小林六郎 『地震時の液状化に伴う地盤・構造物の流動と永久変位』 基礎地盤コンサルタンツ(株) 岡田 進 『動植物の生息環境及び生態系全般との共生に配慮した道路整備の手法について』(株)オリエンタルコンサルタンツ 上野俊司、宮内和則	学士会館神田本館	65
1998年2月26日 (平成10年)	特別研修会	『建設コンサルタントの賠償責任保険と事例紹介』 安田火災海上保険(株)企画開発第一部課長 小林 潔、主任田尻克至	日本工営(株) 会議室	31
1998年11月20日 (平成10年)	AJCE年次講演会 日本版PFIについて	基調講演 政策研究大学院大学教授 西野文雄 パネルディスカッション『日本版PFIで目指されるもの』 パネリスト 政策研究大学院大学教授 西野文雄 建設省大臣官房政策企画官 渡口 潔 (株)熊谷組 有岡正樹 日本工営(株) 高橋 修 司会 AJCE研修委員会副委員長 廣谷彰彦	(株)オリエンタルコンサルタンツ 会議室	122
1999年9月17日 (平成11年)	日蘭修好400周年記念セミナー	『日本が過去400年オランダから移入した近代科学と技術』 AJCE理事 上林好之 『オランダの海岸防衛と干拓』 オランダ土木局技官 F.Vander Meulen パネルディスカッション『日蘭コンサルティンクエンジニアの展望』 パネリスト AJCE会長 石井弓夫 AJCE会員 蔵重俊夫 ONRI会長 Renko G.Gampem F.J.M.ven der Wijck 司会 D.V.F.J.Baudium	オランダ ハーグ (FIDICオランダ大会にあわせて開催)	13

空欄は不明

年月日	タイトル	テーマ 講師	場所	参加人数
1999年11月2日 (平成11年)	AJCE年次講演会 FIDIC・AJCE セミナー FIDIC建設工事の契約約款及び ISO14001審査登録の指針	『FIDICについて』 FIDIC常務理事 Dr.M.Gysi 『FIDIC契約約款の概要』 AJCE研修委員会委員 林 幸伸 『建設工事の契約約款』 FIDIC約款執筆者 Peter L.Booen 『ISO14001認証/登録の指針』 AJCE環境委員会委員 宮本正史、山下佳彦	サンケイ会館ホール	270
2000年3月7日 (平成12年)	FIDIC約款セミナー	『FIDIC契約約款の概要と新レッドブックの特徴』 AJCE研修委員会委員 林 幸伸	(株)建設技術研究所 大阪支社 会議室	59
2001年2月20日 (平成13年)	British Consultant Bureau 会員 との円卓討議	『公共事業における発注形態とQBSの関係』 『日英両国のDB動向』 『英国におけるPFIの進捗 動向』 『英国におけるCE活動のBusiness-Model 一般変化動向及び政策の変化』 『BCB-会員の Business/Engineering両方の部門における将来 の主たる市場とは何か、何処か』 『BCB会員、英 国政府にとり日本国内市場、日本のODAによる 海外市場における』 『Consulting-Marketを拡大 するための明確な政策の有無』 『BCB会員から AJCE、日本政府にいかなる支援、協力を期待す るか』	在日英国大使館	34
2001年4月11日 (平成13年)	バングラデッシュ民営化促進セ ミナー	『日本におけるPFI事業』 技術研修委員会、国際活動委員会	JICAトレーニングセ ンター	
2001年6月14日 (平成13年)	第1回AJCE研修会	『我が国建設産業の変革にもとめられているも のへの若干の考察』 AJCE技術研修委員会委員長 和田勝義	日本工営(株) 会議室	16
2001年8月10日 (平成13年)	第2回AJCE研修会	『技術者倫理に関する米国の動向』 AJCE倫理委員会副委員長 高城重厚	(株)建設技術研究所 会議室	46
2001年8月24日 (平成13年)	カナダ政府ODAセミナー	『カナダ政府ODA参加』 CIDA-INC理事	カナダ大使館	
2001年10月12日 (平成13年)	第3回AJCE研修会	『市民参加とITS』 (株)パシフィックコンサル タンツインターナショナル 西矢義人、 (株)建設技術研究所 磯村辰彦	(株)建設技術研究所 会議室	6
2001年11月2日 (平成13年)	AJCEセミナー FIDIC契約ガイド(日本語版)の 解説	『FIDIC契約ガイドセミナー』 AJCE技術研修委員会委員 林 幸伸 『FIDIC持続可能な開発－FIDIC戦略書』 AJCE技術研修委員会委員 宮本正史 『FIDIC持続可能な開発－業務指針』 AJCE技術研修委員会委員 山下佳彦 パネルディスカッション『FIDIC契約の仕組みを 考える』	主婦会館プラザエフ	160
2001年11月5日 (平成13年)		司会：AJCE技術研修委員会副委員長 竹村陽一 パネラー：高知工科大学教授 草柳俊二 前田建設工業(株)工事・契約担当部長 税所陽一 (株)パシフィックコンサルタンツ インターナショナル取締役 加藤欣一 建設プロジェクト・コンサルタント 代表 大本俊彦 AJCE技術研修委員会委員 林 幸伸	大阪産業創造館	88
2002年7月12日 (平成14年)	継続教育研修会	『コンサルタントの選定方式 QBSとQCBS』 AJCE技術研修委員会副委員長 山下佳彦	(株)建設技術研究所 会議室	
2002年7月24日 (平成14年)	世界銀行調達セミナー	『世界銀行CE業務契約方法』 世界銀行調達官 Monsoor Dailami	AJCE事務局	
2002年9月20日 (平成14年)	継続教育研修会	『社会資本整備事業への第三者構造執行形態の 導入について』 高知工科大学教授 草柳俊二	日本工営(株) 会議室	
2002年11月15日 (平成14年)	AJCE年次セミナー 社会資本整備事業におけるコン サルタントの役割	『コンサルタントの新しい責務』 日刊建設工業新聞 佐藤正則	文京シビックホール 3階会議室	127
2002年11月18日 (平成14年)		『海外建設プロジェクトにおけるコンサルタン トの役割』 AJCE技術研修委員会 林 幸伸	大阪産業創造館 6階会議室(A・B)	37
2002年12月12日 (平成14年)	継続教育セミナー	『マネジメントの最前線と今後の課題』 座談会形式	(株)建設技術研究所 会議室	
2003年9月25日 (平成15年)	継続教育セミナー	『欧米主要国における建設生産システムについて』 国際建設技術協会 駄竹清志	日本工営(株) 会議室	
2003年11月27日 (平成15年)	AJCE年次セミナー 我が国コンサルタントの国際市 場への展開	『国際融資機関からみた日本のコンサルタント への期待』 欧州復興開発銀行 矢口哲雄 『PFIにおける複合的要素と建設コンサルタントの対応』 パシフィックコンサルタンツ(株) 八島雄一郎	日本工営(株) 会議室	52
2003年12月10日 (平成15年)	継続教育セミナー	『省エネルギーにおける新しいビジネスモデル の構築』 日本ファシリティ・ソリューション(株) 前川哲也	(株)建設技術研究所 会議室	



空欄は不明

年月日	タイトル	テーマ 講師	場所	参加人数
2004年3月5日 (平成16年)	AJCE研修会	『海外建設における契約紛争事例の紹介とロシア・アフリカ道路に思う』 西松建設 平野 實	(株)日水コン 会議室	35
2004年5月20日 (平成16年)	AJCE創立30周年シンポジウム 新たな価値への挑戦 —真のパートナーとしてのコン サルティングエンジニア—	基調講演 FIDIC会長 Richard Kell 基調講演 高知工科大学教授 草柳俊二 パネルディスカッション FIDIC会長 Richard Kell、高知工科大学教授 草柳俊二、FIDIC理事 Gregs Thomopoulos、AJCE会長 都丸徳治	ルポール麴町 エメラルド	124
2004年11月19日 (平成16年)	AJCE年次セミナー コンサルタントの選定はどうあ るべきか	『AJCE創立30周年記念シンポジウムのレ ビュー』 AJCE技術研修委員会委員 狩谷 薫 『米国におけるQBSの事例』 AJCE国際活動委員会委員 横川真理子 『日本におけるQBSを取り巻く動向の紹介』 AJCE国際活動委員会委員 河上英二	日本工営(株) 会議室	54
2005年10月20日 (平成17年)	継続教育セミナー	『Management Qualityとコンサルティング・エン ジニア』 技術交流委員会副委員長 高木秀雄 『地球温暖化対策と課題』 AJCE技術交流委員会委員 池田 豊 『中国政府の産業政策とコンサルティング・エン ジニア』 AJCE技術交流委員会委員 長友正治	日本工営(株) 会議室	22
2005年11月11日 (平成17年)	AJCE年次セミナー コンサルティング・サービスの 品質確保・向上にむけて	『公共工事の品質確保の促進に関する法律(品確 法)とコンサルティング・サービスの品質につ いて』 AJCE会長 廣谷彰彦 『国際機関のコンサルタント調達(QCBSの現況 と課題』 AJCE国際活動委員会委員 横川真理子 『日本設計の品質確保について』 (株)日本設計 倉斗道夫	日本工営(株) 会議室	33
2006年11月9日 (平成18年)	継続教育セミナー	『東欧企業への環境アドバイザー活動』 AJCE会員 栗原 茂 『地球環境問題の考え方の推移』 AJCE技術交流委員会委員 清水 巖 『Management QualityとQBS、BIMSの関係を分 析する』 AJCE技術交流委員会委員長 高木秀雄	日本工営(株) 会議室	23
2006年11月17日 (平成18年)	AJCE年次セミナー	『新FIDIC契約約款』 AJCE技術研修委員会副委員長 林 幸伸 『Project Sustainable Management』 AJCE技術 研修委員会FIDIC Policy推進分科会長 狩谷 薫 『Quality Based Selection』 AJCE国際活動委員 会QBS分科会長 河上英二	日本工営(株) 会議室	59
2007年7月13日 (平成19年)	FIDIC契約約款セミナー	『FIDIC標準契約約款 国際融資機関版(2006年 3月) —レッドブックMDB版の解説—』 AJCE国際活動委員会CC分科会 小西秀和	(株)オリエンタルコ ンサルタンツ 会議室	84
2007年11月20日 (平成19年)	AJCE年次セミナー 設計・施工一括契約(DB方式)に おけるコンサルタントの役割	『DB方式の概要』 AJCE国際活動委員会委員 藤原亮太 『韓国におけるDBプロジェクトの一例』 (株)長大 秋元仁志 『デザインビルドによる浄水場建設』 (株)エヌ・ジェー・エスコンサルタンツ 鬼木 哲 『設計施工プロジェクトの実際 英国契約の実 例』 日本工営(株) 杉山 正	日本工営(株) 会議室	97
2007年12月7日 (平成19年)	継続教育セミナー	『メカトロニクス』 AJCE技術交流委員会委員 武田正一郎 『地球環境 EUの状況』 AJCE技術交流委員会 委員長 清水 巖 『リスクアセスメント』 AJCE技術交流委員会 委員 平野輝美	(株)建設技術研究所 役員会議室	10
2008年7月17日 (平成20年)	AJCE年次セミナー コンサルタント業務におけるリ スクマネジメント	『海外コンサルタント業務のリスクについて』 日本工営(株) 澄川啓介 『リスク・マネジメントに関するFIDICの取組み』 AJCE国際活動委員会副委員長 蔵重俊夫 『法律家からみたリスクの管理』 西村あさひ法律事務所弁護士 小泉淑子 『専門業務賠償責任保険(PI保険)の実際』 マーシュジャパン(株) 佐藤 保	日本工営(株) 会議室	85

空欄は不明

年月日	タイトル	テーマ 講師	場 所	参加人数
2008年11月21日 (平成20年)	継続教育セミナー	『一安全な社会を目指して(ソフトとハード) 一技術士の提言』 AJCE技術交流委員会委員 本田尚士 『これからの鉄道事業を展望する』 AJCE技術交流委員会委員 田中 宏 『海外の火力プラントにおける省エネプロジェクト活動』 AJCE技術交流委員会委員 花岡 浩	(株)建設技術研究所 役員会議室	14
2009年7月14日 (平成21年)	AJCE年次セミナー 世界に飛躍するコンサルタント ー将来市場の展望ー	『新しいパラダイムにおけるコンサルタントの 役割』 JICA上級審議役 荒川博人 『アジアにおける官民共創』 バリュープランニング・ インターナショナル(株) 取締役 原 啓 『我が国の建設産業の取り組むべき課題と今後の 展望』 高知工科大学教授 草柳俊二	日本工営(株) 会議室	65
2009年11月20日 (平成21年)	技術交流セミナー 最新技術と省エネ	『リニアメトロ電車(大江戸線)の開発と現状』 (社)日本地下鉄協会首席調査役 安藤正博 『電力潮流と揚水発電』 伊藤忠産機(株) 大原武光 『地球温暖化防止に有効な省エネ関連技術』 岡野技術士事務所 岡野庄太郎 『環境マネジメントシステムによる経営改善の ポイント』 廣川産業・技術研究所 廣川一男	(株)建設技術研究所 役員会議室	18
2010年7月7日 (平成22年)	AJCE年次セミナー 日本のコンサルタントは国際展 開本格化にどう取り組むか ー海外市場で戦うために必要な ものは何かー	会員アンケート『国際展開の展望と現状』 AJCE技術研修委員会副委員長 林 幸伸 『日本のコンサルタントの国際展開に対する考 え方』 FIDIC理事・前AJCE会長 廣谷彰彦 『国際市場で活躍する外国人コンサルタントか ら見た日本のコンサルタント業界』 (株)アンジェロセック ジャンピエールラガリュ 『建設業者がコンサルタントに求めるもの』 (社)海外建設業協会常務理事 中山 隆 パネルディスカッション 水越 彰、竹内正善、 中山 隆、ジャンピエールラガリュ、廣谷彰彦、	日本工営(株) 会議室	116
2010年11月26日 (平成22年)	技術交流セミナー 事故から学ぶ:安全化技術と伝承	『自宅で出来る地震予知ー電磁波ノイズ検出シ ステムー』 (株)新興技術研究所代表取締役 熊谷 卓 『「もんじゅ」ナトリウム漏洩事故は防げなかつ たかー高速炉開発と技術の伝承ー』 湯浅技術士事務所 湯浅陽一 『エレベーターの安全化対策ー死亡事故から学 ぶ』 YANG技術士事務所代表 井出川洋	(株)建設技術研究所 会議室	16
2010年12月6日 (平成22年)	FIDIC約款セミナー コンサルタントの海外展開と FIDIC契約約款 概説ージ・エン ジニヤ(第三者技術者)の役割と 実践ー	『官民連携による海外インフラプロジェクトの 推進』 国土交通省国際建設技術企画官 奥村康博 『FIDIC Red Bookの概要とジ・エンジニヤ(第三 者技術者)の役割』 AJCE技術研修委員会副委員長 林 幸伸 『ジ・エンジニヤ(第三者技術者)の役割と実践』 AJCE国際活動委員会委員 星 弘美	アルカディア市ヶ谷 (私学会館)	125
2011年5月11日 (平成23年)	AJCE・JICA・OCAJI共催 FIDIC契約約款・契約マネジメン トセミナー	『主要なシビルロー国におけるFIDIC契約約款適 用の際の留意点』 アンダーソン・毛利・友常法 律事務所 井口直樹 『コントラクターと契約マネジメント』 OCAJI契約管理研究会委員 小倉 隆 『片務的契約条件チェックリストの改訂と活用』 JICA 資金協力支援部調達監視課 原津美砂 『日本・アジア諸国における紛争裁定委員会 (Dispute Adjudication Board: DAB)の普及・活用 にかかるJICAの取り組み』 JICA 資金協力支 援部調達監視課長 伊藤隆司 『アジュディケーター登録制度の導入と運用』 AJCE理事・アジュディケーター委員会委員長 野崎秀則 パネルディスカッション 井口直樹、小倉 隆、 伊藤隆司、AJCE国際活動委員会 藤原亮太	JICA 研究所 2階 国際会議場	250

空欄は不明




年月日	タイトル	テーマ 講師	場 所	参加人数
2011年7月12日 (平成23年)	AJCE年次セミナー 海外プロジェクトにおけるコン サルタント契約 ～FIDIC White Book と アジュ ディケーター～	『コンサルティングエンジニアの役割とその契約』 AJCE技術研修委員会副委員長 林 幸伸 『FIDIC White Book 2006の解説』 AJCE国際活動委員会委員 鏑木孝治 『コンサルタント契約とコンサルティングエン 지니어の責任』 シティユーワ法律事務所弁護士 小泉淑子 『ディスプレイット・ボードとエンジニア』 京都大学客員教授 大本俊彦 『アジュディケーター登録制度の導入と運用』 AJCE理事・アジュディケーター委員会委員長 野崎秀則	日本工営(株) 会議室	130
2011年9月22日 (平成23年)	FIDIC約款セミナー	『FIDIC建設工事の契約条件書 国際開発金融機 関版(Red Book MDB版)の解説』 国際活動委員 会契約分科会委員	(株)日水コン 会議室	88
2011年12月15日 (平成23年)	技術交流セミナー 建設・エネルギー分野における 安全化技術とリスク対策	『再生可能エネルギーの可能性と課題』 AJCE監事・技術交流委員会委員 花岡 浩 『空前の建設バブルとリスク対策(ドバイの Design-build)』 日本工営(株) 佐々木正二 『事故事例の分析と安全技術－電気・ガス・石油 機器を中心として』 増田技術士事務所 増田久喜 『活性炭を使用した排ガス処理』 住友重機械工業(株)主任技師 田中健夫	(株)建設技術研究所 会議室	37
2012年5月8日 (平成24年)	AJCE・FIDIC共催 AJCE年次セ ミナー コンサルタントの国際展開 －国際コンサルティング・エン 지니어連盟(FIDIC)会長と共に 考える－	『FIDIC創立100周年を迎えて FIDICビジョンと ミッション』 FIDIC会長 Geoff French 『コンサルティング・エンジニア産業発展に向け たFIDICの取り組み』 FIDIC専務理事 Enrico Vink 『官民連携による海外インフラプロジェクトの 推進』 国土交通省大臣官房技術参事官 橋場克司 『ODA事業とFIDIC/コンサルタントへの期待』 独立行政法人国際協力機構(JICA)資金協力支援 部部長 三浦和紀 『わが国コンサルタント発展の歴史と国際展開』 FIDIC理事 廣谷彰彦	ル・ポール麹町 ロイヤルクリスタル	130
2012年11月8日 (平成24年)	技術交流セミナー 鉄道・環境・上下水道及び交通 分野における 技術者のイニシヤチブ	『開発コンサルタントから見た国の盛衰』 AJCE理事・技術交流委員会副委員長 澁谷 實 『生物多様性と環境経営』 E&Mコンサルティング(有)代表取締役 盛山保雄 『鉄道における早期地震警報の変遷と今後の展 開』 (公財)鉄道総合技術研究所 防災技術研究 部地震防災研究室室長 山本俊六 『トコトン環境にやさしい大江戸上下水道』 高堂技術士事務所 高堂彰二	(株)建設技術研究所 会議室	29
2012年12月3日 ～ 2012年12月6日 (平成24年)	FIDIC契約約款研修コース	『FIDIC Module 1 Practical Use of the FIDIC Contract』 『FIDIC Module 2 Management of Claims and the Resolution of Dispute』 FIDIC認定講師 Geoffrey Smith	日本工営(株) 会議室	32
2013年2月22日 (平成25年)	第1回 海外プロジェクトの契約管理者 育成セミナー	『海外プロジェクトの施工監理業務における契約 管理の重要性』 高知工科大学教授 草柳俊二 『FIDIC契約約款の概要』 AJCE国際活動委員会契 約管理者育成分科会副分科会長 小西秀和 『契約管理の事例』 AJCE国際活動委員会契約 管理者育成分科会長 白谷 章	日本工営(株) 会議室	102
2013年7月30日 (平成25年)	AJCE年次セミナー 日本語版完成記念 FIDIC Red Book MDB 2010 年版の解説	『イントロダクション』 AJCE国際活動委員会 契約分科会長 藤原亮太 『一般条件の解説1』 AJCE国際活動委員会契約 分科会委員 林 竜郎 『一般条件の解説2』 AJCE国際活動委員会契約 分科会委員 小西秀和 『付属書類様式集の解説』 AJCE国際活動委員 会契約分科会委員 星 弘美	日本工営(株) 会議室	99
2013年11月13日 (平成25年)	技術交流セミナー エネルギー・災害対策・鉄道分 野におけるトピック	『総合災害対策 －ハードとソフトの融合－』 元FIDIC理事・元AJCE会長 石井弓夫 『シェールオイル及びシェールガス』 大木環境研究所代表 大木久光 『インド貨物専用鉄道』 日本工営(株) 西野 謙 『風力発電』 AJCE理事・技術交流委員会委員長 田中 宏	(株)建設技術研究所 会議室	25

空欄は不明





年月日	タイトル	テーマ 講師	場 所	参加人数
2013年11月8日 2013年11月18日 2013年11月19日 2013年12月12日 2013年12月13日 (平成25年)	国土交通省 国際建設契約研究会	第1回 平成25年11月8日(金)15:30~17:30 『FIDICとFIDIC約款の概説』 技術交流委員会副委員長 林 幸伸 第2回 平成25年11月18日(月)15:00~17:00 『ODAプロジェクトの形成プロセス』 (株)オリエンタルコンサルタンツ 長澤一秀 第3回 平成25年11月19日(火)15:00~17:00 『FIDIC Red Book MDB 2010年版の解説と FIDIC約款運用事例 その1』 AJCE国際活動 委員会契約分科会委員 星 弘美 第4回 平成25年12月12日(木)15:00~17:00 『FIDIC Red Book MDB 2010年版の解説と FIDIC約款運用事例 その2』 AJCE国際活動 委員会契約分科会委員 鎌木孝治 第5回 平成25年12月13日(金)15:00~17:00 『紛争事例』 AJCE国際活動委員会契約管理 者育成分科会長 白谷 章	合同庁舎2号館 16階国際会議室  合同庁舎3号館 4階総合政策局 会議室	20
2013年11月28日 (平成25年)	第1回 海外建設プロジェクトの契約管 理者育成ワークショップ	『FIDIC Red Book MDB 2010年版条文解説』 AJCE国際活動委員会契約管理者育成分科会長 白谷 章 『ワークショップ』 Kaido & Associates 海藤 勝	日本工営(株) 会議室	35
2014年2月6日 (平成26年)	第2回 海外プロジェクトの契約管理者 育成セミナー	『海外プロジェクトの施工監理業務における契約 管理の重要性』 高知工科大学教授 草柳俊二 『FIDIC契約約款の概要』 AJCE国際活動委員会 契約管理者育成分科会委員 小西秀和 『契約管理の事例』 AJCE国際活動委員会契約 管理者育成分科会長 白谷 章	(株)オリエンタルコ ンサルタンツ 会議室	75
2014年7月9日 (平成26年)	AJCE創立40周年記念セミナー コンサルティングエンジニアの 使命	『AJCE40年のあゆみとコンサルティングエンジ ニアのこれから』 AJCE会長 内村 好 『The Strategic Role of Consulting Engineers』 FIDIC会長 Pablo Bueno 『JICAの開発アプローチ：コンサルティングエン 지니어と共に JICA's Approach with Consulting Engineers toward Development』 JICA理事 黒柳俊之 『最近の国際開発潮流と新しい時代の日本の開 発協力』 政策研究大学院大学教授 大野 泉 『国土交通省におけるインフラシステム海外展 開の取組み』 国土交通省技術参事官 清水 亨	グランドアーク半蔵門 富士西の間	138

## FIDIC・AJCE出版物一覧

2014年11月現在


AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
<b>Contract</b>				
CO-11	Red Book 1999	Conditions of Contract for Construction For Building and Engineering Works Designed by the Employer First Edition 1999 ▪General Conditions ▪Guidance for the Preparation of Particular Conditions ▪Forms of Letter of Tender, Contract Agreement and Dispute Adjudication Agreement		英語
CO-11-J	Red Book 1999 Japanese	建設工事の契約条件書 発注者の設計による建築ならびに建設工事 1999年 第1版 ▪一般条件 ▪特記条件作成の指針 ▪入札状、契約合意書および紛争裁定合意書の様式		日本語
CO-31-2	Subcontract 2011	Conditions of Subcontract for Construction For Building and Engineering Works Designed by the Employer ▪General Conditions ▪Guidance for the Preparation of the Particular Conditions ▪Forms of Letter of Subcontractor's Offer, Contractor's Letter of Acceptance and Subcontract Agreement  First Ed. 2011  (工事下請契約条件書 Red Book 1999年版[CO-11]の下請契約条件書)		英語
CO-11G-2	Understanding the Red Book 2nd Ed.	Understanding the FIDIC Red Book A Clause-by-Clause Commentary 2nd Edition Jeremy Glover and Simon Hughes QC With an introduction by Christopher Thomas QC  (Red Book1999年版[CO-11]の詳細解説書 SWEET & MAXWELL 社)	B5ハードカバー 厚さ約5cm 	英語
CO-29	Red Book EIC Guide 2003	EIC (European International Contractors) Contractor's Guide to the FIDIC Conditions of Contract for Construction -The New EIC Red Book Guide- March 2002 - Reprinted 2003 with editorial amendments  (ヨーロッパ国際建設協会編 Red Book1999年版[CO-11]の解説書)		英語

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
CO-12-2	Red Book 1987-Rep.1992- Rep.2011	Conditions of Contract for Works of Civil Engineering Construction. Forth Edition 1987 – Reprinted 1988 with editorial amendments – Reprinted 1992 with further amendments – Reprinted 2011  <ul style="list-style-type: none"> <li>▪Part-1:General Conditions</li> <li>▪Part-2:Conditions of Particular Application with Guidelines for Preparation of Part- II Clauses</li> <li>▪Forms of Tender and Agreement</li> <li>▪Supplement to Fourth Edition 1987 of Conditions of Contract for Works of Civil Engineering Construction Reprinted 1992 With Further Amendments First Edition 1996 -Dispute Adjudication Board -Payment on a Lump Sum basis -Late Certification</li> </ul> (土木建設工事の契約条件書 第4版 ・Part-1一般条件 ・Part-2 特記条件およびPart II 条項作成の指針 ・入札状および契約合意 書の様式 ・補遺 - 紛争裁定委員会/総価契約方式/完了証明発 行遅延に対する請負者保護条項)		英語
CO-12-J	Red Book 1987-Rep.1992 Japanese	土木建設工事の契約条件書 1987年 第4版 1987年および1992年の改訂を含む ▪第 I 部 一般条件 付録 入札及び契約様式 ▪第 II 部 特記条件 および 条項作成の指針		日本語
— 電子版の み	Red Book Guide 1989	Guide to the Use of FIDIC Conditions of Contract for Works of Civil Engineering Construction Includes Red Book Conditions Forth Edition 1989  (Red Book 4th Ed. 1987年版[CO-12]の解説書 Part-1,Part-2の条文付き)		英語
CO-20	Subcontract 1994	Conditions of Subcontract for Works of Civil Engineering Construction ▪Part I General Conditions ▪Part II Guidance for the Preparation of Conditions of Particular Application First Ed. 1994  (工事下請契約条件書 Red Book 4th Ed. 1992年再版[CO-12-2] の下請契約条件書)		英語
CO-20G	Subcontract Introduction 1995	Introduction to the FIDIC Conditions of Subcontract for Works of Civil Engineering Construction 1995  (Subcontract 1st Ed. 1994[CO-20] の解説書)		英語
CO-17	Red Book Survey 1996	Questionnaire Survey: The Use of the FIDIC Red Book Final Report 5 June 1996  (Red Book 利用者の為のアンケート調査レポート)		英語

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
CO-13	Red Book MDB (Pink Book) 2010	Conditions of Contract for Construction For Building and Engineering Works Designed by The Employer Multilateral Development Bank (MDB) Harmonised Edition Version 3: June 2010 ▪General Conditions ▪Particular Conditions ▪Forms of Tender etc.		英語
			初版 (Ver.1) は2005年5月に発行、その後2006年3月 (Ver.2) を経て、2010年6月 (Ver.3) 最新版発行	
CO-13-J	Red Book MDB (Pink Book) 2010 Japanese	建設工事の契約条件書 国際開発金融機関版 発注者の設計による建築ならびに建設工事 2010年6月 ▪一般条件 ▪特記条件 ▪様式集		日本語
— 電子版のみ	Red Book MDB (Pink Book) 2006	Conditions of Contract for Construction For Building and Engineering Works Designed by The Employer Multilateral Development Bank (MDB) Harmonised Edition Version 2: March 2006		英語
CO-13G-J	Red Book MDB (Pink Book) Guide Japanese	AJCE作成 Red Book MDB 2010年版の解説  **本書は2013年7月に開催されたAJCE主催セミナーの資料です。		日本語
CO-14-J	Red Book MDB (Pink Book) 2006 Japanese	建設工事の契約条件書 国際開発金融機関版 発注者の設計による建築ならびに建設工事 2006年3月 ▪一般条件		日本語
— 電子版のみ	Red Book MDB (Pink Book) 2005	Conditions of Contract for Construction For Building and Engineering Works Designed by The Employer Multilateral Development Bank (MDB) Harmonised Edition Version 1: May 2005		英語
— 電子版のみ	Contract Guide Supplement MDB Ed. 2005-Amen.2006	The FIDIC Contract Guide Supplement With Detailed Guidance on Using the First Editions of FIDIC's Conditions of Contract for Construction Multilateral Development Bank Harmonised Edition  (2005年発刊-2006年改定されたMDB版[CO-13]の解説書)		英語

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
CO-33	MDB EIC Guide 2010	EIC(European International Contractors) Contractors Guide to the Harmonised Edition of the FIDIC Conditions of Contract for Construction June 2010  (ヨーロッパ国際建設協会編 Red Book MDB2010[CO-13]の解説書)		英語
CO-2	Yellow Book 1999	Conditions of Contract for Plant and Design Build For Electrical and Mechanical Plant, and For Building and Engineering Works. Designed by the Contractor First Edition 1999 ▪ General Conditions ▪ Guidance for Preparation of Particular Conditions ▪ Forms of Tender ; etc		英語
CO-2-J	Yellow Book 1999 Japanese	プラント及び設計施工の契約条件書 請負者の設計による機電プラント、建築ならびに建設工事 1999年 第1版 ▪ 一般条件 ▪ 特記条件作成の指針 ▪ 入札状、契約合意書および紛争裁定合意書の様式		日本語
CO-27	EIC Yellow Book Guide 2003	EIC (European International Contractors) Contractor's Guide to the FIDIC Conditions of Contract for Plant and Design-Build -The New EIC Yellow Book Guide- March 2003  (ヨーロッパ国際建設協会編 Yellow Book 1999[CO-2]の解説書)		英語
CO-21	Yellow Book 1987-Rep.1988	Conditions of Contract for Electrical and Mechanical Works Including erection on site With forms of tender and agreement Third Edition 1987 - Reprinted 1988 with Further Amendments		英語
CO-21-J	Yellow Book 1987 Japanese	電気および機械設備の契約条件書 和英対訳 1987年 第3版 現場における組立を含む 付録 入札および契約様式		和英対訳
CO-21G	Yellow Book Guide 1988	Guide to the Use of FIDIC Conditions of Contract for Electrical and Mechanical Works Third Edition 1988  (Yellow Book 3rd Ed. 1988年再版[CO-21]の解説書)		英語
CO-21S	Yellow Book Supplement 1997	Supplement to Third Edition 1987 of Conditions of Contract for Electrical and Mechanical Works Reprinted May 1988 With Editorial Amendments ▪ Dispute Adjudication board  (Yellow Book 3rd Ed. 1988年再版[CO-21]の補遺 - 紛争裁定委員会)		英語










AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
CO-10	Silver Book 1999	Conditions of Contract for EPC/Turnkey Projects First Edition 1999 <ul style="list-style-type: none"> <li>•General Conditions</li> <li>•Guidance for the Preparation of Conditions Particular Application</li> <li>•Forms of Tender and Agreement, etc.</li> </ul> (EPC/ターンキー工事の契約条件書 1999年 第1版)		英語
CO-30	EIC Silver Book Guide 2003	EIC (European International Contractors) Contractor's Guide to the FIDIC Conditions of Contract for EPC Turnkey Projects -The EIC Silver Book Guide-		英語
AD-25	EIC White Book 2003	EIC(European International Contractors) White Book on BOT/PPP -The EIC White Book- April 2003  (ヨーロッパ国際建設協会編 BOT(建設・運転・引渡し方式)、 PPP(官民連携)による業務遂行方式における入札・契約の解説書)		英語
CO-24	DBO Gold Book 2008	Conditions of Contract for Design, Build and Operate Projects 1st Edition 2008 <ul style="list-style-type: none"> <li>•General Conditions</li> <li>•Particular Conditions Part A - Contract Data</li> </ul> (設計・施工・運営一括発注(契約)方式の契約条件書)		英語
CO-24G	DBO Contract Guide 2011	Contract Guide for the FIDIC Conditions of Contract for Design, Build and Operate Projects (2008 Gold Book; 1st Ed)  (設計・施工・運営一括発注(契約)方式の契約条件書[CO-24]の解 説)		英語
CO-22G	Contract Guide 2000	The FIDIC Contract Guide With Detailed Guidance on Using the First Editions of FIDIC's 2000 <ul style="list-style-type: none"> <li>•Contract for Construction (Red Book 1999)</li> <li>•Plant and Design Build (Yellow Book 1999)</li> <li>•EPC/Turnkey Projects (Silver Book 1999)</li> </ul> (1999年に発刊された[CO-11],[CO-2],[CO-10]3冊の解説書)		英語 全条 文 付 き
CO-22G-J	Contract Guide 2000 Japanese	FIDIC契約ガイド-FIDIC契約約款1999年版対応- <ul style="list-style-type: none"> <li>•建設工事の契約条件書</li> <li>•プラントおよび建設施工の契約条件書</li> <li>•EPC/ターンキープロジェクトの契約条件書</li> </ul>		日本語

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
CO-1	Green Book 1999	Short Form of Contract First Edition 1999 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Agreement</li> <li>▪ General Conditions</li> <li>▪ Rules for Adjudication</li> <li>▪ Notes for Guidance</li> </ul> (簡易工事の契約条件書 第1版)		英語
CO-26-2	Blue Book 2006	Form of Contract for Dredging and Reclamation Works First Edition 2006 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Agreement</li> <li>▪ General Conditions</li> <li>▪ Rules for Adjudication</li> <li>▪ Notes for Guidance</li> </ul> (浚渫及び埋立て工事の契約条件書 第1版)		英語
CO-3	Orange Book 1995	Conditions of Contract for Design-Build and Turnkey First Edition 1995 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Part-1 General Conditions</li> <li>▪ Part-2 Guidance for the Preparation of Conditions</li> <li>▪ Particular Application. With Forms of Tender and Agreement</li> </ul> (設計-施工/ターンキー工事の契約条件書 第1版)		英語
CO-3G	Orange Book Guide 1996	Guide to the use of FIDIC Conditions of Contract for Design-Build and Turnkey 1996  (Orange Book 1st Ed. 1995[CO-3] の解説書)	A5サイズ 	英語
CO-G-J	FIDIC Guide Japanese	AJCE作成 FIDIC契約約款の概要 2014年2月		日本語
CO-32	FIDIC - A Guide for Practitioners	FIDIC - A Guide for Practitioners  Axel-Volkmar Jaeger , Gotz-Sebastian Hok 著 Springer社		英語
CO-19	Forms of Contract 2005	The FIDIC Forms of Contract Third Edition 2005 Neal G. Buni 著 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ The Fourth Edition of the Red Book,1992</li> <li>▪ The 1996 Supplement</li> <li>▪ The 1999 Red Book</li> <li>▪ The 1999 Yellow Book</li> <li>▪ The 1999 Silver Book</li> </ul> ([CO-12][CO-12S][CO-11][CO-2][CO-10]の解説書 Neal G. Buni 著)	B5ハードカバー 厚さ約5cm 	英語

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
<b>Agreement</b>				
AG-7	White Book 2006	Client/Consultant Model Services Agreement Fourth Edition 2006 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Agreement</li> <li>• Particular Conditions</li> <li>• General Conditions</li> </ul>		英語
AG-7-J	White Book 2006 Japanese	発注者・コンサルタント間の標準サービス契約書 2006年 第4版 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 契約書</li> <li>• 特記条件</li> <li>• 一般条件</li> </ul>		日本語
AG-2	White Book 1998	Client/Consultant Model Services Agreement Third Edition 1998 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Agreement</li> <li>• General Conditions</li> <li>• Particular Conditions</li> <li>• Appendices A, B and C</li> </ul> (発注者-コンサルタント間の標準契約条件書 第3版)		英語
AG-2G	White Book Guide 2001	The White Book Guide With other notes on documents for consultancy agreements 2001  (White Book[AG-2]の解説書)	A5サイズ 	英語
AG-1	White Book 1991	Client-Consultant Model Services Agreement. Second Edition 1991 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Part I Standard Conditions</li> <li>• Part II Conditions of Particular Applications</li> <li>• Appendices A, B and C</li> </ul>		英語
AG-1-J	White Book 1991 Japanese	発注者/コンサルタント間の標準役務契約条件書 1991年 第2版 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 第I部 標準条件</li> <li>• 第II部 特記条件</li> <li>• 付属書類 A,BおよびC</li> </ul>		日本語
AD-43	Risk Short Guide 2009	Risk Management – A Short Guide five key areas of risk in consultant's appointments 2009  発注者-コンサルタント契約において、コンサルタントが無制限に責任を負うことの問題点と潜在的なリスクを指摘。コンサルタントが専門的技術サービスを提供する際の責任を制限する方法を定義。		英語
AD-43-J	Risk Short Guide 2009 Japanese	リスクマネジメント ショートガイド コンサルタント契約における5つのリスク分野 2009年		日本語

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
AG-3 電子版のみ	Joint Venture Agreement 1992	Joint Venture (Consortium) Agreement 1st Edition 1992  (コンサルティング企業間共同企業体契約の標準契約条件書 1992年 第1版 White Book 2nd Ed.[AG-1]の共同企業体契約条件書)		英語
AG-5	Sub-Consultancy Agreement 1992-Rep.1998	Sub-Consultancy Agreement 1st Edition 1992— Reprinted 1998 with Editorial Amendments  (コンサルティング企業間下請け契約の標準契約条件書 1992年第1版—1998年再版 国際的コンサルティング企業と発展途上国地元コンサルティング企 業の間で締結される下請け契約の標準契約条件書 第1版 White Book 2nd Ed.[AG-1]の下請け契約条件書)		英語
AG-4	Guide to Joint Venture and Sub- Con Agreement Guide 1994	Guide to the use of FIDIC's Sub-Consultancy and Joint Venture (consortium) Agreements 1994  (Sub-Consultancy Agreement[AG-5]とJoint Agreement[AG-3]の 解説書 作成上の相互の損害賠償責任の分担と保険に関する標準 約款をもとに基本条項解説/構成方法/個別の独自条項契約の作 成方法、巻末に協定書モデル全文掲載)		英語
AG-6-2	Purple Book 2013	Model Representative Agreement 1st Edition 2013 • AGREEMENT • PARTICULAR CONDITIONS • APPENDICES • GENERAL CONDITIONS  (請負者のRepresentative=代理人となるコンサルタントの契約書)		英語
<b>Business Practice – General</b>				
IN-1	FIDIC Infrastructure Report 2009	FIDIC Infrastructure Report 2009 STATE OF THE WORLD  (FIDIC世界インフラ白書2009)  世界が直面している主要なインフラ関連事項の現状と課題を整理 し、持続性の視点から解決策を検討する。		英語
IN-1-J-2	FIDIC Infrastructure Report 2009 Japanese	FIDIC 世界インフラ白書 2009  世界が直面している主要なインフラ関連事項の現状と課題を整理 し、持続性の視点から解決策を検討する		日本語
AD-44	Definition of Services Guidelines 2009	Definition of Services Guidelines Building Construction 2009  建設の各段階でコンサルタント、請負者、発注者の役割を明らか にし、最良の成果を挙げるための指針		英語

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
AD-47	QBS Guide 2nd Ed. 2013	FIDIC Guidelines for Selection of Consultants Second Edition 2013  (品質・技術によるコンサルタント選定ガイド 第2版 2013)		英語
AD-46	QBS Guide 2011	Quality Based Consultant Selection (QBS) Guidelines September 2011  (品質・技術によるコンサルタント選定ガイド 2011)		和 英 セ ット
AD-23	QBS Guide 2003	FIDIC Guidelines for the Selection of Consultant First Edition 2003  FIDIC コンサルタント選定におけるガイドライン 2003年第1版		和 英 セ ット
一 無料ダウン ロード	FIDIC Capacity Building 2012	FIDIC Capacity Building A Major Role for FIDIC in the Consulting Engineering Industry  (CBパンフレット2012年版 能力開発に関するビジネス実務モジュールの紹介)		英語
AD-32	Capacity Building 2001	Capacity Building Building The Capacity of Consulting Firms 2001  (コンサルタント企業の能力開発)		英語
AD-34 電子版の み	Guide to Practice Training Manual 2003	Guide to Practice The Business of Professional Services Firm A Training Manual 2003  (FIDIC実務ガイド トレーニングマニュアル)  内容:トレーニングマニュアル+実務ガイド4冊 ・トレーニングマニュアル ・Guide to Quality Management2001[AD-20-2] ・Guide to ISO90012001[AD-21] ・BIMS Training Manua2002[AD-29] ・BIMS Guide 2001[AD-19]→最新版はBIMS Guide 2011[AD-19-2]		英語


AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
<b>Business Practice – Risk</b>				
AD-43	Risk Short Guide 2009	Risk Management – A Short Guide five key areas of risk in consultant's appointments 2009  発注者-コンサルタント契約において、コンサルタントが無制限に責任を負うことの問題点と潜在的なリスクを指摘。コンサルタントが専門的技術サービスを提供する際の責任を制限する方法を定義。		英語
AD-43-J	Risk Short Guide 2009 Japanese	リスクマネジメント ショートガイド コンサルタント契約における5つのリスク分野 2009年		日本語
AD-41	Risk Clients Guide 2004	Professional Indemnity Insurance and Project Risk A Clients Guide 2004  (リスク管理 発注者ガイド)		英語
AD-5	Risk Status Report 2004	Insurance of Large Civil Engineering Projects A Status Report 2004 including the 1997 Progress Report and Update and the 2004 Update  (大型技術設計事業における保険契約)		英語
一 電子版の み	Risk Manual 1997	Risk Management Manual 1997年  (リスク管理マニュアル)		英語
<b>Business Practice – Insurance</b>				
AD-8	Professional Liability Insurance 1991	Professional Liability Insurance – A Primer 1991  (コンサルティングサービスに対する賠償責任保険入門書 付録-保険契約標準約款)		英語
AD-4-2	Construction, Insurance and Law 1986	Construction, Insurance and Law A discussion paper March 1986  建設、保険、法律 検討資料 1986年版		和 英 セツト

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
<b>Business Practice – Quality</b>				
AD-36	Quality of Construction 2004	Improving the Quality of Construction A Guide for action 2004  (建設工事の品質向上 行動ガイド)		英語
AD-20-2	Guide to Quality Management 2nd Ed. 2001	Guide to Quality Management in the Consulting Engineering Industry. 2001  (コンサルティングエンジニアの為の品質管理ガイド2001年版)		英語
AD-21	Guide to ISO9001 2001	Guide to the Interpretation and Application of the ISO9001 : 2000 Standard for the Consulting Engineering Industry 2001  (ISO9001 品質管理を推進する為の指針 2001年版)		英語
AD-22	Quality Management Training Kit 2001	Training Kit–Quality Management in the Consulting Engineering Industry 2001  (コンサルティングエンジニアの為の品質管理トレーニングキット 2001年版)		英語
AD-20-1	Guide to Quality Management 1st Ed. 1994	Guide to Quality Management in the Consulting Engineering Industry 1994  (コンサルティングエンジニアの為の品質管理ガイド 1994年版)		英語
<b>Business Practice – Integrity</b>				
AD-19-2	FIMS Guide Part1 1st Ed. 2011	Guidelines for Integrity Management (FIMS) in the consulting industry Part1 Policies and principles 1st Edition 2011  (FIDIC公正管理システム ガイドライン)		英語
— 電子版のみ	GPIMS Draft Ed. 2006	Government Procurement Integrity Management System (GPIMS) Guidelines Draft Edition 2006	画像なし	英語
AD-29	BIMS Training Manual 1st Ed. 2002	Business Integrity Management System (BIMS) Training Manual First Edition 2002  (コンサルタント業界における公正管理トレーニングマニュアル 2002年第1版)		英語

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
<b>Business Practice – Sustainability</b>				
AD-50	PSM Manual 2013	Project Sustainability Management Applications Manual 2nd edition 2013  (PSMアプリケーション・マニュアル 第2版 2013年)		英語
AD-49	Sustainability Logbook 1st Ed. 2013	The Project Sustainability Logbook 1st Edition 2013		英語
AD-48	Rethink Cities 2013	Rethink Cities – White Paper 2013  (都市の再考ー白書 2013) *都市問題について包括的にまとめたもので、FIDICとEFCA、スウェーデン協会が協働して作成した		英語
— 無料ダウン ロード	World Report 2012	State of the World Report 2012 Sustainable Infrastructure  FIDIC世界事情レポート2012 持続可能な社会基盤		英語
AD-40	PSM Guidelines 2004	Project Sustainability Management Guidelines 2004  (プロジェクト持続可能性管理ガイドライン)		英語
AD-26	Sustainable Development a unique capacity 2002	Sustainable Development in the Consulting Engineering Industry a unique capacity to address the priorities The Consurting Engineering Industry's AGENDA21  コンサルテイングエンジニアリング産業における持続可能な開発 優先順位を提案するユニークな能力 アジェンダ21		和 英 セツト
AD-27	FIDIC/UNEP Sustainable Development 2002	FIDIC/UNEP Industry as a Partner for Sustainable Development 2002		英語
AD-28	EFCA Sustainable Solutions 2001	EFCA-FIDIC Report Project Financing Sustainable Solutions 2001  (プロジェクト融資の持続的な解決 FIDIC-EFCA報告)		英語
AD-15 電子版の み	Sustainable Development 2000	Sustainable Development in the Consulting Engineering Industry  (コンサルテイングエンジニアリング産業における持続可能な開発)		英語



AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
<b>Business Practice – Environment</b>				
AD-2	EMS Training Resource Kit 2nd Ed. 2001	UNEP/ICC/FIDIC Environmental Management System Training Resource Kit 2nd Edition 2001  (環境マネジメントシステム 研修用教材)	バインダー製本 	英語
AD-17	EMS Training Resource Kit Summary 2001	UNEP/ICC/FIDIC Environmental Management System Training Resource Kit Executive Summary 2001		英語
AD-18	EMS Handbook 2000	UNEP/ICC/FIDIC Environmental Management Systems Handbook 2000		英語
AD-3	ISO14001 1998	UNEP/ICC/FIDIC Guide to ISO 14001 Certification/Registration Test Edition December 1998  ISO-14001 審査登録の指針 1998年 テスト版		和 英 セット

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
<b>Othes</b>				
AD-45	Procurement Procedures Guide 2011	FIDIC Procurement Procedures Guide 1st Edition 2011 (FIDIC調達手順ガイド)		英語
PR-3 電子版のみ	Tendering Procedure 2nd Ed. 1994	Tendering Procedure 1994 Second Edition (入札手順書)		英語
PR-2-2	Standard Prequalification Form 3rd Ed. 2008	Standard Prequalification Form for Contractors 2008 Third Edition (請負業者の予備資格審査の標準様式)		英語
AD-6	Professional Liability Claims 1993	Mediation of professional liability Claims Mediation Explanation and Guidelines 1993 (賠償責任に関するクレームの調停)		英語
PR-1	Guidelines and Terms of Reference 1980	Guidelines and Terms of Reference for the Preparation of Project Cost Estimates 1980 (プロジェクト見積手引き及び実務用チェックリスト)		英語
AD-31	Transfer of Technology 1995	Improving Transfer of Technology Guide for Action 1995 (技術継承の向上 行動ガイド)		英語
CO-8	OMT Guide 1992	Operation maintenance and training 1992 FIDIC guidelines for the provision of OMT services (作業/保守/訓練規定のガイドライン)		英語

## 以下は絶版

AJCE コード	通称/略名	書籍名	言語
CO-11G	Understanding the Red Book 2006	Understanding the New FIDIC Red Book 2006 Thomson  (Red Book1999年版[CO-11]の詳細解説書 Thomson社)	英語
CO-12	Red Book 1987-Rep.1992	Conditions of Contract for Works of Civil Engineering Construction. Forth Edition 1987 - Reprinted 1992 with Further Amendments •Part-1:General Conditions with Forms of Tender and Agreement. •Part-2:Conditions of Particular Application with Guidelines for Preparation of Part- II Clauses.  (土木建設工事の契約条件書 第4版 Part-1一般条件 Part-2特記仕様書)	英語
CO-12-1	Red Book 1987-Rep.1992	Conditions of Contract for Works of Civil Engineering Construction. Forth Edition 1987 - Reprinted 1992 with Further Amendments •Part-1:General Conditions with Forms of Tender and Agreement.  (土木建設工事の契約条件書 第4版 Part-1一般条件 のみ)	英語
CO-12G	Red Book Guide 1989	Guide to the Use of FIDIC Conditions of Contract for Works of Civil Engineering Construction Includes Red Book Conditions Forth Edition 1989  (Red Book 4th Ed. 1987年版[CO-12]の解説書 Part-1,Part-2の条文付き)	英語
CO-12S	Red Book Supplement 1996	Supplement to Forth Edition 1987 of Conditions of Contract for Works of Civil Engineering Construction. Reprinted 1992 With Further Amendments 1996 •Section A : Dispute Adjudication Board •Section B : Payment on Lump Sum basis •Section C : Late Certification  (Red Book 4th Ed. 1992年再版[CO-12]の補遺 - 紛争裁定委員会/総価契約方式/完了証明発行遅延に対する請負者保護条項)	英語
CO-28	Silver Book Guide 2002	Understanding and Negotiating Turnkey and EPC contracts Second Edition 2002 Joseph A. Huse 著  (EPC/ターンキー工事全般に関する解説書 FIDIC Silver Book 1st Ed.の解説含む)	英語
CO-31	Subcontract 2009	Conditions of Subcontract for Construction For Building and Engineering Works Designed by the Employer •General Conditions •Guidance for the Preparation of the Particular Conditions •Forms of Letter of Subcontractor's Offer, Contractor's Letter of Acceptance and Subcontract Agreement Test Ed. 2009  (工事下請契約条件書 Red Book 1999年版[CO-11] の下請契約条件書)	英語
AG-6	Model Representative Agreement 2004	Model Representative Agreement •Agreement •Particular Conditions •General Conditions •Notes For Guidance Test Edition 2004  (一般条項に対するガイダンス)	英語
AD-1	Dispute Report 1992	Amicable Settlement of Construction Disputes A Report of FIDIC's Alternative Dispute Resolution Task Committee August 1992	英語
AD-9	QBS 1997	Quality based selection for the procurement and consulting services 1997	和英セット
AD-13	Risk Management Expectations 1994	Dealing with Risk Managing Expectations 1994  (リスク管理の手法)	英語
AD-14	Environment Guide for Action 1994	Consulting Engineers and the Environment; Guide for Action 1994  コンサルティングエンジニアと環境行動指針	和英セット
AD-16	EMS-Sustainability Collection	EMS-Sustainability Collection	英語
AD-19	BIMS Guide Test Ed. 2001	Guidelines for Business Integrity Management (BIMS) in the Consulting Industry Test Edition 2001  コンサルタント業界における公正管理ガイドライン 2001年 試行版	和英セット

AJCE コード	通称/略名	書籍名	表紙	言語
AD-20-1	Guide to Quality Management 1st Ed. 1994	Guide to Quality Management in the Consulting Engineering Industry 1994		英語
AD-23	QBS Guide 2003	FIDIC Guidelines for the Selection of Consultant First Edition 2003 FIDIC コンサルタント選定におけるガイドライン 2003年第1版		英語
AD-30	Quality and integrity Collection			英語
AD-33	Guide to Practice Collection			英語
AD-38	FIDIC Report 2004	Engineering Our Future A FIDIC Report October 2004 Report of the FIDIC Strategic Review Task Force (コンサルタント業界の将来 FIDIC報告書 2004年版)		英語
AD-37	FIDIC Policy	FIDIC Policy Statements (FIDICの施策方針)		英語
AD-39	Quality Management Set	Quality Management in the Consulting Engineering Industry 内容 ▪Guide to Quality Management[AD-20-2] ▪Guide to ISO9001[AD-21] ▪Quality Management Training Kit[AD-22] 3冊セット		英語
AD-42	Risk Collection	Risk Collection		英語
PR-2-1	Standard Prequalification Form 2nd Ed. 1994	Standard Prequalification Form 2nd Ed. 1994		英語

# 公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会

## 定款

2012（平成24）年4月1日 施行

### 第1章 総則

（名称）

第1条 この法人は、公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会と称する。

（事務所）

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都台東区に置く。

2. この法人は、理事会の決議により、必要の地に従たる事務所を置くことができる。

### 第2章 目的及び事業

（目的）

第3条 この法人は、技術に立脚した公正なコンサルティング・サービスを提供する知的専門家（以下「コンサルティング・エンジニア」という。）の品位の確立・技術の向上・国際連携の促進を図り、海外コンサルティング・エンジニアとの技術交流およびその成果の普及に関する事業を行い、コンサルティング・エンジニアの技術の発展と科学技術の振興を通して広く社会に貢献することを目的とする。

（事業）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) コンサルティング・エンジニアの資質と技術力の向上、品位保持及び技術の継続的な普及・啓発
  - (2) コンサルティング・エンジニアの業務に関する情報の収集、調査及び提供
  - (3) 国際コンサルティング・エンジニア連盟（FIDIC）並びに各国のコンサルティング・エンジニアの組織及び関連機関との連絡及び協調
  - (4) 上記のコンサルティングに関する事項
  - (5) その他、この法人の目的を達成するために必要な事項
2. 前項の事業は本邦及び海外において行うものとする。

### 第3章 会員

（会員）

第5条 この法人は次の会員により構成する。

- (1) 法人正会員
- (2) 個人正会員
- (3) 賛助会員

（法律上の社員）

第6条 正会員は法人正会員および個人正会員とし、正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。

（法人正会員）

第7条 法人正会員は、技術に立脚した公正なコンサルティング・サービスによる収入を主体とする法人又は

個人の企業並びに理事会において認められた団体であって、その代表者又はこれに準ずる者は、技術士又はこれと同等の資格を有する者とする。同等の資格の認定方法については規程に定める。

2. 法人正会員は、その代表者を届け出なければならない。

(個人正会員)

第8条 個人正会員は、法人正会員の役員又は職員もしくは理事会において認められた者であって、かつ技術士又はこれと同等の資格を有する者とする。同等の資格の認定方法については規程に定める。

(賛助会員)

第9条 賛助会員は、この法人の目的及び事業に賛同し、その事業を援助し普及するものであって、理事会の承認を得たものとする。

(会員の資格の取得)

第10条 この法人の会員になろうとする者は、理事会が定めるところの手続きに従い申し込みをし、その承認を受けなければならない。

(入会金及び会費の負担)

第11条 会員は、総会において定めるところにより、入会金及び会費を納入しなければならない。

2. 前項の規定に関わらず、理事会の決議を経て、会員の入会金及び年会費の一部又は全部の支払義務を免除することができる。
3. 会員が退会し又は除名された場合、当該年度の会費は免除されない。
4. 退会し又は除名された会員の既に納入した会費は返還しないものとする。

(任意退会)

第12条 会員がこの法人を退会しようとするときは、会長に対し、理事会において別に定める退会届を、3か月前に提出することにより、任意に退会することができる。

(除 名)

第13条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第14条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第11条の支払義務を2年以上履行しなかったとき。
- (2) 総正会員が同意したとき。
- (3) 死亡し、若しくは失踪宣告を受け、または、法人である会員が解散したとき。
- (4) 個人正会員が所属する法人が解散したとき。
- (5) 除名されたとき。

## 第4章 総会

(構成)

第15条 総会は、すべての正会員をもって構成する。この総会をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員総会とする。

## (権限)

第16条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）、財産目録並びにこれらの附属明細書の承認
- (4) 定款の変更
- (5) 入会金及び会費の額の決定
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

## (開催)

第17条 総会は、定時総会として毎年度5月に1回開催するほか必要がある場合に開催する。

## (召集)

第18条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が召集する。

2. 総会の召集は、少なくとも2週間前に、その会議の目的たる事項及び内容並びに日時及び場所を記載した書面をもって正会員に通知して行うものとする。
3. 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び召集の理由を示して、総会の召集を請求することができる。請求があった場合、会長は30日以内にこれを召集しなくてはならない。

## (議長)

第19条 総会の議長は、会長がこれに当たる。

## (議決権)

第20条 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

## (決議)

第21条 総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。

2. 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
  - (1) 会員の除名
  - (2) 監事の解任
  - (3) 定款の変更
  - (4) 解散
  - (5) その他法令で定められた事項
3. 当該議事につき、あらかじめ書面をもって意思を表示した正会員及び他の正会員を代理人として議決権の行使を委任した正会員は、出席したものとみなす。

## (議事録)

第22条 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2. 議長及び会議に出席した正会員から選任された2名の議事録署名人は、前項の議事録に記名押印する。

## 第5章 役員

### (役員の設定)

第23条 この法人は、役員として理事10名以上15名以内及び監事1名以上2名以内を置く。

2. 理事のうち、1名を会長、3名以内を副会長とする。この会長及び副会長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。

### (役員を選任)

第24条 理事及び監事は、法人正会員の代表者及び個人正会員の中から総会において選任する。但し、理事会において定めた定数内で、正会員以外から選任することができる。

2. 理事及び監事は相互に兼ねることができない。
3. 会長及び副会長は、理事会において理事の互選により定める。

### (理事の職務及び権限)

第25条 理事は、理事会において会務の執行に関し審議決定するほか、この定款及び理事会の定めるところにより職務を行うものとする。

2. 会長は、この法人を代表し、会務を統括する。
3. 副会長は、会長を補佐し、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、あらかじめ会長が定めた順位によりその職務を代行する。

### (顧問)

第26条 この法人に顧問を置くことができる。

2. 顧問は、理事会の決議を経て、会長が委嘱する。
3. 顧問は、会長から諮問された事項について意見を述べるものとする。

### (監事の職務及び権限)

第27条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2. 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

### (役員任期)

第28条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

2. 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。
3. 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
4. 理事又は監事は、第23条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

### (役員解任)

第29条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

### (報酬等)

第30条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、総会において定める総額の範囲内で、総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。



## 第6章 理事会

(構成)

第31条 この法人に理事会を置く。

2. 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(理事会の決議事項)

第32条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長及び副会長の選定及び解職

(理事会の召集等)

第33条 理事会は、会長が原則として隔月に1回召集する。ただし、必要に応じて随時これを召集することができる。

2. 会長は理事から会議の目的である事項を示して請求されたときは、30日以内にこれを召集しなければならない。

(決議)

第34条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2. 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第35条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2. 会議に出席した会長、副会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第7章 委員会

(委員会)

第36条 この法人の事業を遂行するために必要があると認められるときは、理事会の決議を経て、委員会を置くことができる。

2. 委員会は、理事会からの委嘱事項について審議し、又は理事会の委嘱により総会若しくは理事会の決定した事項を実施する。
3. 委員会の委員は理事会の決議を経て会長が任命する。

## 第8章 資産及び会計

(事業年度)

第37条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終る。

(事業計画及び収支予算)

第38条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類は、毎事業年度開始前に、会長が編成し、理事会の承認を受けなければならない。事業計画及び収支予算を変更しようとする場合も同様とする。

2. 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第39条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時総会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第6号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

2. 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、会員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事の名簿
- (3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要、及び、これらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第40条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第2項第4号の書類に記載するものとする。

(借入金)

第41条 この法人が借入れをしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する借入金を除き、特別の利害関係を有する理事を除く理事現在数の3分の2以上の決議を経なければならない。

## 第9章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第42条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第43条 この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(公益認定取り消し等に伴う贈与)

第44条 この法人が公益認定の取り消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取り消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第45条 この法人が清算をする場合に置いて有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第10章 公告の方法

(公告の方法)

第46条 この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

## 第11章 雑 則

(規程)

第47条 この定款に定めるもののほかはこの法人の事業の運営上必要な規程は、理事会の決議を経て会長が別に定める。

(事務局)

第48条 この法人の事務を処理するための事務局を設け、事務局には事務局長1名のほか所要の職員を置くことができる。

2. 事務局長は、会長が理事会の同意を得て、これを任免する。
3. 職員は事務局長の意見を参考に会長が任免する。

### 附則

1. この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
2. この法人の最初の会長は廣瀬典昭とする。
3. 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第37条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

## 倫理要綱

### 倫 理 要 綱

#### (協会の目的)

公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会は、技術に立脚した公正なコンサルティング・サービスを提供する知的専門家（以下「コンサルティング・エンジニア」という。）の品位の確立・技術の向上・国際連携の促進を図り、海外コンサルティング・エンジニアとの技術交流およびその成果の普及に関する事業を行い、コンサルティング・エンジニアの技術の発展と科学技術の振興を通して広く社会に貢献することを目的とする。

#### (前文)

第一条 会員が、ここに掲げる目的に沿って活動するように、倫理要綱を定める。

#### (社会的な責任の認識)

第二条 会員は、コンサルティング・サービスの成果が広く将来にわたって大きな影響を及ぼすことに鑑み、社会的な責任を強く認識しなければならない。

#### (顧客利益の擁護)

第三条 会員は、顧客に対し正当にして最善の利益を図るように努めなければならない。  
二 会員は、顧客の利益に役立つと考えるときは進んで他の専門家と協力するよう努めなければならない。

#### (公正の維持)

第四条 会員は、コンサルタントが名誉ある職業であることを自覚し、公正な立場を維持しなければならない。

#### (独立性の維持)

第五条 会員の職務上の助言、判断または意思決定は、いかなる場合においても第三者または他の機関の影響を受けてはならない。

#### (業務報酬の公正)

第六条 会員の受ける業務報酬は、公正なものでなければならず、顧客より支払われる業務報酬のみを受け取るものとする。

#### (専門性の保持)

第七条 会員は、自己の専門分野を明確にしなければならない。  
二 会員は、自己の専門外の事項を表示し、あるいは、自己の誇大な広告をしてはならない。また、専門外の業務を引き受ける等、業務遂行につき確信を持ってない業務に携わってはならない。

#### (秘密の保持)

第八条 会員は、業務上知り得た顧客の秘密を他に漏らし、または盗用してはならない。

#### (他者の業務の尊重)

第九条 会員は、他の会員あるいは同業者の名誉を傷つけ、またはそれらの業務を妨げるようなことをしてはならない。

平成17年4月12日 第202回理事会制定  
平成24年4月1日 公益社団法人移行に伴い協会名・目的変更

## 用語集

原 語	略 称	和 訳
Alternative Dispute Resolution	ADR	代替紛争解決
Asian Development Bank	ADB	アジア開発銀行
Assesment Panel for Adjudicators	APA	紛争裁定人審査委員会
Asia-Pacific Member Associations	ASPAC	FIDICアジア太平洋地域会員協会連合
Biennial Meeting between International Lending Agencies and the Consulting Industry	BIMILACI	国際融資機関とコンサルティング業界との会合
Business Integrity Management System	BIMS	ビジネス公正管理システム
Business Practices Committee	BPC	FIDIC業務委員会
Capacity Building	CB	能力開発、能力形成
Capacity Building Committee	CBC	FIDIC能力開発委員会
Consulting Engineer(s)	CE	コンサルティング・エンジニア
Contracts Committee	CC	FIDIC契約委員会
COP13	COP13	気候変動枠組み条約第13回締結国会議
Cost Based Selection	CBS	価格による選定
Design-Build Operate	DBO	設計・施工・運営一括発注（契約）方式
Dispute Adjudication Board	DAB	紛争裁定委員会
Dispute Boards	DB	紛争委員会
Dispute Review Board	DRB	紛争検討委員会
Economic and Social Commission for Asia and the Pacific	ESCAP	国連アジア太平洋経済社会委員会
Executive Committee	EC	FIDIC理事会
European Bank for Reconstruction and Development	EBRD	欧州復興開発銀行
European Federation of Engineering Consultancy Associations	EFCA	ヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合
Federación Panamericana de Consultores	FEPAC	中南米アメリカコンサルティング・エンジニア連合
FIDIC Group of African Member Associations	GAMA	FIDICアフリカ地域会員協会連合
FIDIC Policy	FP	FIDICポリシー
General Assembly Meeting	GAM	総会
Integrity Management Task Force	IMTF	不正防止作業部会
International Federation of Consulting Engineers	FIDIC	国際コンサルティング・エンジニア連盟
International Funding Institution	IFI	国際金融機関
Japan Bank for International Cooperation	JBIC	国際協力銀行
Japan International Cooperation Agency	JICA	国際協力機構
less-developed countries	LDC	開発途上国
Member Association	MA	FIDIC会員協会
Memorandum of Understanding	MOU	覚書
Multilateral Development Banks	MDB(s)	国際開発金融機関

原 語	略 称	和 訳
Organization for Economic Cooperation and Development	OECD	経済協力開発機構
Official Development Assistance	ODA	政府開発援助
Private Finance Initiative	PFI	民活連携方式
Professional Liability	PL	業務上の瑕疵責任（保障）
Project Sustainability Management	PSM	プロジェクト持続性マネジメント
Public Private Partnership	PPP	官民連携
Quality and Cost Based Selection	QCBS	品質・技術と価格による選定、総合評価方式
Quality Based Selection	QBS	品質・技術による選定
Quality Management System	QMS	品質マネジメントシステム
Quality of Construction	QOC(QoC)	施工品質
Risk and Liability Committee	RLC	FIDICリスクと責任に関する委員会
Risk Management Forum	RMF	危機管理検討フォーラム
Selection of Consultants Task Force	STF	コンサルタント選定に関する作業部会
Steering Committee	SC	運営委員会
Sustainable Development	SD	持続可能な開発
Sustainable Development Committee	SDC	FIDIC持続可能な開発に関する委員会
Sustainable Development Task Force	SDTF	FIDIC持続可能な開発に関する作業部会
Task Force	TF	作業部会
Technical Consultancy Development Program for Asia and the Pacific	TCDPAP	アジア太平洋地域の技術コンサルティング開発プログラム
Terms of Reference	TOR	基本方針
The Third World Water Forum	WWF3	第3回世界水フォーラム
UN Development Program	UNDP	国連開発計画
UN Environmental Program	UNEP	国連環境計画
United Nations	UN	国際連合
Value Engineering	VE	バリューエンジニアリング
World Bank	WB	世界銀行
World Trade Organization	WTO	世界貿易機構
World Water Forum	WWF	世界水フォーラム
Young Professionals	YP	若手専門職
Young Professionals Exchange Program	YPEP	日豪交換研修
Young Professionals Forum	YPF	若手専門職委員会
Young Professionals Management Training Programme	YPMTP	若手専門職経営トレーニング・プログラム

# 第7章

## 写真集

## FIDIC大会

### ■1971年 Sydney, Australia

技術士会がFIDIC加盟を申請中  
村川二郎技術士会理事が参加



技術士会 田中宏会長から村川二郎理事へ  
FIDICシドニー大会への出張依頼書

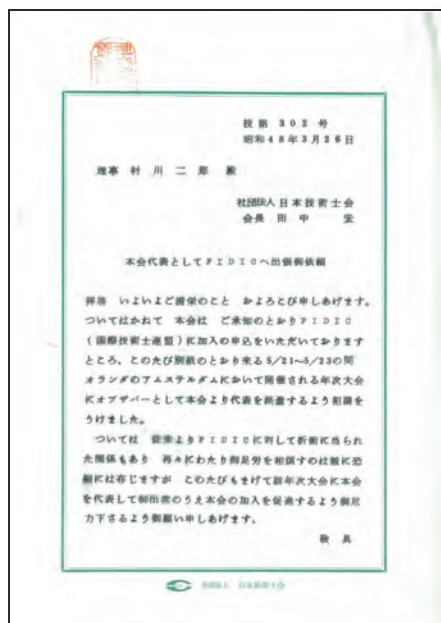
### ■1972年 Stockholm, Sweden





■1973年 Amsterdam, Netherlands

技術士会のFIDIC加盟申請 継続中



技術士会 田中宏会長から村川二郎理事へ  
FIDICアムステルダム大会への出張依頼書

■1974年 Cape Town, South Africa

AJCE創立

AJCEのFIDIC加盟承認



■1976年 Ottawa, Canada

Ottawa - Canada - 11 - 15 July 1976  
Ottawa - Canada - 11 - 15 juillet 1976  
Ottawa - Kanada - 11 - 15 Juli 1976

**FIDIC**  
1976 General Assembly Meeting  
Ottawa, July 11 to July 15, 1976

**FIDIC**  
1976 Assemblée Générale  
Ottawa, du 11 au 15 juillet 1976

**FIDIC**  
1976 Generalversammlung  
Ottawa, vom 11. zum 15. Juli 1976

**General Assembly Meeting**  
**Assemblée Générale**  
**Generalversammlung**

**FIDIC**

**General Assembly Meeting**  
**Assemblée Générale**  
**Generalversammlung**

**FIDIC**  
1976 General Assembly Meeting  
Ottawa, July 11 to July 15, 1976

**FIDIC**  
Réunion de l'Assemblée générale  
Ottawa, du 11 au 15 juillet 1976

**IVBI**  
Generalversammlung,  
1976  
Ottawa, vom 11. zum 15. Juli, 1976

**Our Host**  
The Association of Consulting Engineers of Canada cordially invites you to attend the 1976 FIDIC General Assembly.

**VOTRE HÔTE**  
L'Association des ingénieurs-conseils du Canada vous invite à assister à la réunion de l'Assemblée générale de FIDIC-1976.

**DER GASTGEBER**  
Die Association of Consulting Engineers of Canada lädt Sie herzlich ein, an der Generalversammlung der IVBI, 1976 teilzunehmen.

**VENUE OF THE GENERAL ASSEMBLY**  
The 1976 FIDIC General Assembly will be held at the Château Laurier Hotel in Ottawa, Ontario.

**LIEU DE RÉUNION DE L'ASSEMBLÉE GÉNÉRALE**  
L'Assemblée générale de FIDIC se tiendra à l'Hotel Château Laurier à Ottawa, Ontario.

**TAGUNGORT**  
Die Generalversammlung der IVBI, 1976 findet im Hotel Château Laurier, Ottawa, Ontario statt.

**DATES**  
Sunday, July 11 to Thursday, July 15, 1976.

**TERMINES DE L'ASSEMBLÉE GÉNÉRALE**  
Du dimanche 11 juillet au jeudi 15 juillet 1976.

**TERMINI DER GENERALVERSAMMLUNG**  
Vom 11. Juli zum 15. Juli, 1976.

**REGISTRATION DEADLINE**  
Registration must reach the Association of Consulting Engineers of Canada in Ottawa, on or before June 11, 1976.

**DATE LIMITE D'INSCRIPTION**  
La formule d'inscription doit parvenir à l'Association des Ingénieurs-conseils du Canada à Ottawa, le ou avant le 11 juin 1976.

**ANMELDUNG**  
Bei Vorhergabe eines Teilnehmers, bitten wir die Association of Consulting Engineers of Canada zu benachrichtigen. Teilnehmeranzahlungen sind bis zum 11. Juni einzureichen. Annullierungen können nur bis zum 11. Juni eingereicht werden.

**ANNULLIERUNG**  
Bei Vorhergabe eines Teilnehmers, bitten wir die Association of Consulting Engineers of Canada zu benachrichtigen. Teilnehmeranzahlungen sind bis zum 11. Juni einzureichen. Annullierungen können nur bis zum 11. Juni eingereicht werden.

**REMITTANCE**  
Remittance should be in the form of a BANK DRAFT in Canadian Funds drawn on a Canadian Bank, made out to: The Association of Consulting Engineers of Canada.

**REMISE**  
Les chèques de fonds se feront sous la forme d'une TRAITE BANCAIRE, en monnaie canadienne, payé sur une banque canadienne, au nom de l'Association des ingénieurs-conseils du Canada.

**BELEGGUNG**  
Sollten Sie unzulässig sein, in bezuglicher Richtung zu begehren, dass diese auf eine Bezahlung mit einem Banckscheck in amerikanischer Währung.

**CONFERENCE FEE FOR DELEGATES AND OBSERVERS:**  
Can \$275.00  
This includes: "Ice-Breaker" Cocktail and Buffet Dinner - July 11; Cocktails and Luncheon - July 12 and 14; Galiaire Evening and Transportation - July 12; Reception/Dinner Dance - July 14.

**CONFÉRENCE FEE FOR OBSERVATEURS ET OBSERVATEURS:**  
Can \$275.00  
Ceci comprend: Le cocktail de "familliarisation" et le dîner-buffet, le 11 juillet; les cocktails et le dîner, les 12 et 14 juillet; le soir dans le Galiaire et le transport, le 12 juillet; la réception-dîner de gala - danse, le 14 juillet.

**FRAS D'INSCRIPTION DES DÉLÉGUÉS ET OBSERVATEURS:**  
Can \$275.00  
Ceci comprend: Le cocktail de "familliarisation" et le dîner-buffet, le 11 juillet; les cocktails et le dîner, les 12 et 14 juillet; le soir dans le Galiaire et le transport, le 12 juillet; la réception-dîner de gala - danse, le 14 juillet.

**CONFERENCE FEE FOR ACCOMPANYING PERSONS:**  
Can \$150.00  
This includes: "Ice-Breaker" Cocktail and Buffet Dinner - July 11; Coffee Service - July 12, 13, and 14; City Tour and Luncheon - July 12; Galiaire Evening and Transportation - July 12; Upper Canada Village Tour and Luncheon - July 13.

**FRAS D'INSCRIPTION DES PERSONNES ACCOMPAGNANT LES CONGRESSISTES:**  
\$150.00  
Ceci comprend: Le cocktail de "familliarisation" et le dîner-buffet, le 11 juillet; les

■1977年 Helsinki, Finland

**GENERAL ASSEMBLY MEETING**  
**ASSEMBLÉE GÉNÉRALE**  
**GENERALVERSAMMLUNG**

Helsinki - Finland - 5-9 June 1977

**FIDIC**

**FINNAIR TOURS**

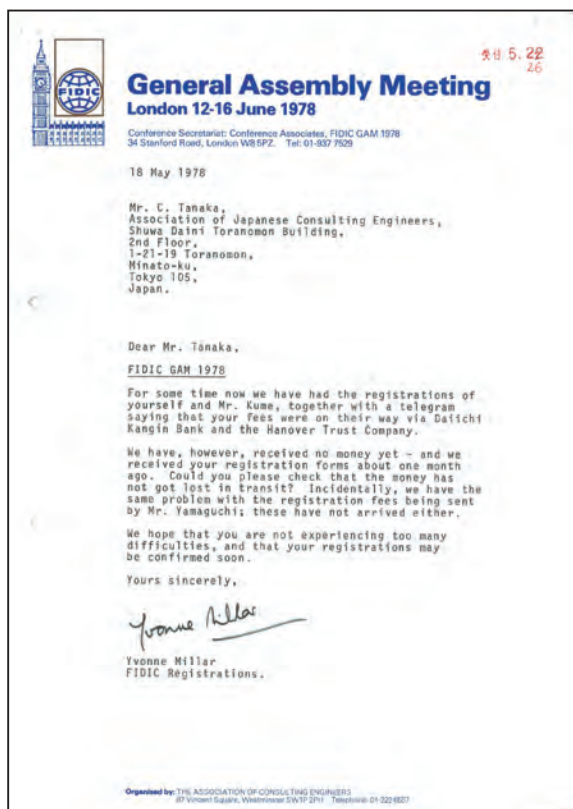


日本代表団一行ーヘルシンキ大学前庭で 向って右から 三好正(代表)、田邊弘、河野康雄、田中千秋(事務局長)、村川夫人、村川二郎の各団員

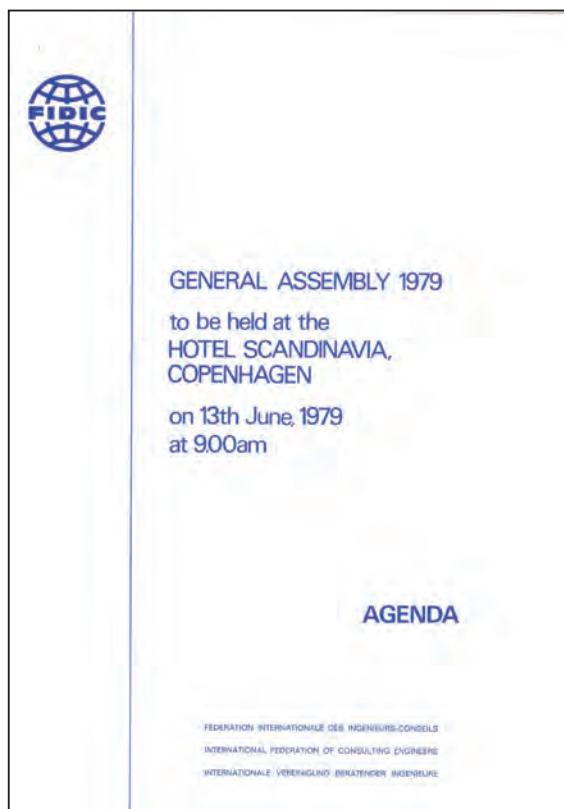


FIDICヘルシンキ総会会場：前列向って右から 中村健郎、三好正両代表

■1978年 London, UK



■1979年 Copenhagen, Denmark





■1980年 San Francisco, USA



■1981年 Bern, Switzerland

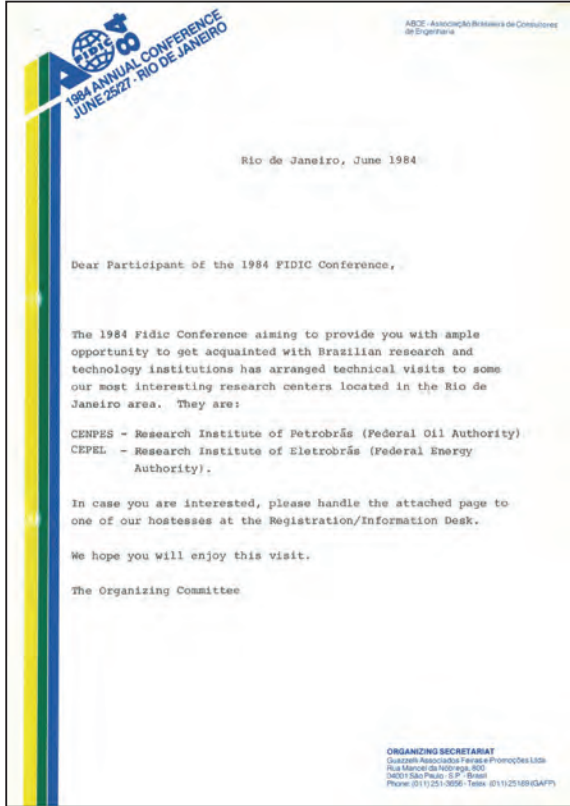


■1983年 Florence,Italy





■1984年 Rio de Janeiro ,Brazil



■1985年 Viennese, Austria



(森村副会長)



(オーストリア大統領)

■1986年 Auckland, NZ

森村武雄AJCE副会長 FIDIC理事就任（～1990年）

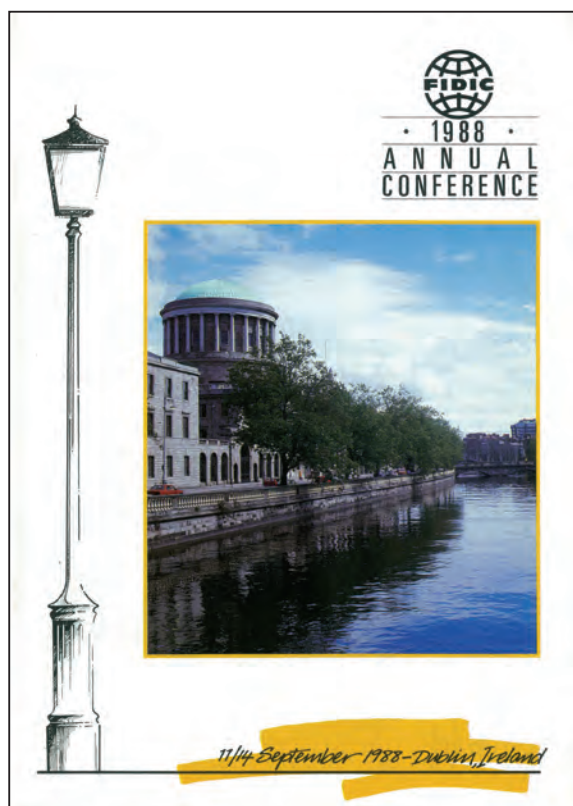


■1987年 Lausanne, Switzerland



■1988年 Dublin, Ireland

森村武雄AJCE副会長 ASPAC議長就任



開会式模様 演壇 アイランド大統領

■1989年 Washington, USA



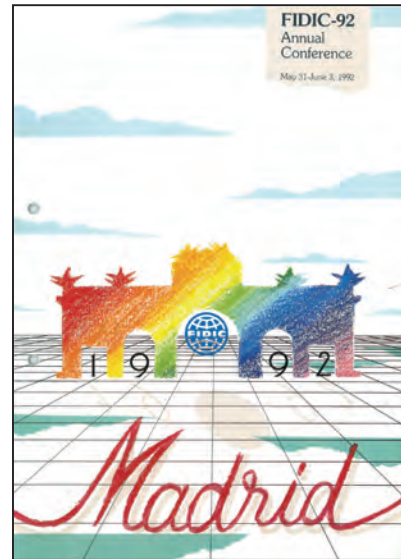


■1990年 Oslo, Norway



M.Gysi夫妻（FIDIC Managing Director）と歓談する森村副会長

■1992年 Madrid, Spain

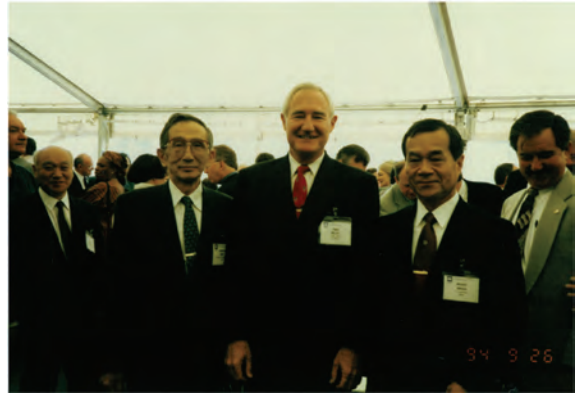


■1993年 Munich, Germany

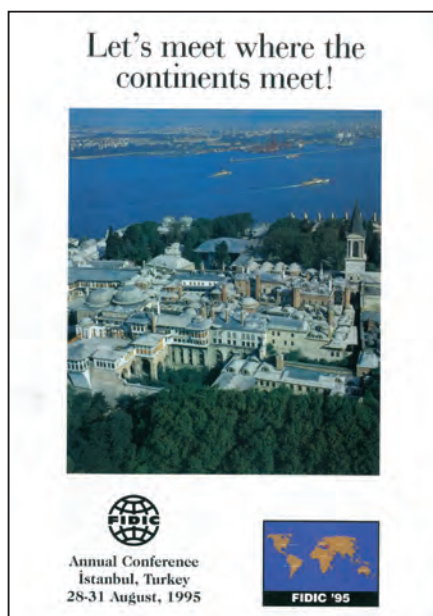




■1994年 Sydney, Australia

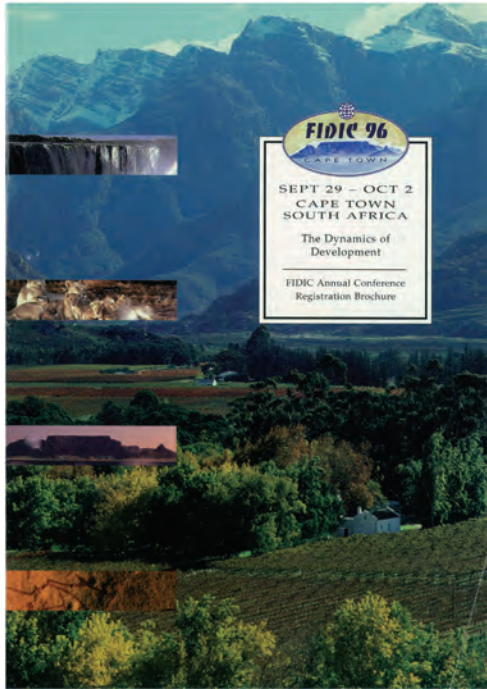


■1995年 Istanbul,Turky





■1996年 Cape Town, South Africa



■1997年 Edinburgh, UK



■1998年 Edmonton, Alberta, Canada

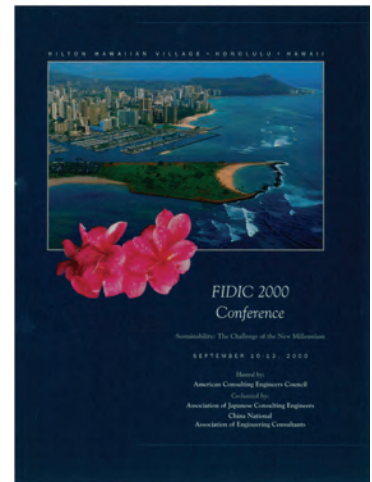




■1999年 Hague, Netherlands



■2000年 Hawaii, USA





■2001年 Montreaux, Switzerland

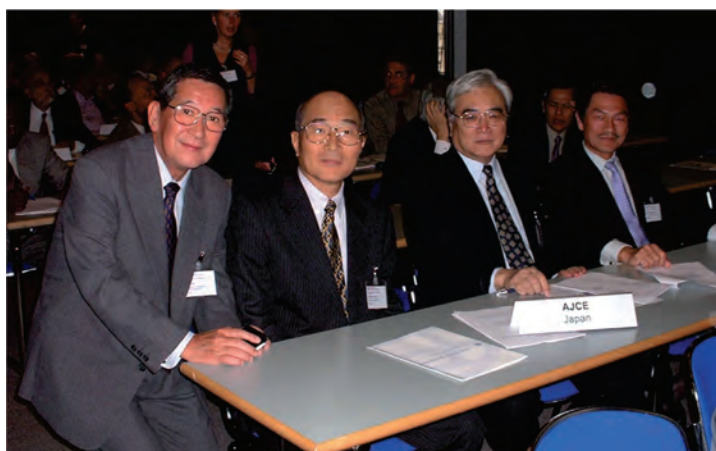


■2002年 Acapulco, Mexico





■2003年 Paris, France

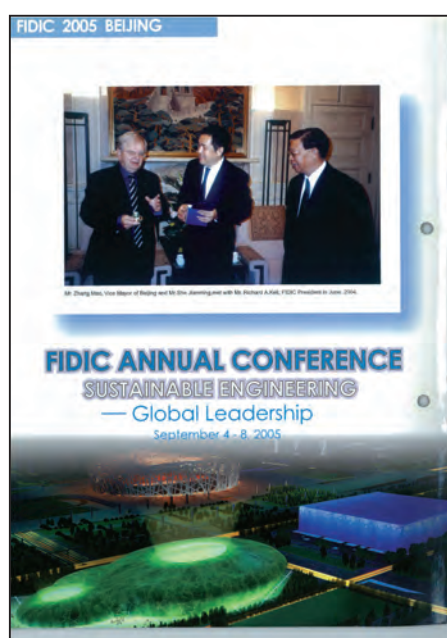


■2004年 Copenhagen, Denmark





■2005年 北京, 中国

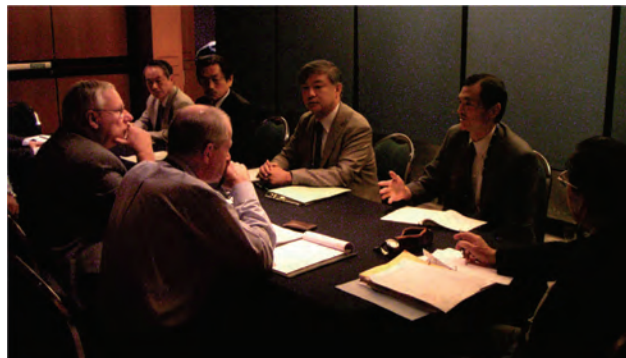


■2006年 Budapest, Hungary  
廣谷彰彦AJCE会長 ASPAC議長就任（～2009年）





■2007年 Singapore



■2008年 Quebec, Canada

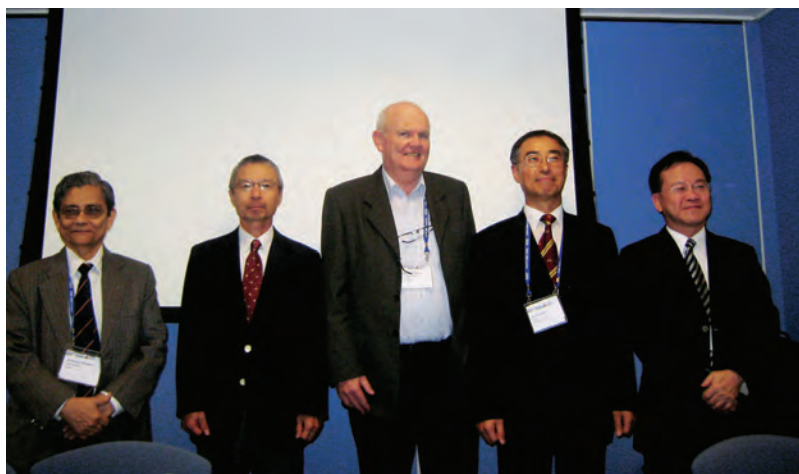




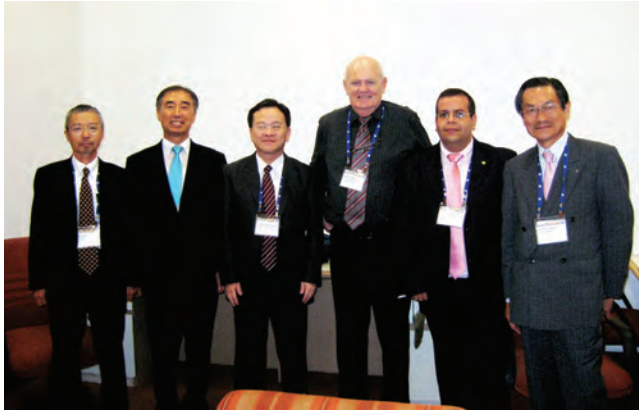
■2009年 London, UK

廣谷彰彦AJCE会長 FIDIC理事就任(～2013年9月)

内村好AJCE副会長 ASPAC理事就任



■2010年 New Delhi, India



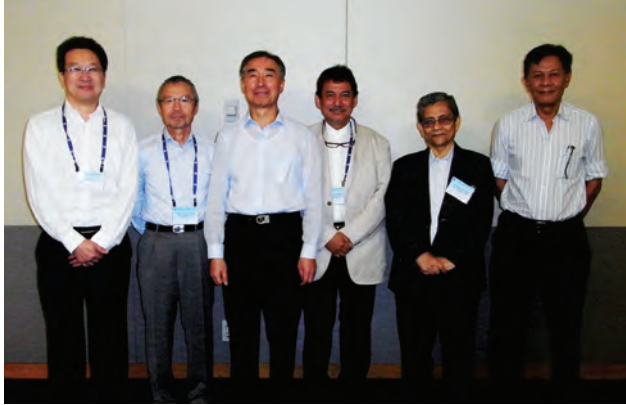


■2011年 Davos, Switzerland

チュニジアのチュニスで開催予定だったが治安悪化によりスイスのダボスに変更



■2012年 Seoul, Korea



■2013年 Barcelona, Spain

FIDIC100周年記念大会

FIDIC100周年記念賞で国立代々木競技場・東海道新幹線・久保田豊氏が大賞受賞





## 日豪交換研修のあゆみ

### 1994～1995 オーストラリアと覚書 締結

1994年9月のFIDICシドニー大会でオーストラリア・コンサルティング・エンジニア協会 ACEA(現コンサルト・オーストラリア CA)より覚書の締結の提案を受ける。その後、両国で協議を重ね、翌1995年8月FIDICイスタンブール大会で豪州 ACEA ケル会長と日本 AJCE 梅田会長が合意。95年10月14日、日本で調印式が行われる。



#### 覚書 抜粋

【第1条】AJCEとACEAは、会員やアジア・太平洋地域内のコミュニティーの利益に資するため、双方が協力し、コンサルティング・エンジニアリングサービスの質の向上を図る  
 【第2条】AJCE・ACEA双方の会員企業の連携は、両国のプロジェクトのみならず、発展途上国を含む同地域内の国々に対し、コンサルティングエンジニアリングサービスを提供することにも適用される  
 【第3条】AJCEとACEAは、他の協会の会員企業との連携や協力が適切で有益である場合、双方の会員に対し奨励・支援する  
 【第4条】AJCEとACEAは、適切な機会をとらえ、相互の情報交換や会員の交流を図る  
 【第5条】AJCEとACEAは、有用な情報を交換すると共に、会員企業の業務や経営に資する活動を相互で支援する

1995年10月14日 全日空ホテル(東京)にて  
 左から 豪州マクマラン貿易相、ACEAケル会長、AJCE梅田会長、池田科学技術庁審議官

### 1996年日豪交換研修開始 派遣・受入

8月2日～24日 日本研修生 9名派遣  
 11月15日～12月7日 豪州研修生 7名受入

期間:3週間 双方が派遣

人数:5～9名程度

滞在:会員企業の社員宅にホームステイ

内容:企業での実務研修 現場見学 討論会



1996年8月 第1回派遣 Brisbaneにて



1996年11月15日 第1回受入 歓迎レセプション  
 (株)日水コン

### 1997年 派遣・受入

8月2日～8月23日 日本研修生 6名派遣  
 10月27日～11月14日 豪州研修生 7名受入



1997年10月27日 受入 歓迎レセプション  
 (株)日水コン

### 1998年 ニュージーランドからレター届く



1998年6月  
 NZ協会会長からのレター  
 友好交流と交換研修を提案

**1998年 派遣・受入**

9月19日～10月11日 日本研修生 7名派遣

11月13日～12月5日 豪州研修生 5名受入

**1999年 派遣—2カ国訪問**

11月5日～21日(3週間) 日本研修生 6名派遣

2週間豪州訪問～1週間ニュージーランド訪問

1998年 NZ協会からの提案により  
1999年～2001年まで豪州・NZ・日本の3カ国で研  
修を実施  
派遣受入を隔年に変更



1999年11月11日 ブリスベン 現場見学



1999年11月29日 NZオークランド空港にて

**2000年 ニュージーランドと覚書を締結**



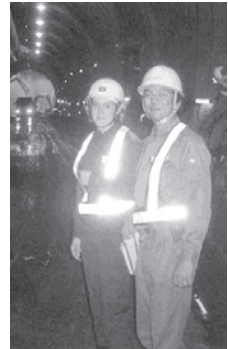
2000年6月  
NZ協会と友好の覚書を締結

**2000年 受入—2カ国から受け入れる**

10月15日～11月7日(3週間) 豪州研修生 4名 NZ研修生 3名 受入



2000年10月16日 受入 歓迎会 日本工営(株)





**2001年 派遣-2カ国訪問** 10月13日～11月4日(3週間) 日本研修生 7名派遣  
2週間豪州訪問～1週間ニュージーランド訪問



2001年 Breakfast Meeting  
オーストラリア協会



2001年 Farewell Dinner  
ニュージーランド協会

**2002年 受入** 10月18日～11月9日(3週間) 研修生 7名受入



2002年 10月18日  
歓迎会 AJCE 事務局

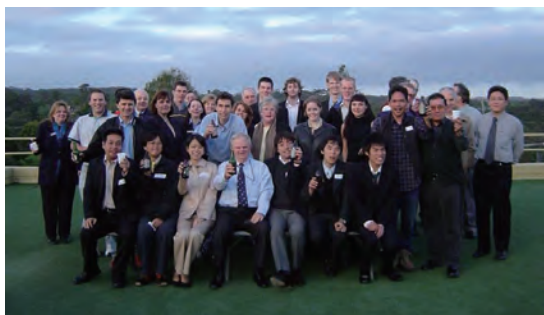


2002年から豪州・日本の2国  
間研修にもどる



2002年 11月8日 ヤングサミット 日本工営(株)

**2003年 派遣** 10月4日～11月2日(4週間) 日本研修生 7名派遣



2003年から研修期間を  
4週間に延長

**2004年 受入** 10月16日～11月12日(4週間) 研修生 7名受入



2004年11月6日～8日  
2泊3日 京都・奈良ツアー

**2005年 派遣** 10月1日～10月29日(4週間) 日本研修生 6名派遣



2005年10月8日 フィリッパ島観光

2005年10月21日 送別会

**2006年 休止** 研修内容を見直すために休止

**2007年 受入** 新たなルールで再開 豪州研修生 6名受入

事前研修：7月～9月(3ヶ月間) 受入 10月12日～11月2日(3週間)

訪問前の3～4ヶ月間 事前研修期間を設定  
 メールによる対話 レポートの提出 等  
 訪問期間を4週間から3週間へ短縮  
 ホームステイの負担なくするためウィークリーマンションやホテルに滞在



←事前研修 共通課題  
 日本について勉強  
 レポート提出



2007年10月12日 歓迎会  
 (株)オリエンタルコンサルタンツ

2007年10月27日 28日  
 京都・奈良旅行 京都の旅館にて

2007年11月2日 送別会



**2008年 派遣** 日本研修生 6名派遣

事前研修：7月～9月（3ヶ月間） 派遣10月6日～10月26日（3週間）



2008年  
シドニー市内観光



2008年 ヤングサミット

**2009年 受入** 豪州研修生 4名受入れ

事前研修5月～9月（5ヶ月間） 受入10月13日～10月30日（3週間）



2009年10月24日25日  
京都・奈良旅行



2009年10月24日25日  
京都・奈良旅行



2009年10月30日  
ヤングサミット



**2010年 派遣** 日本研修生 6名派遣

事前研修：5月～9月（5ヶ月間） 派遣 10月5日～10月22日（3週間）



2010年 市内観光 ハーバーブリッジを背景に

**2011年 休止** 東日本大震災の影響で休止

**2012年 受入** 豪州研修生 11名受入れ



2012年 10月15日 歓迎会  
（株）オリエンタルコンサルタンツ



2012年 10月27日 28日  
京都・奈良旅行



2012年 11月2日 ヤングサミット（株）日水コン



2012年 11月2日 送別会 カラオケ



**2013年 派遣** 日本研修生 7名派遣

事前研修：7月～9月（3ヶ月間） 派遣10月14日～11月1日（3週間）



シドニータワー・アイ



オペラハウスにて、ハーバーブリッジを背景に



**2014年 受入** 豪州研修生 6名受入

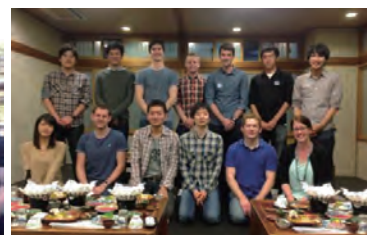
事前研修：5月～9月（5ヶ月間） 受入10月14日～10月31日（3週間）



2014年10月14日  
歓迎会（株）長大



2014年10月25日26日  
京都奈良旅行



2014年10月29日  
屋形船 夕食会



2014年10月31日  
ヤングサミット（株）オリエンタルコンサルタンツ

会報 表紙

創刊号 昭和52年 1977年10月31日 ~ Vol.23 No.2 平成10年 1988年9月1日



Vol.1 No.1,2,3 (FIDIC加盟機関) 社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会  
 創刊号 ASSOCIATION OF JAPANESE CONSULTING ENGINEERS  
 昭和52年10月31日 〒106 東京都港区新橋5丁目3番4号 (農薬上本会館3階) 電話(03)436-3718-9

**こ 推 挙**

AJCEを会報 河野康雄

日本コンサルティング・エンジニア協会が設立されたのは、昭和47年4月28日です。はや10年が経過したことになります。この間に、協会は会員増進、事務局の増強により、発展への道を一歩たどって、多くの業績を挙げてまいりました。この中でも、FIDICの加盟の年次総会には、当協会会長より代表及びオブザーバー団を編成して国際的協会としての役割を果たし、FIDICの二つの常設委員会の委員長の責を占めて、国際社会への貢献を行っています。今年9月1日、念願の社団法人格を取得して、いよいよ協会の事業基盤をも確立する運びとなりましたことは、会員の皆様とともに、胸躍り存じます。

しかしながら、協会の本来の目的とする、『会員の専門職能の向上・発展のため』に、及び『日本を代表する唯一のコンサルティング・エンジニア協会としての国内へのサービスのため』に、をさげならぬ事業課題は、数多くあります。このために、協会には、現在一財政基盤強化特別委員会、会員増強特別委員会、会務委員会、業務委員会、FIDIC委員会、会報委員会、各一つの部門毎の——委員会や委員会定例的に関り、協会の発展を図ろうと努力している状態です。

とばかり、会員の発展を促しては、協会の発展はあり得ません。会員の増加のない協会の価値など考えられません。私は、昨年総会に選ばれたときの謝辞の中で、当協会の運営のキーワードとして、『当協会』は『会員の生命』、『会員による協命』、『会員のための協命』と申し立ててまいりましたが、会員の皆様から出て頂き、理解のほど協力頂き、協会の運営を牽引していただくのが、本来の姿であると考えてまいりました。

このためには、協会が出来るだけ多くの情報——協会の内情を問わず——を会員に提供し、出来るだけ多くの会員の参加を求め、又会員相互の理解や意見の交換の場を提供することが、まず協会の第一のサービスであると

**AJCE の 目 的**

この法人は、施工業、製造業及び最先端との関係で中立の立場を保持するコンサルティング・エンジニアの事業発展を確立するとともに、これらのコンサルティング・エンジニアの業務の発展、社会の福祉、国民の健康及び安全の増進並びに海外との経済・技術・研究協力促進に寄与することを目的とする。〔定款第3条〕

題字：河野康雄 AJCE初代会長  
B4版 普通紙 白黒

Vol.23 No.3 平成10年 1998年11月1日 ~ Vol.23 No4 平成23年 1999年2月1日





POCENEのトップページに掲載して	建設省 建設省 1
PRとコンサルティングのシンクロナイズ	建設省のPRとコンサルティングのシンクロナイズ 2
日本建設の発展と安全のためのサービス	(株)ニューエック 次郎 3
建設現場の安全と安全のためのサービス	(株)建設技術研究所 松井 4
建設現場の安全と安全のためのサービス	建設現場の安全と安全のためのサービス 10
建設現場の安全と安全のためのサービス	建設現場の安全と安全のためのサービス 12
建設現場の安全と安全のためのサービス	建設現場の安全と安全のためのサービス 14
建設現場の安全と安全のためのサービス	建設現場の安全と安全のためのサービス 16
建設現場の安全と安全のためのサービス	建設現場の安全と安全のためのサービス 18
建設現場の安全と安全のためのサービス	建設現場の安全と安全のためのサービス 20
建設現場の安全と安全のためのサービス	建設現場の安全と安全のためのサービス 22

表紙がオレンジ色になる

Vol.23 No.5 平成11年 1999年4月 ~ Vol.23 No.6 平成11年 1999年6月



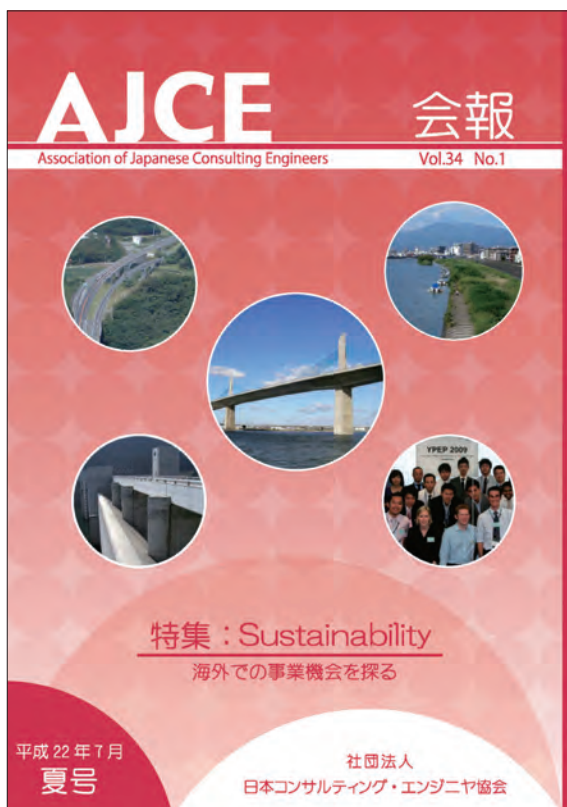
Vol.23 No.7 平成12年 2000年1月 ~ Vol.33 No.3 平成22年 2010年1月



表紙絵：画家 筒井雅歳氏  
2000年～2010年の10年間 画家 筒井雅歳氏  
に表紙絵を作成いただきました



Vol.34 No.1 平成22年 2010年7月 ~ Vol.34 No.3 平成23年 2011年11月



表紙デザイン：大和美穂 事務局員（当時）  
2010年から表紙のフルカラー化  
以降 表紙の色と写真を変えながらこのデザインを継続

Vol.35. No.1 平成23年 2011年7月 ~ Vol.35 No.3 平成24年 2012年1月



Vol.36 No.1 平成24年2012年7月 ~ Vol.36 No.3 平成25年2013年1月



Vol.37 No.1 平成25年2013年7月 ~ Vol.38 No.1 平成26年2014年7月



ニューズレター 表紙

創刊号 昭和52年 1977年1-2月 ~ Vol.19 平成10年 1998年7月



**AJCE**  
THE ASSOCIATION OF CONSULTING ENGINEERS  
4-9, Higashi-Kojima, 3-1-1, Shimizu, Shizuoka Pref. 410-0288  
Phone: (054) 425-5114-5115 FAX: 425-5114-5116

**NEWS LETTER**

Vol. 1, No. 1 Jan./Mar. 1977

**TO THE FRIENDS ABROAD**



**Yasuo KAWANO**  
President, AJCE

It is a real privilege for me to preface, in the capacity as the President of AJCE, the first NEWSLETTER to be sent to our friends abroad. AJCE was founded in April of 1974 as the only organization in Japan eligible to membership of FIDIC. It is thus my belief that AJCE has a distinctive role to play to represent Japan in serving the common interest of consulting engineers in the international field. Our membership now comprises 17 different fields and a rather modest number of 19 firms and 235 individuals, selected under severe screening from over 10,000 registered professionals in Japan, but this figure will also grow in the future. All of them are not only active in domestic business but keenly interested in involvements in international activities.

In this decade of international cooperation AJCE earnestly wishes its due part in cooperation with foreign professionals, especially with the members of FIDIC, for each country as would mostly need our expertise, skills and experience. To achieve this purpose the mutual understanding among our members is naturally important but the friendly relationship with our foreign members must be its necessary basis. The current situation of the world is requiring the professionals to cooperate by supplementing each other their capabilities. I deem it a duty of AJCE to become the bridge between the foreign members and Japanese members—not only in friendship but in matters of capability and cooperation, virtually in all respects.

In concluding, I humbly express my wishes to all member Associations and their members to kindly assist our members when they will visit your countries in the future on an errand or other. On our part we extend our hearty welcome to all members visiting the shores of this beautiful island by opening all the doors. As a new member, AJCE and its members hereby express their appreciation for having been accepted in the circle of this international relationship and their hope to remain as in the coming years.

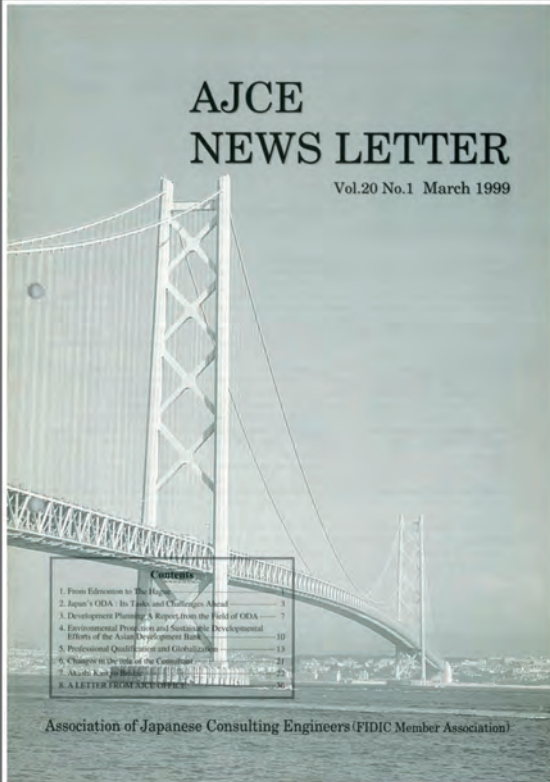
**CONTENTS**

To the Friends Abroad	1
—Yasuo Kawano, President of AJCE	1
South-South and Economic Cooperation	2
—Susumu Tsuru, Vice-President of AJCE	2
AJCE Annual Report (Business and Activities)	3
Brief Messages	10
A Summary of Dr. E. H. Muller's Lecture on 7th September, 1976	16
News	18

Vol.20 平成11年 1999年3月

**AJCE**  
**NEWS LETTER**

Vol.20 No.1 March 1999



**Contents**

1. From Education to the Region	3
2. Japan's ODA: Its Tasks and Challenges Ahead	7
3. Development Planning & Reports from the Field of ODA	7
4. Environmental Protection and Sustainable Developmental Efforts of the Asian Development Bank	10
5. Professional Qualification and Globalization	13
6. Changes in the role of the Consultant	21
7. Awards from FIDIC	22
8. A LETTER FROM AJCE OFFICE	28

Association of Japanese Consulting Engineers (FIDIC Member Association)

Vol.21 平成12年 2000年3月 ~ Vol.27 平成18年 2006年3月



Vol.28 平成19年 2007年4月 ~ Vol.29 平成20年 2008年4月



表紙デザイン：大和美穂 事務局員（当時）  
2007年から表紙および本編がカラー化



Vol.30 平成21年 2009年4月 ~ Vol.32 平成23年 2011年4月



表紙デザイン：大和美穂

Vol.33 平成24年 2012年4月 ~ Vol.35 平成26年 2014年4月



表紙デザイン：大和美穂

AJCE 会 員

(2014年10月16日現在)

## ■法人正会員 37社

株式会社Ides	電気技術開発株式会社
株式会社アンジェロセック	株式会社東京設計事務所
株式会社エイティアイ	株式会社東光コンサルタンツ
株式会社エヌジェーエス・コンサルタンツ	東電設計株式会社
OYOインターナショナル株式会社	長友機械技術士事務所
大塚エンジニアリング 技術士事務所	株式会社日水コン
大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント	日本工営株式会社
株式会社オリエンタルコンサルタンツ	日本シビックコンサルタント株式会社
基礎地盤コンサルタンツ株式会社	二宮技術士事務所
有限会社クープラス	株式会社日本構造橋梁研究所
黒澤R&D技術事務所	株式会社日本港湾コンサルタント
株式会社建設技研インターナショナル	パシフィックコンサルタンツ株式会社
株式会社建設技術研究所	早房技術士事務所
国際航業株式会社	有限会社樋口コンサルタント
創造工学研究所	プラント設計株式会社
田中宏技術士事務所	ペガサスエンジニアリング株式会社
中央開発株式会社	株式会社森村設計
株式会社長大	八千代エンジニアリング株式会社
株式会社TECインターナショナル	

## ■個人会員 176名

李 相均	独立行政法人国際協力機構	齊藤 創	西村あさひ法律事務所
井口 直樹	長島・大野・常松法律事務所	竹村 陽一	
大谷 一人	日揮株式会社	田村 三郎	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ
大場 邦久	大成建設株式会社	仲村渠千鶴子	阿部・井窪・片山法律事務所
甲斐慎一朗	(株)アイ・トランスポート・ラボ	並河 宏郷	シティユーワ法律事務所
海藤 勝	株式会社Kaido&Associates	丹生谷美穂	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業
掛川 昌俊	グローバル環境エネルギー研究所	茂木 鉄平	弁護士法人 大江橋法律事務所
小泉 淑子	シティユーワ法律事務所	森 研二	ライト工業株式会社
小林 卓泰	森・濱田松本法律事務所		法人正会員の役職員 159名

## ■賛助会員 4社 5名

株式会社神鋼環境ソリューション 東京支社	サイモン・パレット
清水建設株式会社	ピルズベリー・ウィンスロップ・
水 i n g 株式会社	ショー・ピットマン外国法事務弁護
東日本高速道路株式会社 (NEXCO東日本)	士事務所
	藤江 五郎 A&G OFFICE
加藤 武 (一社) 海外建設協会	リチャード・クレイ
草柳 俊二 高知工科大学 工学部 社会システ	シモンズ・アンド・シモンズ外国法
ム工学科	事務弁護士事務所





ENGINEERING CONSULTANT

## Partners for Sustainable Development

持続可能な開発に  
貢献しています。



### 株式会社アンジェロセック

代表取締役CEO 森元 峯夫 (工学博士)  
代表取締役COO 望月 達也  
取締役CTO ジャンピエール・ラガリュ

◆人材募集中◆

〒163-1343 東京都新宿区西新宿6-5-1  
新宿アイランドタワー43F  
TEL : 03-5324-0211 FAX : 03-5324-0215  
Email: [ingerosec@ingerosec.com](mailto:ingerosec@ingerosec.com)  
<http://www.ingerosec.com>

*Comprehensive Water and Environmental Consultant*  
水と環境の総合コンサルタント



**NJS CONSULTANTS CO., LTD.**  
株式会社エヌジェーエス・コンサルタンツ

〒162-0067 東京都新宿区富久町6番8号  
TEL : 03-5919-7452

<http://njs-consultants.com>

# Global Consulting for Sustainable Development



## Services Provided

Bridges, Roads, Tunnels, Seismic Design, Transportation Planning, Urban and Regional Planning, Environment, Information Technology, Civic Design, Railways, River and Erosion Control, Ports, Airports, Water Supply and Sewerage, PFI, Asset Management, Project Management

### ORIENTAL CONSULTANTS



ORICONSUL

12-1, Honmachi 3-chome, Shibuya-Ku,  
Tokyo 151-0071, Japan  
Telephone: +81-3-6311-7551  
Facsimile: +81-3-6311-8011  
E-mail: [webmaster@oriconsul.com](mailto:webmaster@oriconsul.com)  
Web Site: <http://www.oriconsul.com>

### ORIENTAL CONSULTANTS GLOBAL



OC GLOBAL

12-1, Honmachi 3-chome, Shibuya-Ku,  
Tokyo 151-0071, Japan  
Telephone: +81-3-6311-7570  
Facsimile: +81-3-6311-8020  
E-mail: [global@oriconsul.com](mailto:global@oriconsul.com)  
Web Site: <http://www.oriconsulglobal.com>

# 世界に誇れる技術と英知で 安全で潤いのある 豊かな社会づくりに挑戦する



信頼と技術で  
心をつなぐ環境づくり



◀ ジャティバランダム  
(インドネシア)  
—スマラン総合水資源・洪水対策計画—



ワルミ大橋 (沖縄県) ▶  
—本島と離島を結ぶ海峡横断橋—



株式会社 **建設技術研究所**

〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町 3-21-1 (日本橋浜町 F タワー)

TEL : 03-3668-0451 (大代表) E-mail : koho@ctie.co.jp <http://www.ctie.co.jp/>

株式会社 **建設技研インターナショナル**

〒136-0071 東京都江東区亀戸 2-25-14 立花アネックスビル

TEL : 03-3638-2561 <http://www.ctii.co.jp/>



地球と心を通わせよう。  
グリーンインフラをすべての人に。

私たちは、人と地球に優しいらしと仕組みを実現する  
グリーンコンサルティングに、挑戦し続けます。

=主な事業分野=

防災計画、地下水開発・保全・管理、地質、上水道、廃棄物、都市環境、保健衛生、組織  
開発、地理空間データ整備および GIS、林業、土木、砂防、経済/財務、農業/灌漑

海外事業部 〒102-0085 東京都千代田区六番町2  
TEL 03-6361-2541  
E-mail [overseas2@kk-grp.jp](mailto:overseas2@kk-grp.jp)  
<http://www.kkc.co.jp/index.html>

Japan Asia Group  
 国際航業株式会社

# CKC

中央開発株式会社



有償資金協力

チエテ川流域環境改善事業-ブラジル国

水

防災

環境

農業

および

人材育成



有償資金協力

サンパウロ州沿岸部衛生改善事業  
-ブラジル国



技術協力

無収水管理プロジェクト-ケニア国

CONTACT



CONSULTING ENGINEERS & PLANNERS

**CKC 中央開発株式会社 海外事業部**

<http://www.ckcnet.co.jp>

〒169-8612 東京都新宿区西早稲田3-13-5

TEL: 03-3207-1711 FAX: 03-3232-3625 E-mail: [overseas@ckcnet.co.jp](mailto:overseas@ckcnet.co.jp)

3rd Bosphorus Bridge (Turkey) As of Aug. 2014

As Construction Supervision



〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-20-4

URL <http://www.chodai.co.jp/>

TEL 03-3639-3301 FAX 03-3639-3366



# NIPPON KOEI



地球上のいくつもの国々で  
60有余年、  
注いできた、仕事への情熱。  
紡いできた、人と人との堅い絆。  
今までも、そして、これからも。

1946年、戦後の復興を願う技術者たちが集い、日本工営は誕生しました。以来、国内のフィールドを始め、海外での異なる文化の中、独自の歴史を持つ人々と言葉を重ね、物を造り、共に仕事をしてきました。発電水力、電力送配電、農業開発、河川砂防、交通網の整備、都市・地域開発、環境保全など、その地で暮らす人々の幸せと明日の希望を叶える仕事に力を尽くしてきました。これからも、国や地域の発展のため、技術力に磨きをかけるとともに、次代が必要とする技術を開発し、常に新たな領域に踏み出す勇気を忘れずに、多様な仕事に挑んでいきます。

**日本工営株式会社**  
<http://www.n-koei.co.jp/>

# JAPAN PORT CONSULTANTS

INTERNATIONAL CONSULTING ENGINEERS

**国際社会の豊かな発展に貢献**  
半世紀を超え世界各国で港湾開発プロジェクトのコンサルティングを行っています

- ・港湾事業に関する調査、計画、設計、施工監理
- ・震災復興、地震津波防災への対応
- ・エネルギー関連業務など広範なインフラ整備プロジェクトへの取組み
- ・地球環境の改善、地球温暖化防止、途上国への生活改善への取組み
- ・海域の再生、水質の浄化、廃棄物の減容化への取組み

実施プロジェクト(2012.11) ● 海外プロジェクト実施国

知恵と情熱で国づくり、そして**未来**へ。



▶ オエクシ (東ティモール)



≡ モンバサ (ケニア)



★ カイメップチーバイ (ベトナム)



★ 浄水事業 (ベトナム)



株式会社 日本港湾コンサルタント  
Japan Port Consultants, Ltd.

〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-3-6 TK 五反田ビル  
TEL:03-5434-5671 <http://www.jpportc.co.jp/>

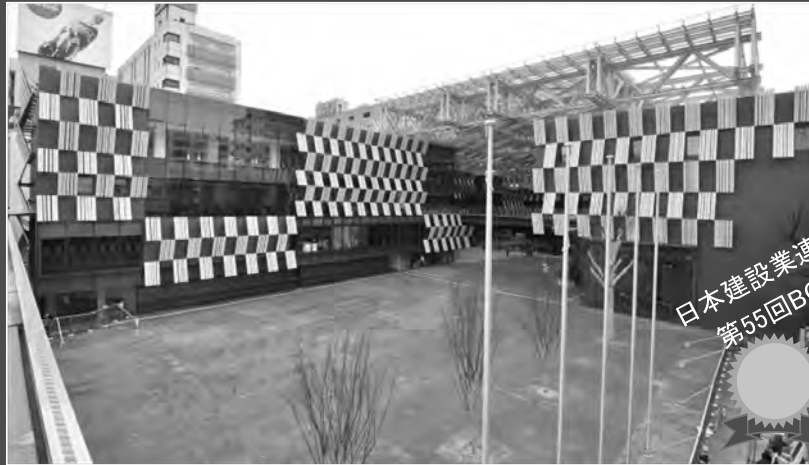
笑顔にあふれる社会  
光輝く明るい未来を創る。



We add value for a bright future.

 パシフィックコンサルタンツ株式会社

[www.pacific.co.jp](http://www.pacific.co.jp)



長岡市庁舎・シティホールプラザ アオーレ長岡 (2012年 新潟県)

<http://www.ptmtokyo.co.jp/>

## Consulting Engineers & Architects



東京電力多摩支店設備リニューアル (2012年 東京都)



理研スプリング8熱源改修 (2014年 兵庫県)

株式会社森村設計は、1965年森村武雄により設立されました。以来当社は、欧米諸国のコンサルタントと同様に中立の立場を守って建築設備の設計を行うコンサルティング・エンジニアリング業務に従事してまいりました。

持続可能性や再生可能エネルギーと共に、建築設備の重要度が益々増している中、クライアントの持つそれぞれの要望に応え、機能的で効率のよい、また建築物の美しいフォルムを活かす設備および建築についての企画、設計、施工監理、技術指導等、幅広い活動を展開してまいりました。

2015年当社は創立50周年を迎えます。新築工事に関わったホテルオークラや東京国際フォーラムの施設改修や建替えなど、建物のライフサイクルにも関わる機会が増えてまいりました。



P.T. MORIMURA & ASSOCIATES, LTD.

〒153-0061 東京都目黒区中目黒1丁目8番8号MEGURO F2 BUILDING  
TEL: 03-5704-6401 FAX: 03-5704-1612 Email: ptm@ptmtokyo.co.jp



# 日本の 土木

"JAPAN MADE" INFRASTRUCTURE WITH YEC, OUR HEART PLUS



モルディブ国津波災害緊急復旧・復興支援プロジェクト



エジプトシャルキーヤ県ヒヒヤ市内の子どもたち



ギザ市ピラミッド南部地区・北部地区上下水道改善計画

社会開発、都市・交通計画、都市開発、道路・橋梁、鉄道、水資源開発、河川管理、防災、通信・放送・IT、公共施設・設備、電力、上下水道、廃棄物処理、環境社会配慮、PFI/PPP、中小企業振興、建築

**yec**

Consulting Engineers & Architects

**Yachiyo Engineering Co., Ltd.**

intl@yachiyo-eng.co.jp

http://www.yachiyo-eng.co.jp/

八千代エンジニアリング株式会社

本 店：〒161-8575 東京都新宿区西落合 2-18-12  
TEL 03-5906-0700 FAX 03-5906-0111

国際事業本部：〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2  
(麹町 31MT ビル 3F)  
TEL 03-5906-3678 FAX 03-3221-5705

海外事務所：ジャカルタ・コルカタ・カイロ・サンパウロ・  
ミャンマー・韓国

**Cooplus**

共に歩もう、技術を通じて



イラン国：温室効果ガス低減策と火力発電計画／CDM 事業  
(セミナー及び発電設備診断)

有限会社クープラス 取締役 花岡 浩

技術士 (総合技術監理部門・機械部門)  
(公社) 日本コンサルティング・エンジニア協会 (AJCE)  
監事 技術交流委員

〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1-19-418  
TEL/FAX : 03-3292-5051 E-Mail : hanaoka@cooplus.jp

田中宏技術士事務所 代表

**田 中 宏**

鉄道車両の計画、設計、保守のコンサルタント

工学博士  
技術士 (機械部門)  
(公社) 日本コンサルティング・エンジニア協会 (AJCE)  
理事 技術交流委員長

〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 2-6-7  
TEL/FAX 045-573-4957



私達は、世界から必要とされる  
優れた水コンサルタントを目指しています。

株式会社TECインターナショナル  
TEC INTERNATIONAL CO., LTD.



—事業内容—

我が国の ODA 案件を中心にアジア、大洋州、アフリカ、中近東、東欧、中南米などにおける、上下水道、水資源開発、都市衛生のほか、生活環境関連の開発プロジェクトに係るハードとソフト業務、水ビジネスに関わる調査、計画、設計、構築、ならびに施工監理等のコンサルティング業務を行っています。

〒100-0013  
東京都千代田区霞が関 3-7-1 霞が関東急ビル  
Tel: (03) 3580-2418 Fax: (03) 3591-0492  
代表取締役社長 宮本 正史  
ホームページ: <http://www.teci.jp> E-mail: [info@teci.jp](mailto:info@teci.jp)



## 祝 AJCE 創立40周年

国内・海外の交通電気設備全般の総合コンサルタントとして、調査、計画、設計、施工監理等の業務でお客様の期待にお応えします。



- 鉄道、地下鉄、モノレール、新交通システムなど  
交通機関の各種電気設備
- 道路の照明、通信、防災設備、交通管制、施設管制
- 空港・港湾の照明、電力、通信設備
- 駅、ビル、工場、病院他照明、電源、通信、防災設備
- 河川の防災設備(水位監視、水門制御など)

〒101-0062  
本 社 東京都千代田区神田駿河台4-2-5  
電話 03(3527)1730  
支 社・支 店 名古屋・大阪・札幌・仙台・福岡  
<http://www.jec-info.co.jp/>  
代表取締役社長 石 津 成 一



誠実に奉仕し

良い作品を残し

技術者を育てる

ティーイーシー

**TEC** グループ



一般社団法人 全国上下水道コンサルタント協会会員

**株式会社東京設計事務所**

**TOKYO ENGINEERING CONSULTANTS CO., LTD.**

代表取締役社長 亀田 宏

本社：〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-7-1

TEL . 03-3580-2751

FAX . 03-3580-2749

<http://www.tokyoengicon.co.jp>

長友機械技術士事務所 所長

**長 友 正 治**

技術士（機械部門）

CMfge(SME)

（公社）日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）

名誉会員 技術交流委員

（公社）日本技術士会 名誉会員 機械部会員

日本評価学会 会員 国際交流委員

〒108-0074 港区高輪 2-15-11 高輪ホワイトマンション 404 号

TEL/FAX 03-3445-7479

E-Mail [nagatomo-mh@k7.dion.ne.jp](mailto:nagatomo-mh@k7.dion.ne.jp)

<http://www.nissuicon.co.jp>

ISO 9001  
ISO 14001



潤いある未来へ

一般社団法人全国上下水道コンサルタント協会会員

株式会社 日水コン

代表取締役社長 野村 喜一

〒163-1122

東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー

TEL03 (5323) 6200 FAX03 (5323) 6480

## Public Private Partnership

官民連携インフラ事業  
制度設計・アドバイス  
は、実務経験を有する

二宮技術士事務所

代表 二宮孝夫

電話 & Fax ; **03-3929-7158**

e-mail ; [iwaki190519nino@kcf.biglobe.ne.jp](mailto:iwaki190519nino@kcf.biglobe.ne.jp)



技術協力

ミャンマー国災害多発地域における道路技術改善プロジェクト



ペガサスエンジニアリング株式会社

PEC Pegasus Engineering Corporation

代表取締役会長 澁谷 實

代表取締役社長 高橋 輝彦

〒150-0044 東京都渋谷区円山町5番3号 玉川屋ビル7階

TEL: 03-5428-0502 FAX: 03-5428-0504

<http://pegasus-eng.jp/> E-mail: [pegasus@pegasus-eng.jp](mailto:pegasus@pegasus-eng.jp)

# あしがき

公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）は創立40周年を迎え、歴史ある当協会の節目として40周年記念誌をまとめました。

記念誌をまとめるにあたり過去40年間のコンサルティング・エンジニアの歴史を振り返ると、本協会ですべて培ってきた実績、知見、情報、人材などの蓄積、また、協会活動を積極的に拡大してきた流れなど多くの関係者の方々から広く情報をいただきました。このことは関係者の皆様方からの日ごろの当協会への御支援の賜物と感謝しております。

また、本記念誌に執筆をいただきました多くの関係者の方々からの当協会へのメッセージ、活動内容、期待などを拝読すると、当協会の活動は国内外の多くの皆様方からの温かい御支援によって支えられつつ、また、当協会活動が拡大していることが熱く伝わってきます。

40周年記念誌は、当協会活動の過去、現在、未来をまとめました。当協会の歴史を振り返ると共に、将来を考える上で本記念誌がその一助となれば幸いです。

最後に、40周年記念誌発刊にあたり多くの関係者の皆様への感謝、また、原稿・資料等を提供していただいた先人、役員、会員、事務局の皆様方に心から感謝申し上げます。

2015年（平成27年）1月

広報委員会 副委員長  
芦野 誠

---

# AJCE創立40周年記念誌

2015年1月発行（非売品）

発行 公益社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）  
東京都台東区上野3丁目16番4号 文行堂ビル3F  
TEL 03-3839-8471 FAX 03-3839-8472  
URL <http://www.ajce.or.jp/> E-mail: [info@ajce.or.jp](mailto:info@ajce.or.jp)

編集 広報委員会

デザイン・  
レイアウト 株式会社 大應  
東京都千代田区内神田1-7-5

---

不複製

